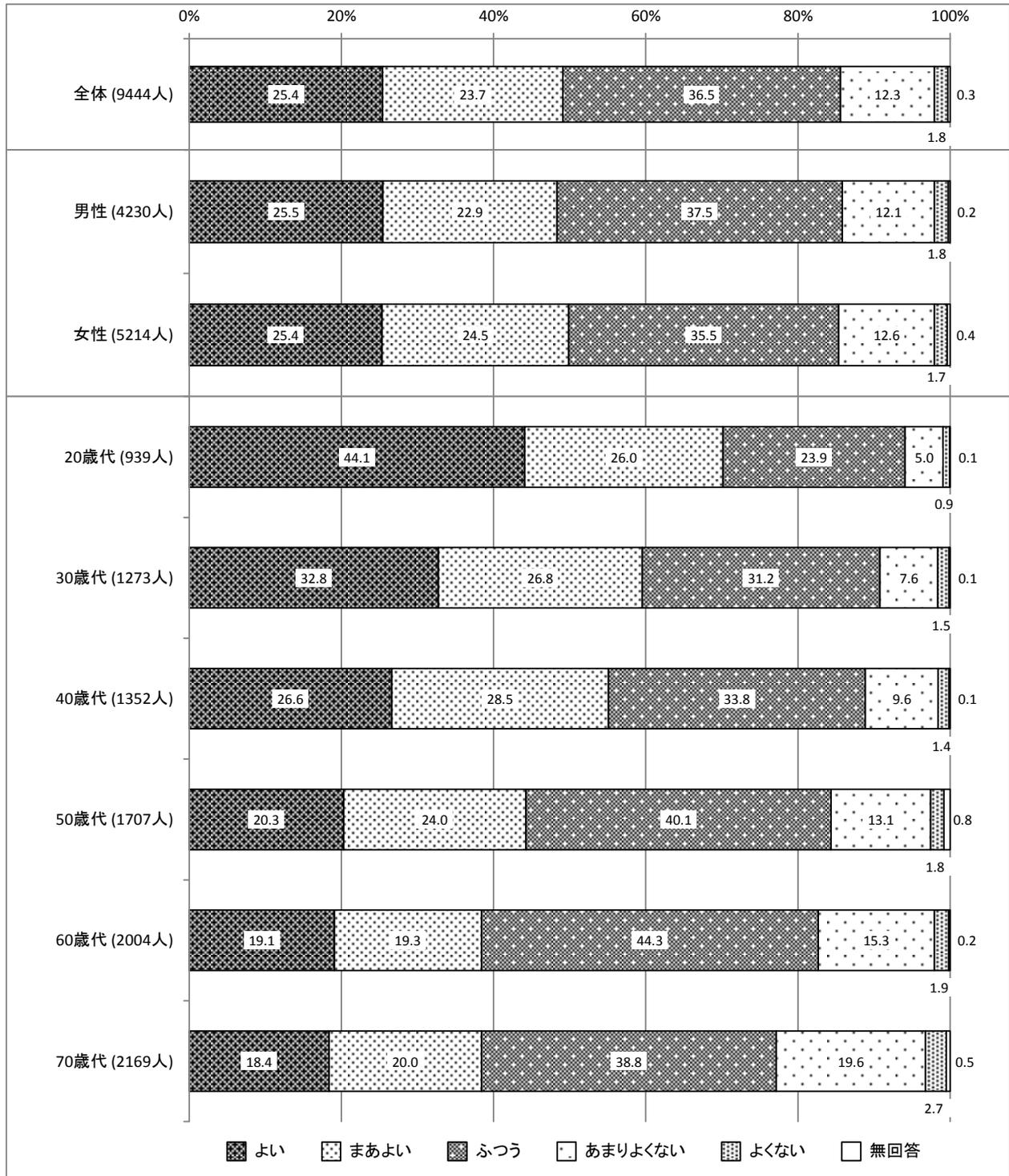


2 調査結果

(1) 健康状況について

問1 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(〇は1つ)

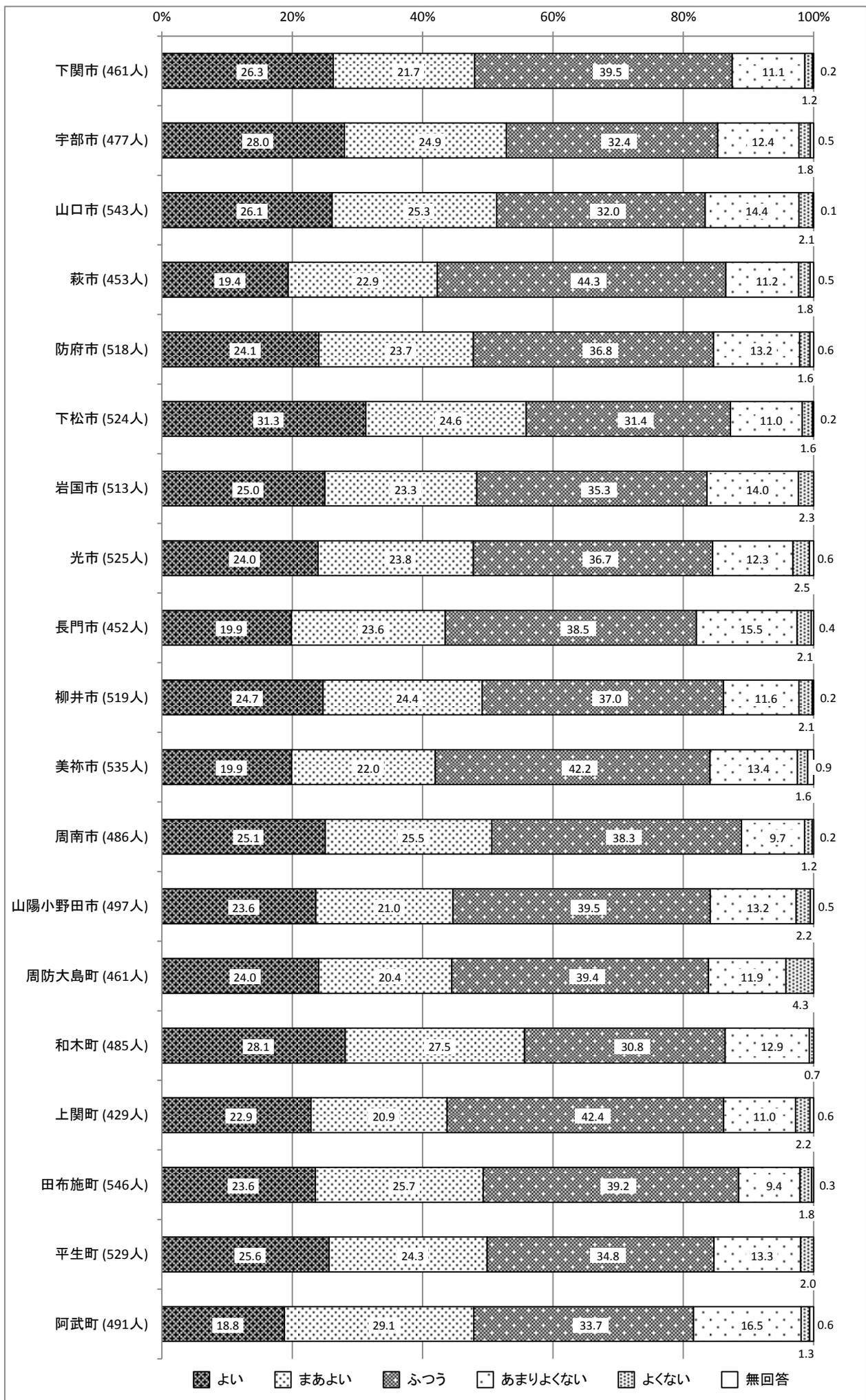


「よい」あるいは「まあよい」という回答は全体の49.1%であり、「あまりよくない」あるいは「よくない」という回答は全体の14.1%であった。

性別では、違いがみられず、年代別では、年代が低いほど「よい」あるいは「まあよい」という割合が高かった。

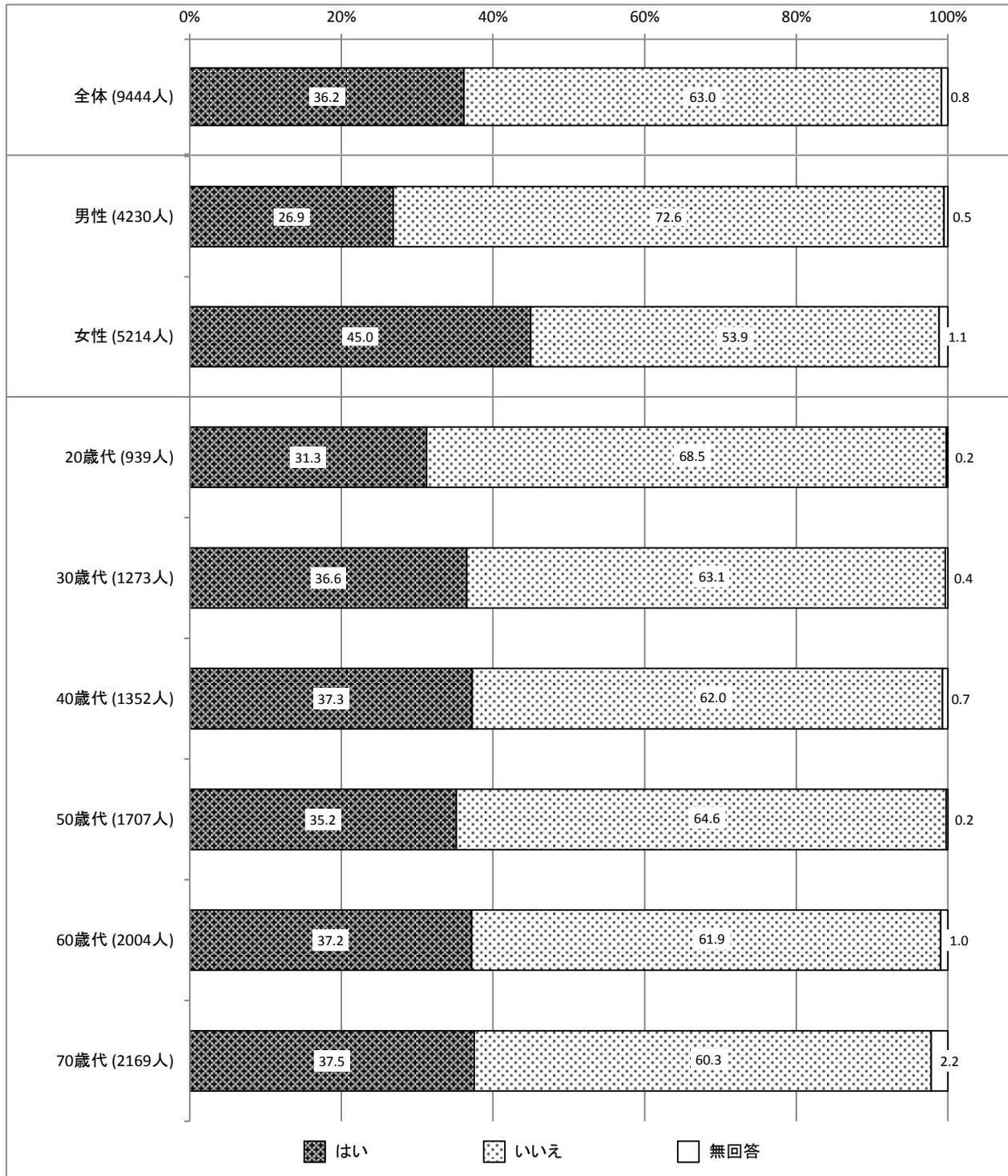
【参考値】

平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査 「よい」「まあよい」 計47.2%
 平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査 「よい」「まあよい」 計49.0%



(2) 栄養・食生活について

問2 あなたは、外食する時や食品を購入する時に、栄養成分表示を参考にしますか。(〇は1つ)



「参考にする (はい)」と回答した割合は全体の36.2%、「参考にしない (いいえ)」と回答した割合は全体の63.0%であり、栄養成分表示を「参考にする」と回答した割合が低い結果であった。

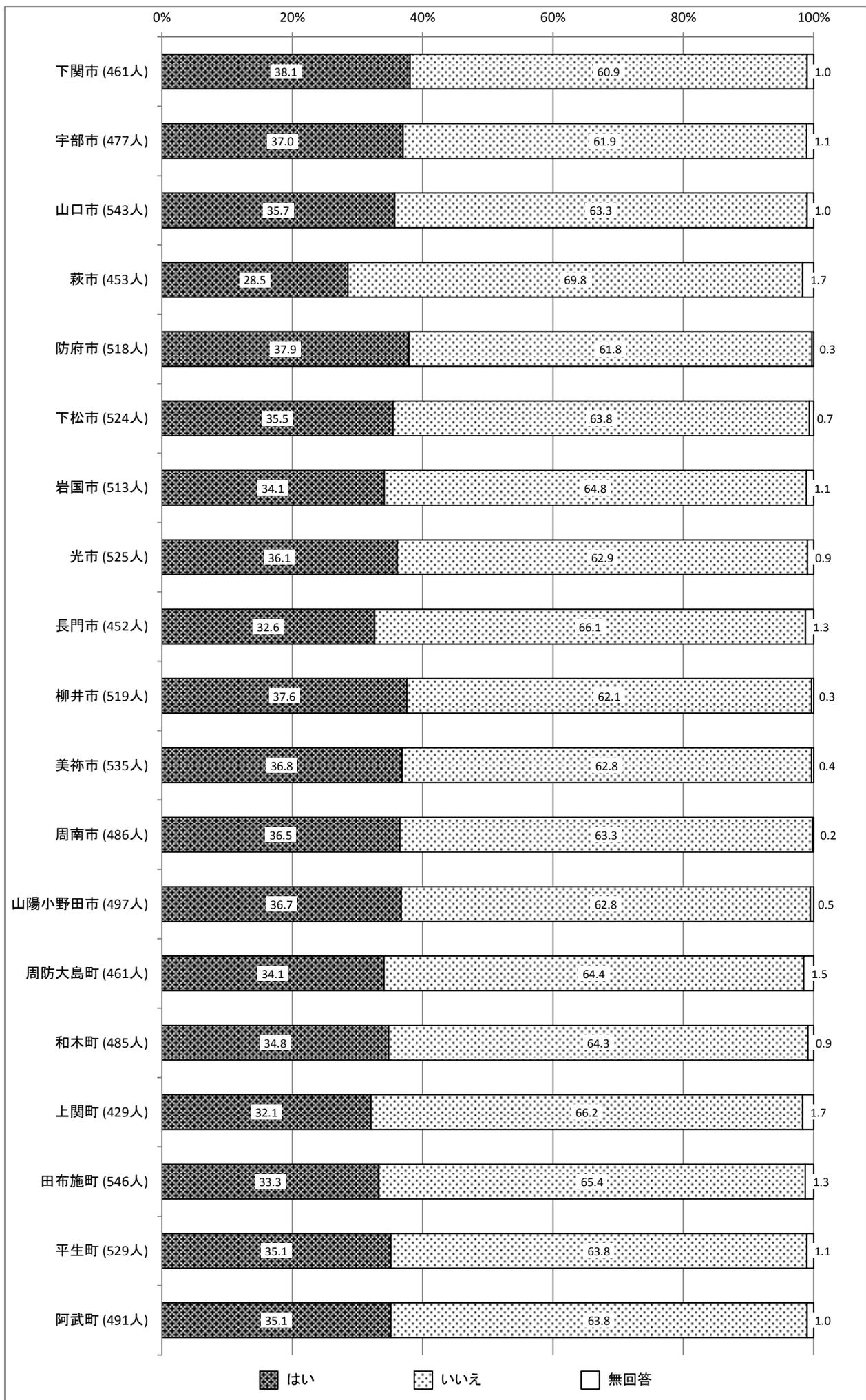
性別では、男性より女性において「参考にする」と回答した割合が高い結果であった。

年代別では、各年代に大きな違いは見られなかった。

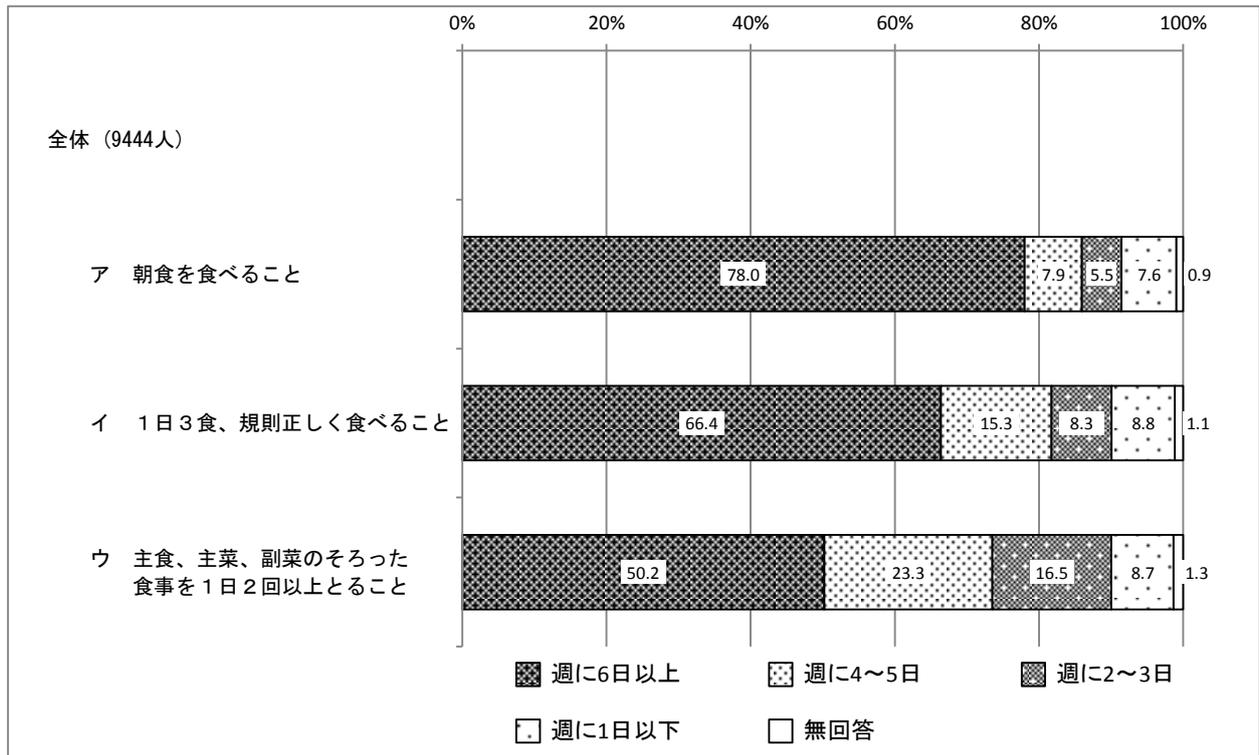
【参考値】

平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査 「はい」 36.1%

平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査 「はい」 35.3%



問3 あなたは、次の項目について、週に何日くらい実践していますか。(各項目につき、○は1つ)



「週に6日以上」実践していると回答した全体の割合は、多い順に「朝食を食べること」78.0%、「1日3食、規則正しく食べること」66.4%、「主食、主菜、副菜のそろった食事を1日2回以上とること」50.2%であり、性別、年代別においても、同様な傾向がみられた。

年代別では、年代が高くなるほど、どの項目も「週に6日以上」実践していると回答した割合が高い傾向であった。

【参考値】

平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査

朝食を食べることを「週に6日以上」実践している 75.6%

1日3食、規則正しく食べることを「週に6日以上」実践している 64.4%

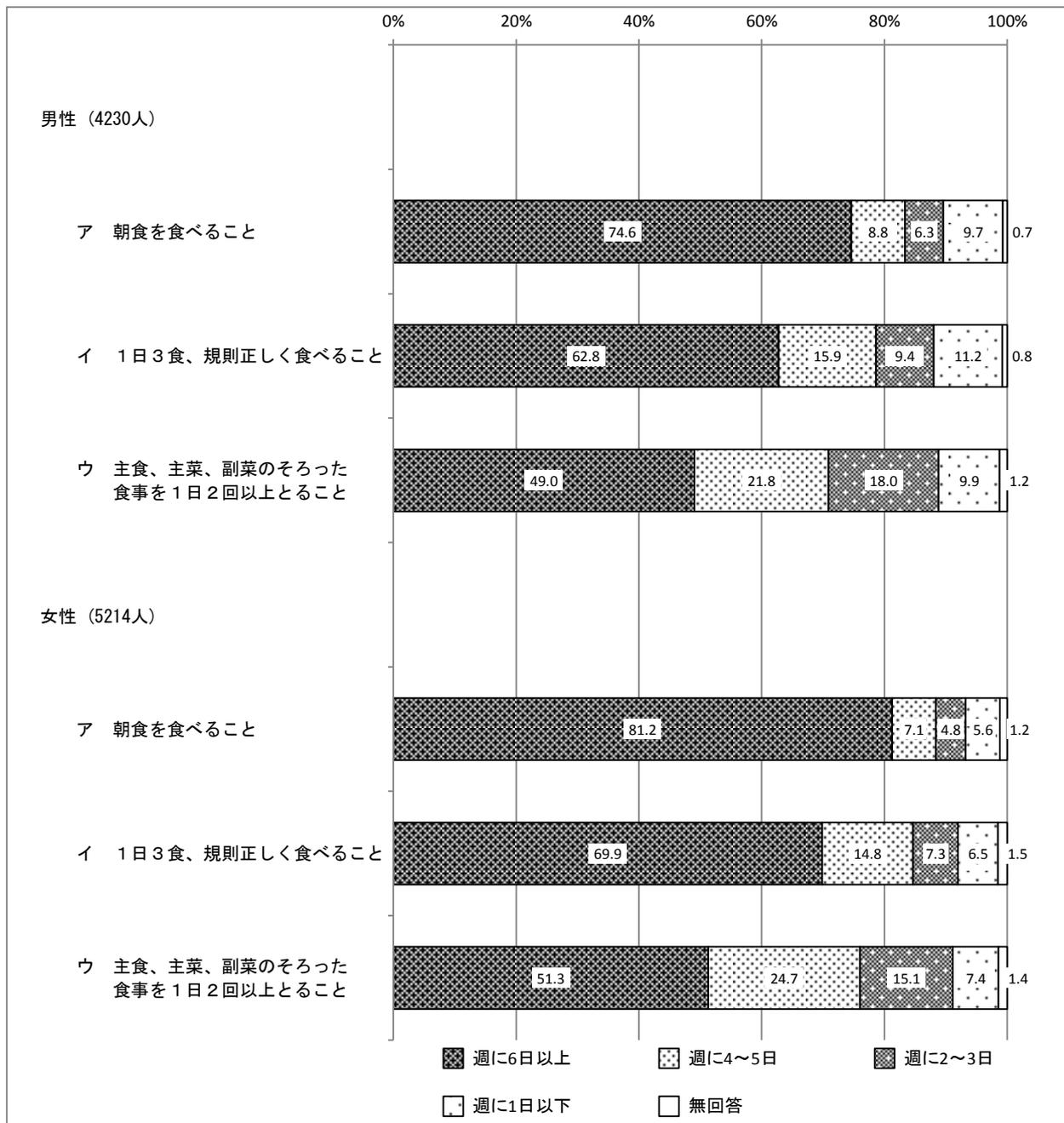
主食、主菜、副菜のそろった食事を1日2回以上とることを「週に6日以上」実践している 47.2%

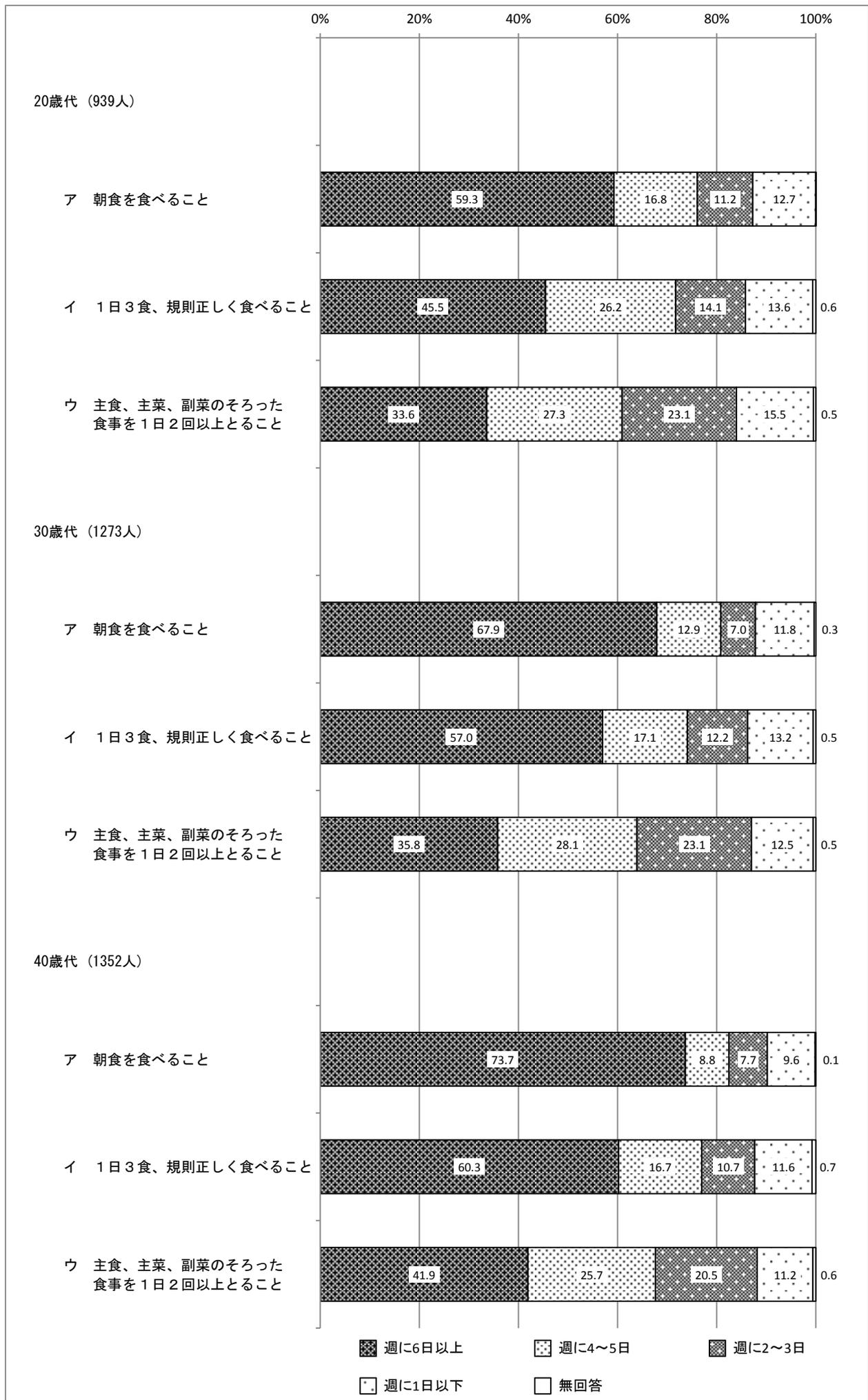
平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査

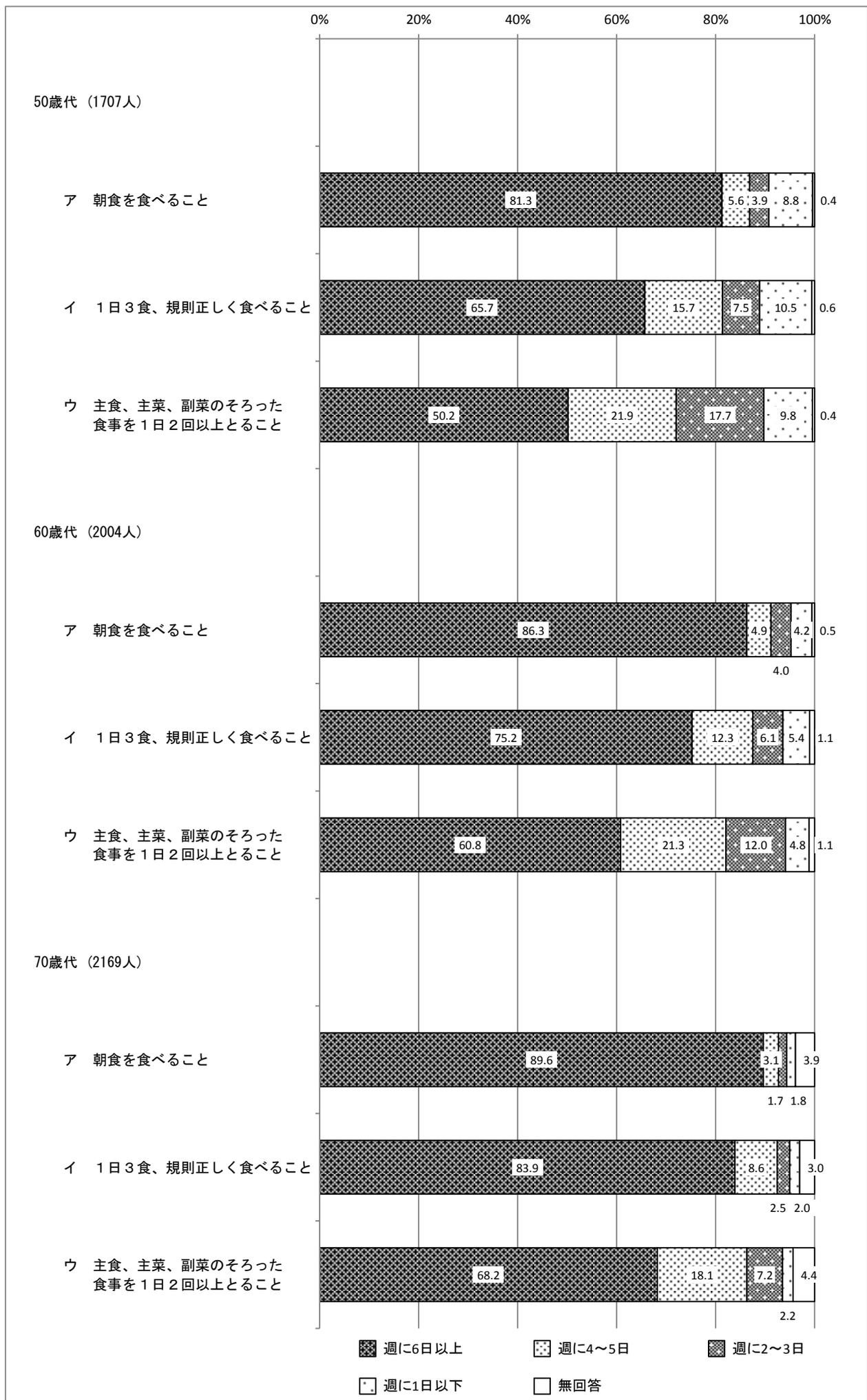
朝食を食べることを「週に6日以上」実践している 76.4%

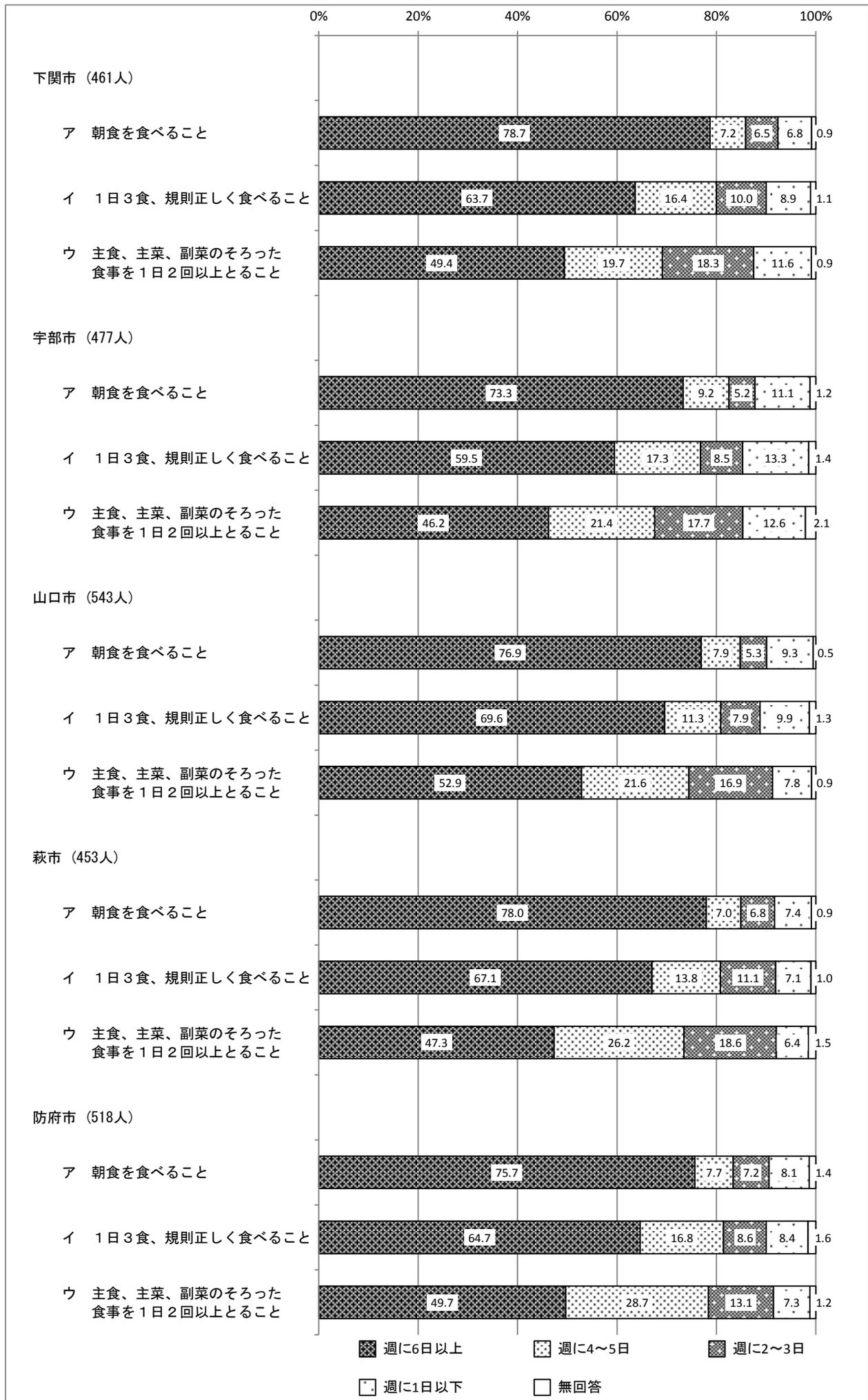
1日3食、規則正しく食べることを「週に6日以上」実践している 66.7%

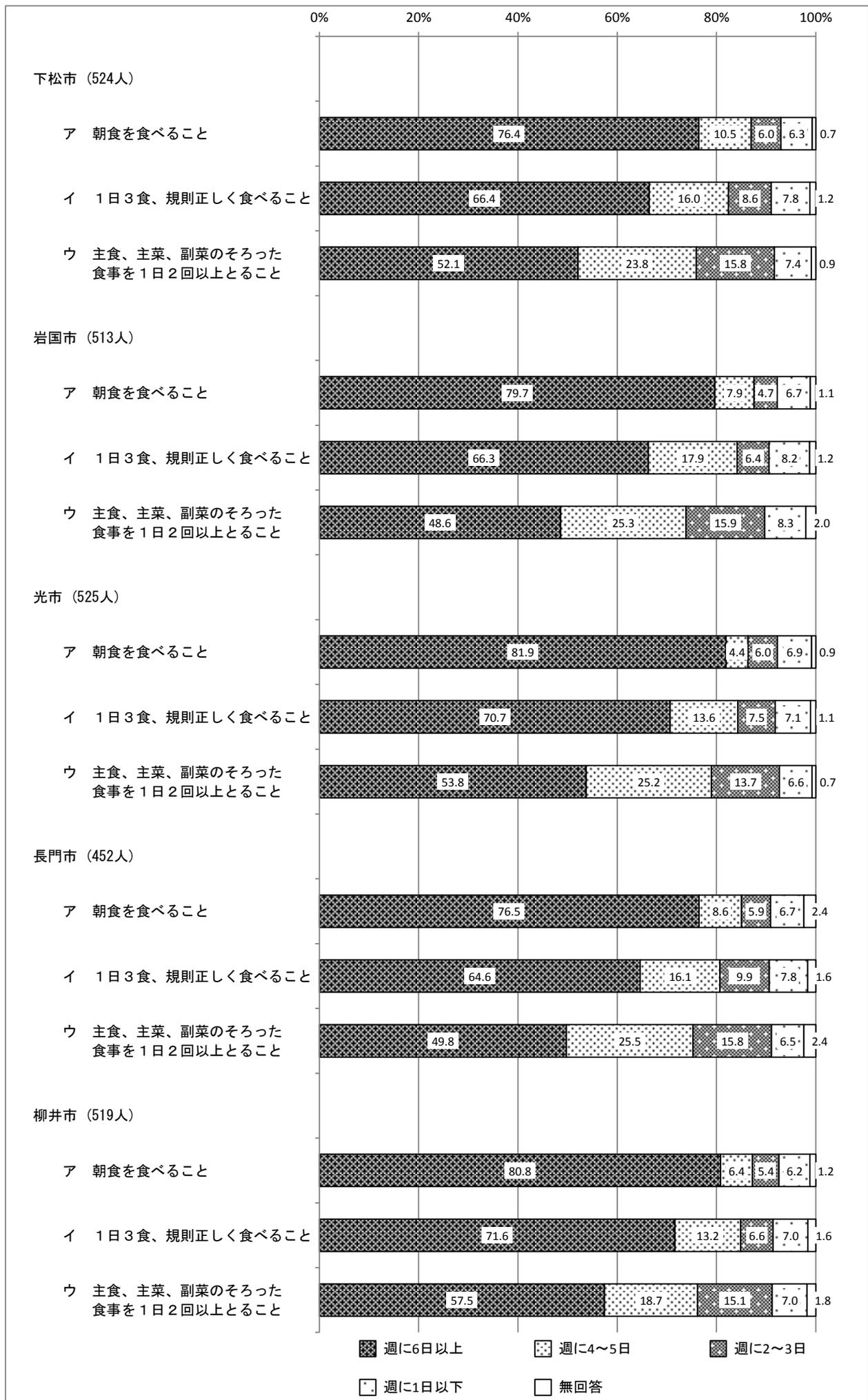
主食、主菜、副菜のそろった食事を1日2回以上とることを「週に6日以上」実践している 50.5%

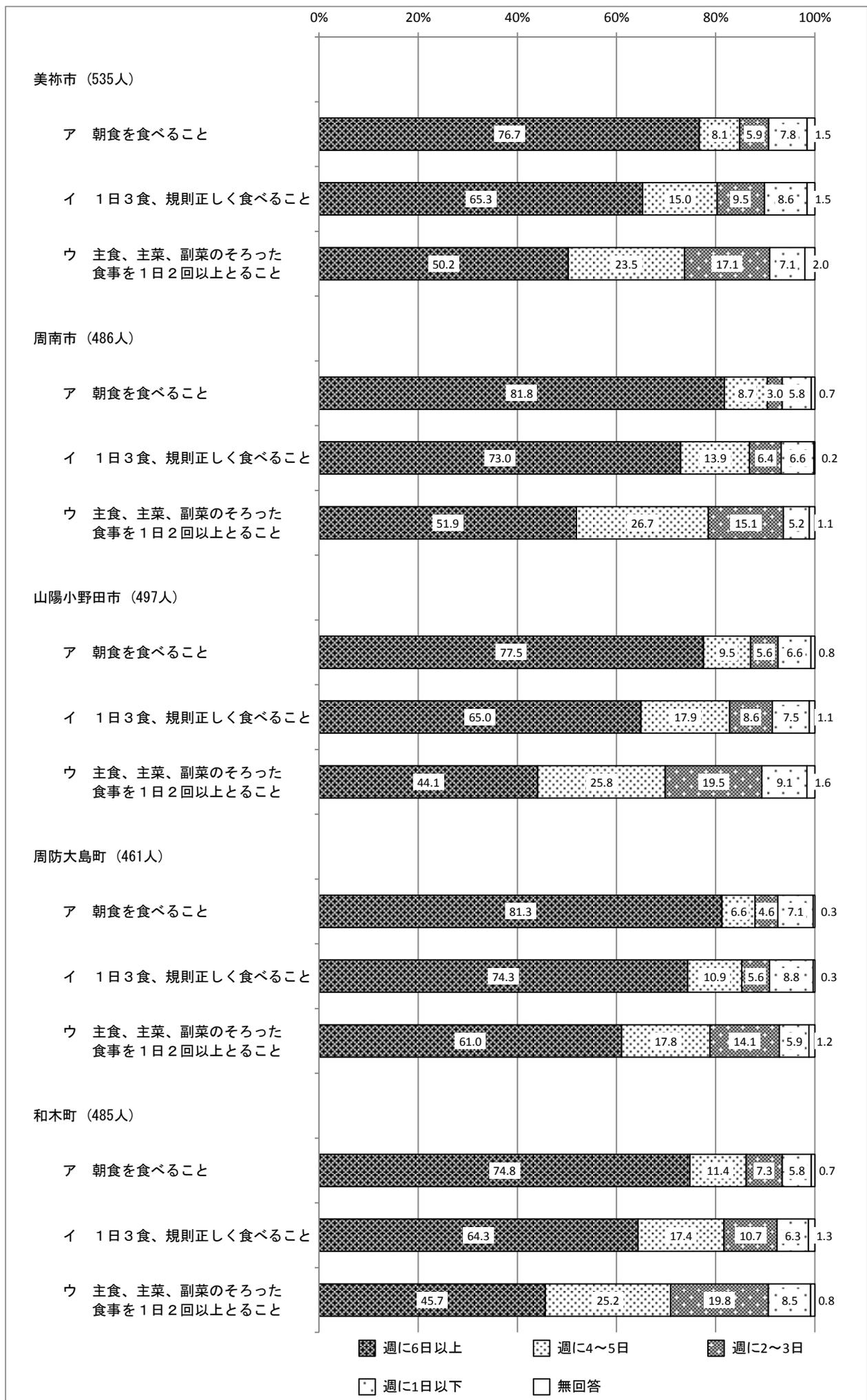


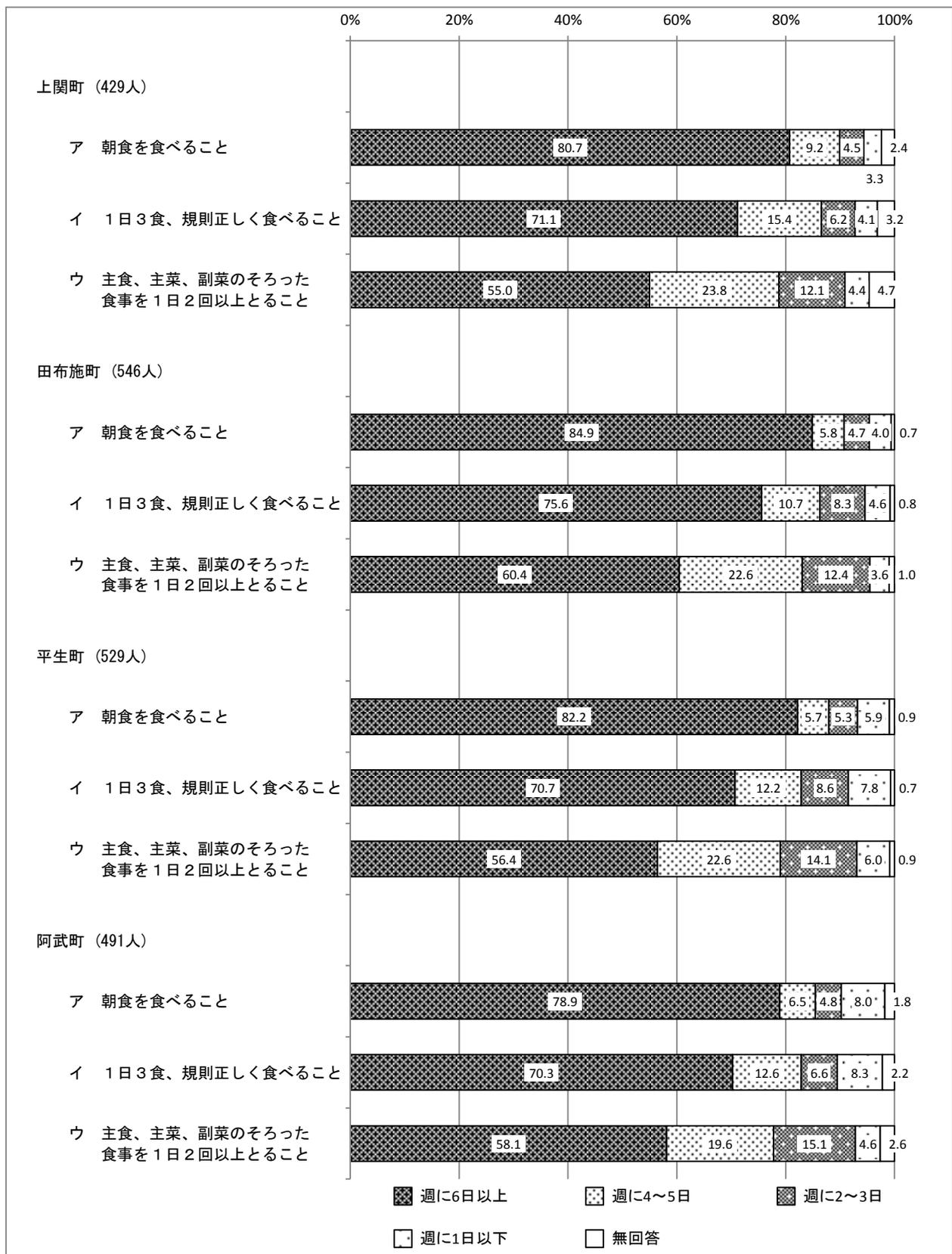




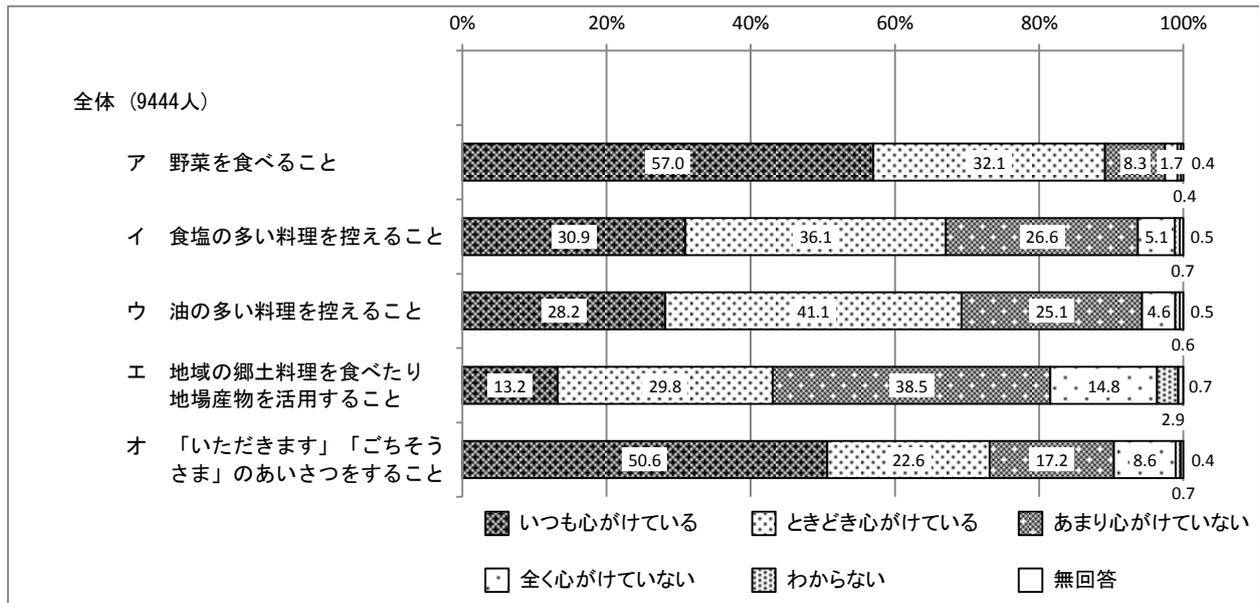








問4 あなたは、次の項目について、どの程度心がけていますか。(各項目につき、○は1つ)



「心がけている（「いつも心がけている」、「ときどき心がけている」の合計）」と回答した全体の割合は、「野菜を食べること」89.1%、「食塩の多い料理を控えること」67.0%、「油の多い料理を控えること」69.3%、「地域の郷土料理を食べたり地場産物を活用すること」43.0%、「「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをすること」73.2%であり、これらの項目のうち「野菜を食べること」を「心がけている」と回答する割合が一番高かった。性別、年代別においても、同様であった。

性別では、どの項目においても男性より女性において「心がけている」と回答する割合が高かった。

年代別では、「「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをすること」以外の項目において、年代が高くなるほど「心がけている」と回答した割合が高い傾向であった。

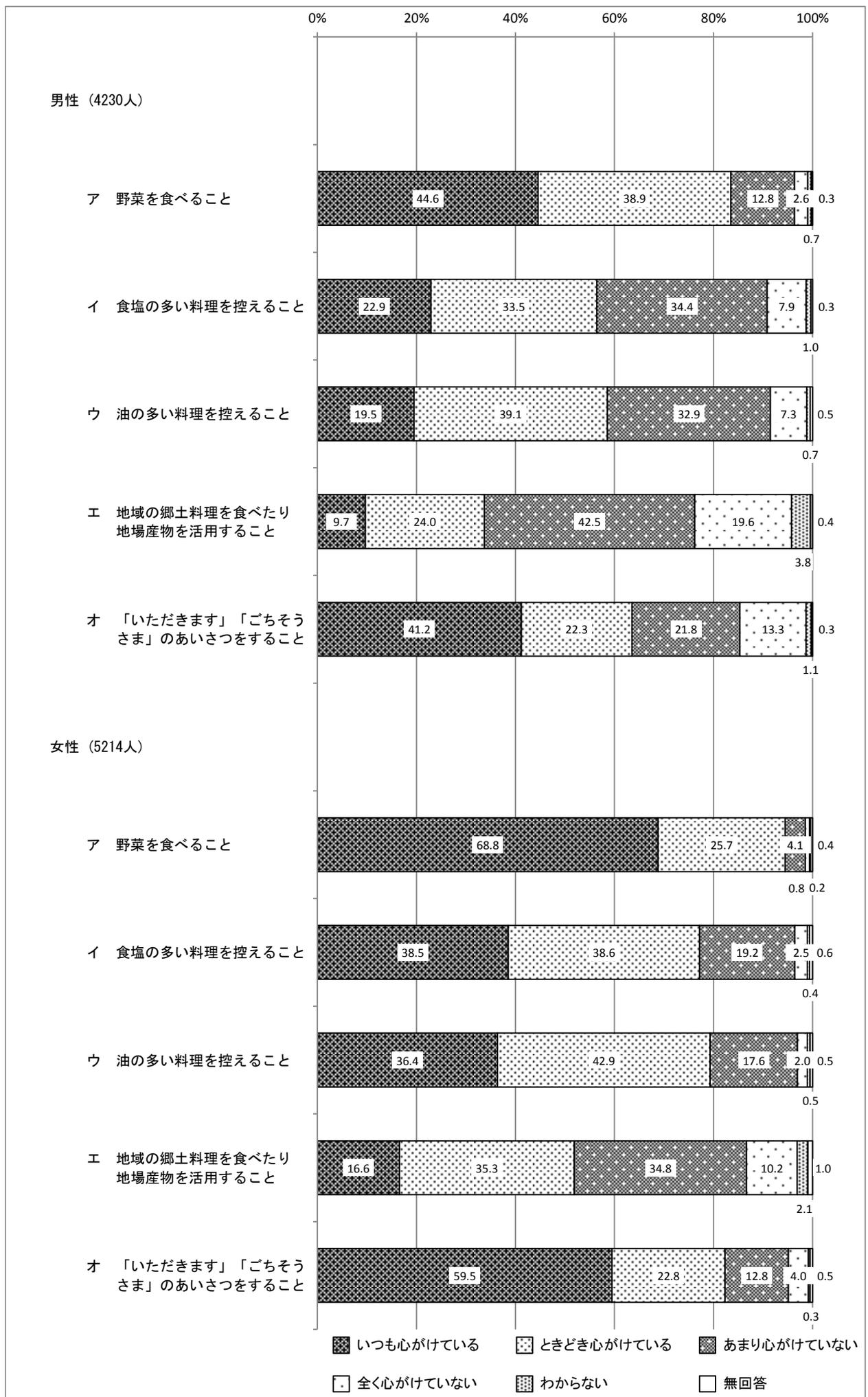
【参考値】

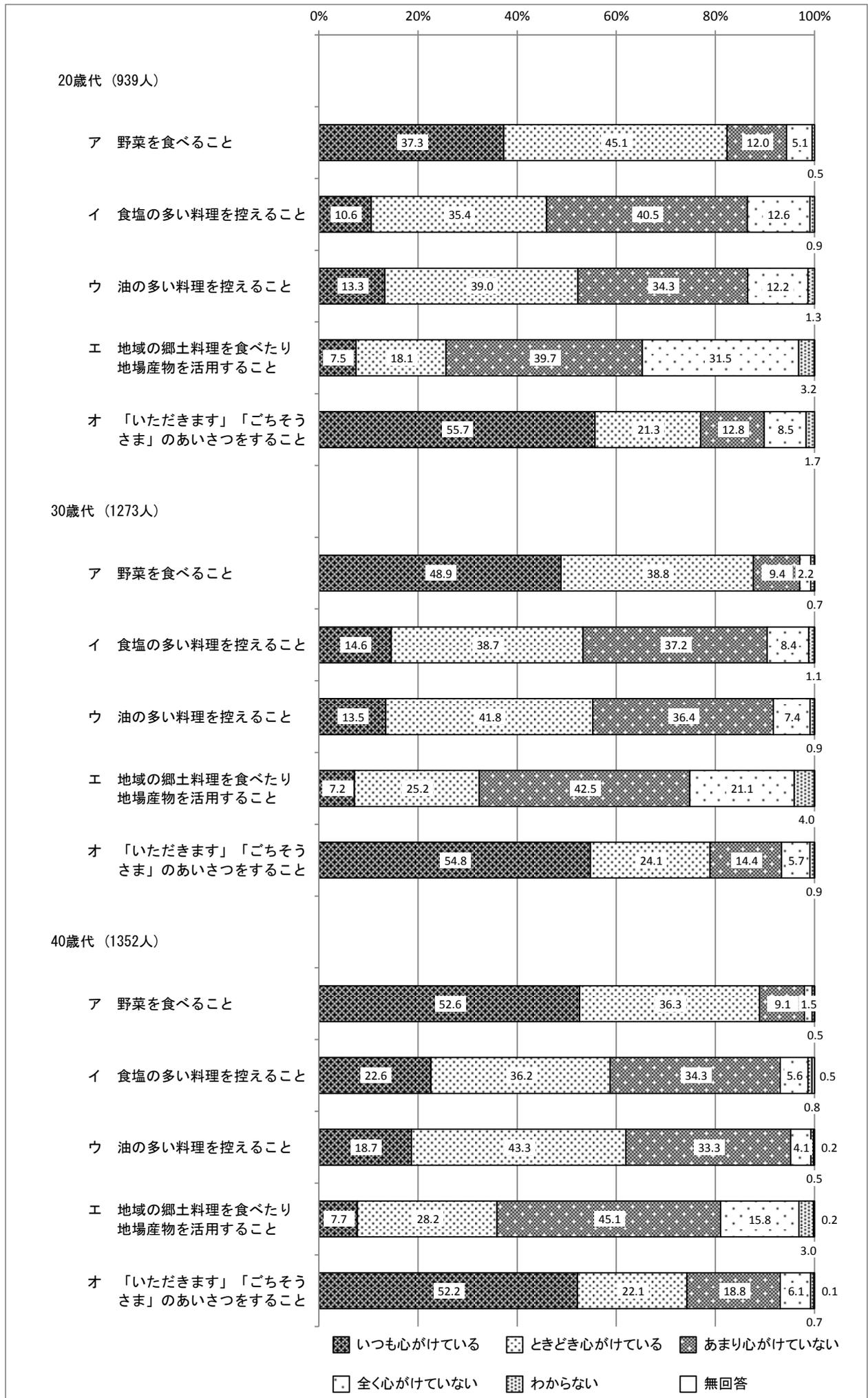
平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査

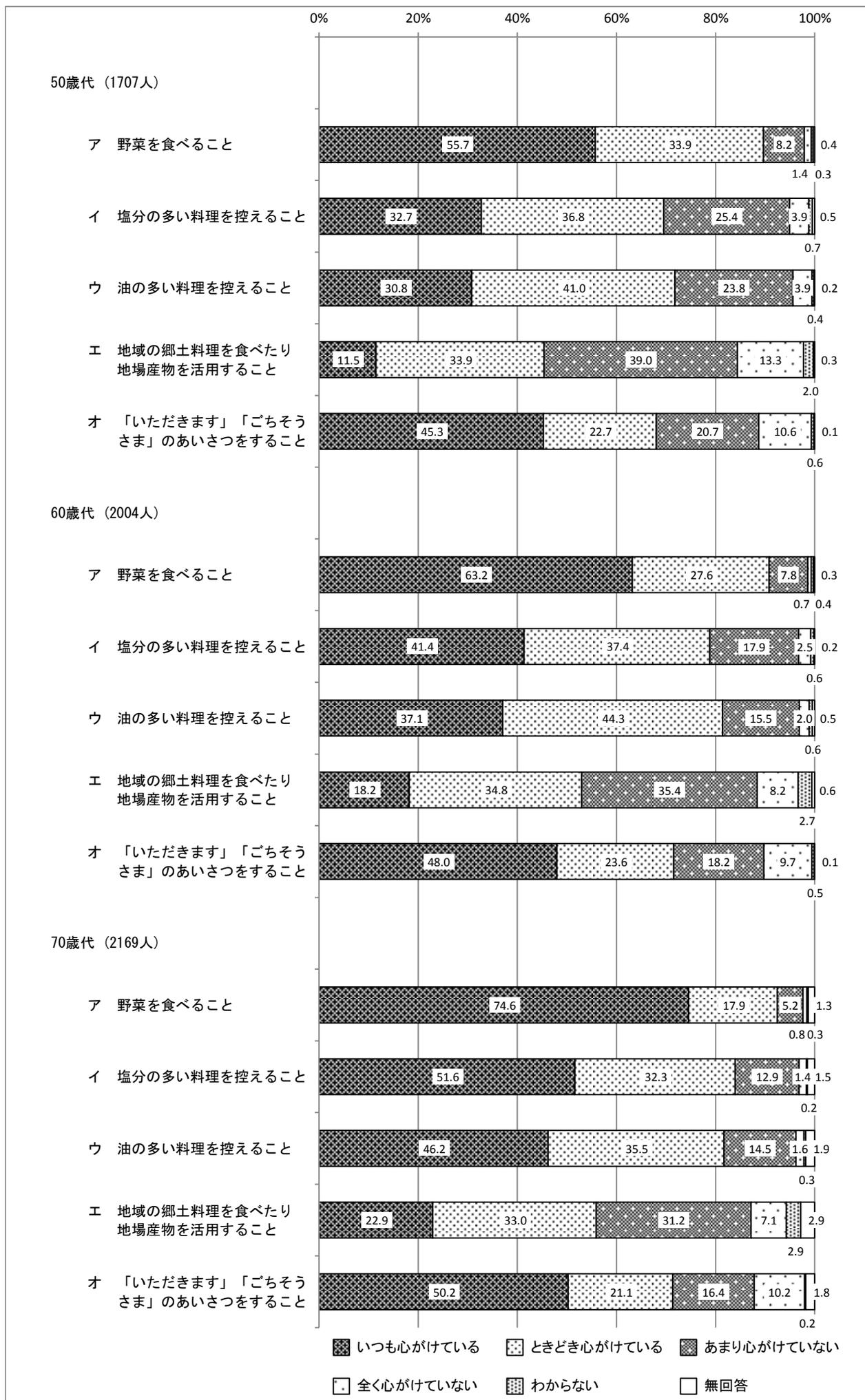
- 野菜を食べることを「心がけている」 88.5%
- 食塩の多い料理を控えることを「心がけている」 68.3%
- 油の多い料理を控えることを「心がけている」 71.9%
- 地域の郷土料理を食べたり地場産物を活用することを「心がけている」 45.9%
- 「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをすることを「心がけている」 74.6%

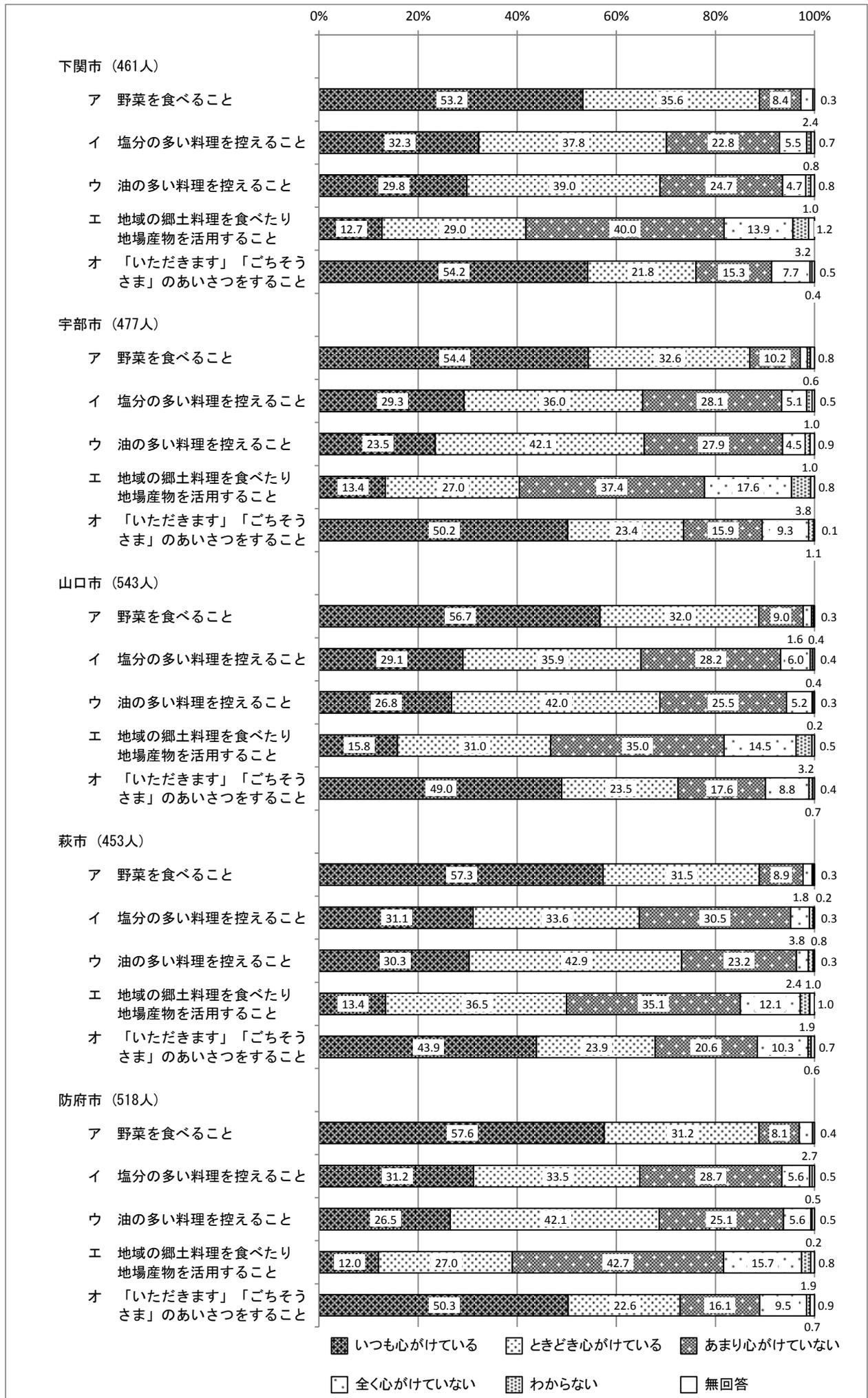
平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査

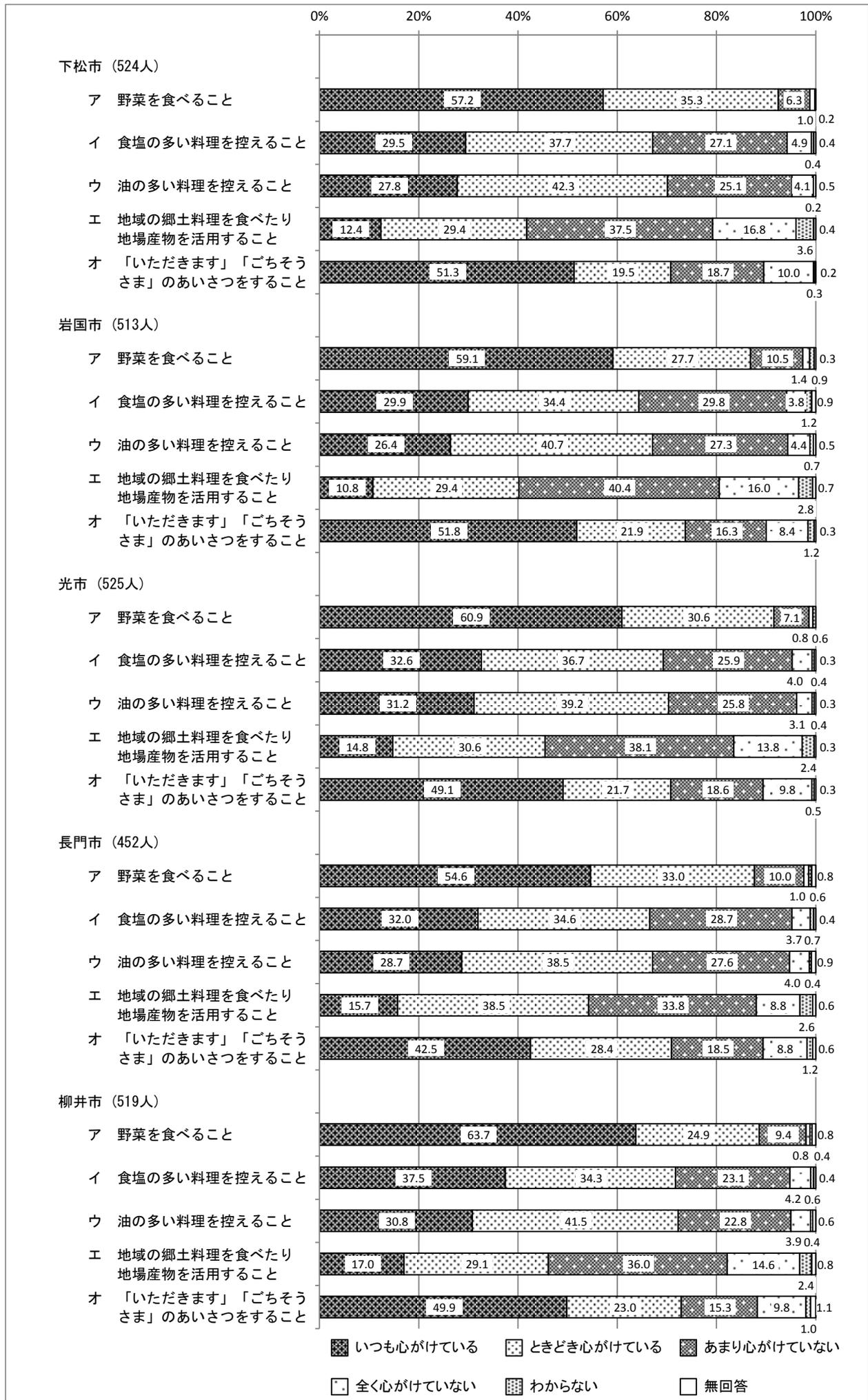
- 野菜を食べることを「心がけている」 88.7%
- 食塩の多い料理を控えることを「心がけている」 69.1%
- 油の多い料理を控えることを「心がけている」 71.2%
- 地域の郷土料理を食べたり地場産物を活用することを「心がけている」 45.5%
- 「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをすることを「心がけている」 71.1%

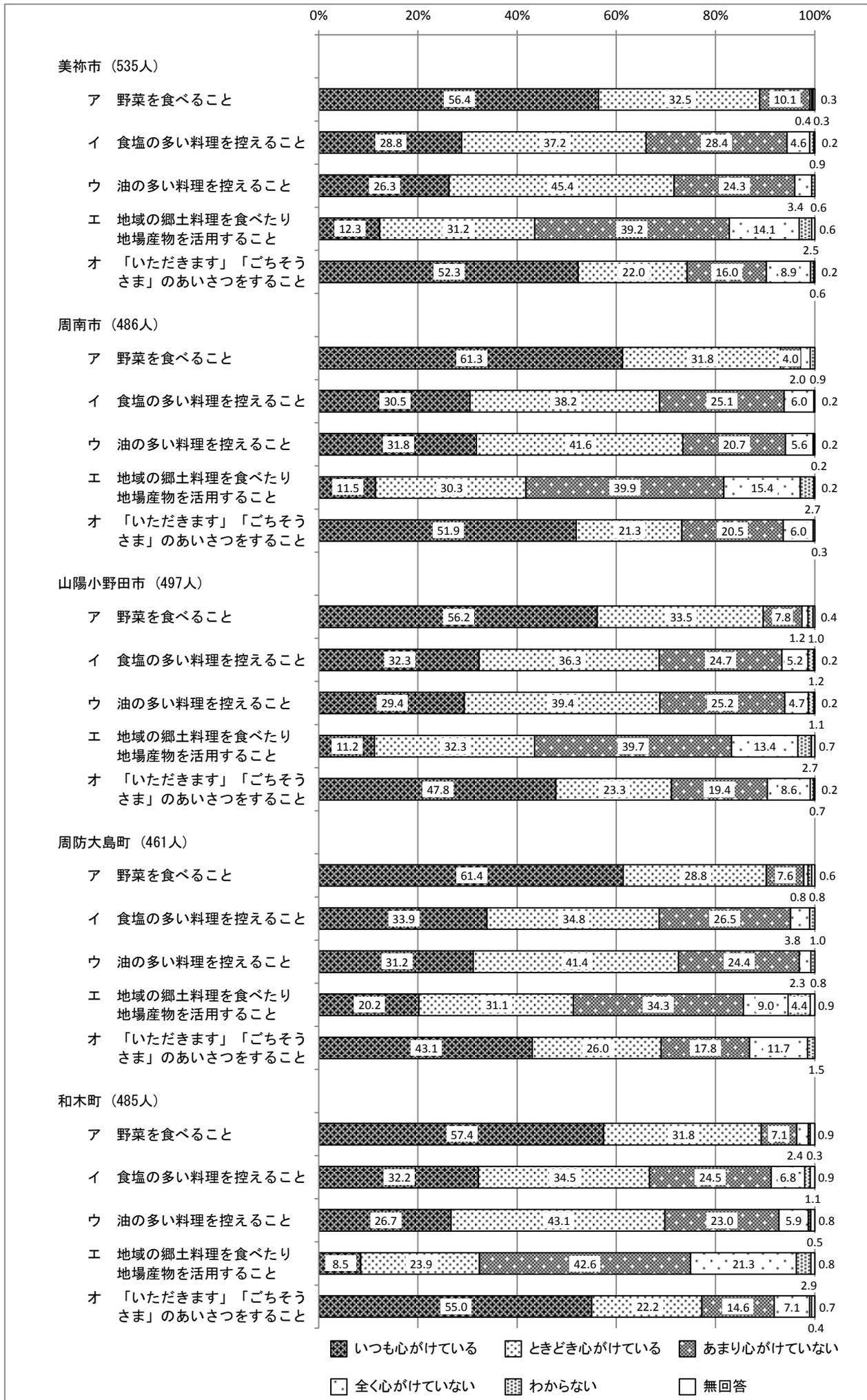


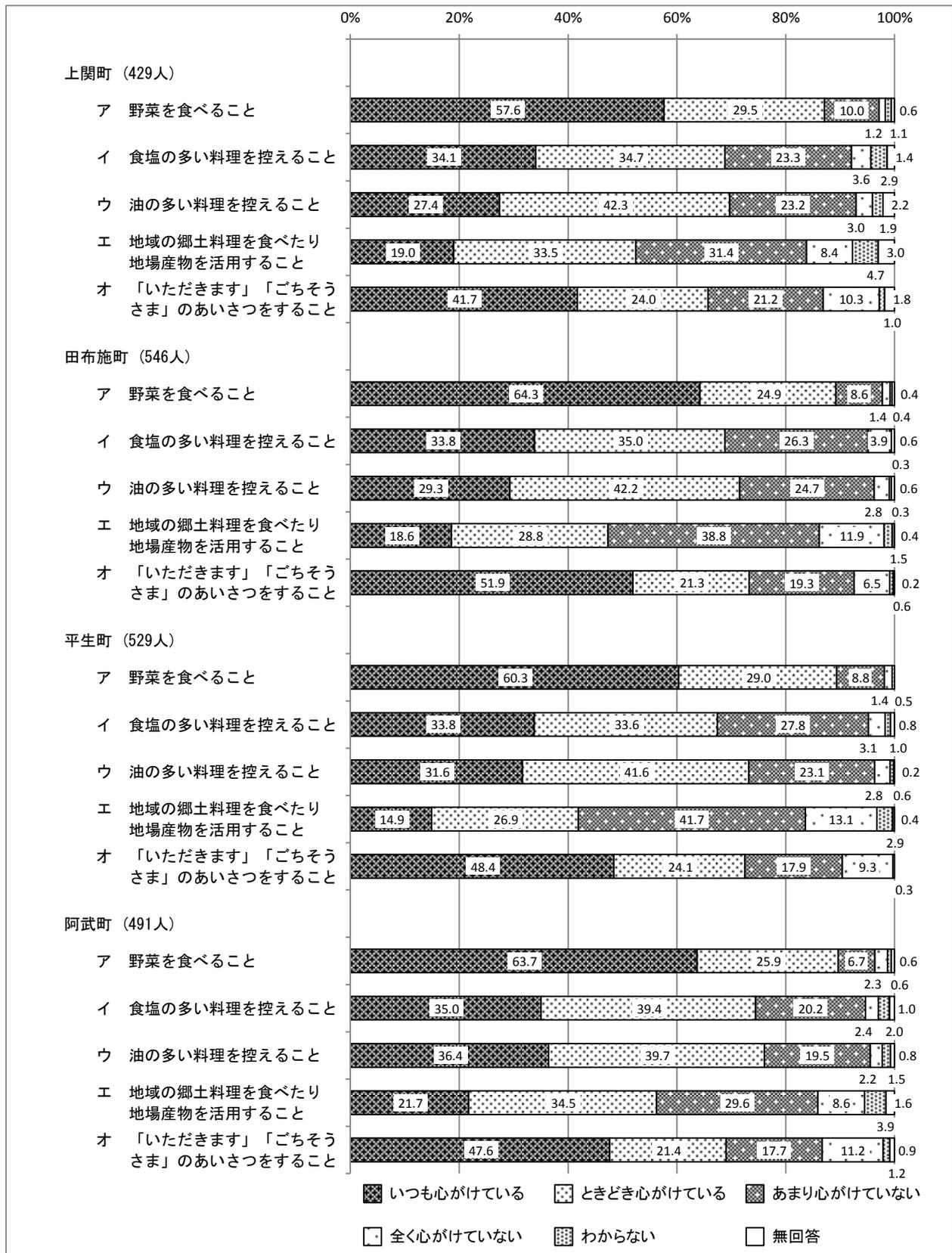




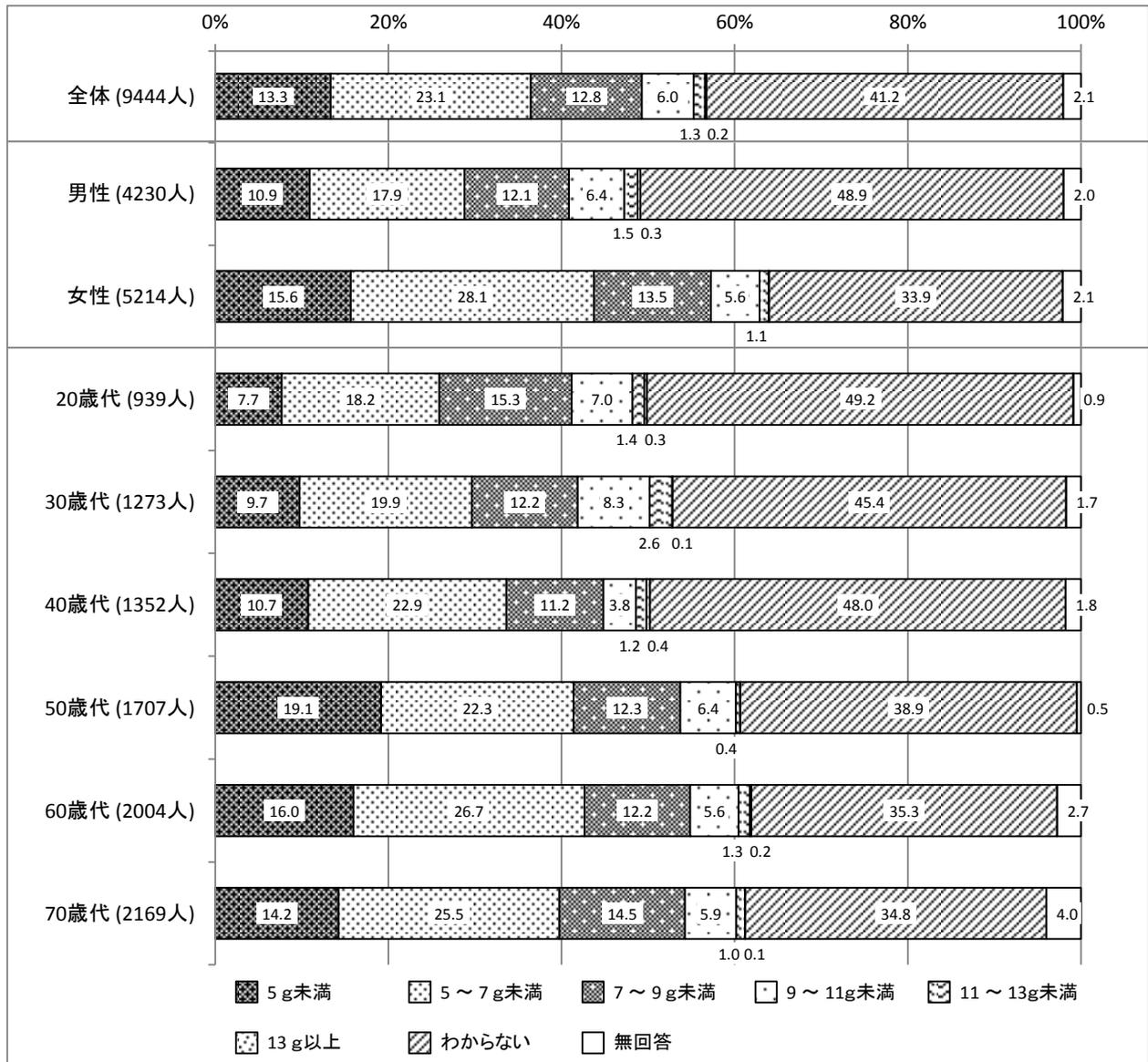








問5 あなたは、自分にとって、ちょうどよい食塩摂取量はどのくらいだと思いますか。(〇は1つ)



「9g未満（「5g未満」、「5~7g未満」、「7~9g未満」の合計）」と回答した全体の割合は49.2%であり、そのうち1日における食塩摂取基準（目標量）に近い「7~9g未満」と回答した割合は12.8%であった。また、全体の41.2%が、自分にとってちょうどよい食塩摂取量がわからないという回答であった。

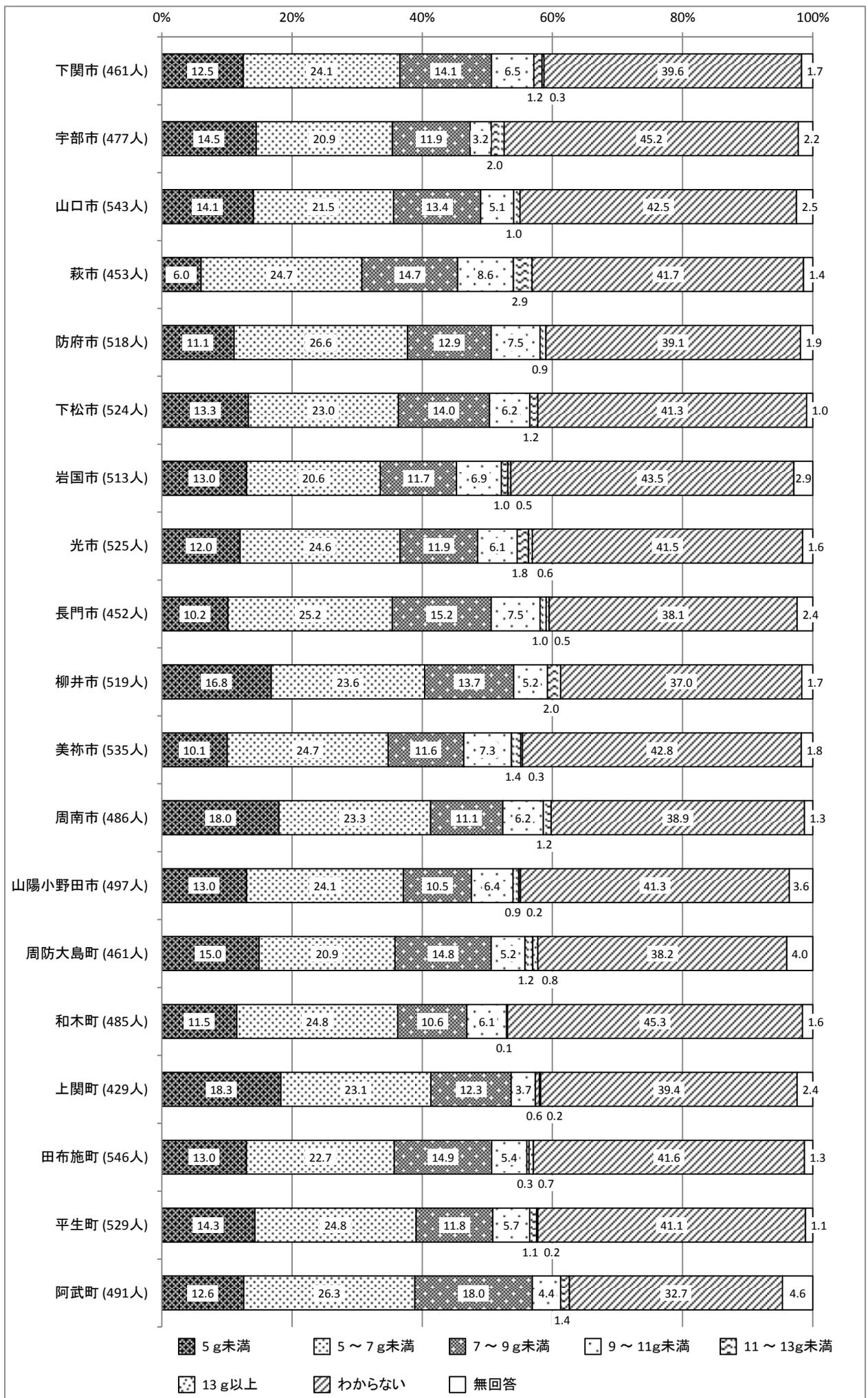
性別では、男性に比べ女性において、自分にとってちょうどよい食塩摂取量が「9g未満」と回答した割合が高かった。

年代別では、年代が高くなるほど「9g未満」と回答した割合が高い傾向であり、特に50歳代から70歳代において「9g未満」と回答した割合が高かった。

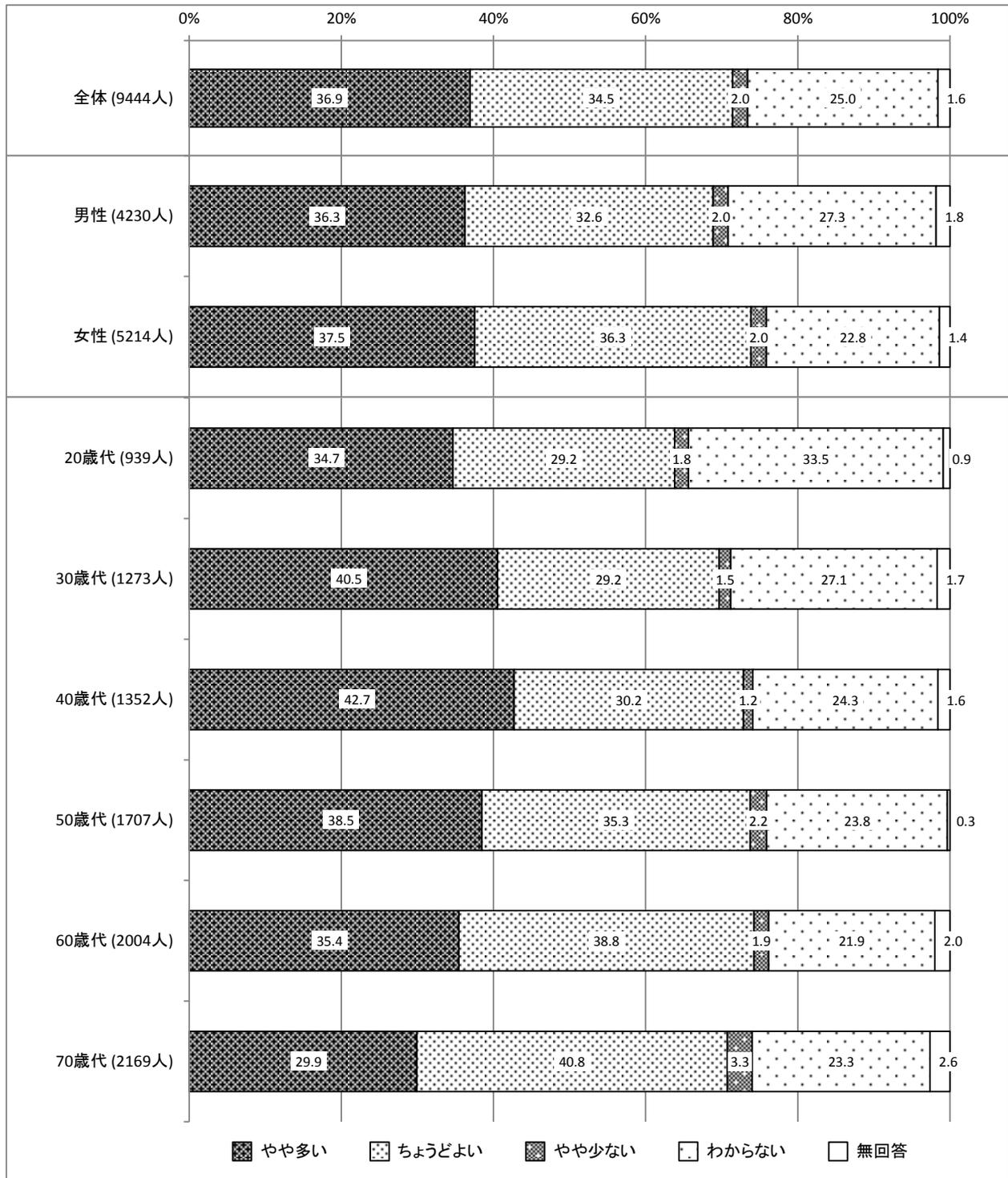
【参考値】

日本人の食事摂取基準（2015年版）

食塩摂取目標量 成人男性：8.0g未満/日 成人女性：7.0g未満/日

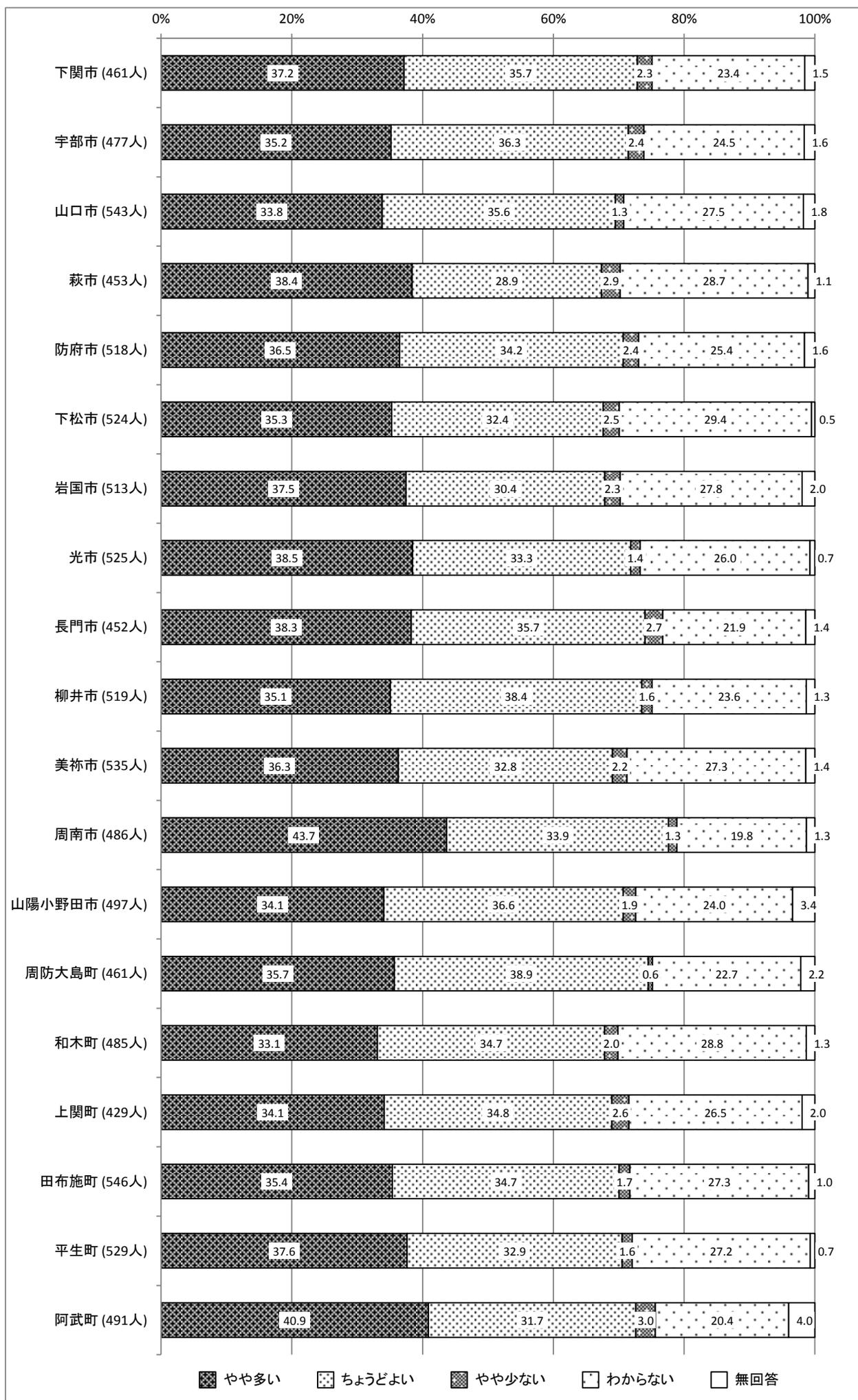


問6 あなたは、自分の食塩摂取量が、自分の健康にちょうどよいと思いますか。(〇は1つ)

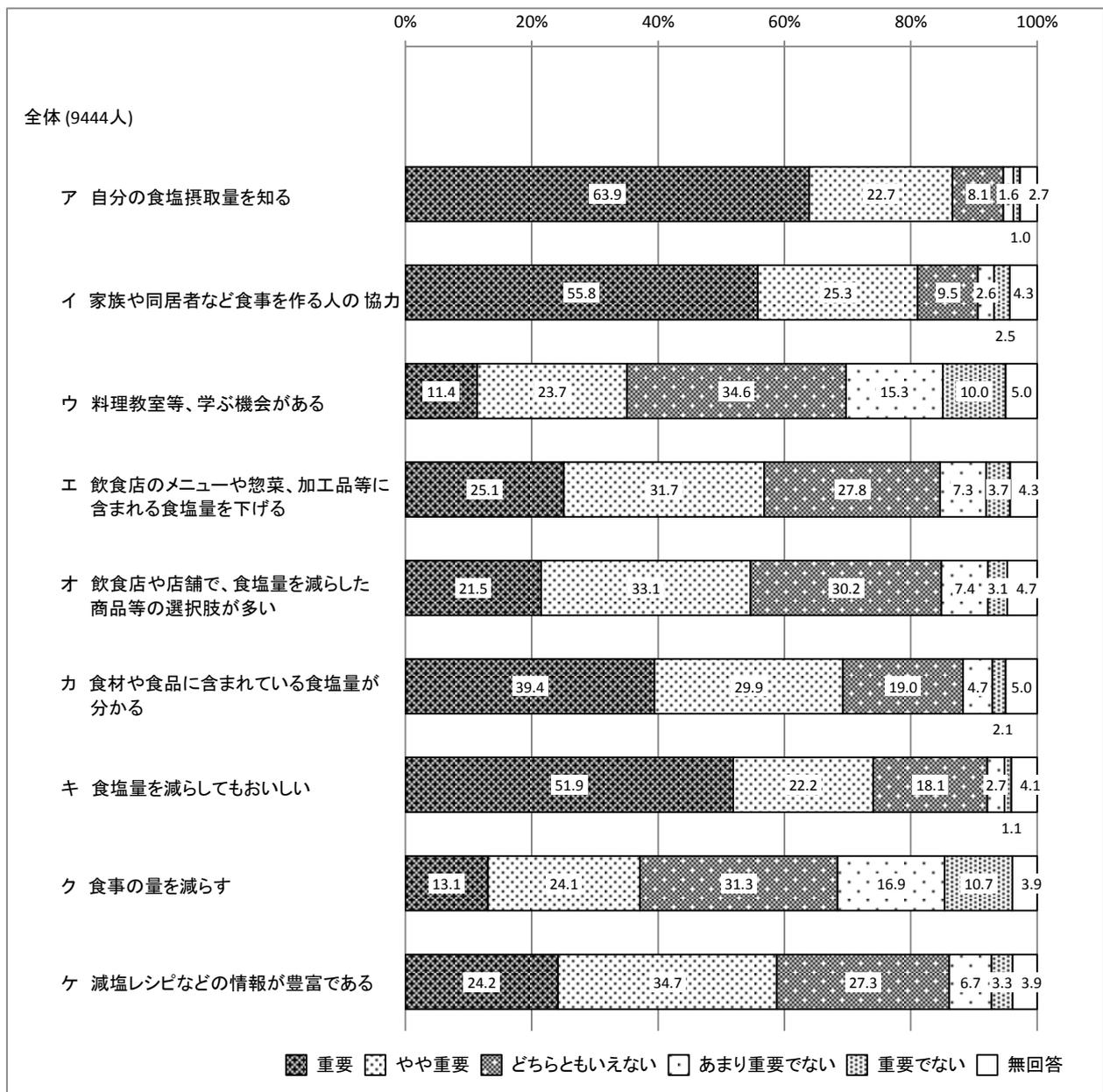


「やや多い」と回答した割合は全体の 36.9%、「ちょうどよい」と回答した割合は全体の 34.5%であった。

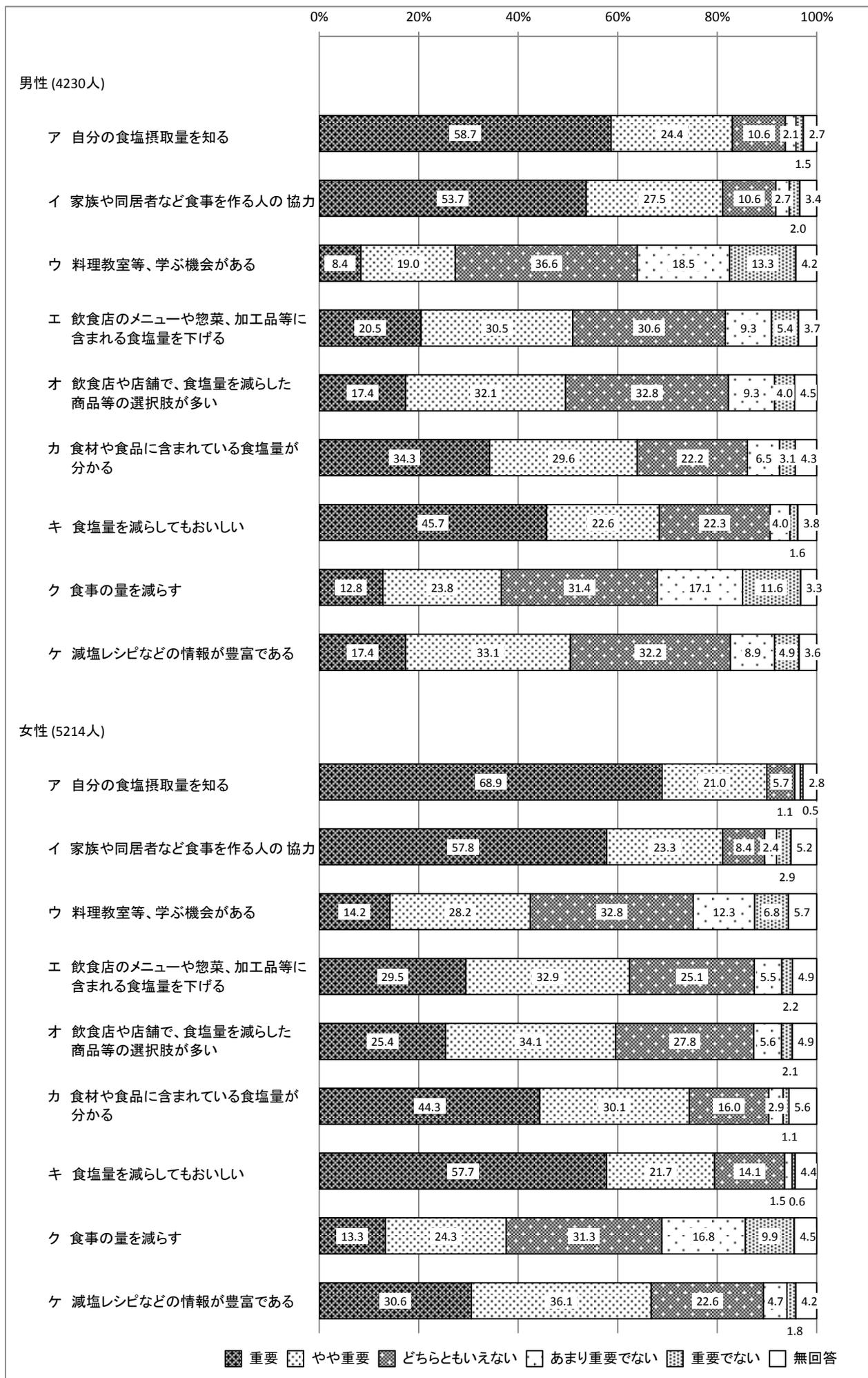
性別では、男女差はあまりなく、年代別では、年代が高いほど「ちょうどよい」と回答した割合は高い傾向であった。

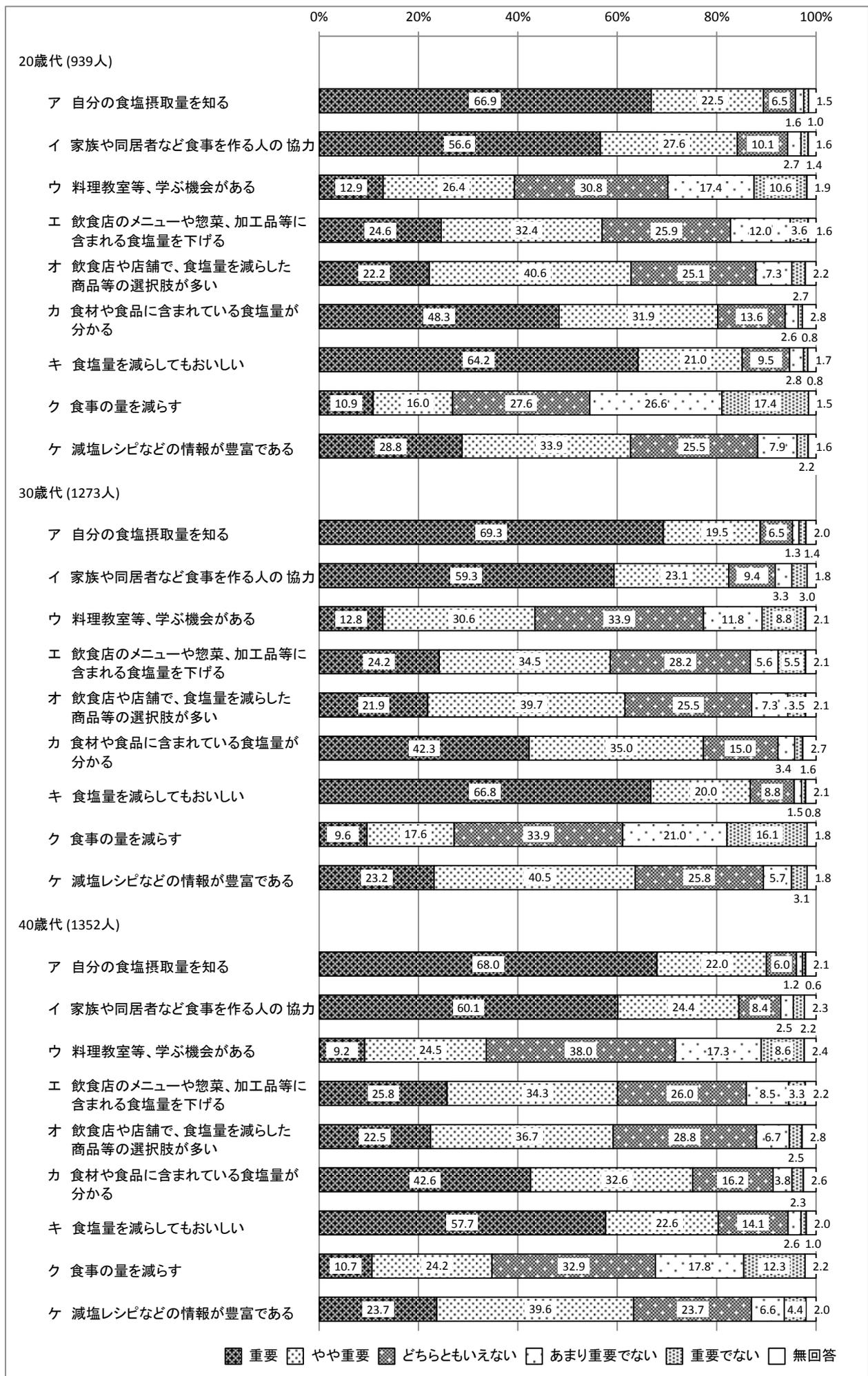


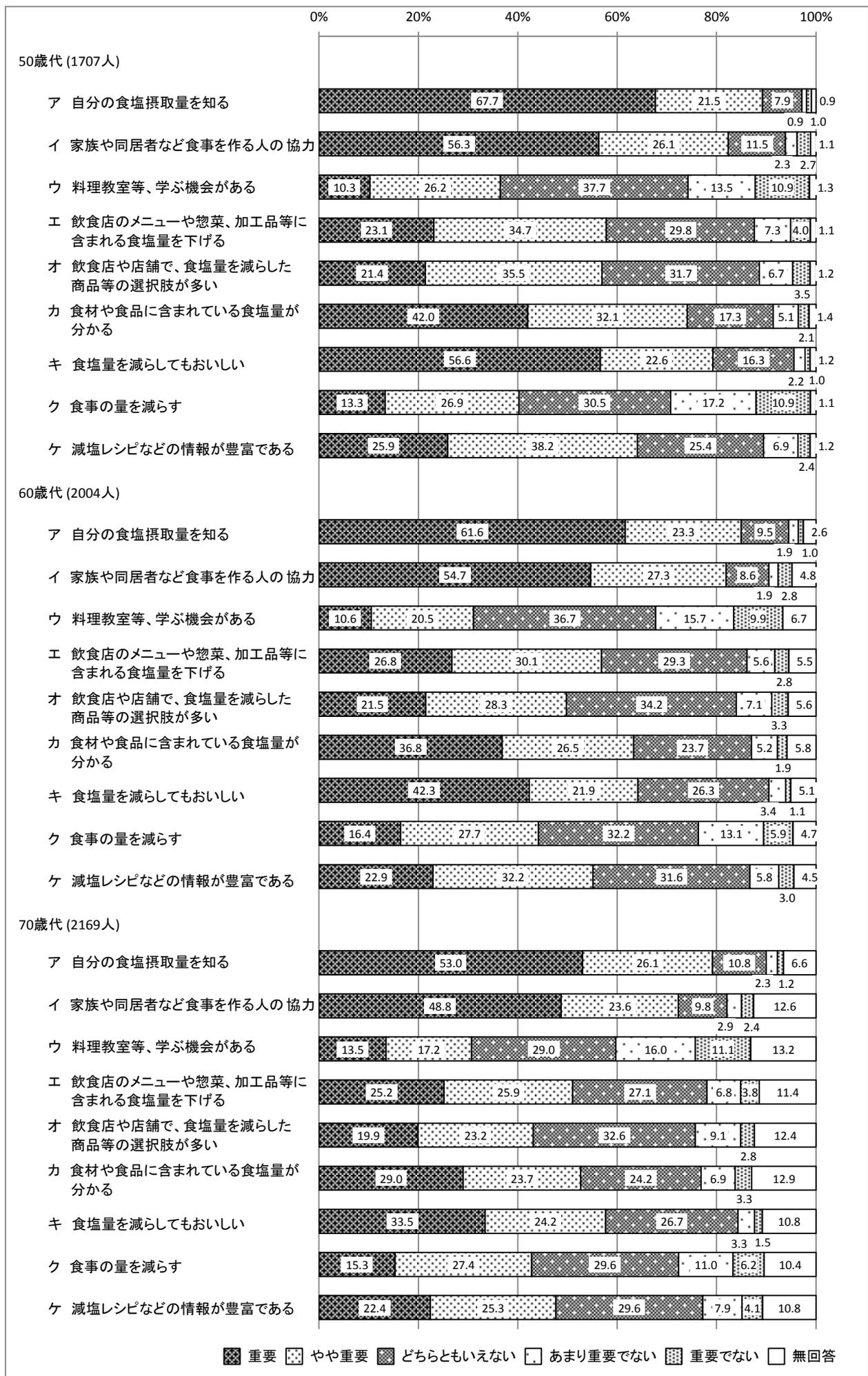
問7 もし、現在の自分の食塩摂取量よりもさらに少なくする場合に、次の項目はどのくらい重要だと思いますか。(各項目につき、○は1つ)

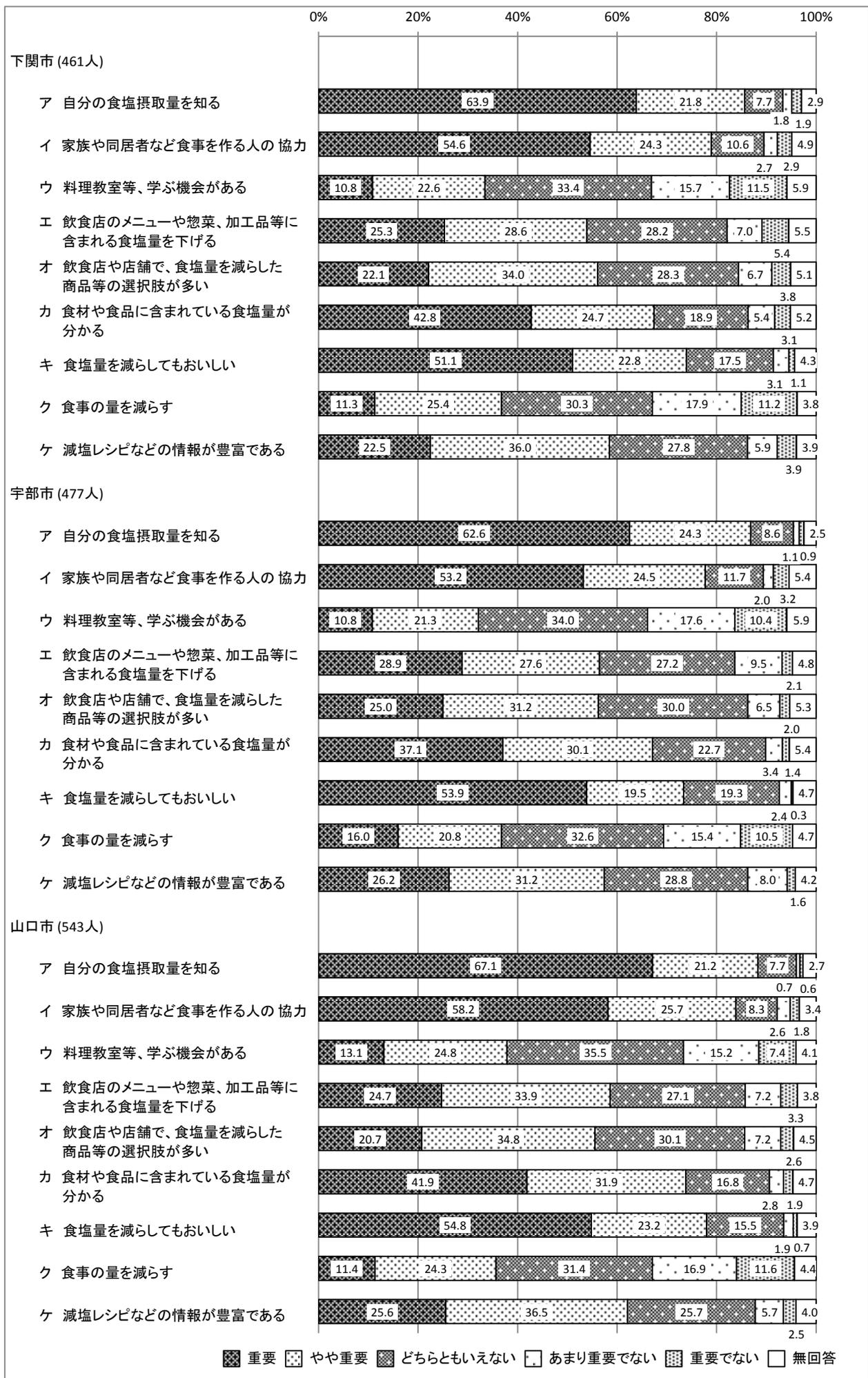


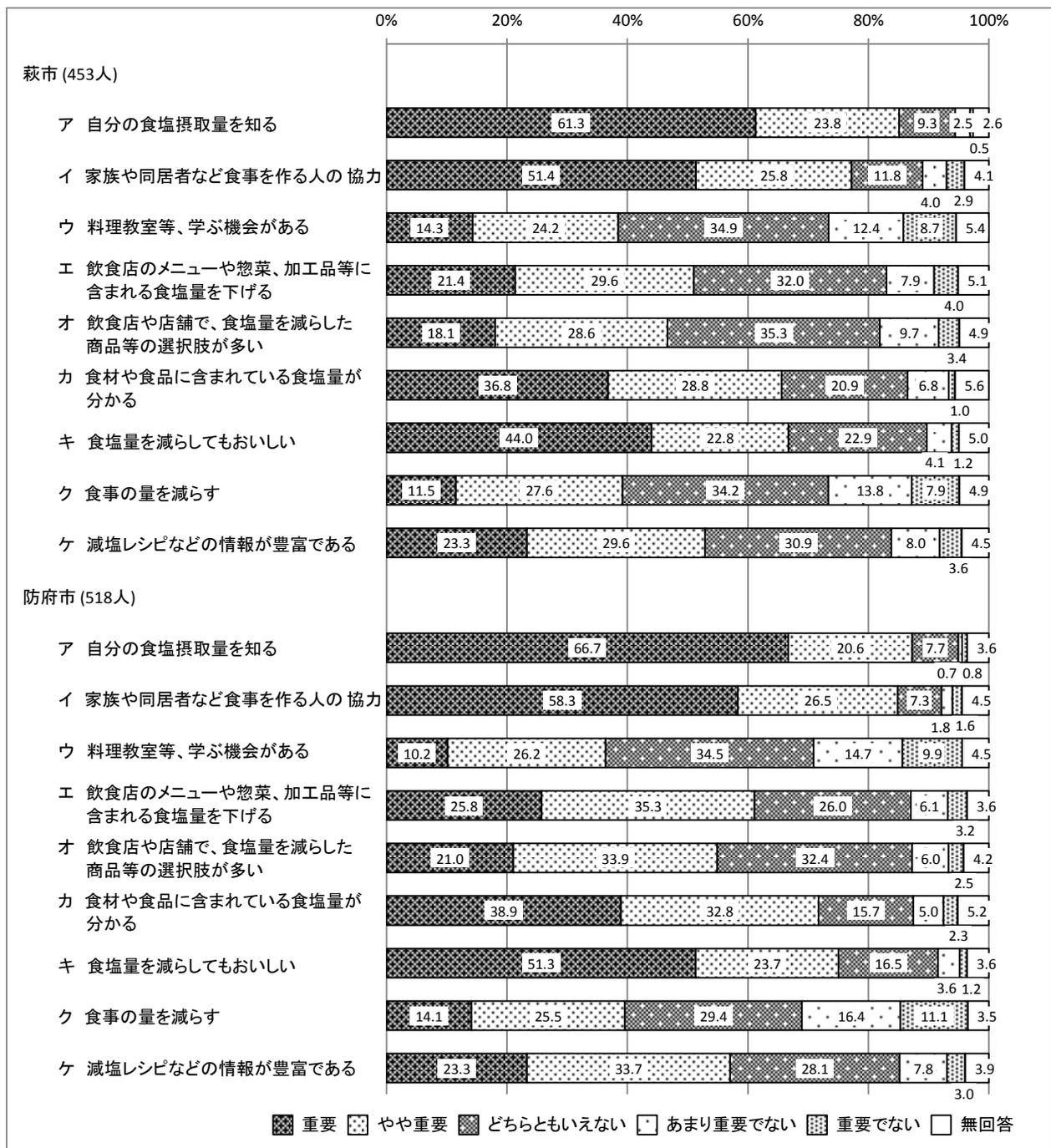
「重要」または「やや重要」と回答した項目の上位3項目は「自分の食塩摂取量を知る」86.6%、「家族や同居者など食事を作る人の協力」81.1%、「食塩量を減らしてもおいしい」74.1%であり、性別、年代別においても同様の傾向がみられた。

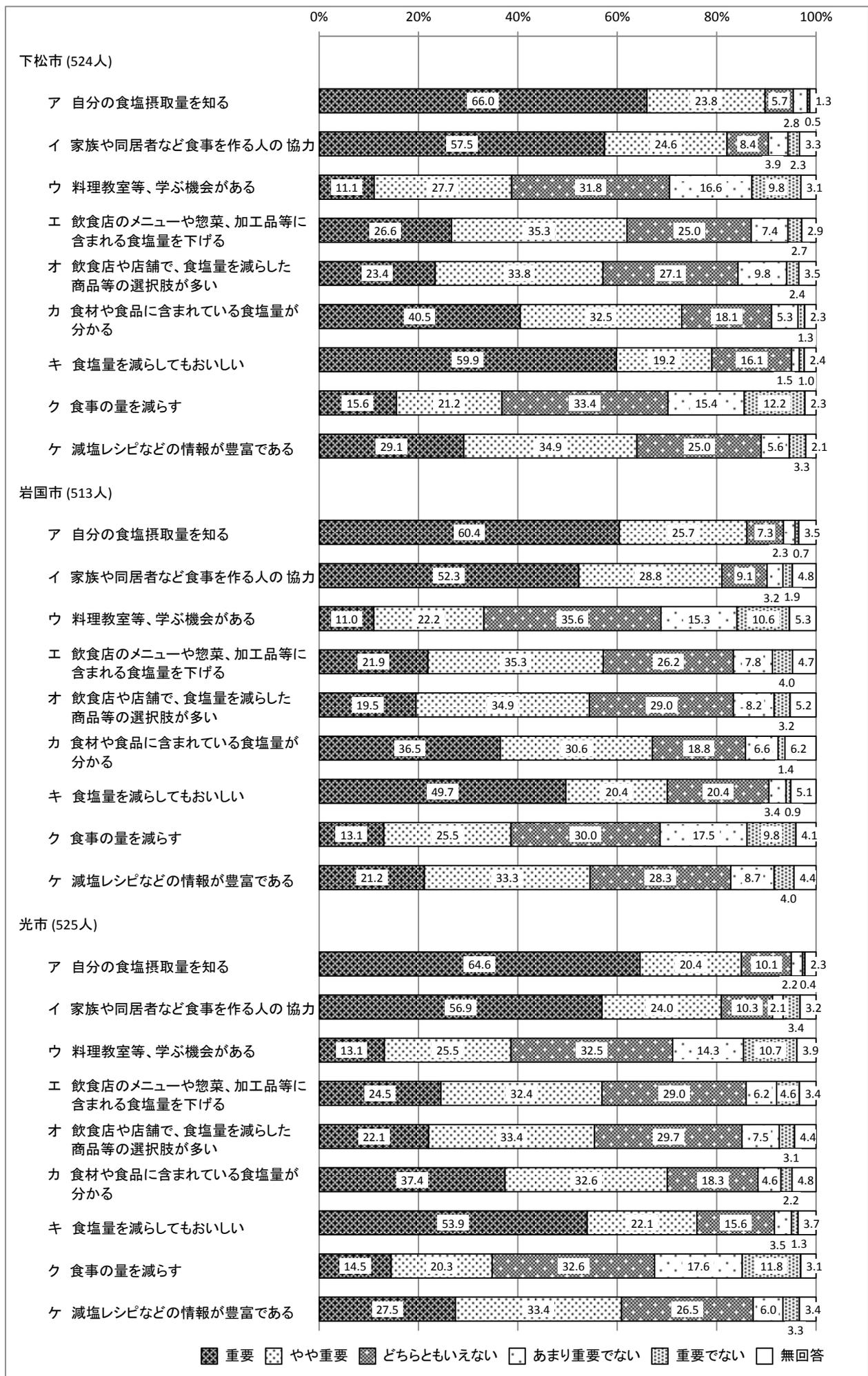


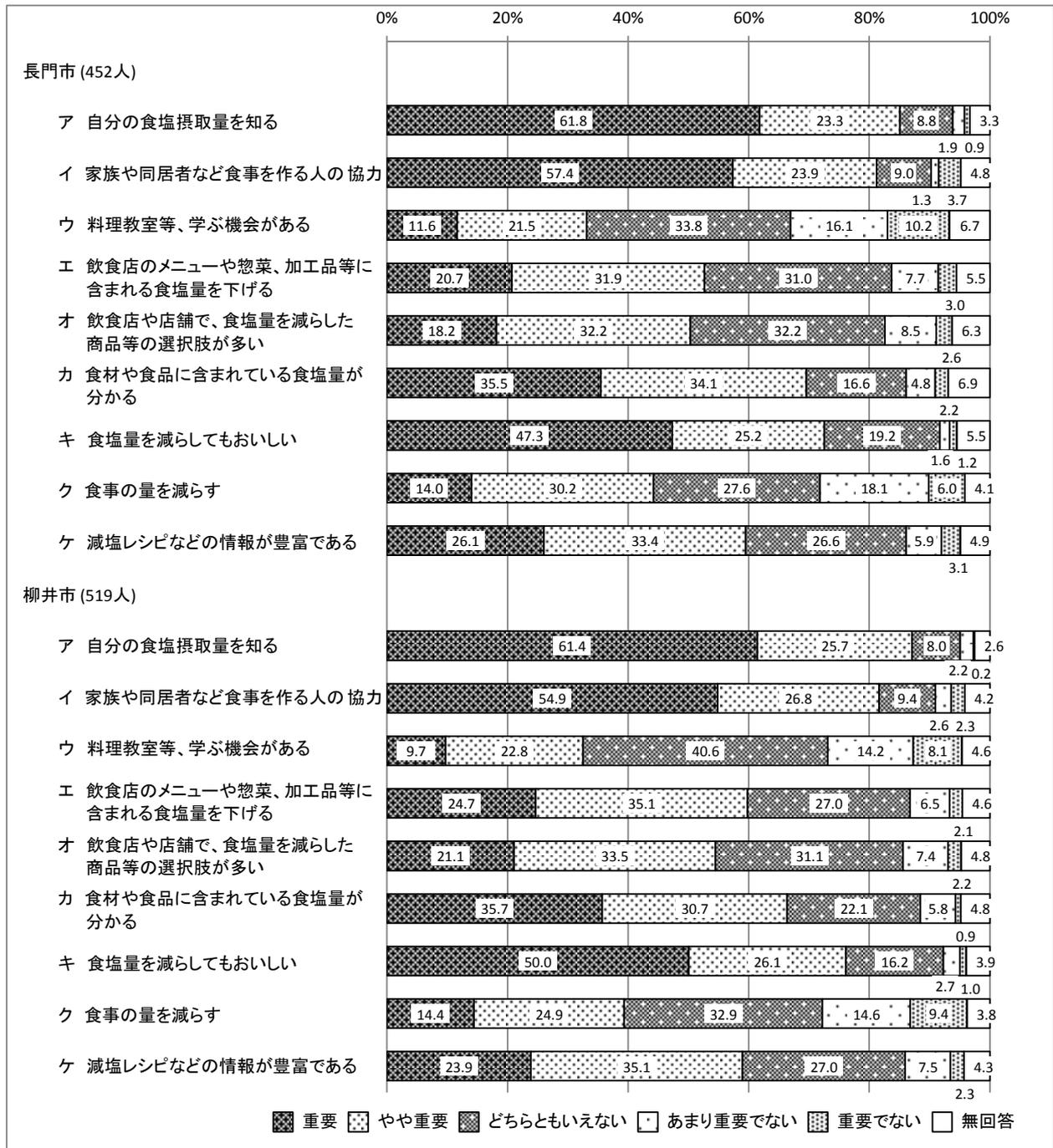




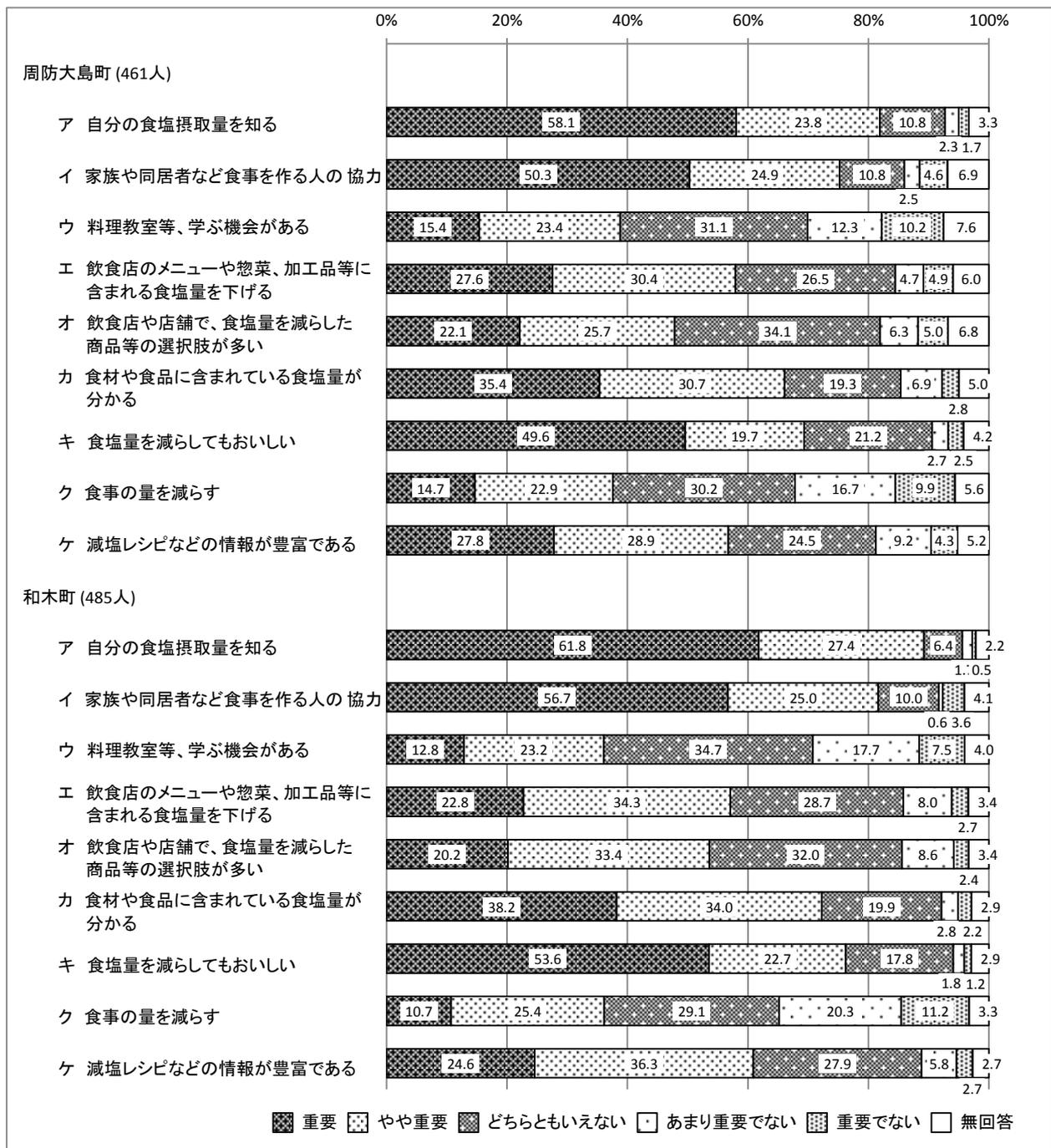


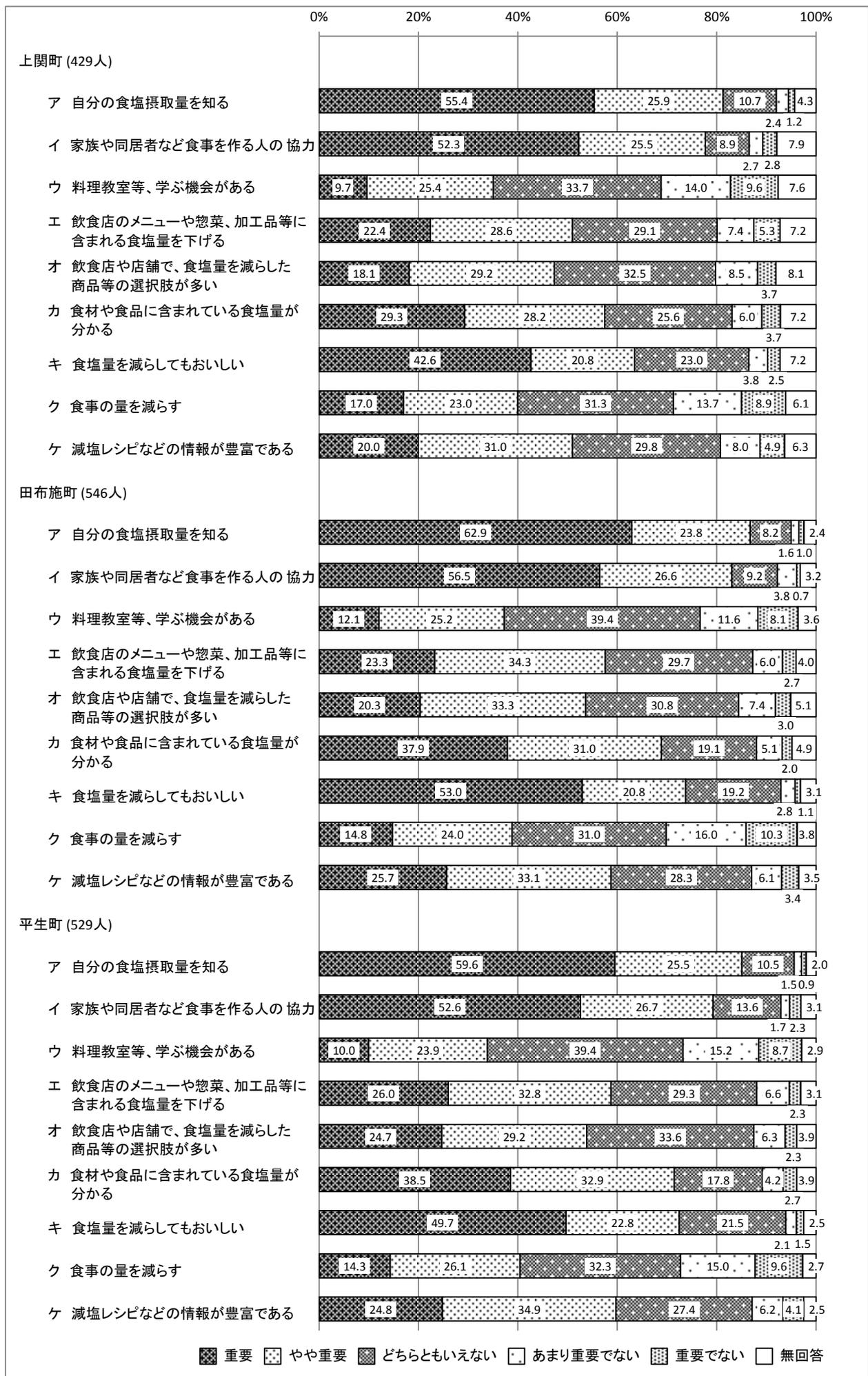


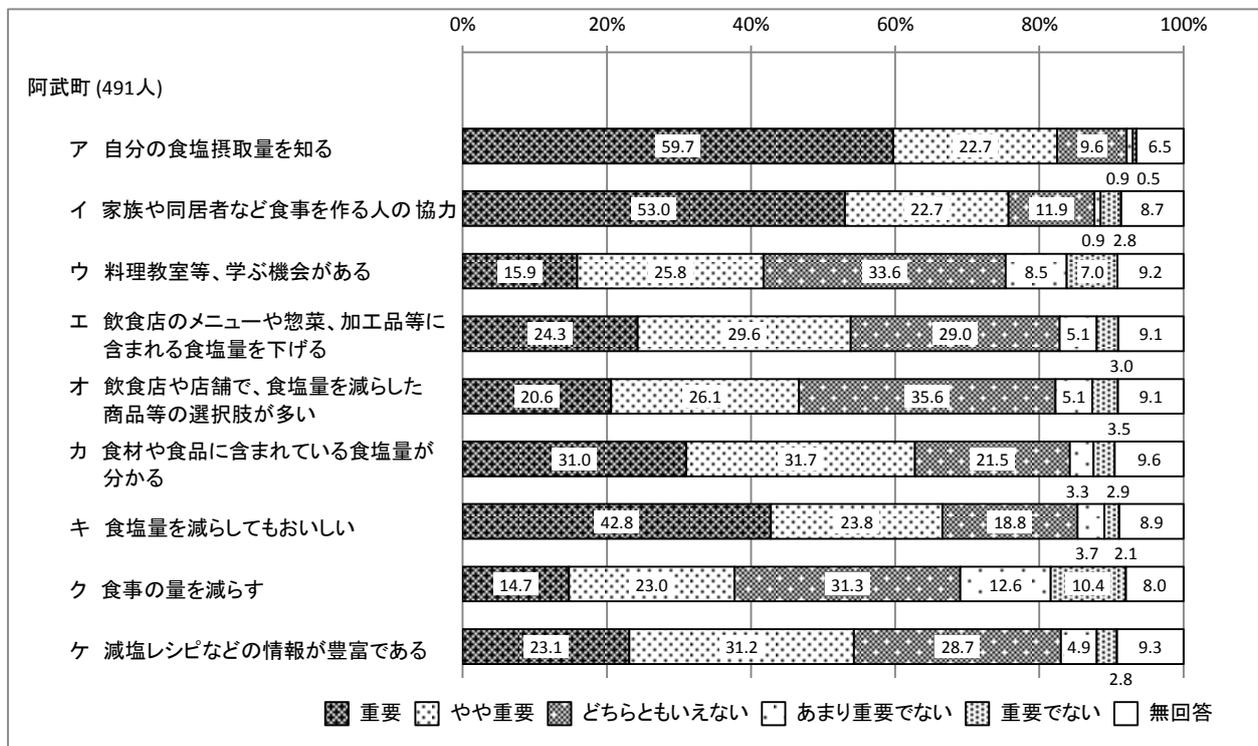




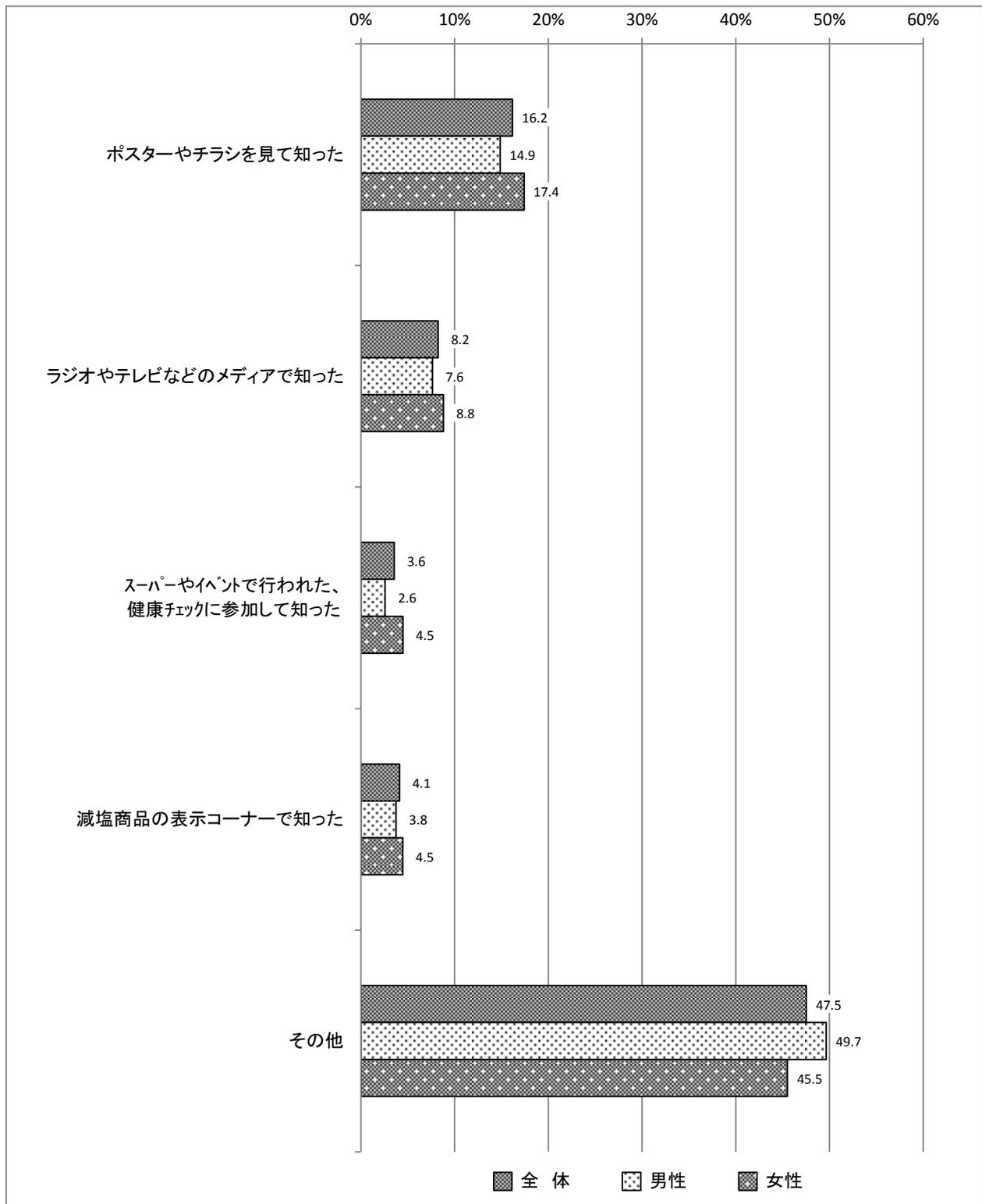




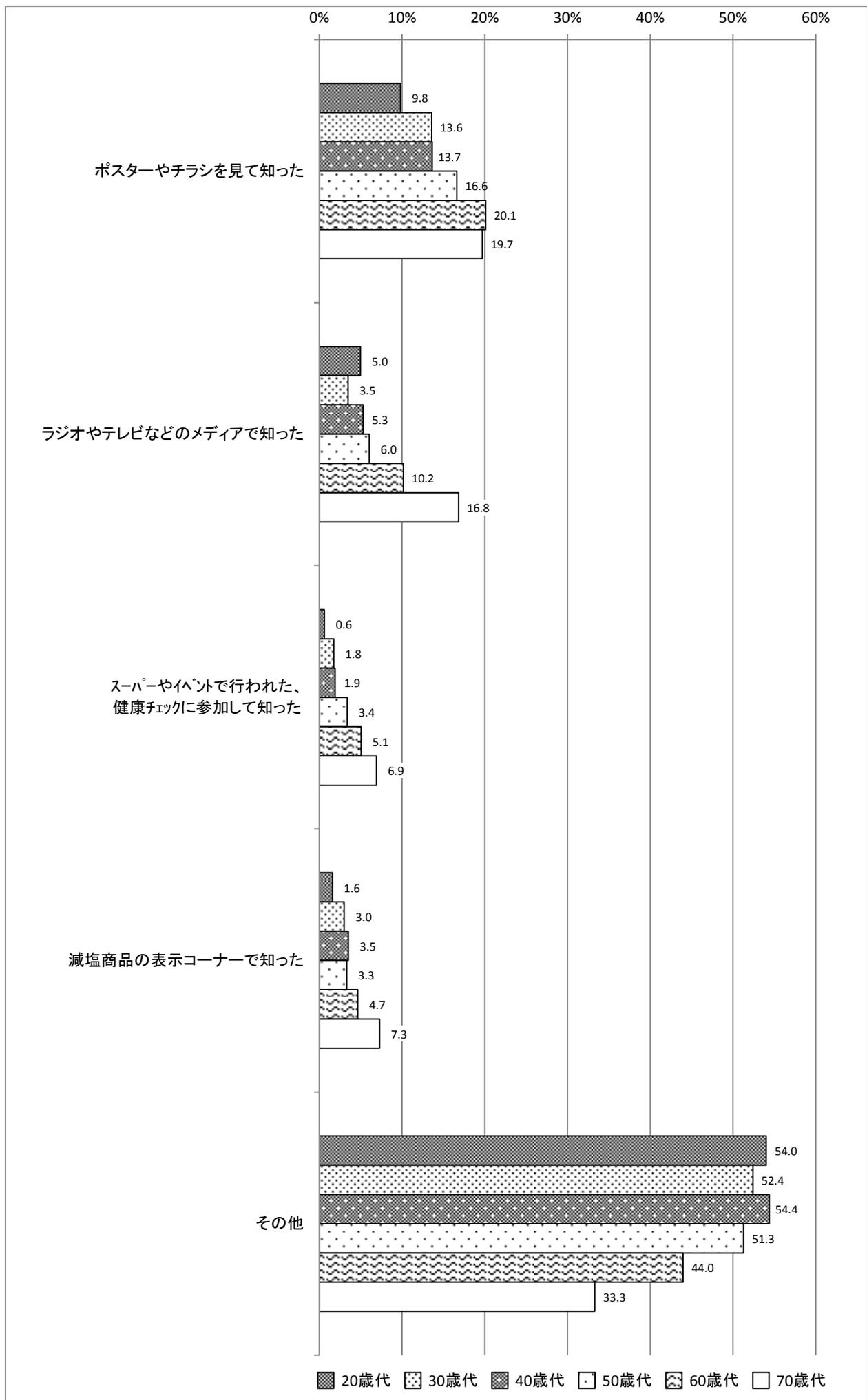




問8 山口県では、現在、減塩に向けた取組を行っています。あなたは、「元気っちゃ!やまぐち減塩ライフ」(県の取り組み)を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

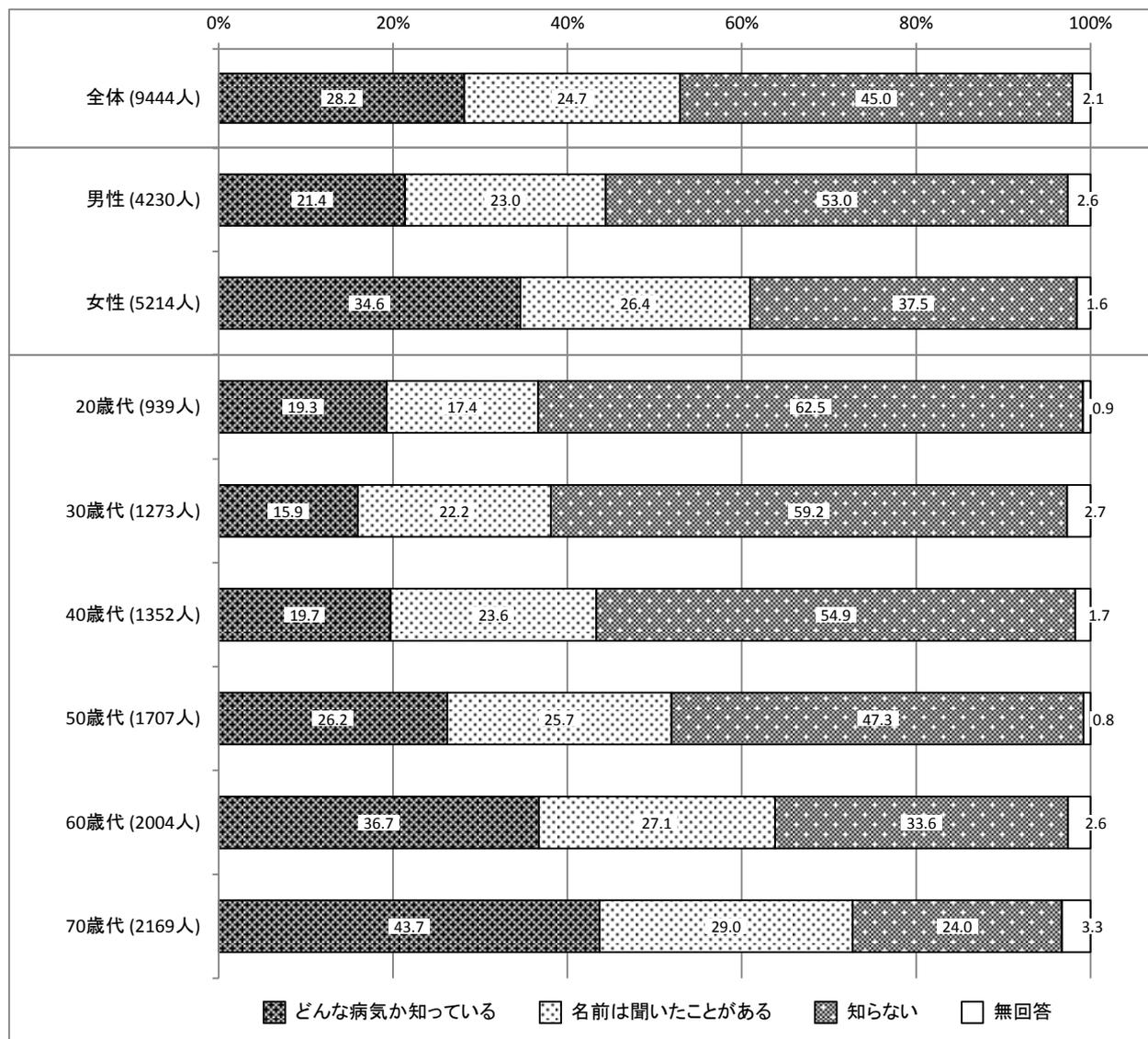


「元気っちゃ!やまぐち減塩ライフ」を知った手段の全体の回答割合は、「ポスターやチラシを見て知った」16.2%、「ラジオやテレビなどのメディアで知った」8.2%、「スーパーやイベントで行われた健康チェックに参加して知った」3.6%、「減塩商品の表示コーナーで知った」4.1%、「その他」47.5%であった。「その他」の回答(自由記載)の多くは「知らなかった」という回答であった。知った手段としては「ポスターやチラシ」が一番多く、性別、年代別においても同様であった。年代別では、年代が高いほど「その他」以外の手段により取り組みを知ったと回答した割合が高かった。



(3) 生活習慣病について

問9 慢性腎臓病(CKD)という病気を知っていましたか。(〇は1つ)



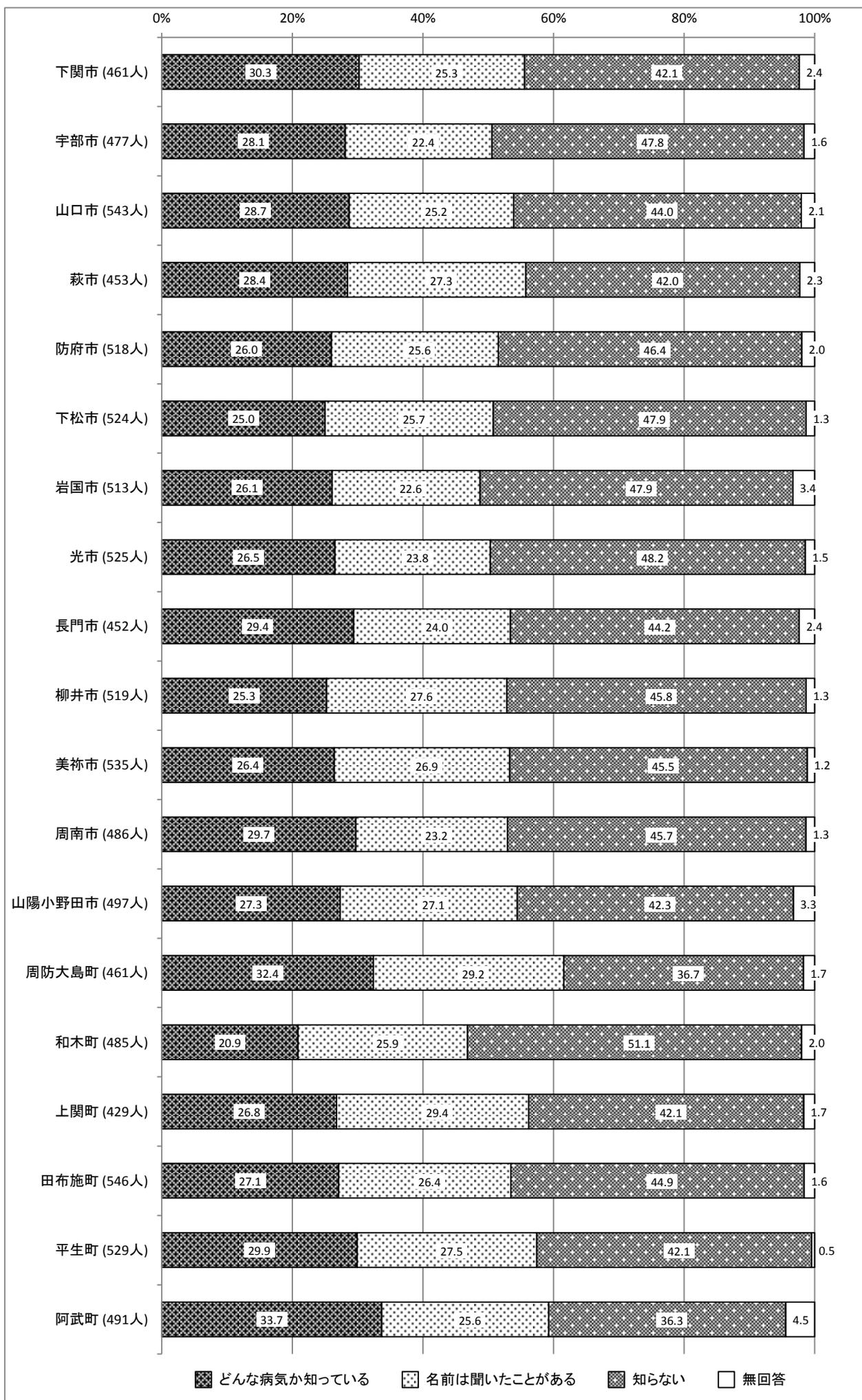
「どんな病気か知っている」と回答した割合は全体の28.2%、「名前は聞いたことがある」と回答した割合は全体の24.7%、「知らない」と回答した割合は全体の45.0%であった。

性別では、男性より女性において「どんな病気か知っている」と回答した割合が高かった。

年代別では、30歳代より年代が高くなるほど「どんな病気か知っている」と回答した割合が高かった。

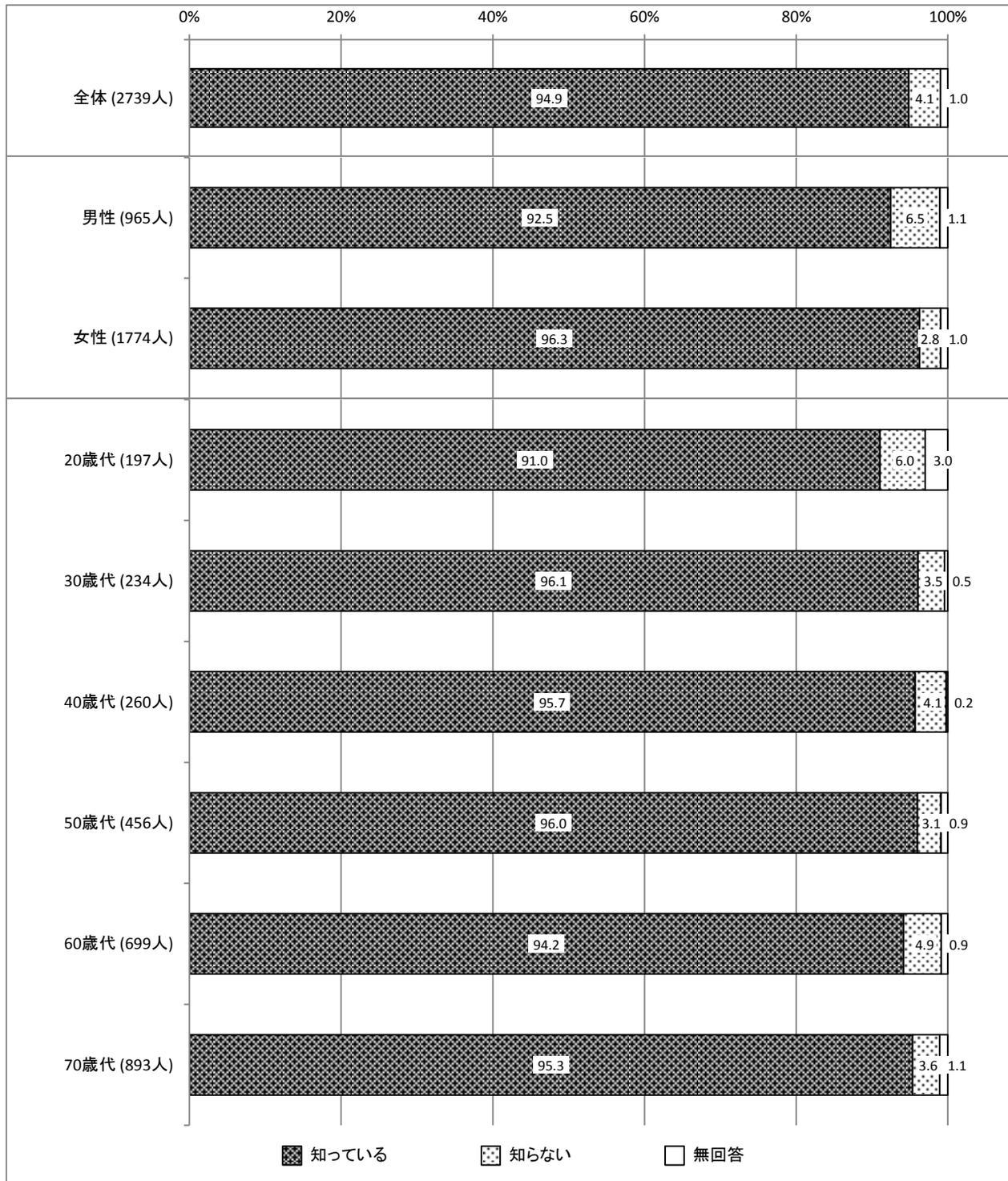
【参考値】

平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査	「どんな病気か知っている」	32.7%
	「名前は聞いたことがある」	23.2%
	「知らない」	42.6%



問9-1 重症化すると人工透析治療や腎移植が必要になることを知っていましたか。(○は1つ)

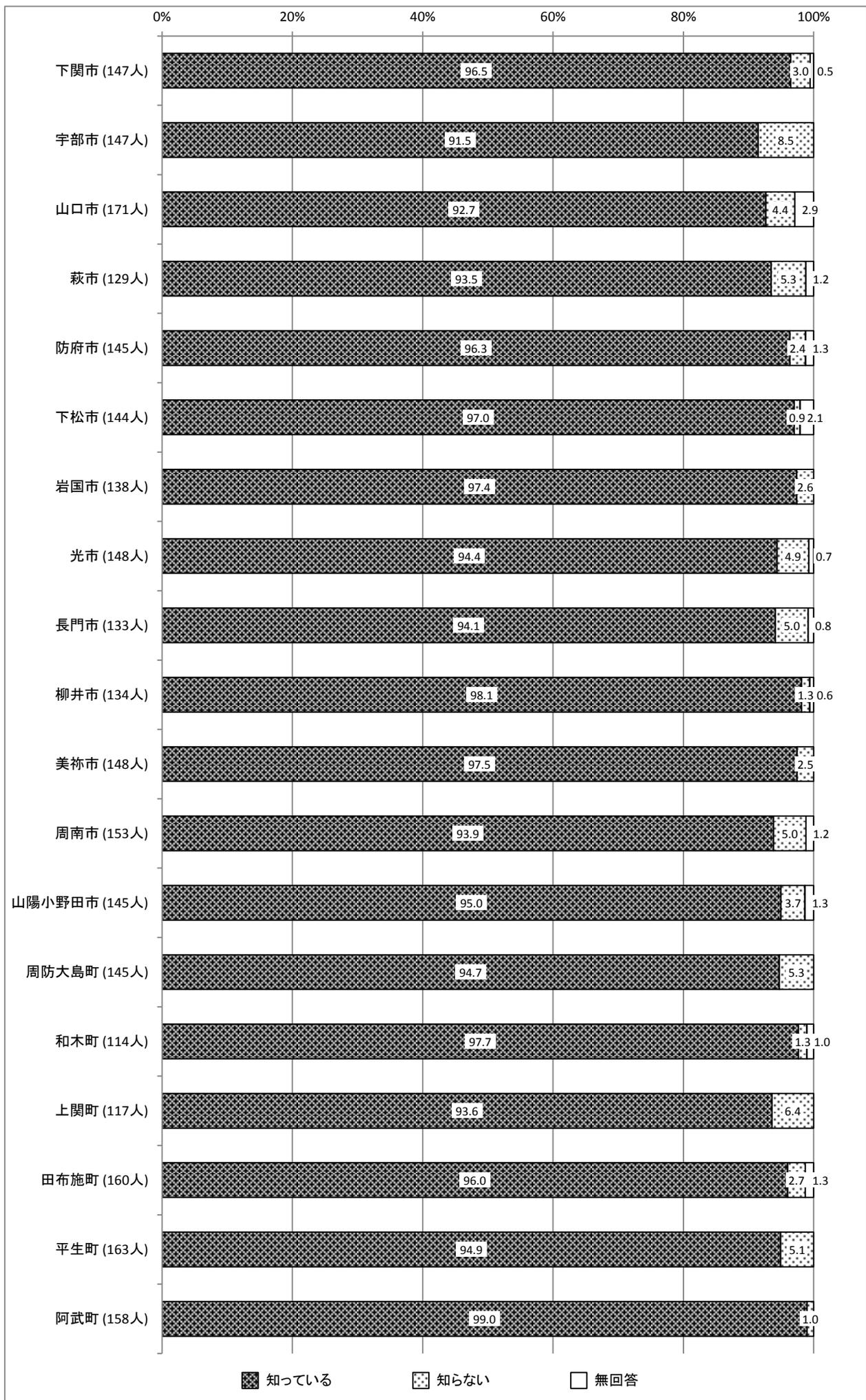
※ 問9の選択肢『どんな病気か知っている』を選択した人のみ回答



問9において、慢性腎臓病(CKD)が「どんな病気か知っている」と回答した者のうち、CKDが重症化すると人工透析治療や腎移植が必要になることを「知っている」と回答した割合は94.9%であり、性別、年代別において差は見られなかった。

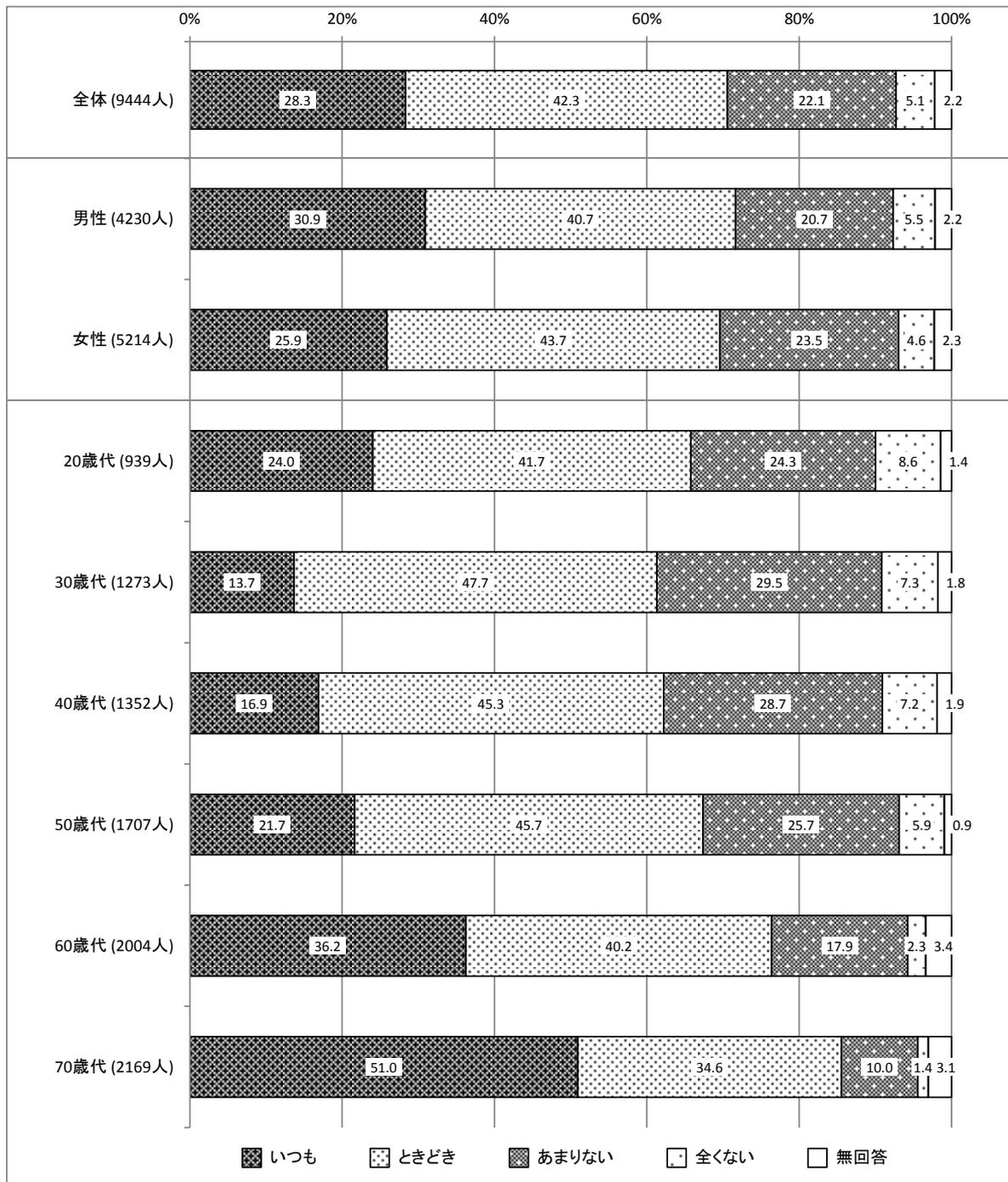
【参考値】

平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査 「知っている」 98.4%
 「知らない」 1.4%



(4) 身体活動・運動について

問10 あなたは、日常生活において、健康維持・増進のために、意識的に体を動かすように心がけていますか。(〇は1つ)

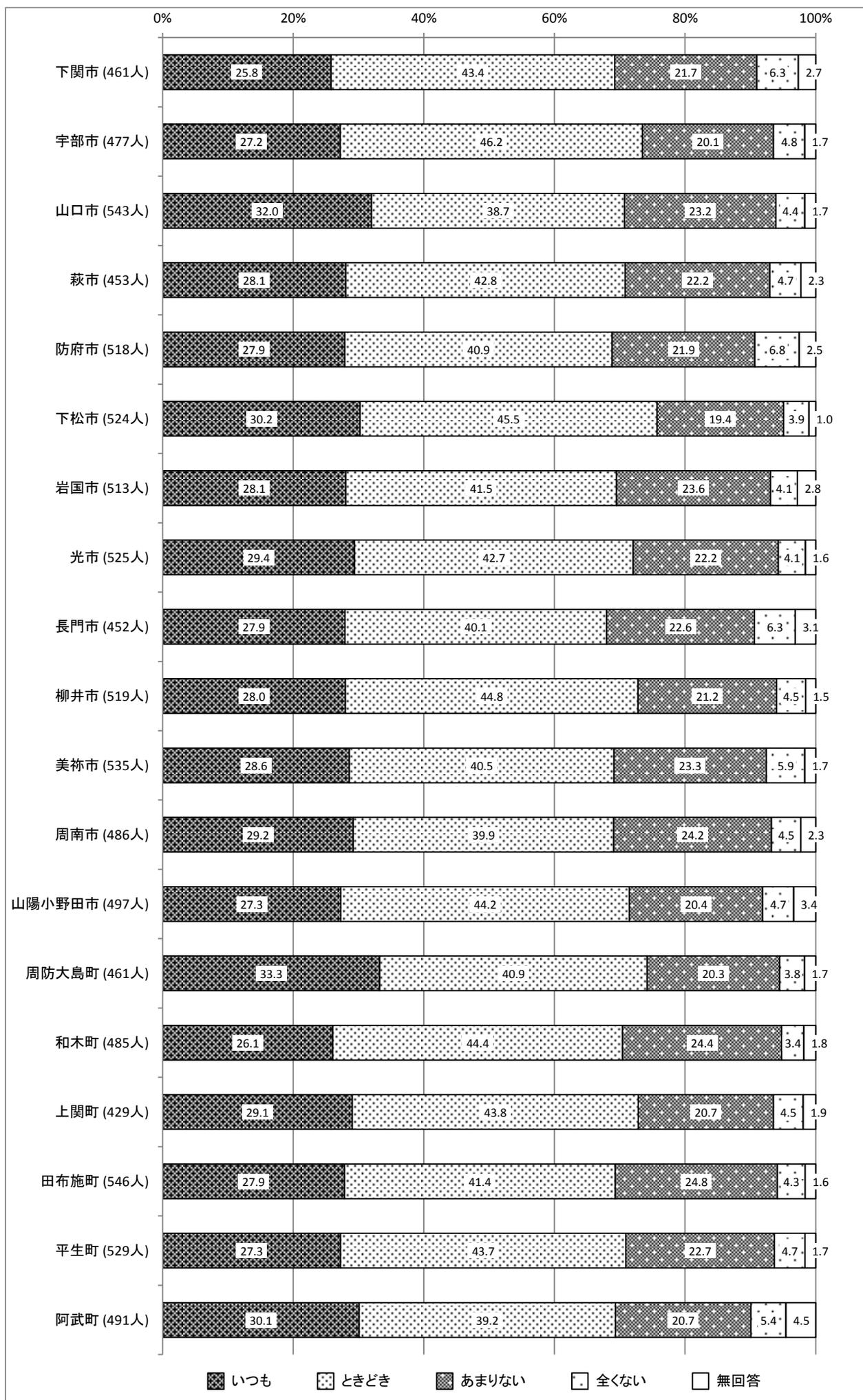


「いつも」していると回答した割合は全体の28.3%、「ときどき」と回答した割合は全体の42.3%であり、性別においても同程度であった。

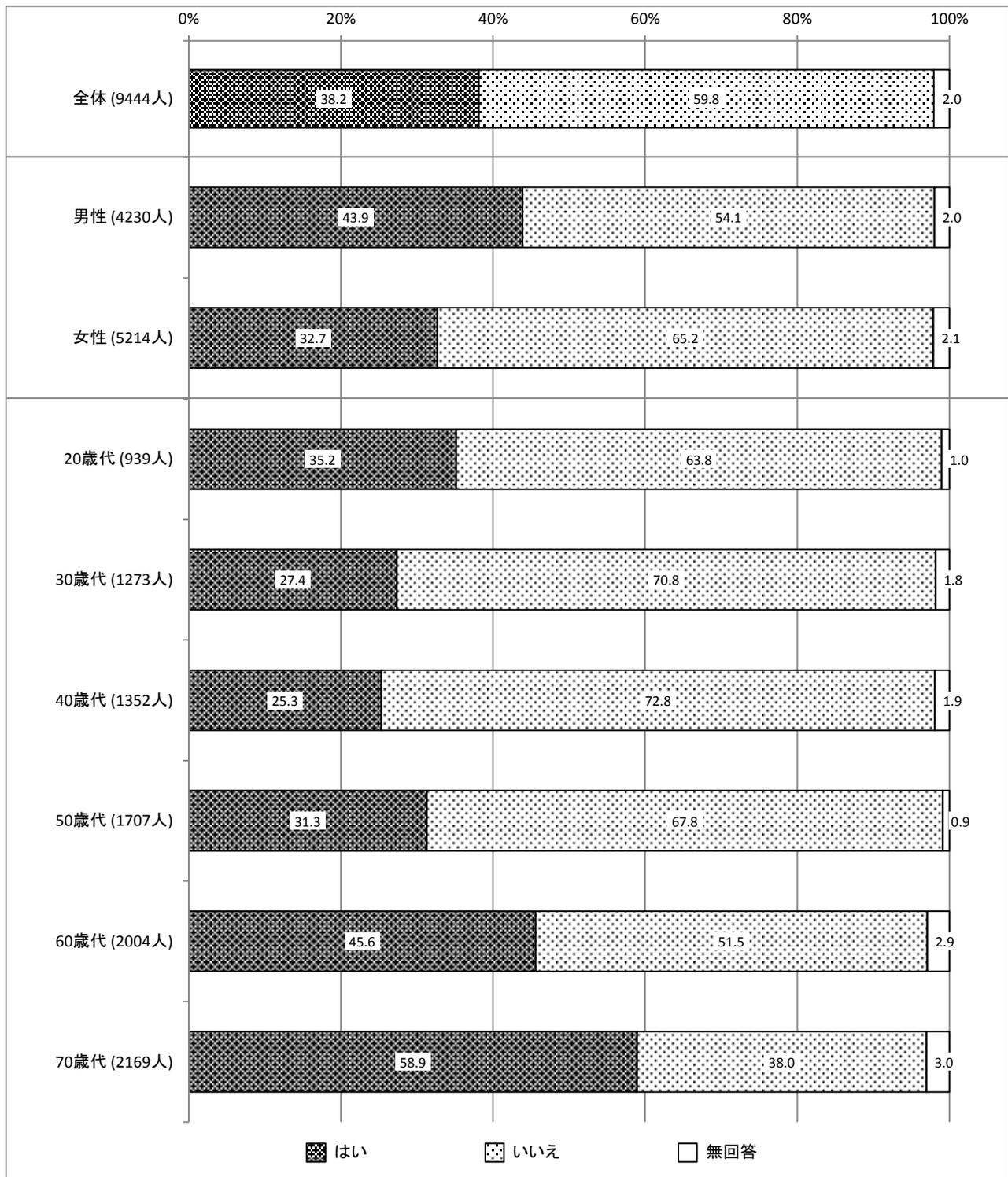
年代別では、30歳代より年代が高くなるほど「いつも」と回答した割合が高い傾向であった。

【参考値】

平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査 「いつも」 29.6%
 平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査 「いつも」 29.7%



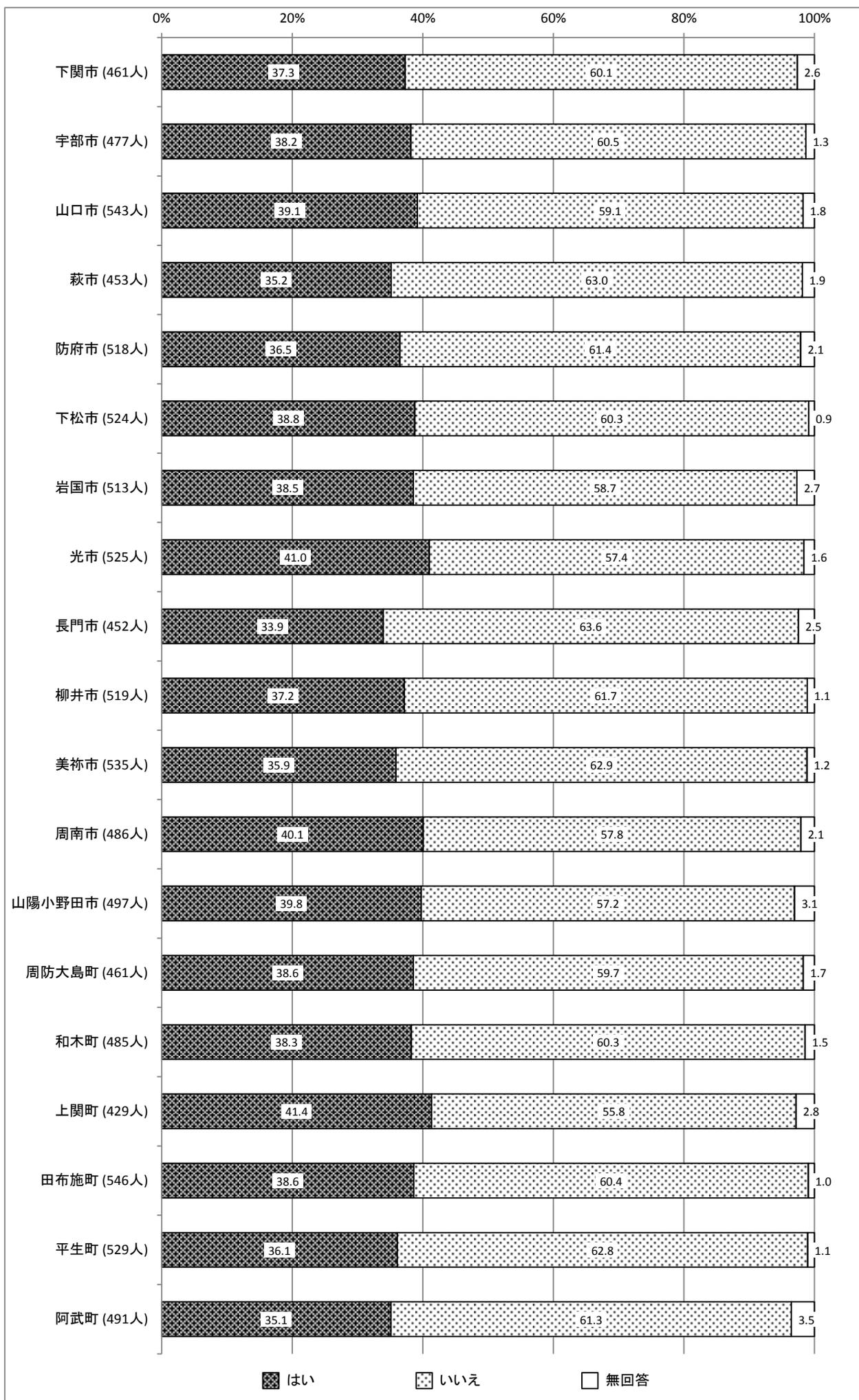
問11 あなたは、1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施していますか。
(〇は1つ)



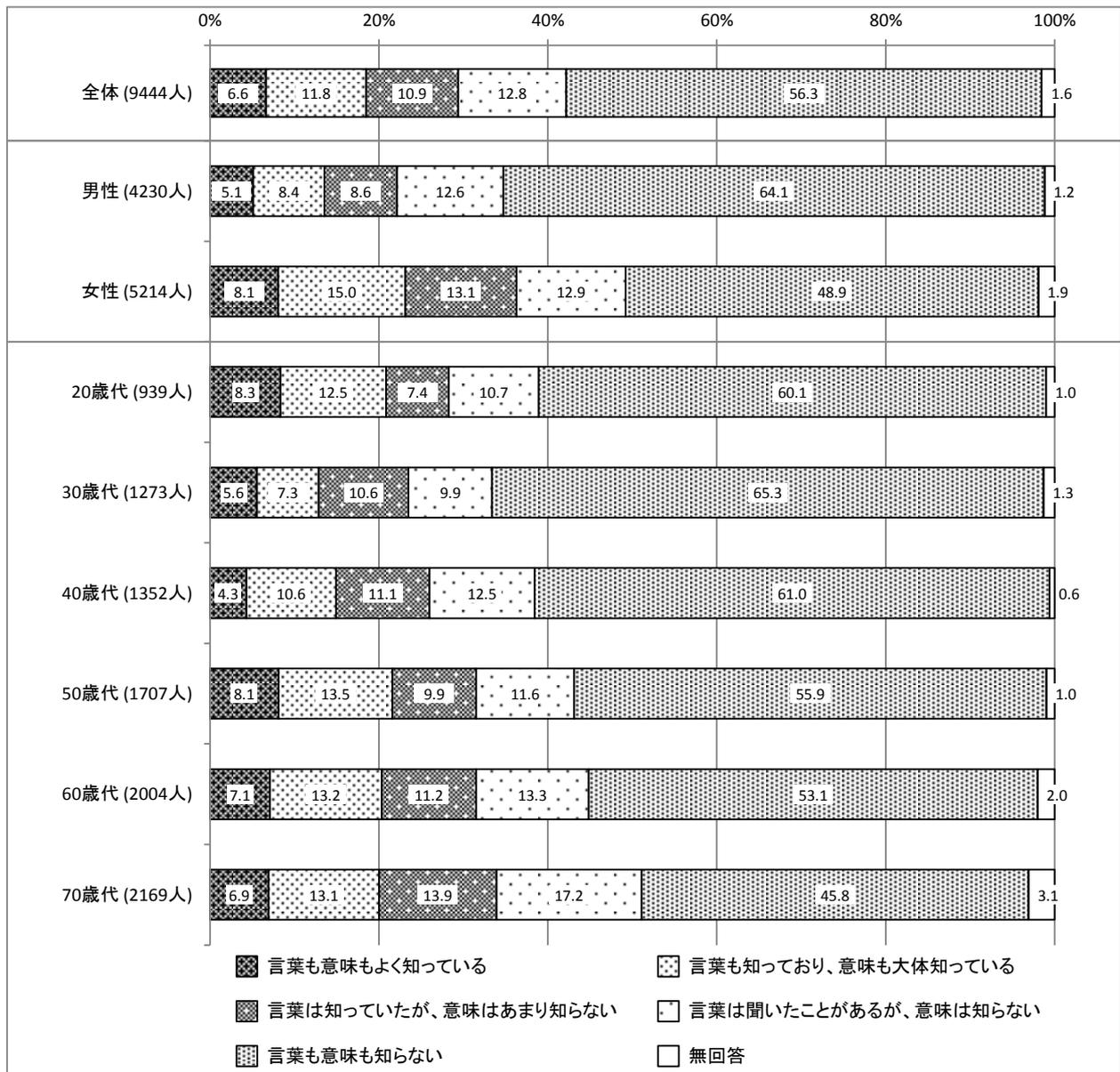
「実施している（はい）」と回答した割合は全体の38.2%であった。
性別では、女性より男性において「実施している」と回答した割合が高かった。
年代別では、30歳代、40歳代において「実践している」と回答した割合が低く、40歳代より年代が高くなるほど「実践している」と回答した割合が高い傾向であった。

【参考値】

平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査 「はい」 33.3%



問 12 あなたは、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）という言葉や意味を知っていましたか。
 (〇は1つ)



「言葉や意味を知っている（「言葉も意味もよく知っている」「言葉も知っており、意味も大体知っている」の合計）」と回答した割合は全体の 18.4%、「言葉も意味も知らない」と回答した割合は全体の 56.3%であった。

性別では、男性より女性において「言葉や意味を知っている」と回答した割合が高かった。

年代別では、30歳代、40歳代において「言葉や意味を知っている」と回答した割合が他の年代より低かった。

【参考値】ロコモティブシンドローム（運動器症候群）という言葉について

平成 26 年度 健康づくりに関する県民意識調査

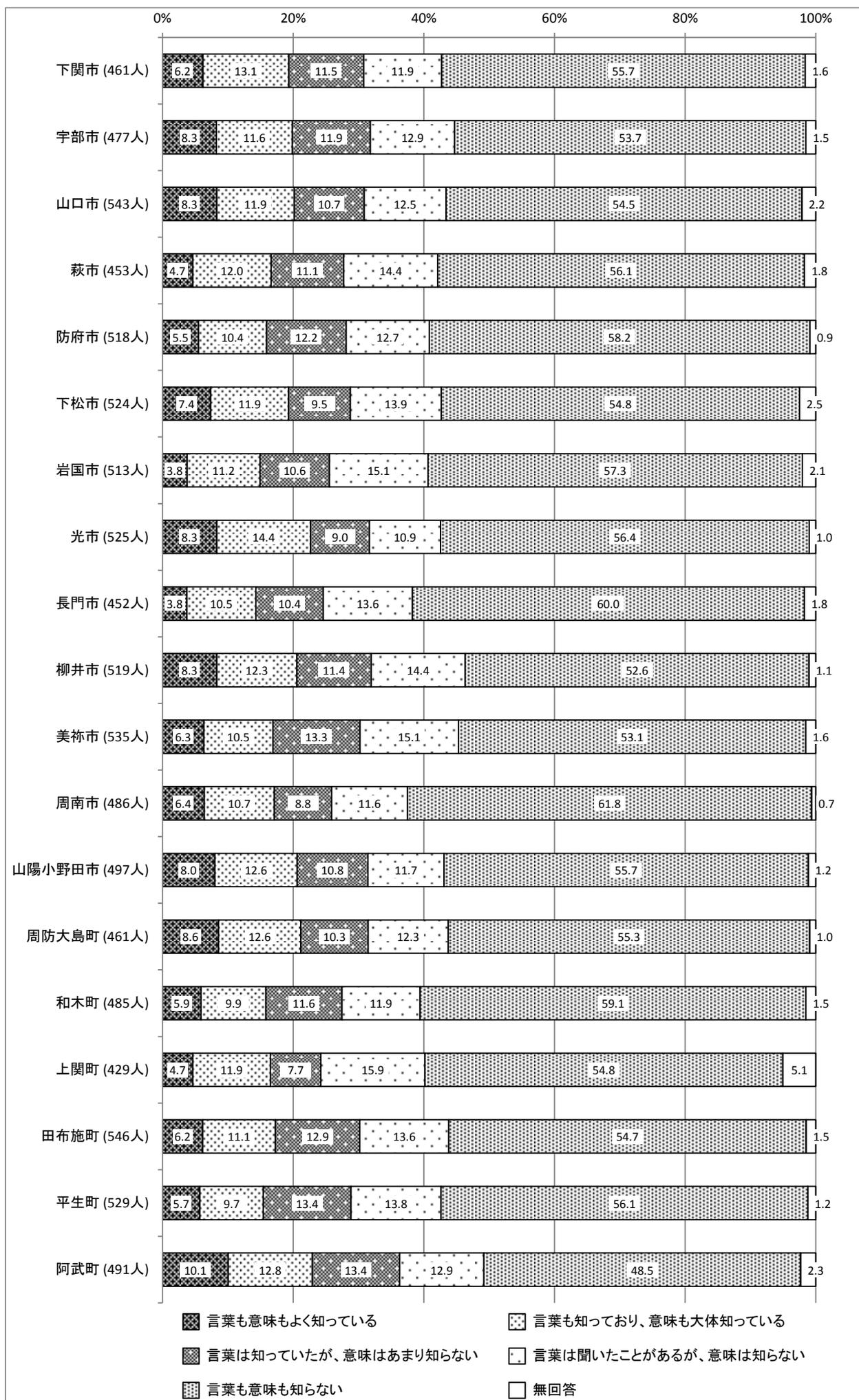
「言葉も意味もよく知っている」「言葉も知っており、意味も大体知っている」

「言葉は知っていたが、意味はあまり知らない」 計 22.2%

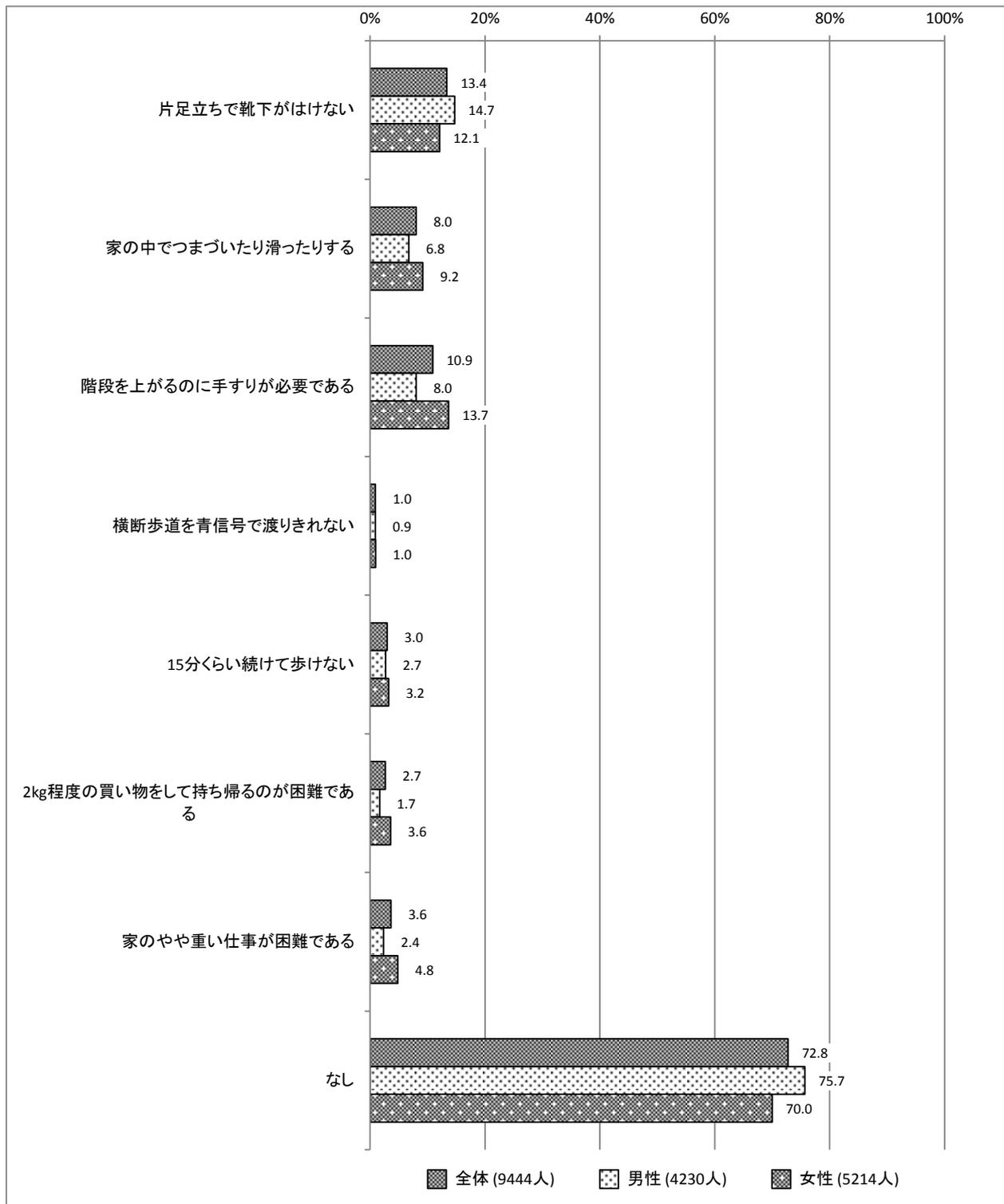
平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査

「言葉も意味もよく知っている」「言葉も知っており、意味も大体知っている」

「言葉は知っていたが、意味はあまり知らない」 計 27.5%



問 13 あなたは、以下の「ロコモティブシンドローム(運動器症候群)」のチェック項目に該当するものがありますか。(あてはまるものすべてに○。該当がない場合は8に○)



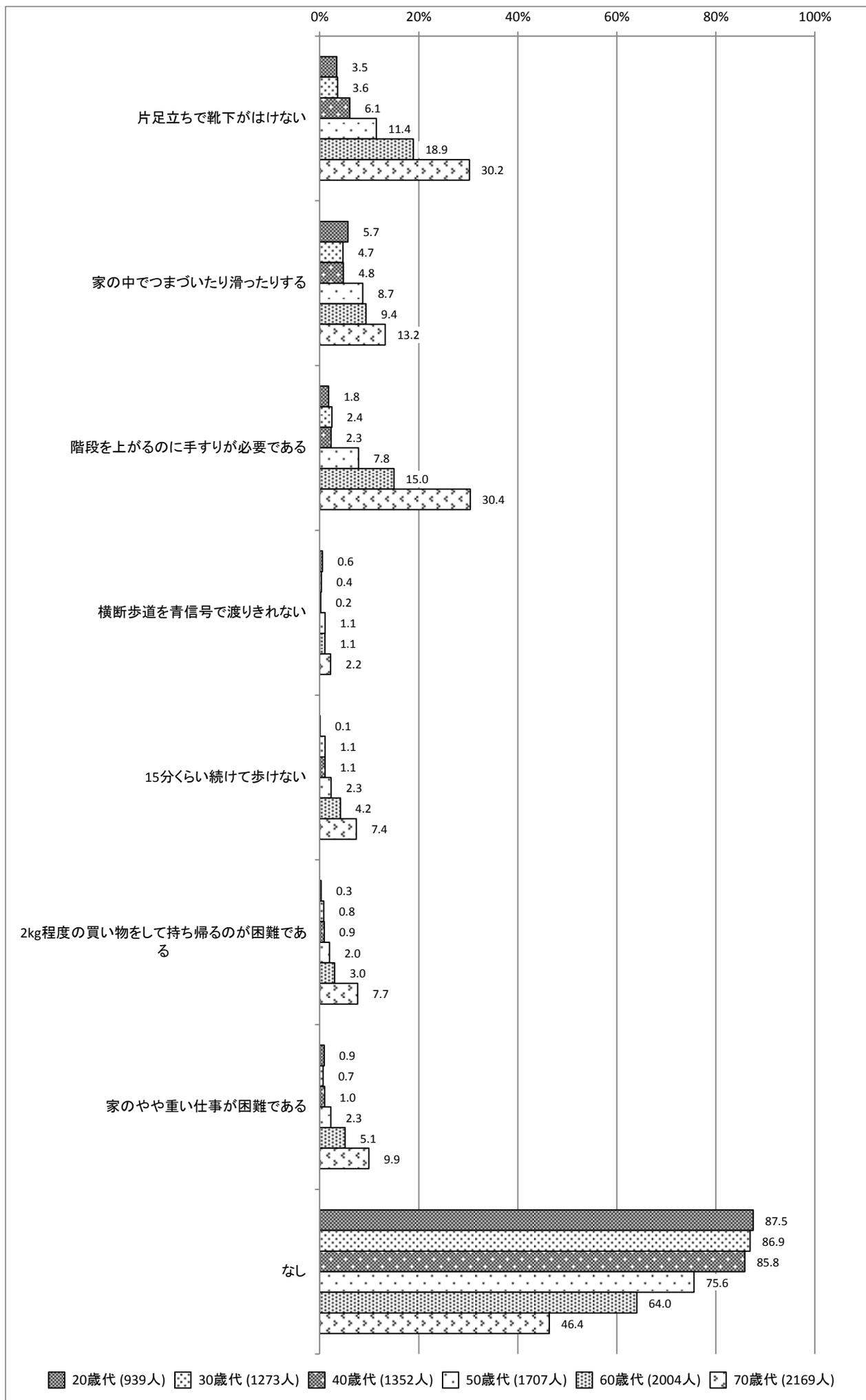
該当するものが「なし」と回答した割合は全体の 72.8%であった。

性別では、女性より男性において「なし」と回答した割合が高かった。

年代別では、40歳代より年代が高くなるほど「なし」と回答した割合が低い傾向であった。

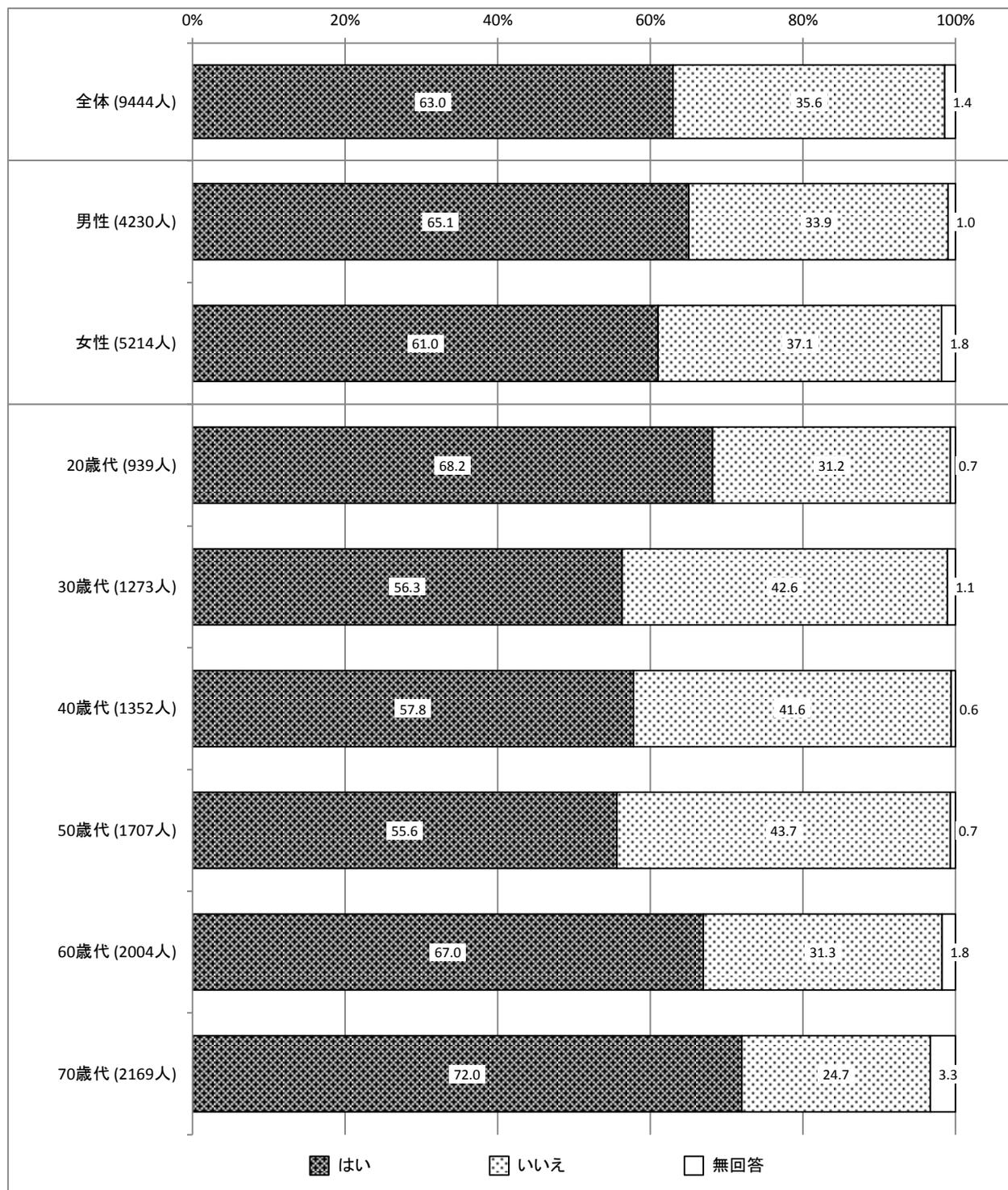
【参考値】

平成 26 年度 健康づくりに関する県民意識調査	「なし」	74.8%
平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査	「なし」	75.3%



(5) 休養・こころの健康について

問 14 あなたは、睡眠による休養が十分にとれていますか。(○は1つ)

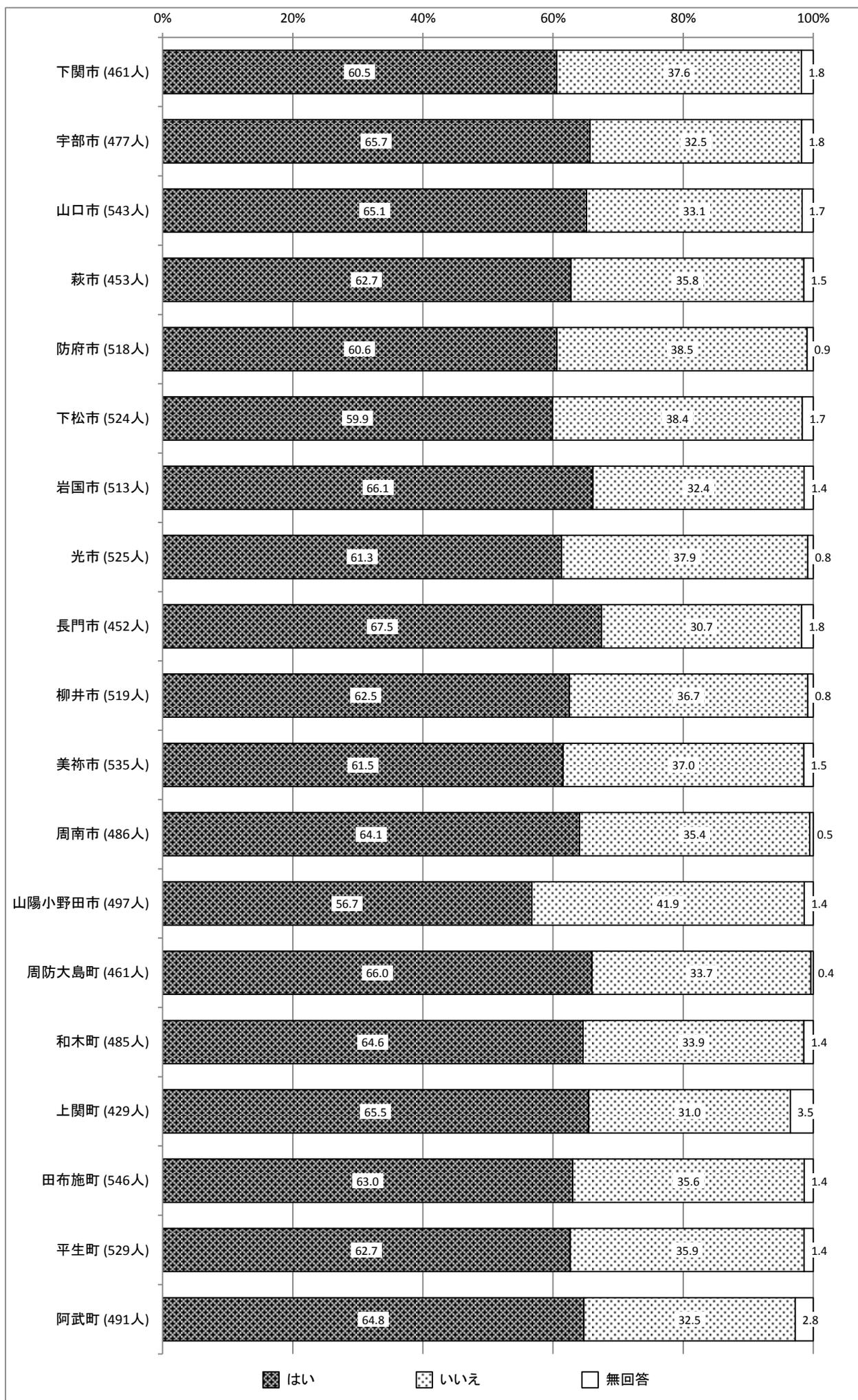


「とれている(はい)」と回答した割合は全体の 63.0%であった。

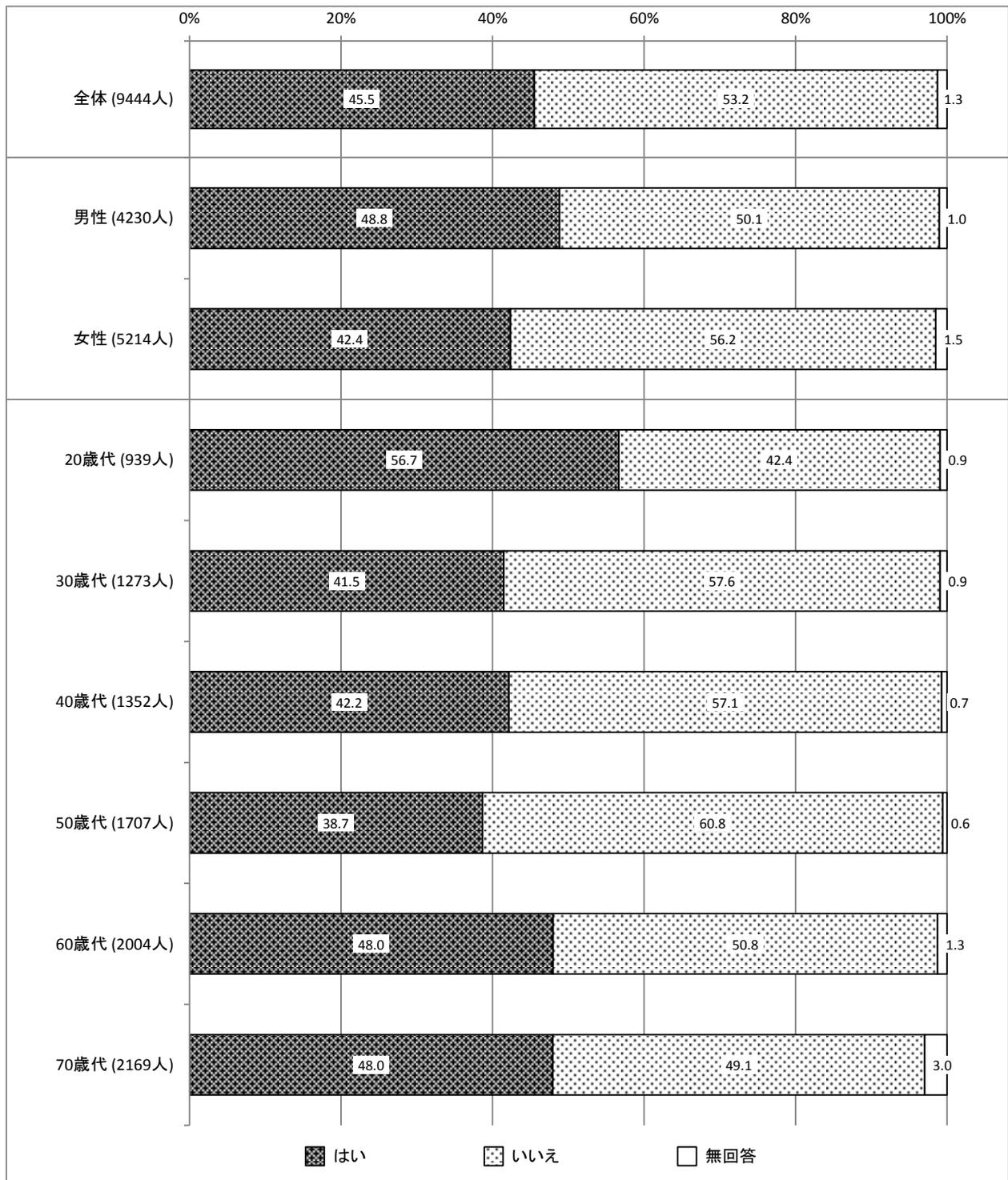
性別では、違いは見られず、年代別では、30歳代から50歳代において他の年代より「とれている」と回答した割合が低い傾向であった。

【参考値】

平成 26 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「はい」 66.6%
 平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「はい」 67.2%



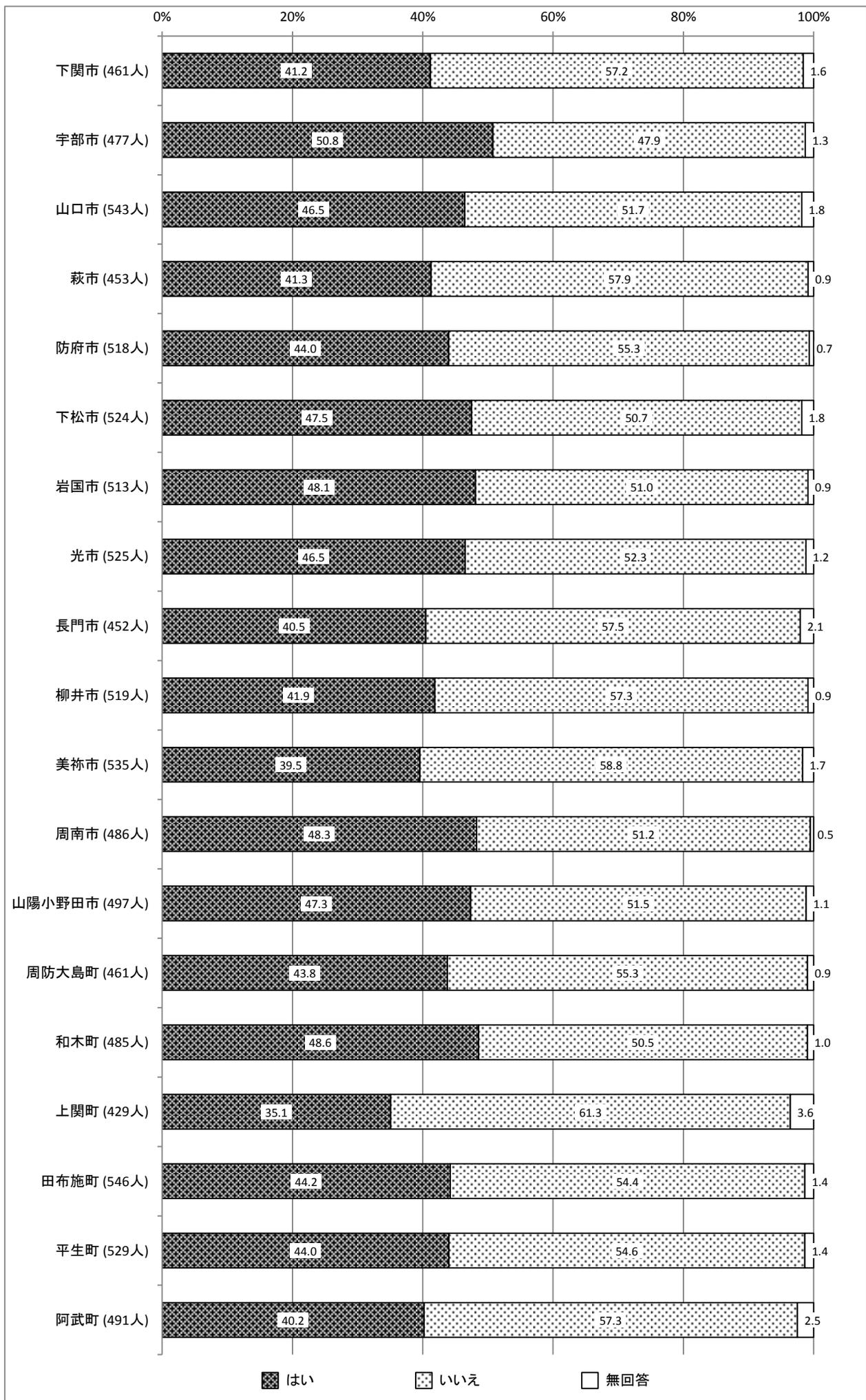
問 15 あなたは、レクリエーションやスポーツ、趣味に取り組むなど積極的な休養に取り組んでいますか。
 (○は1つ)



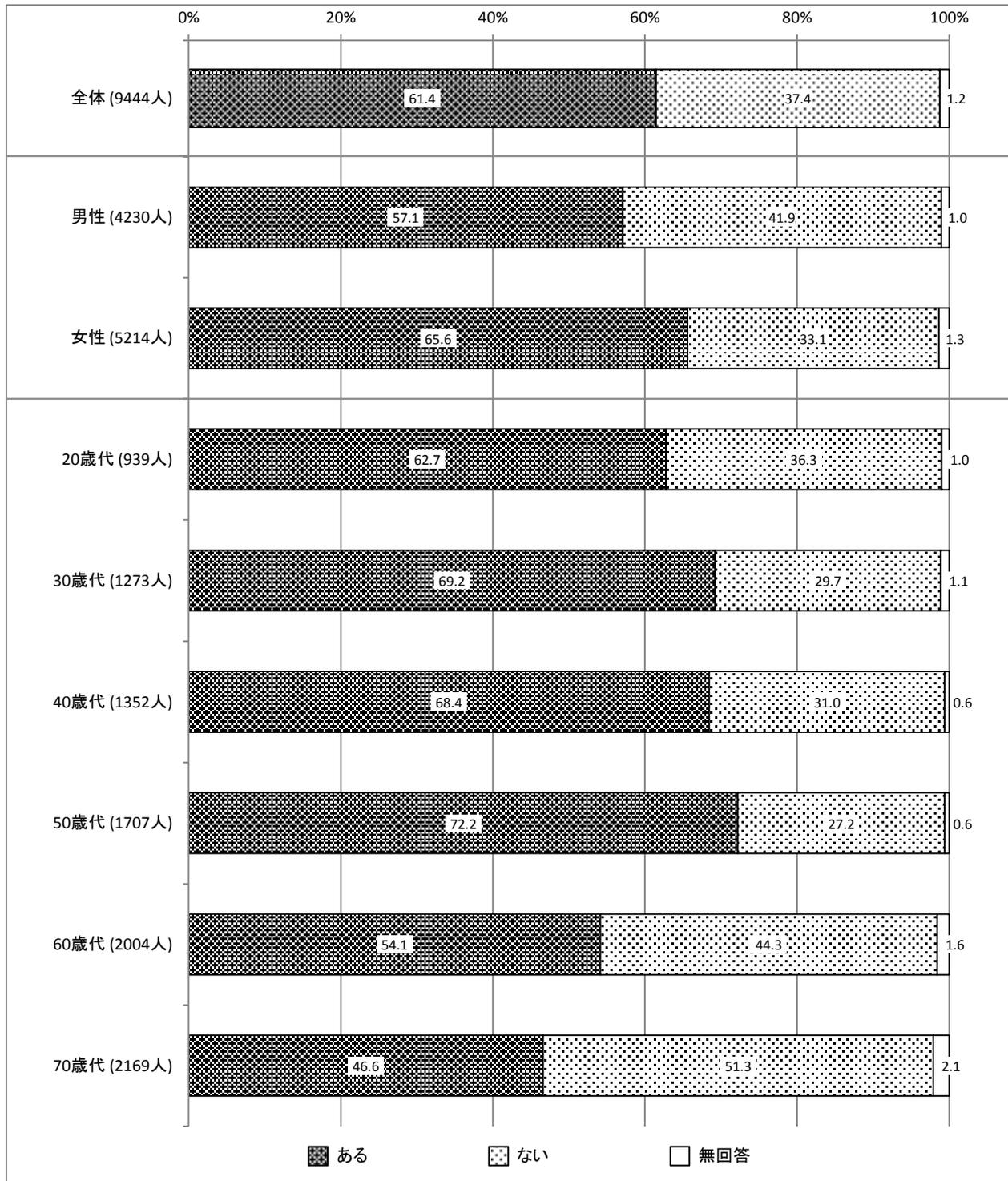
「取り組んでいる（はい）」と回答した割合は全体の45.5%であった。
 性別では、女性より男性において「取り組んでいる」と回答した割合が高かった。
 年代別では、30歳代から50歳代において他の年代より「取り組んでいる」と回答した割合が低かった。

【参考値】

平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査 「はい」 39.3%
 平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査 「はい」 53.0%



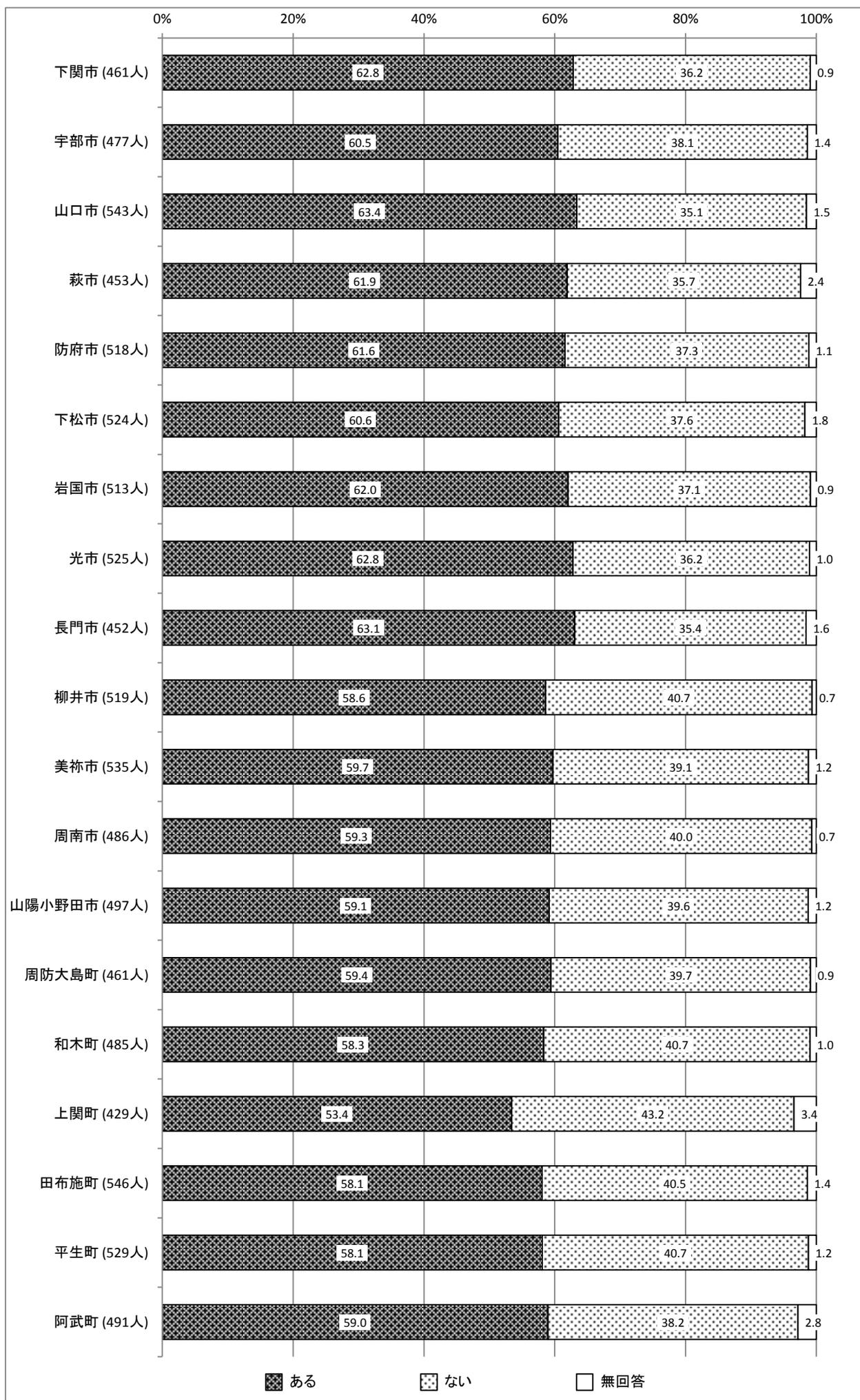
問 16 あなたは現在、日常生活で悩みやストレスがありますか。(〇は1つ)



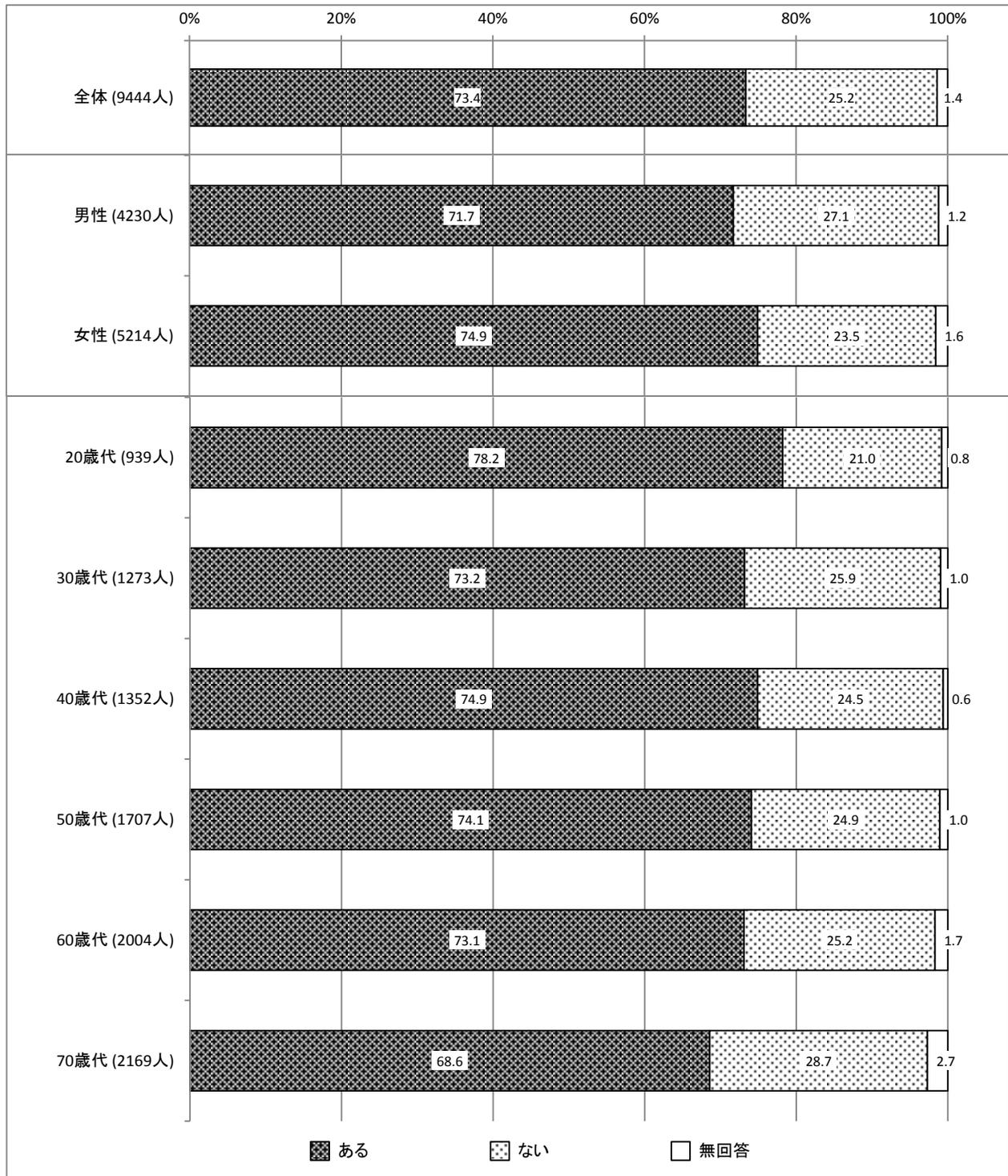
「ある」と回答した割合は全体の61.4%であった。
 性別では、男性より女性において「ある」と回答した割合が高かった。
 年代別では、30歳代から50歳代において他の年代より「ある」と回答した割合が高かった。

【参考値】

平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査 「ある」 63.3%



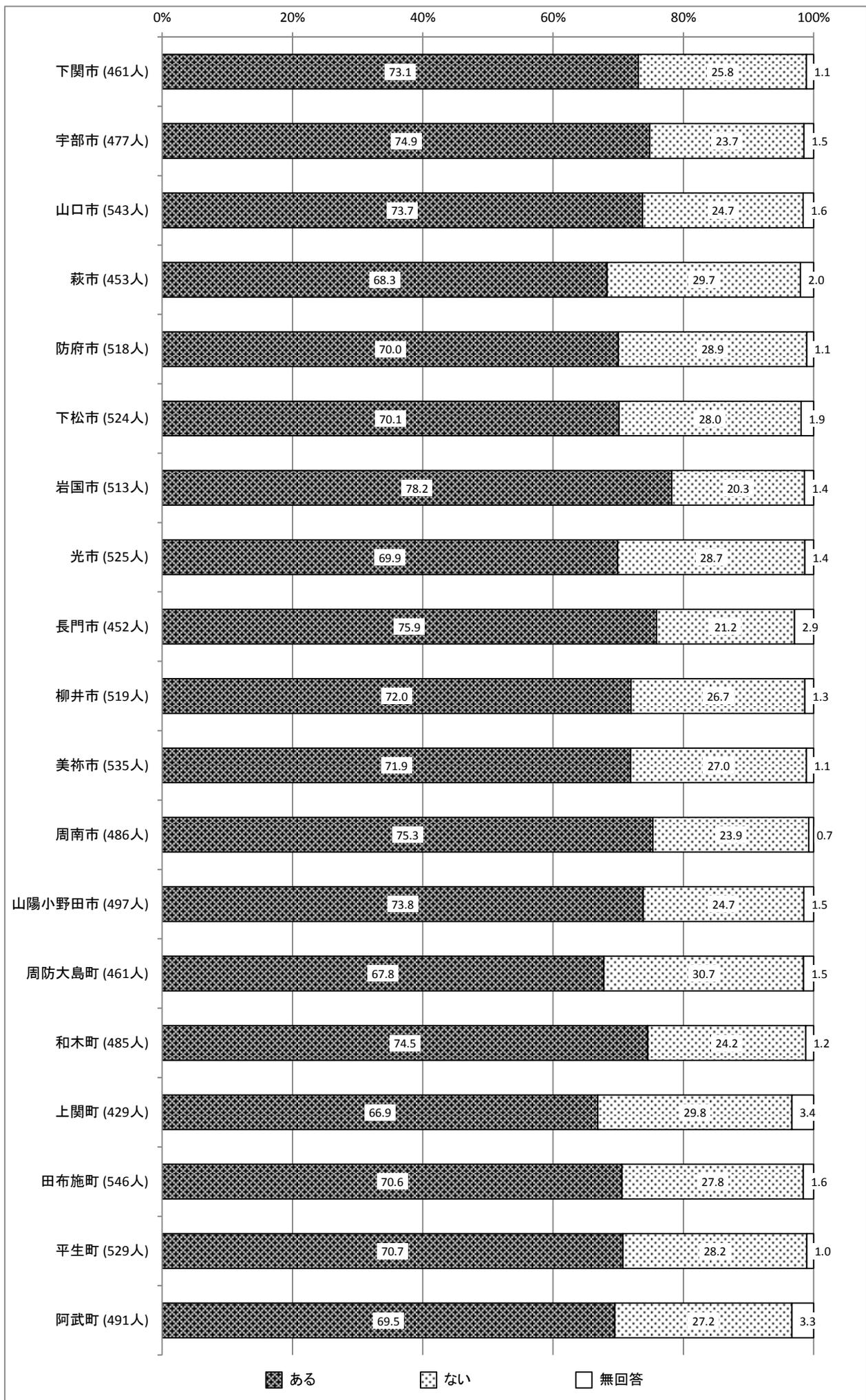
問 17 あなたは、自分なりのストレス解消法を持っていますか。(〇は1つ)



「ある」と回答した割合は全体の73.4%であった。
性別、年代別では、大きな違いは見られなかった。

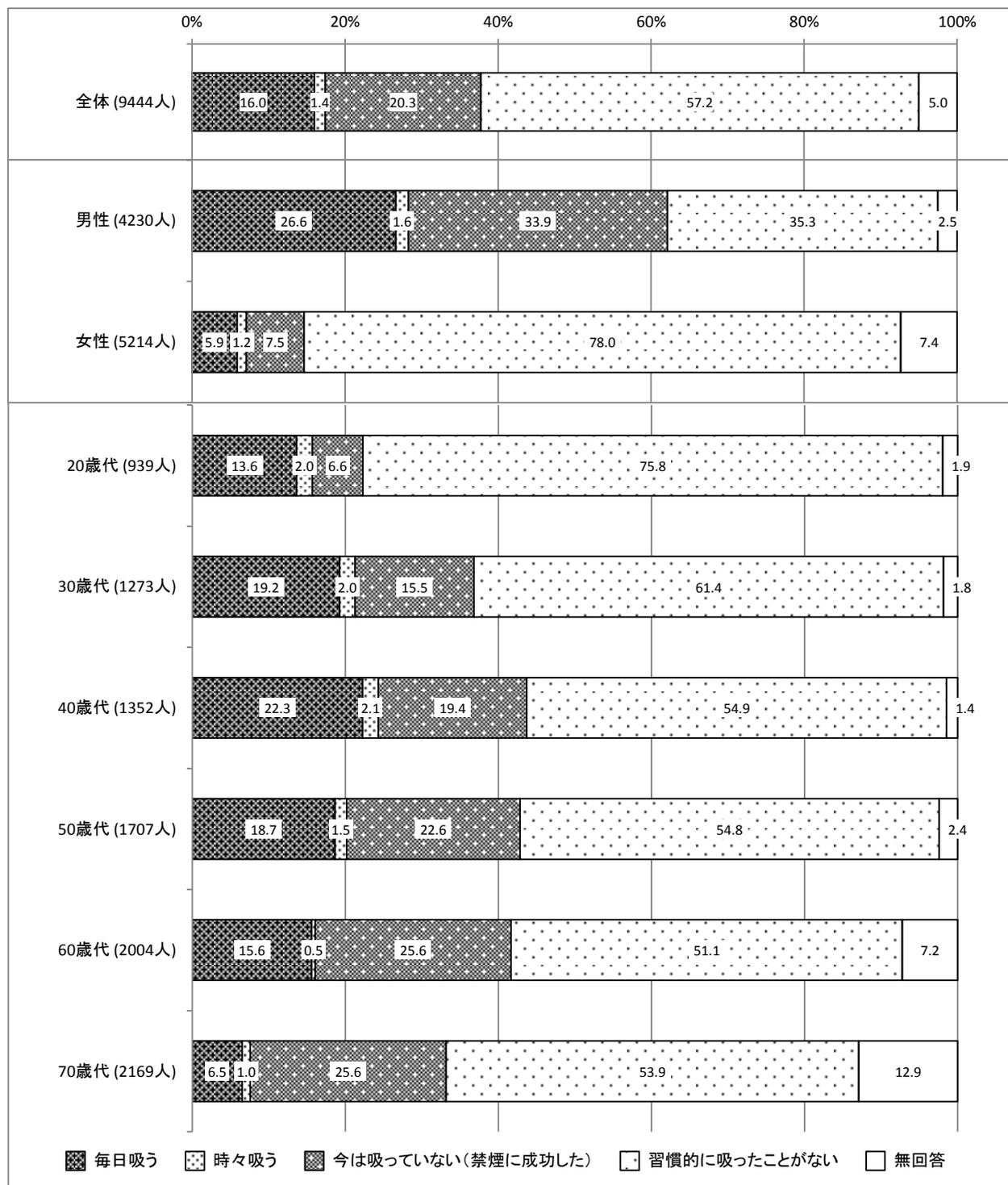
【参考値】

平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査 「はい」 73.1%
平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査 「ある」 73.6%



(6) 喫煙について

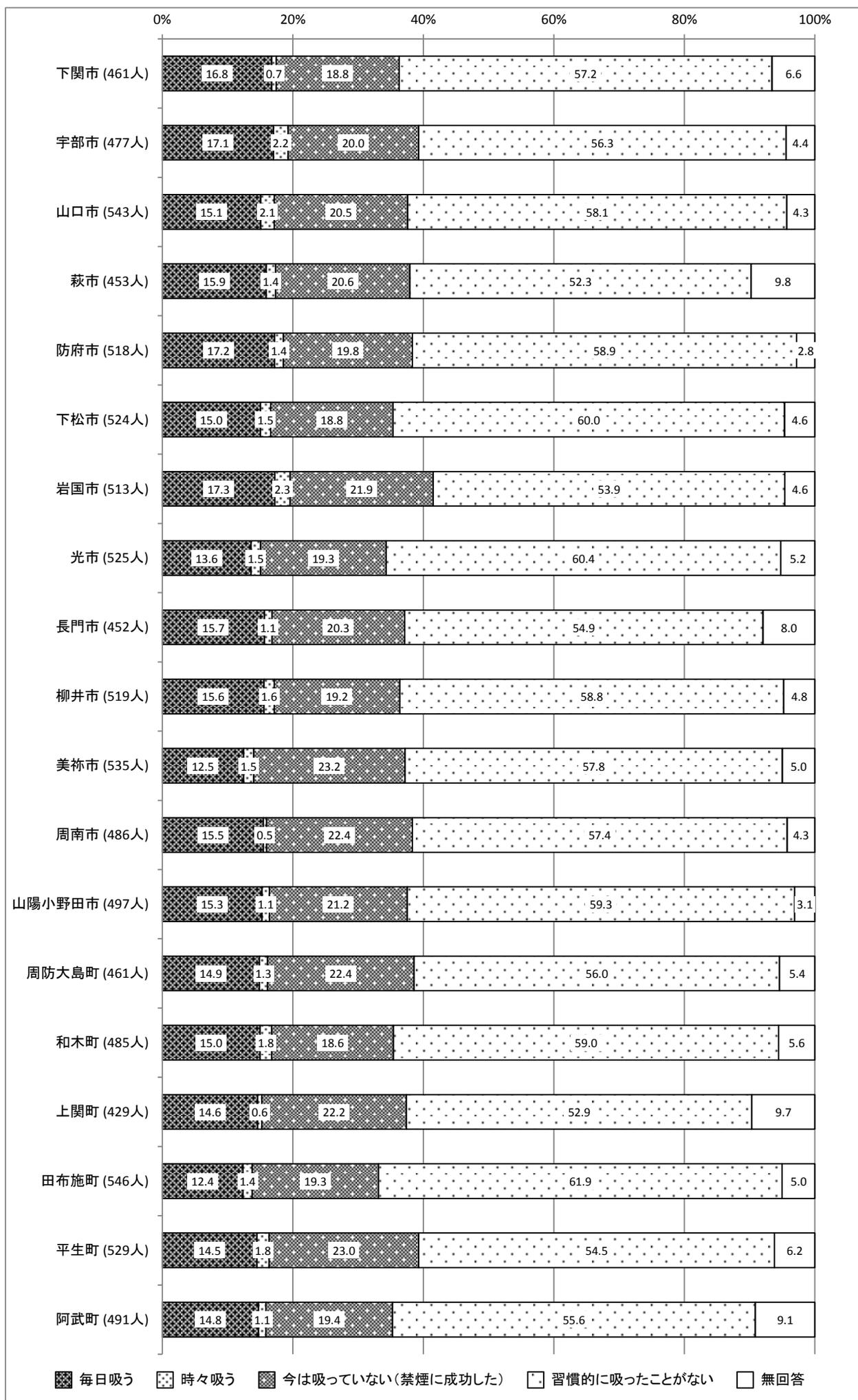
問 18 あなたは、現在(この1か月間)たばこを吸っていますか。(〇は1つ)



「吸っている(「毎日吸う」「ときどき吸う」の合計)」と回答した割合は全体の17.4%であった。性別では、「吸っている」と回答した割合は男性28.2%、女性7.1%であった。年代別では、「吸っている」と回答した割合は40歳代が24.4%と一番高く、70歳代が7.5%と一番低かった。

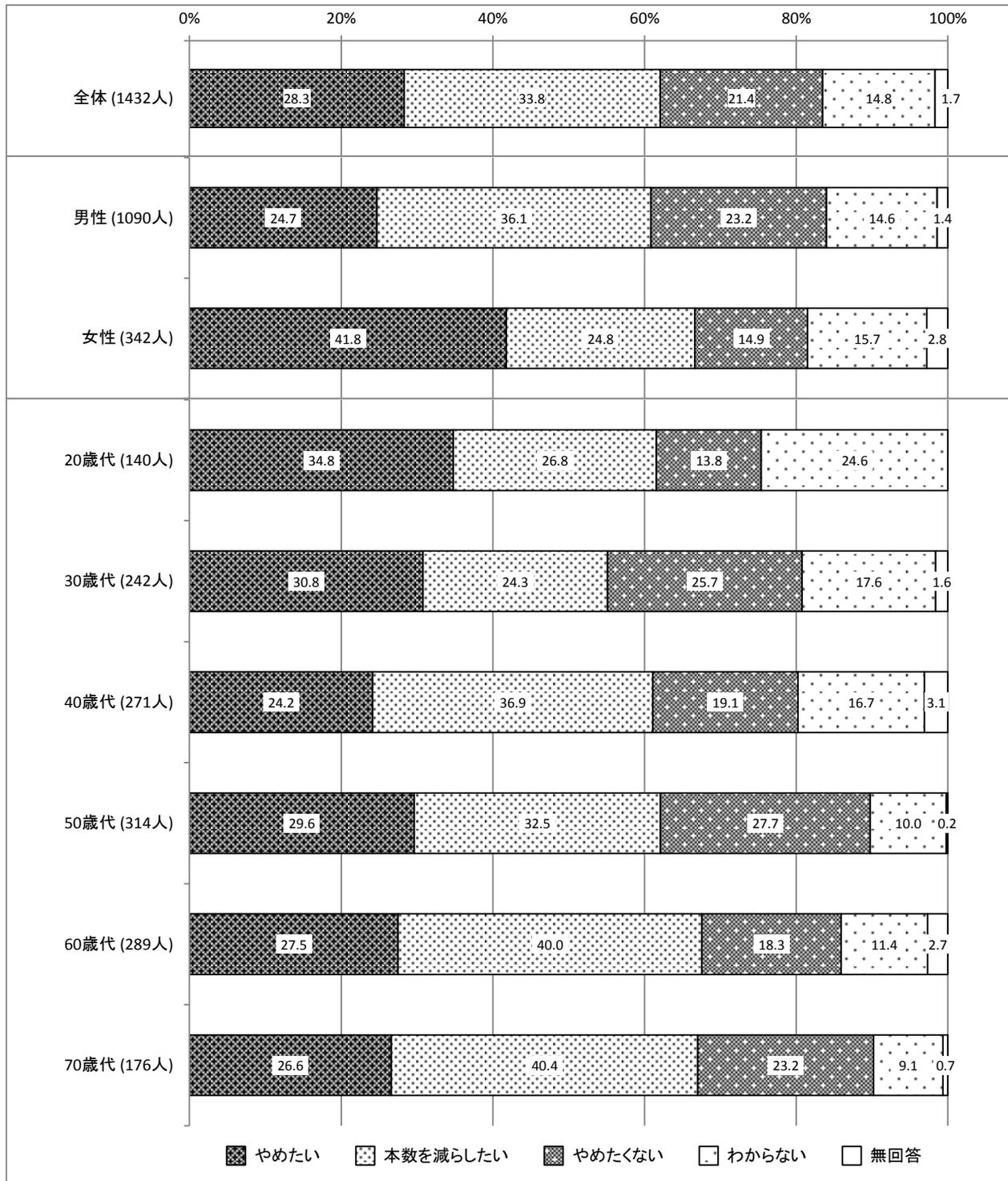
【参考値】

平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査 「毎日吸う」「ときどき吸う」 計18.0%
 平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査 「毎日吸う」「ときどき吸う」 計18.0%



問 18-1 あなたは、たばこをやめたいと思いますか。(○は1つ)

※ 問 18 の選択肢『毎日吸う』『時々吸う』を選択した人のみ回答



問 18 において、現在、たばこを「吸っている（『毎日吸う』『時々吸う]）」と回答した者のうち、たばこを「やめたい」と回答した割合は全体の 28.3%であった。

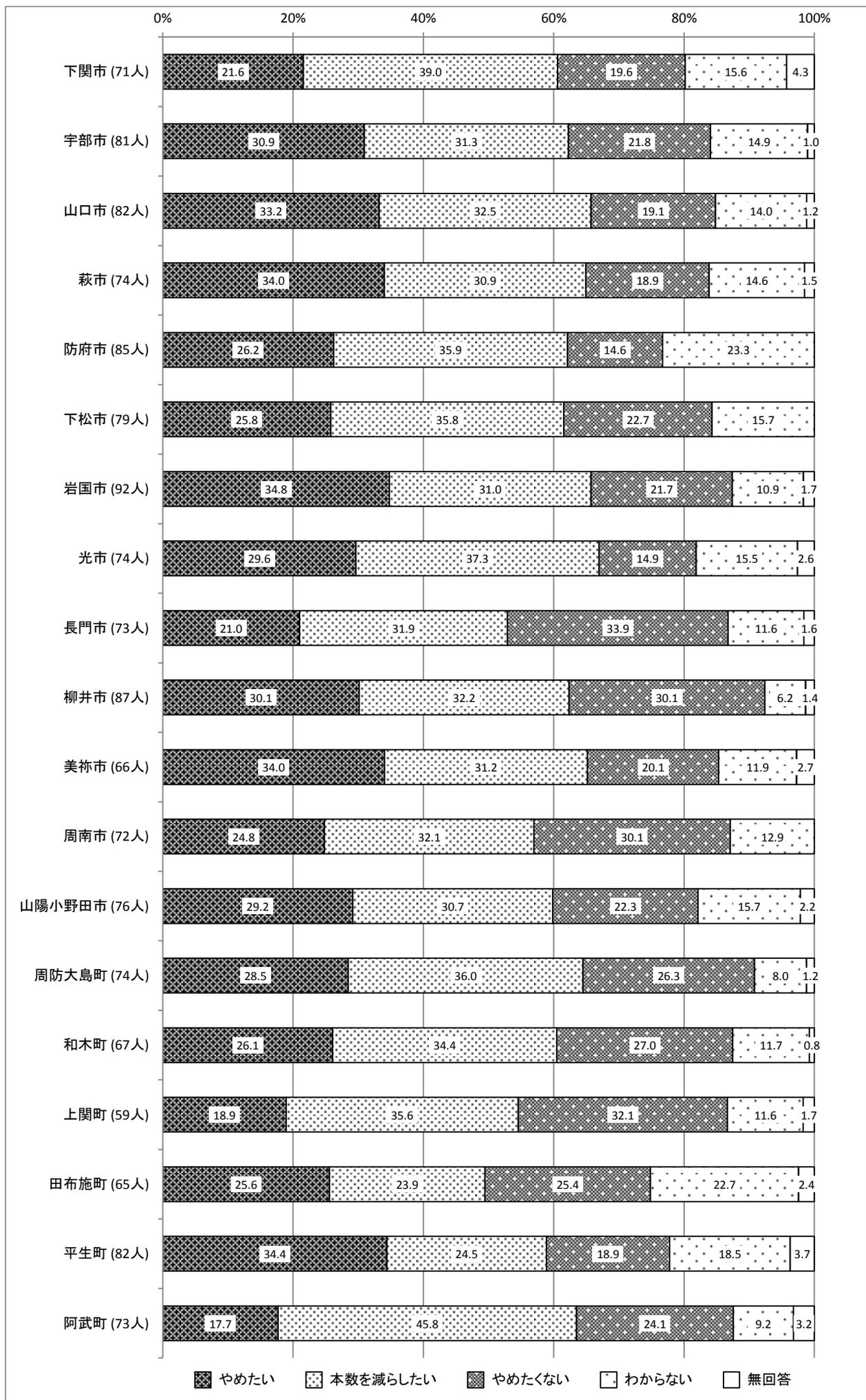
性別では、「やめたい」と回答した割合は男性 24.7%、女性 41.8%であり、男性より女性において「やめたい」と回答した割合が高かった。

年代別では、「やめたい」と回答した割合は 40 歳代で 24.2%と一番低かった。

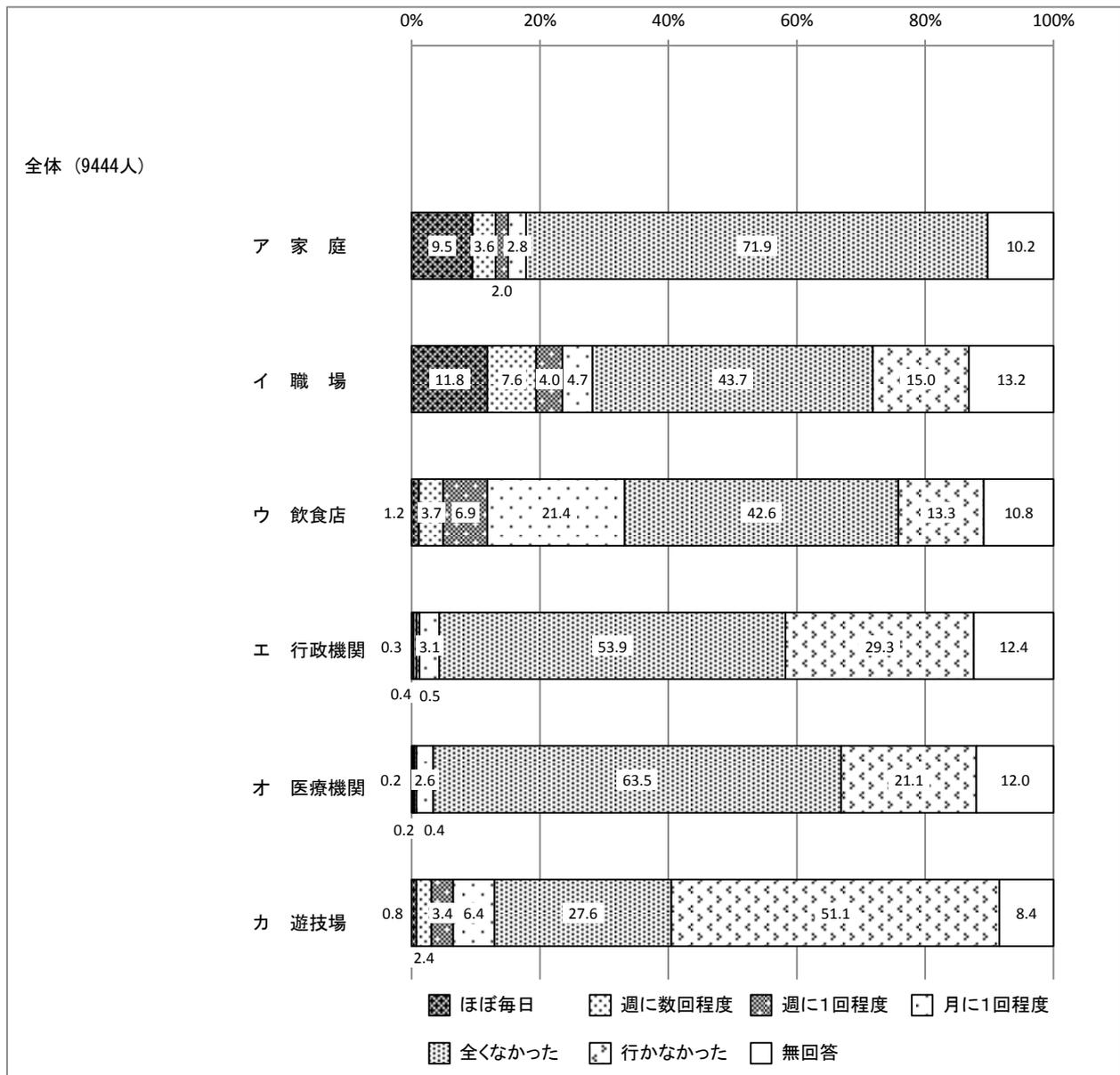
【参考値】

平成 26 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「やめたい」 29.1%

平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「やめたい」 28.9%



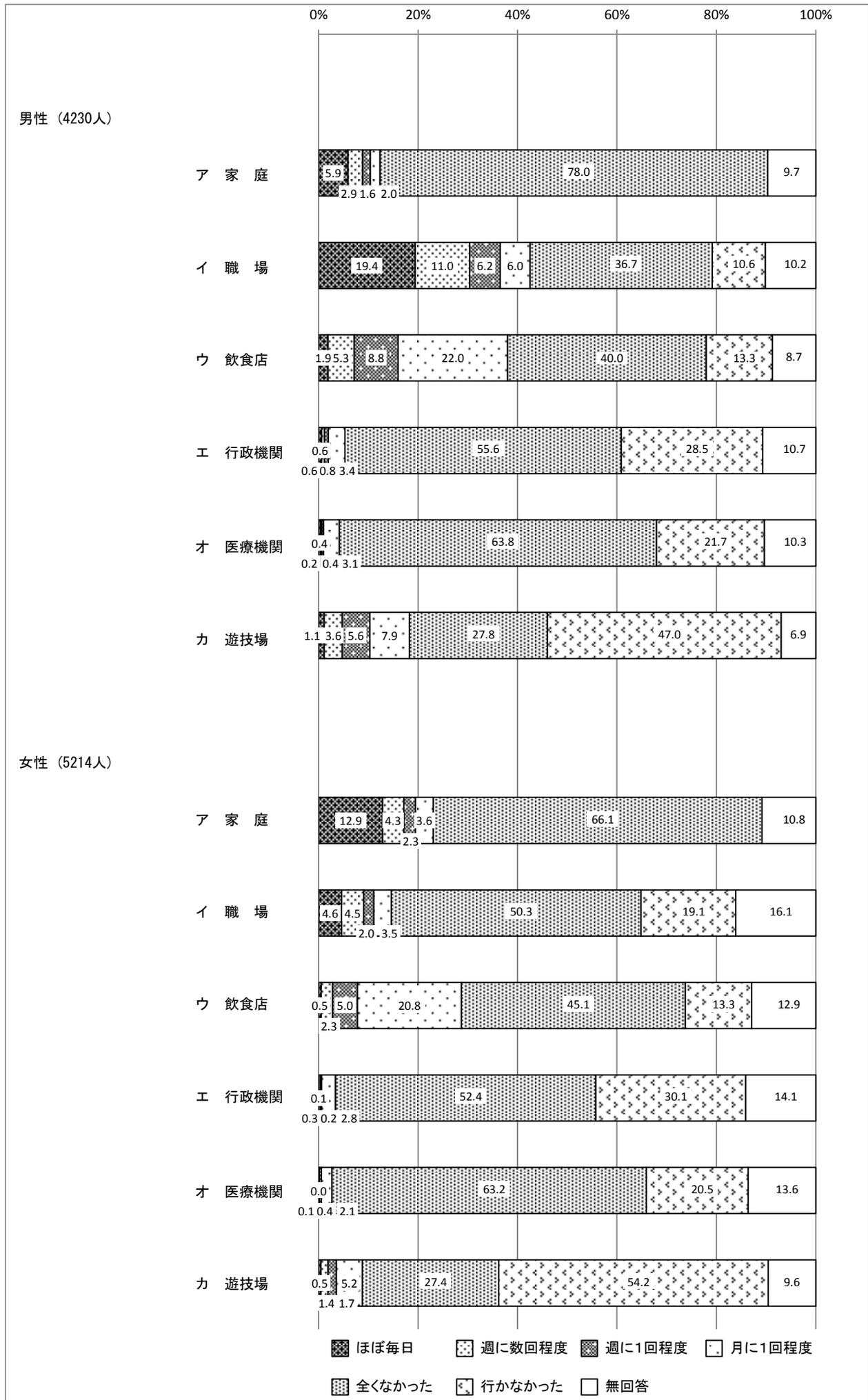
問 19 あなたは、この1か月間に、自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)がありましたか。(各項目につき、○は1つ)

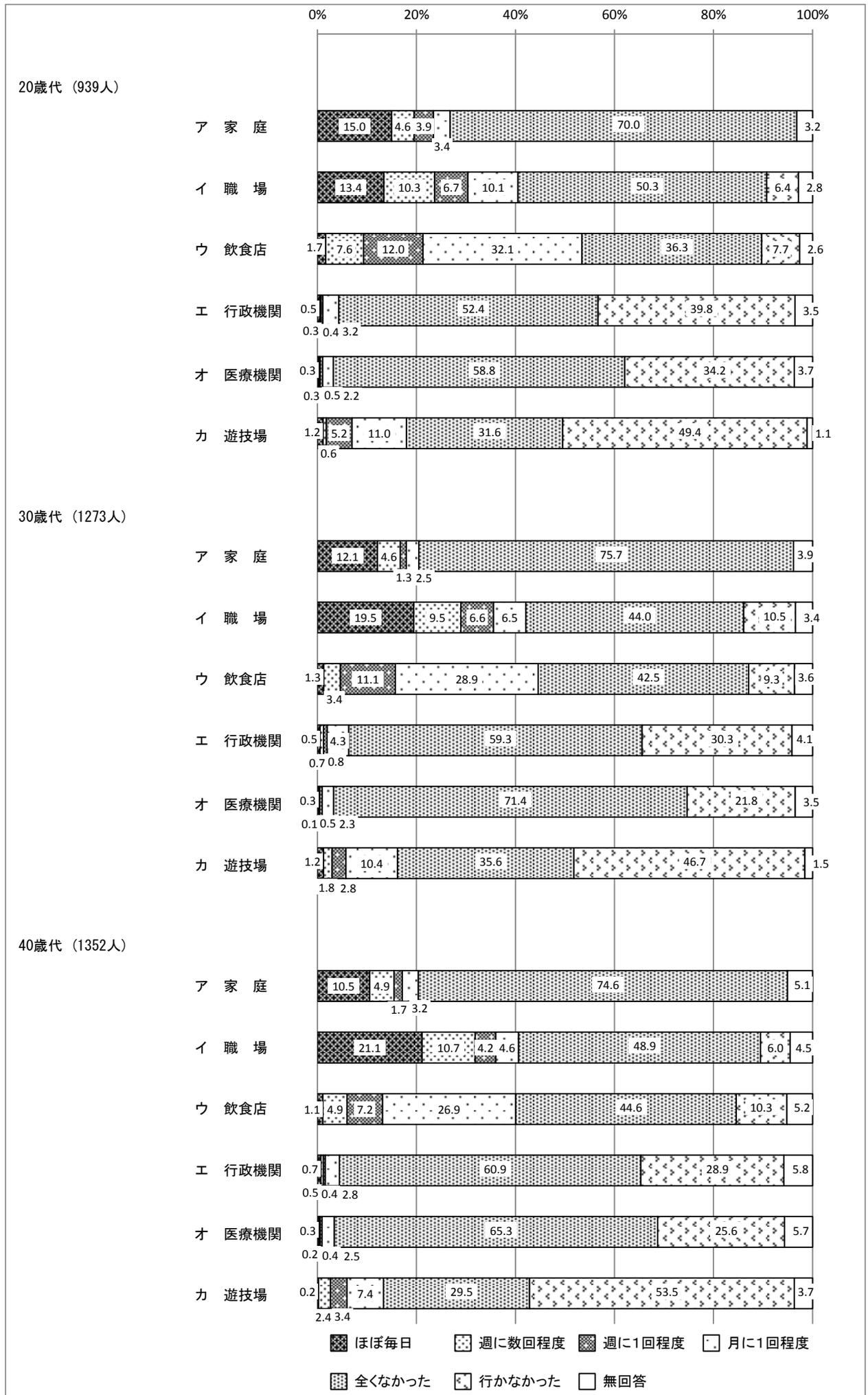


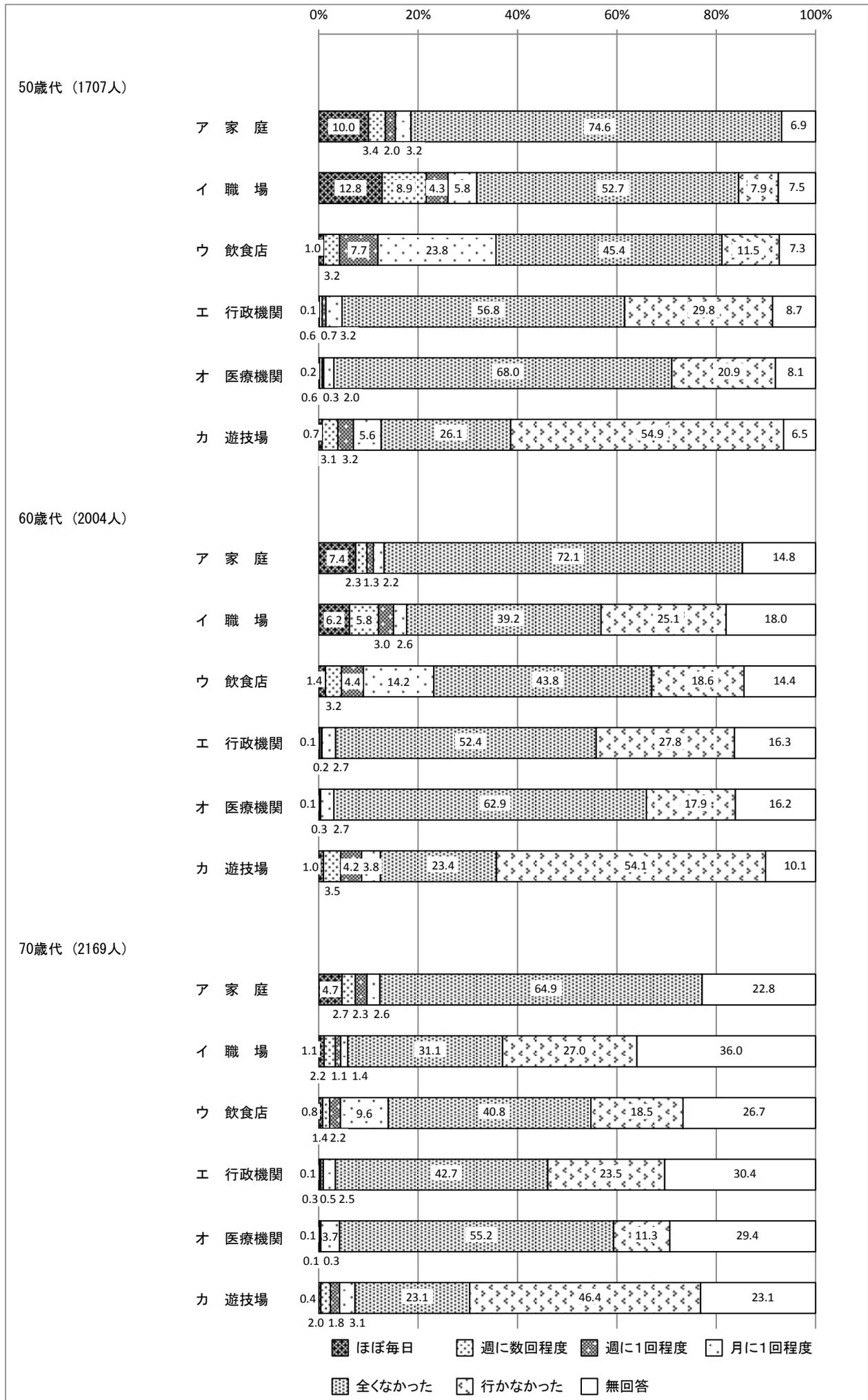
「ほぼ毎日」あったと回答した全体の割合は「家庭」9.5%、「職場」11.8%であり、他の項目より高かった。

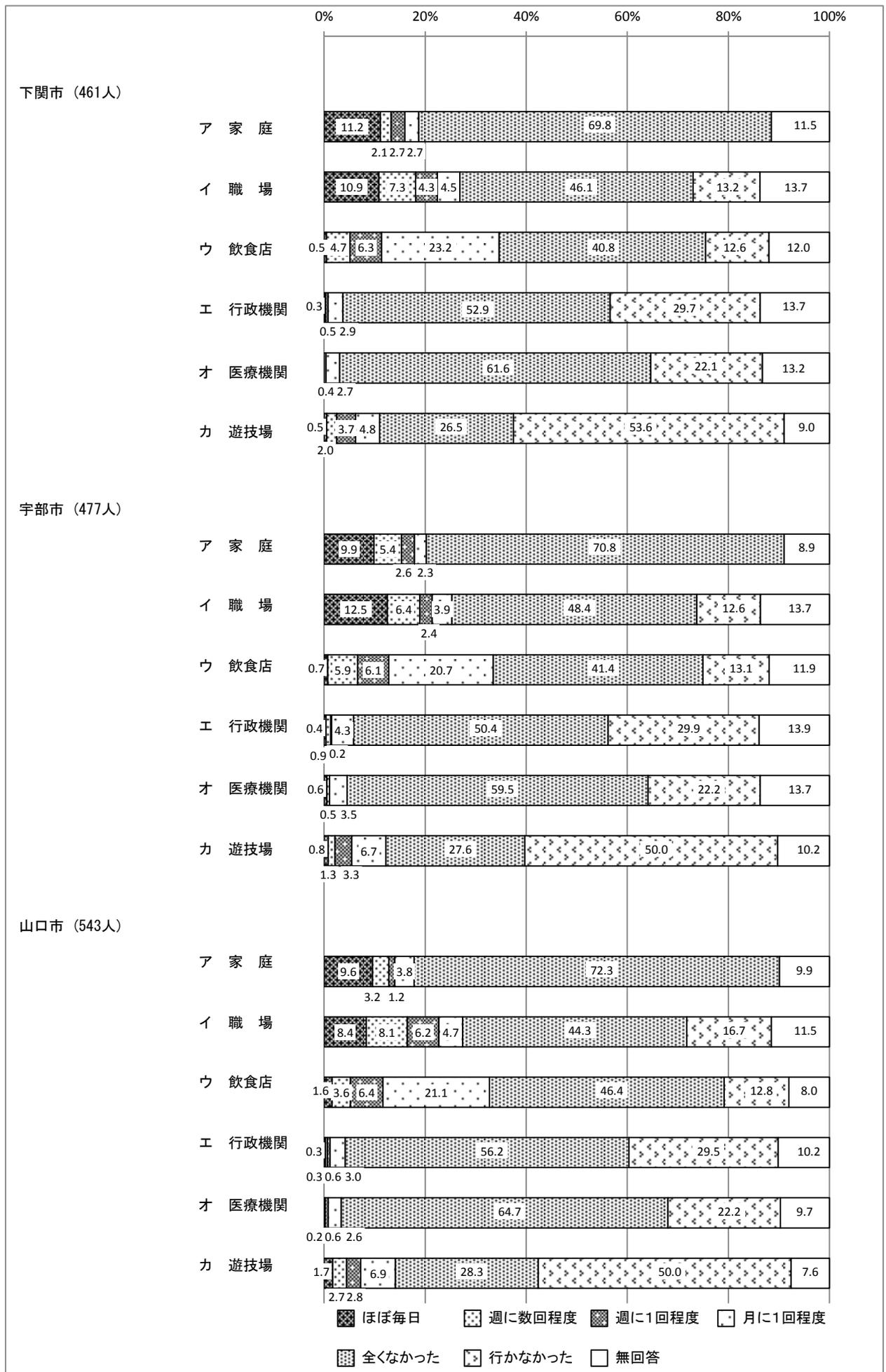
性別では、男性は「職場」、女性は「家庭」における受動喫煙の機会が「ほぼ毎日」あったと回答した割合が高かった。

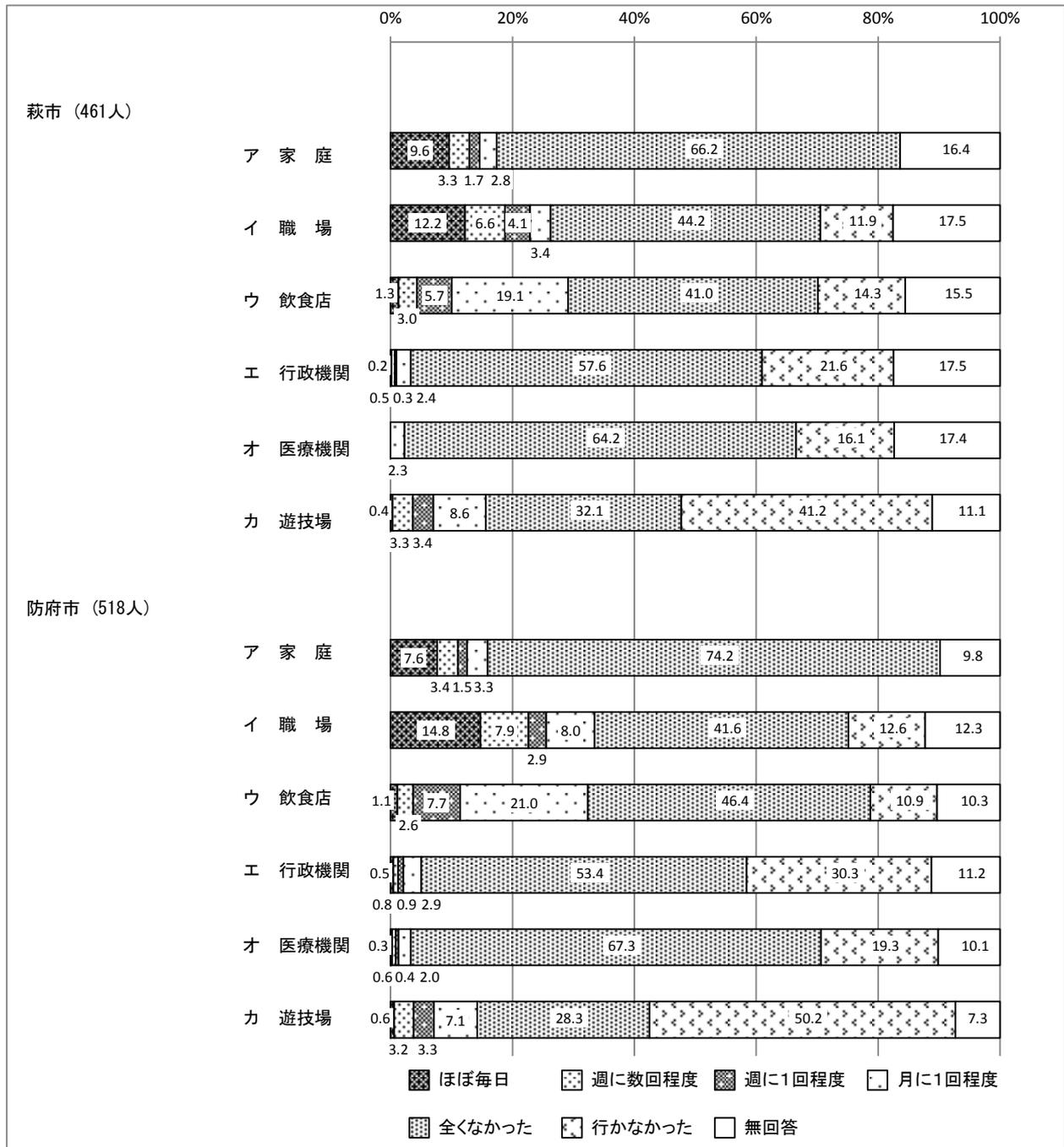
年代別では、20歳代から50歳代において「家庭」や「職場」における受動喫煙の機会が「ほぼ毎日」あったと回答した割合が高かった。

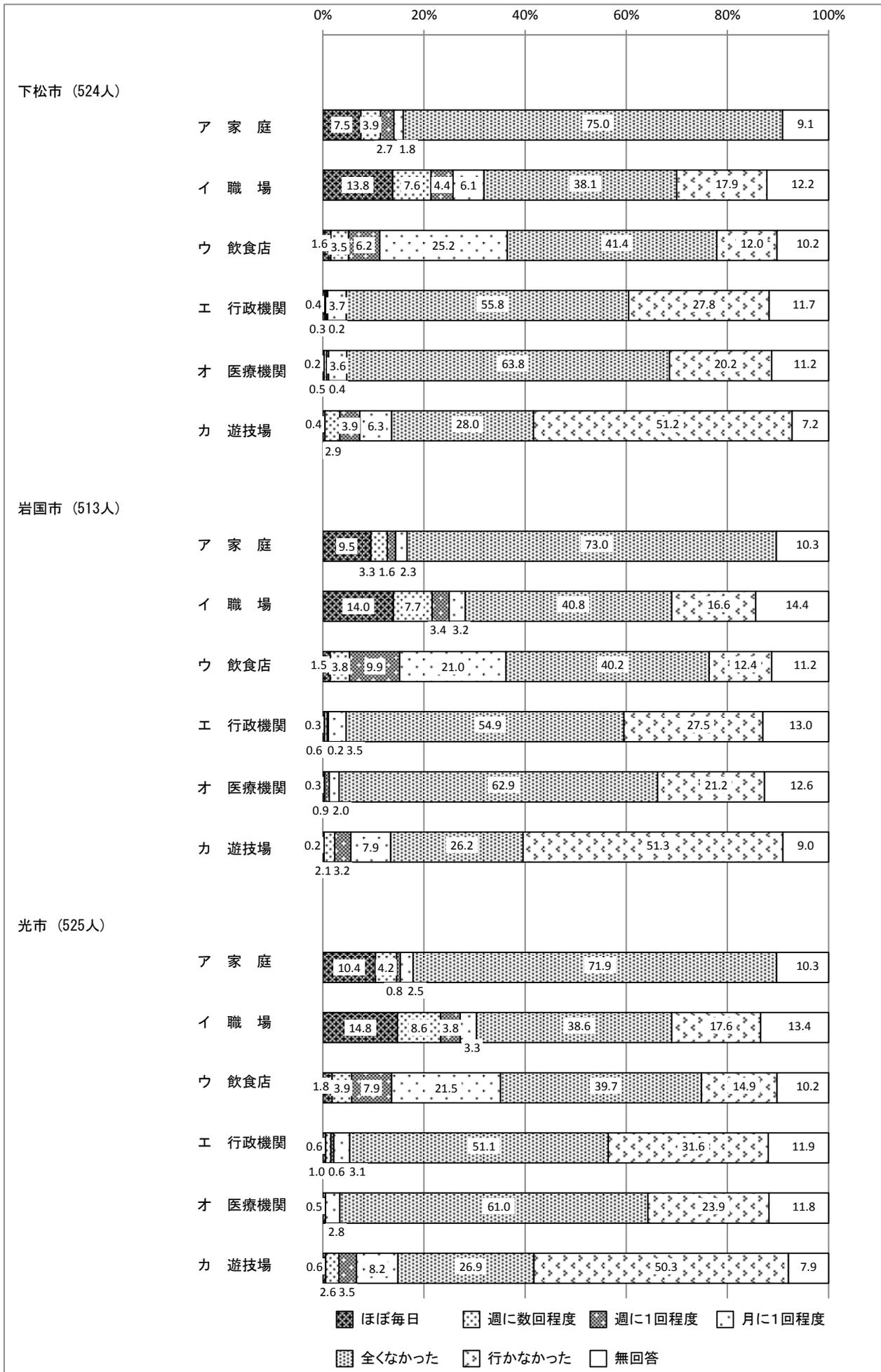


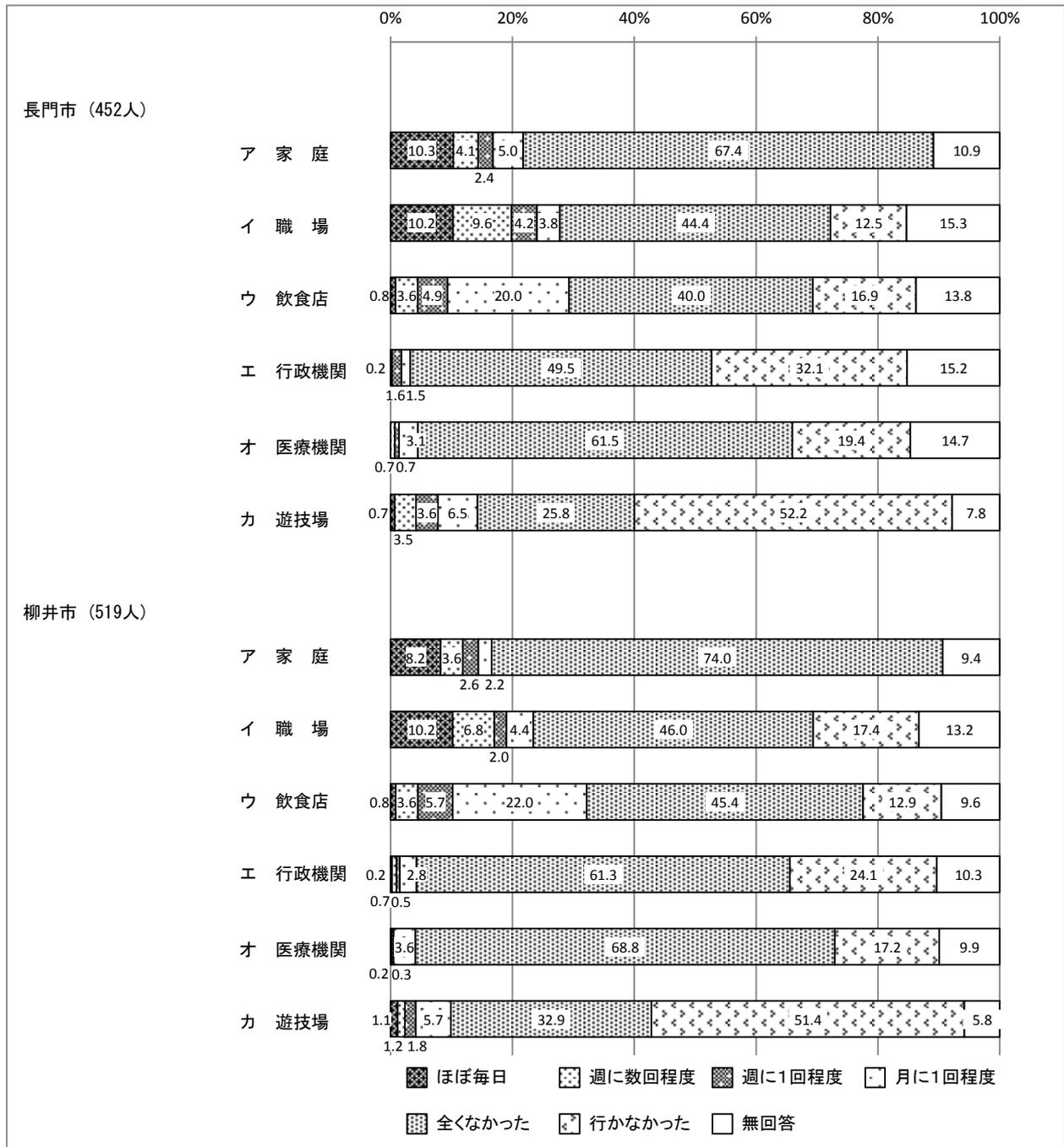


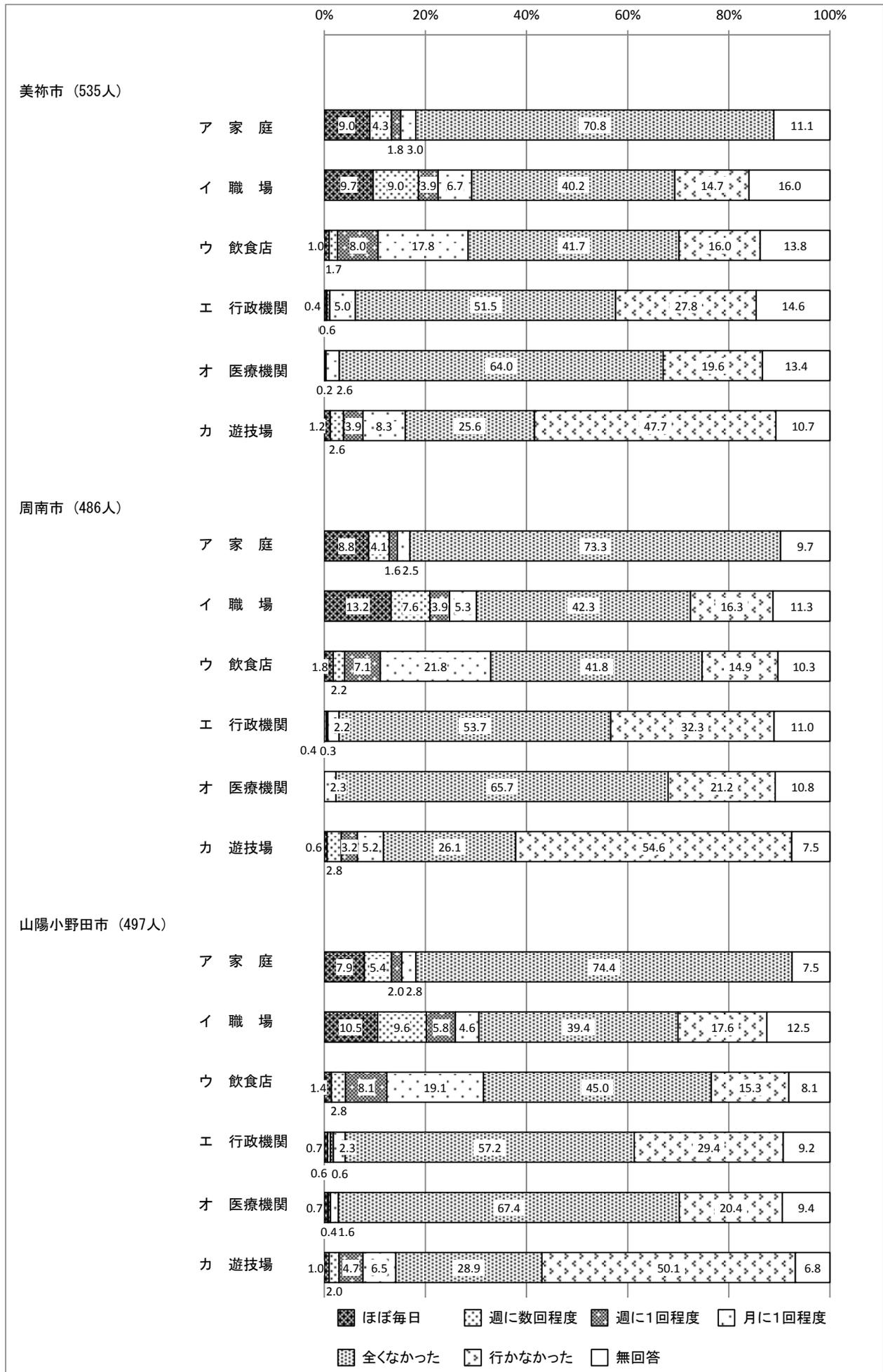


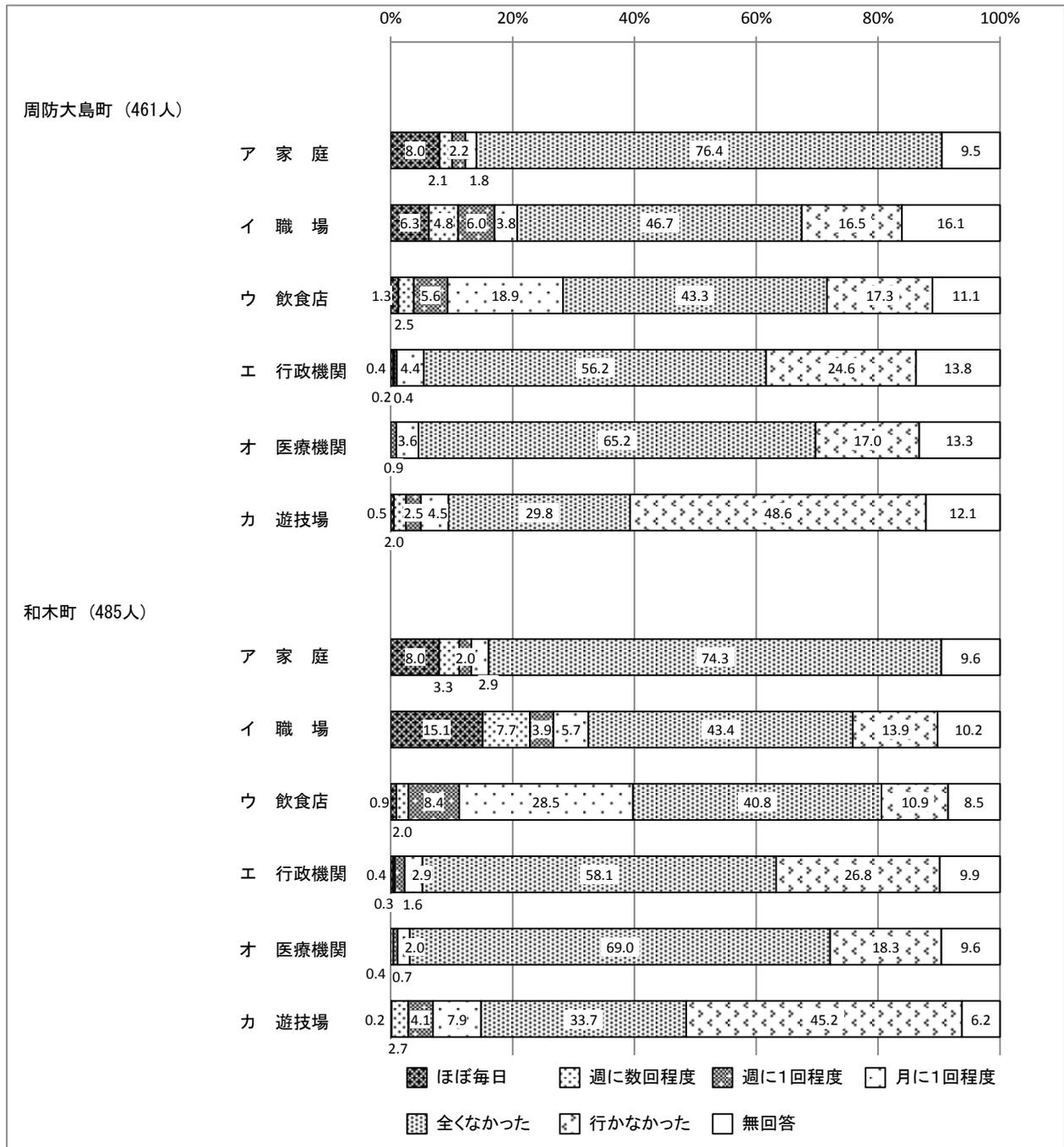


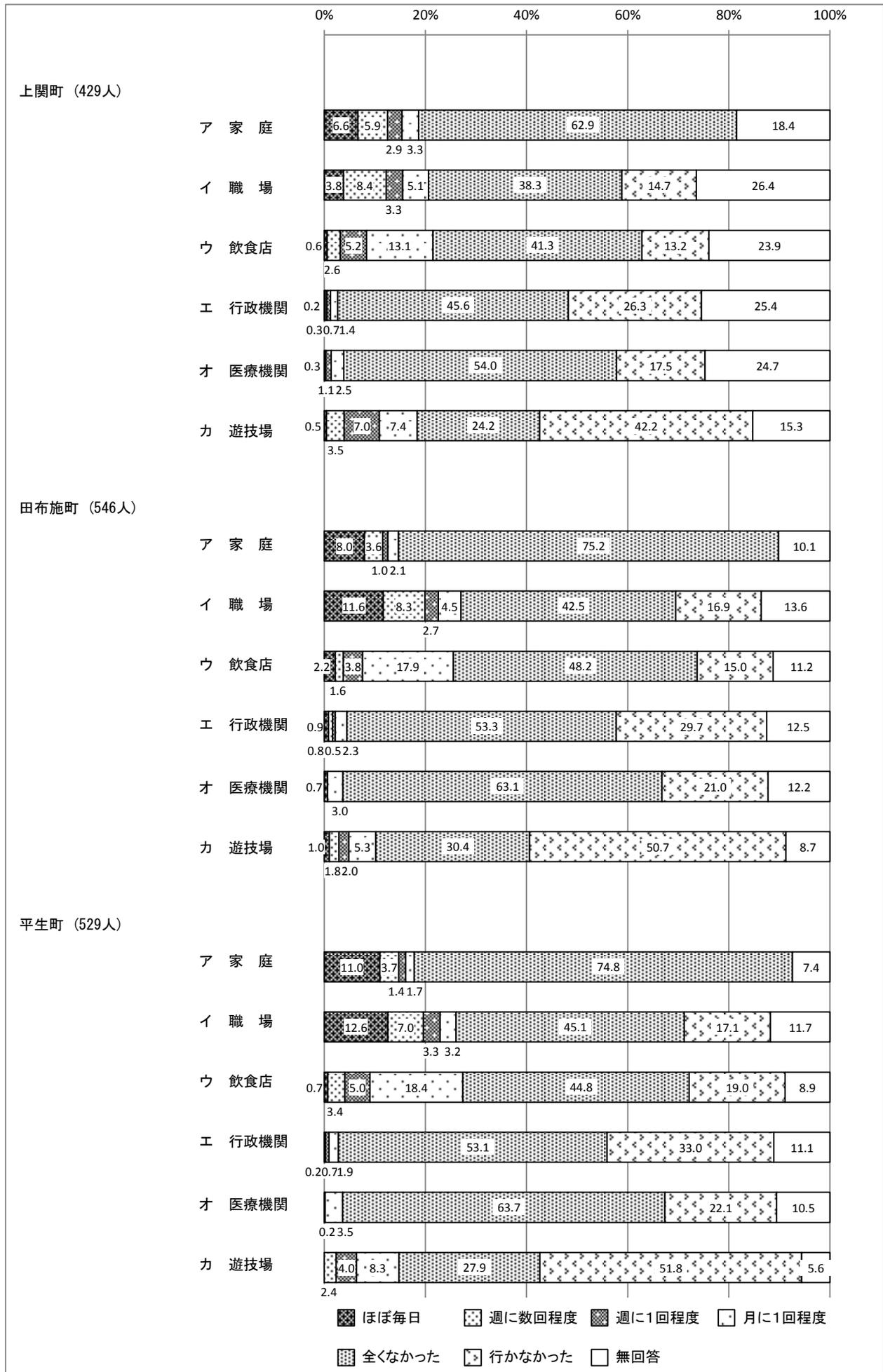




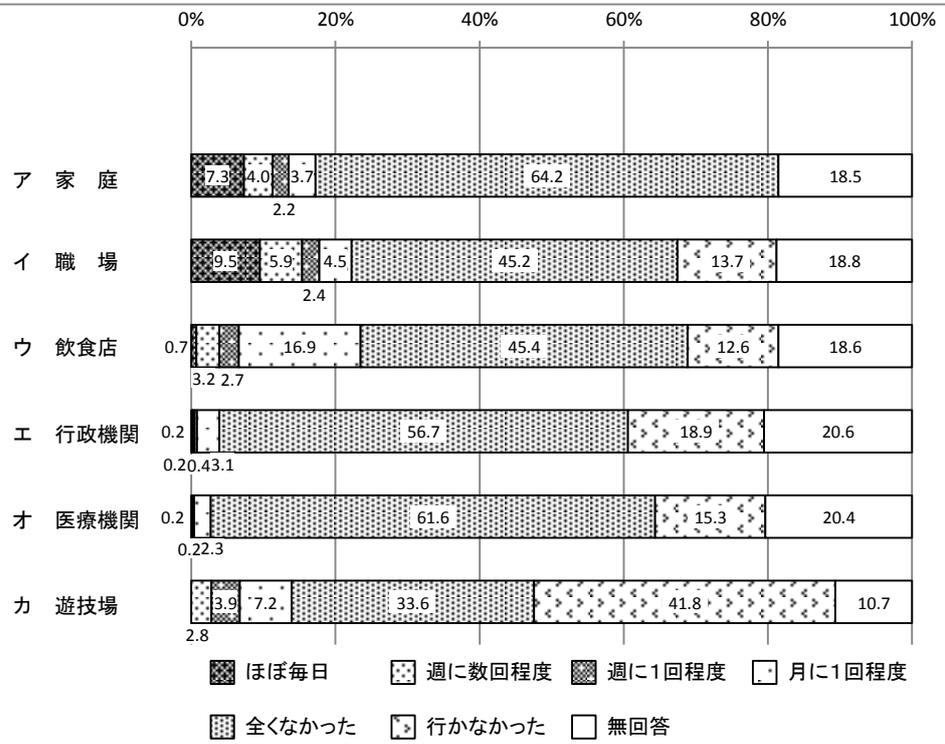




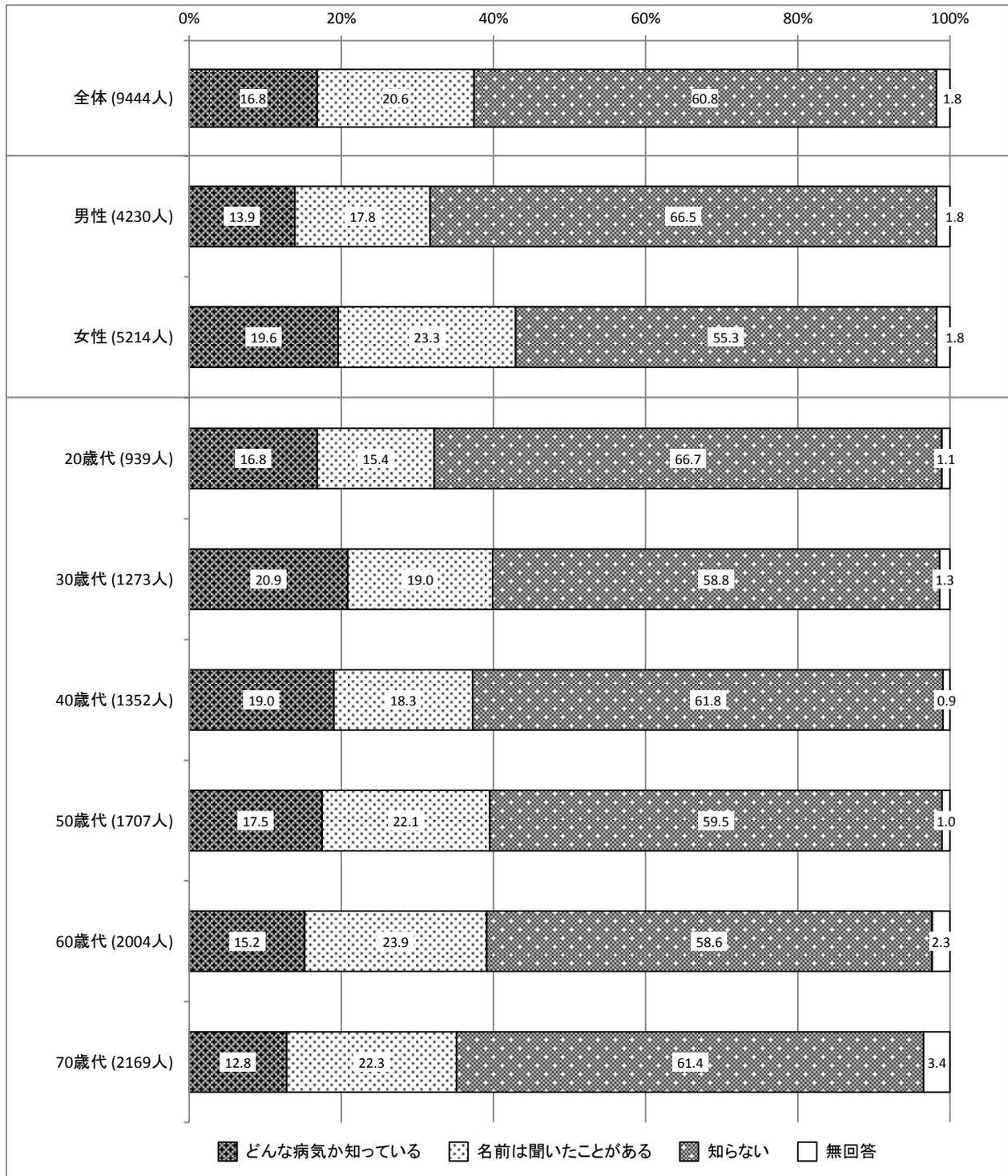




阿武町 (491人)



問 20 あなたは、「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」という病気を知っていましたか。(〇は1つ)



「どんな病気か知っている」と回答した割合は全体の16.8%であり、「知らない」と回答した割合は60.8%であった。

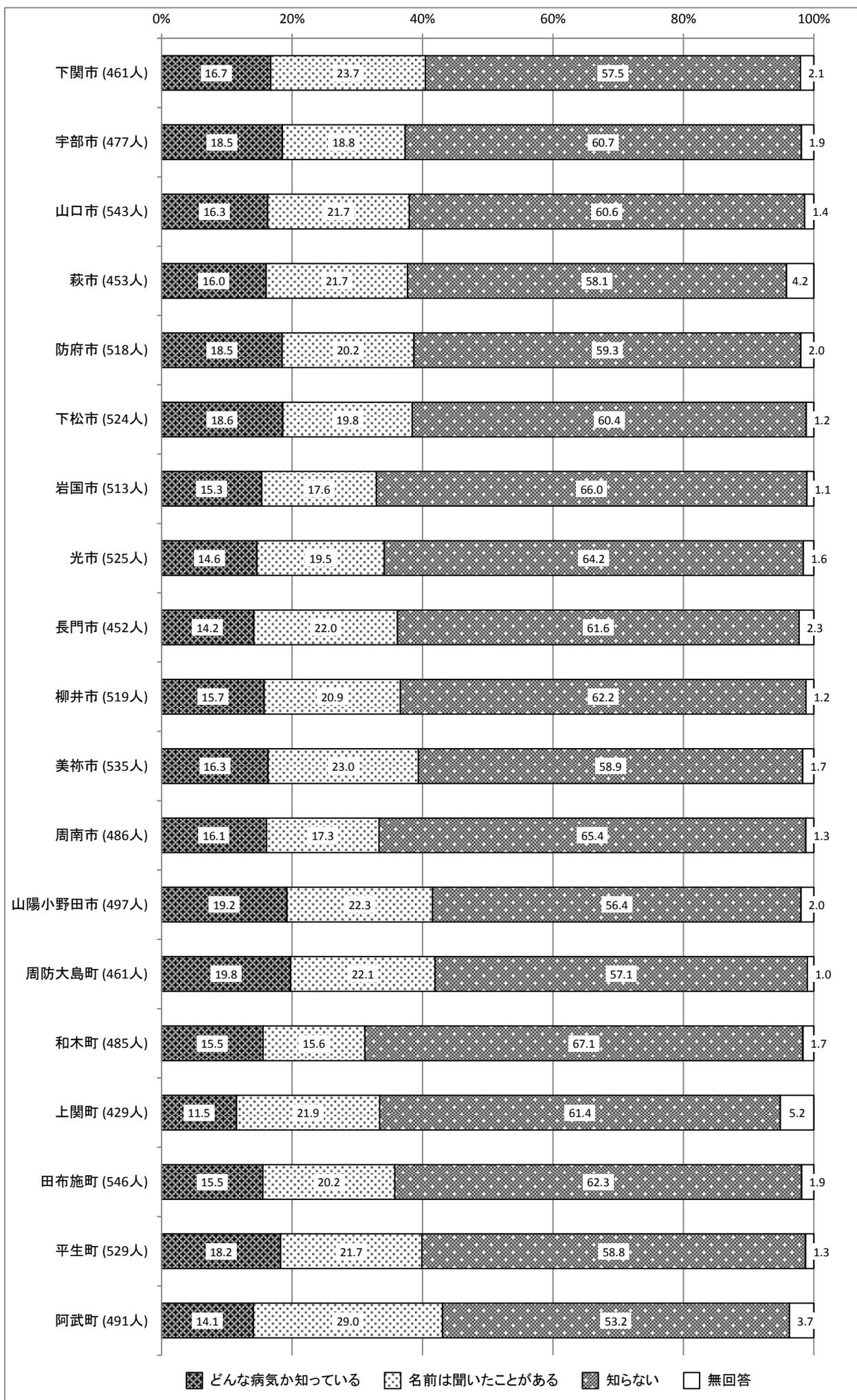
性別では、男性より女性において「どんな病気か知っている」と回答した割合が高かった。

年代別では、30歳代より年代が高いほど「どんな病気か知っている」と回答した割合が低い傾向であった。

【参考値】

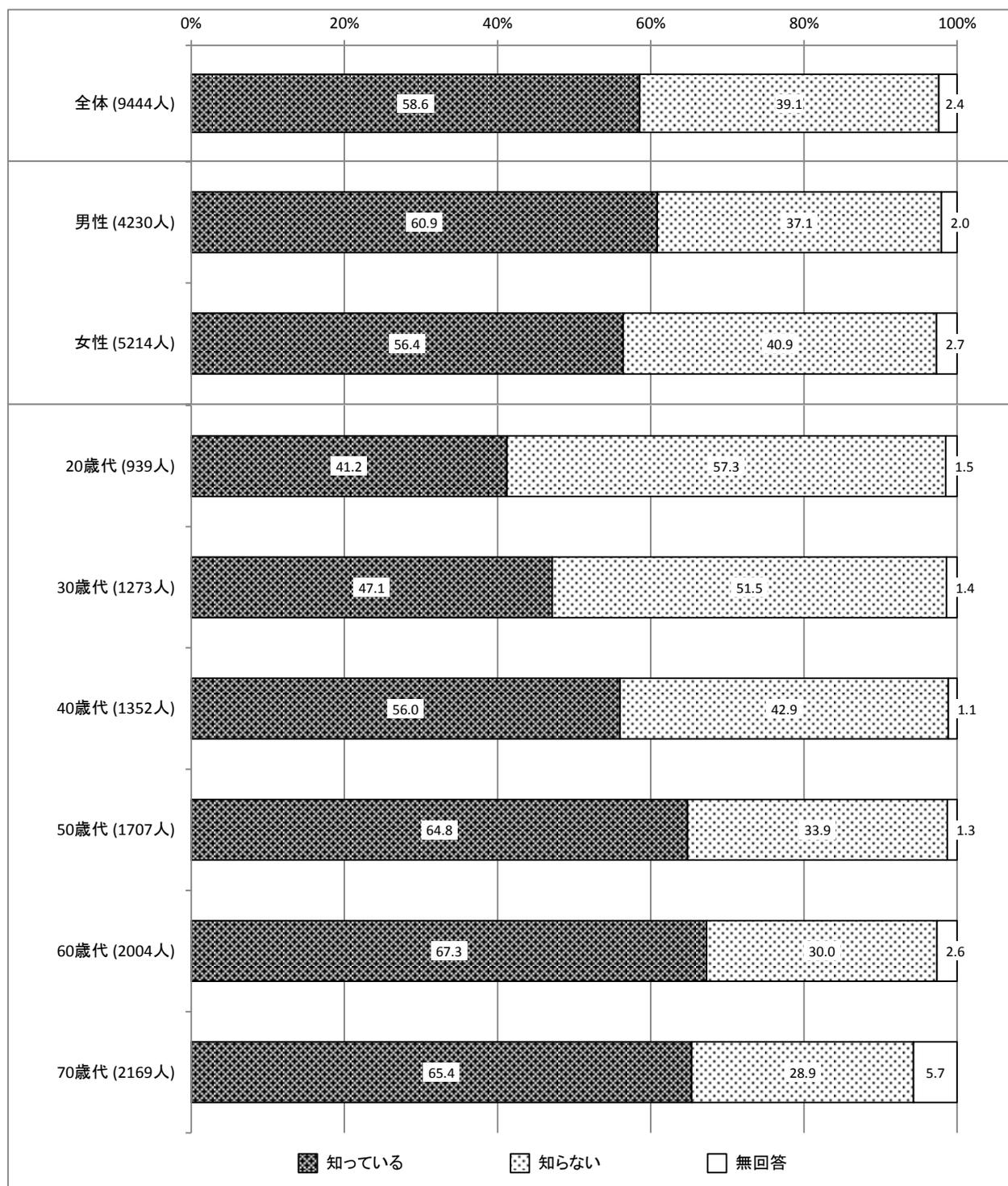
平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査 「どんな病気か知っている」 17.3%

平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査 「どんな病気か知っている」 16.7%



(7) 飲酒について

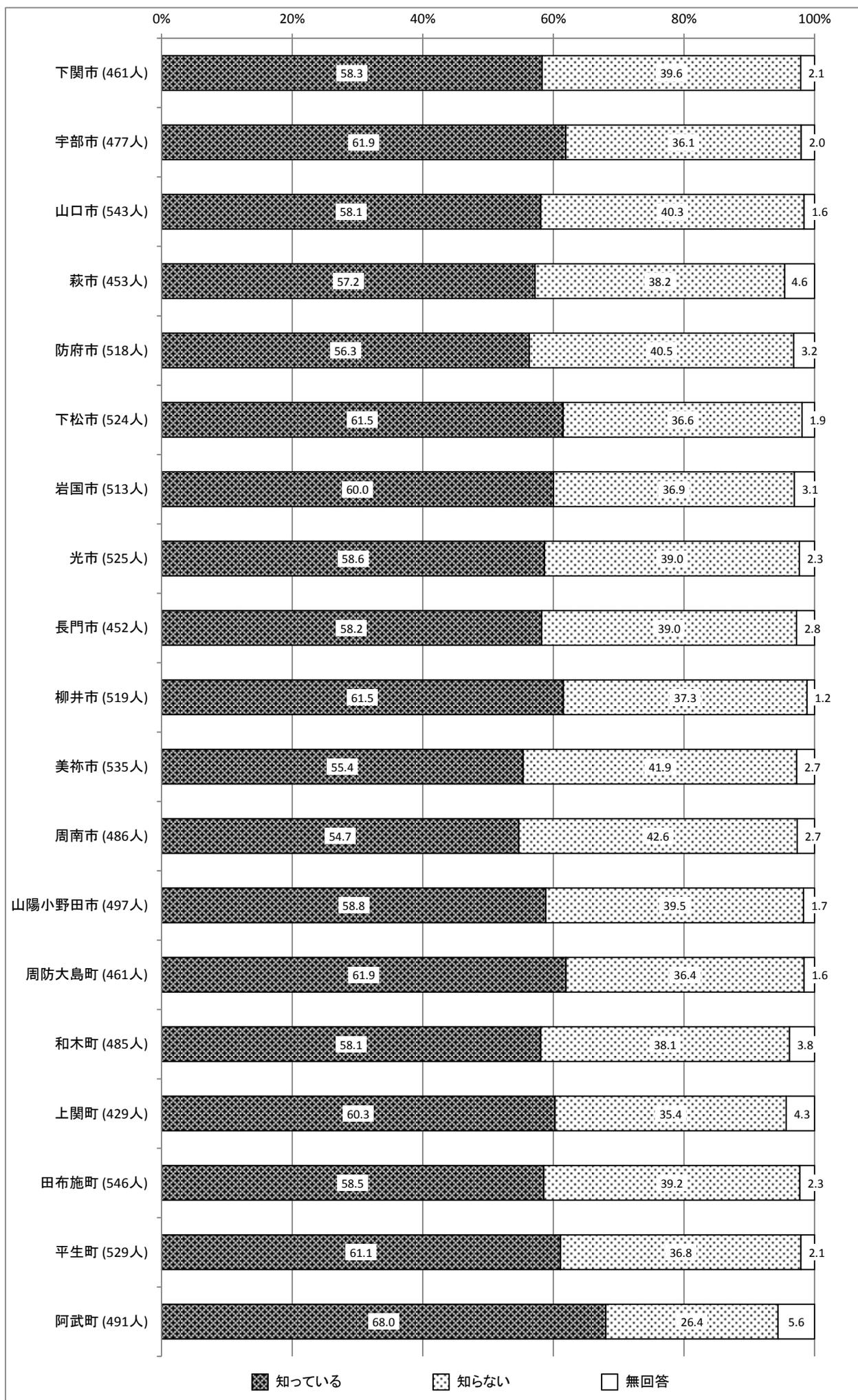
問 21 あなたは、「節度ある適度な飲酒」が1日平均1合程度(清酒換算)であることを知っていますか。
(○は1つ)



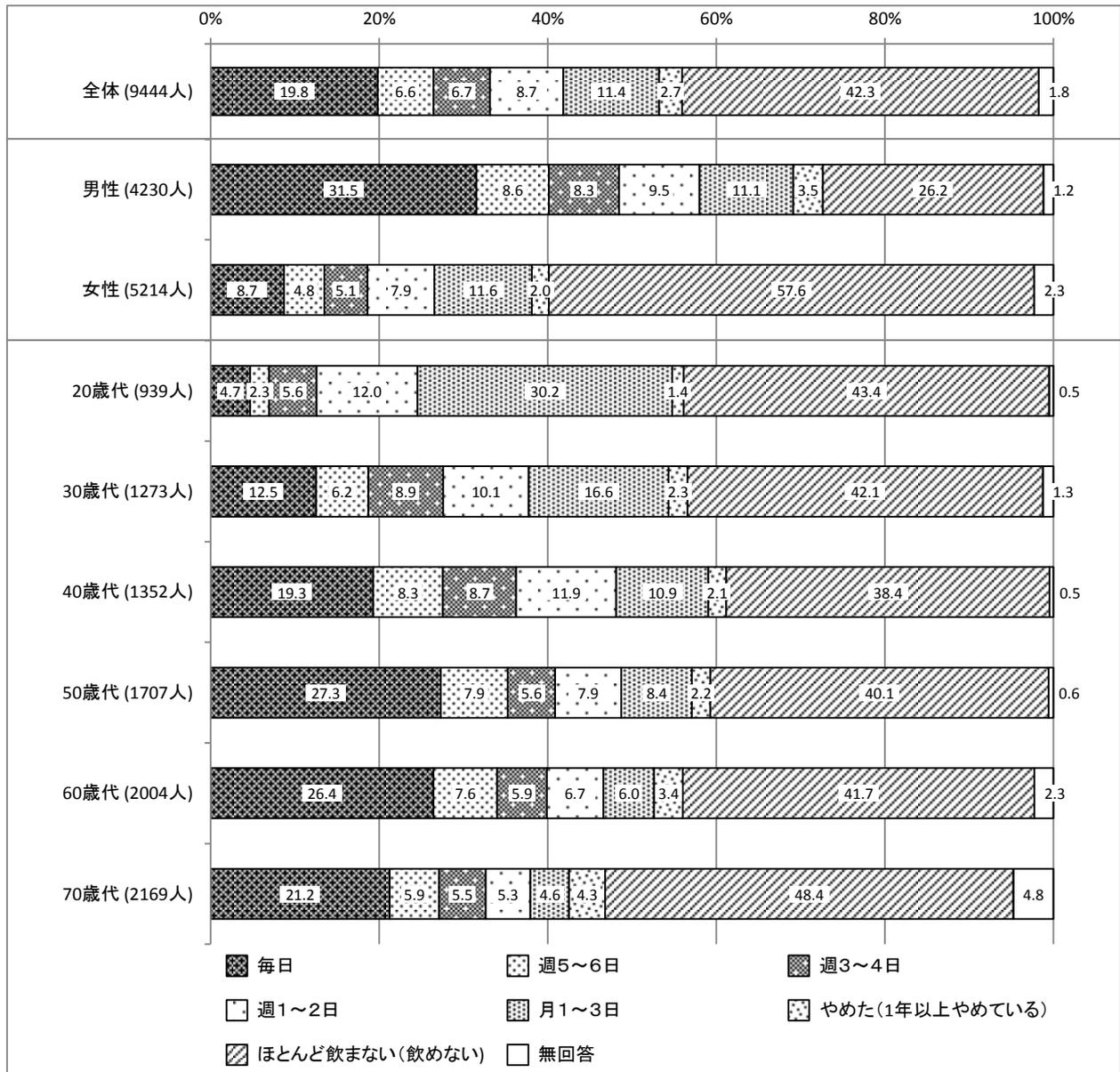
「知っている」と回答した割合は全体の 58.6%、「知らない」と回答した割合は全体の 39.1%であった。
性別では、女性より男性において「知っている」と回答した割合が高かった。
年代別では、年代が高いほど「知っている」と回答した割合が高い傾向であった。

【参考値】

平成 26 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「知っている」 61.5%
平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「知っている」 64.6%



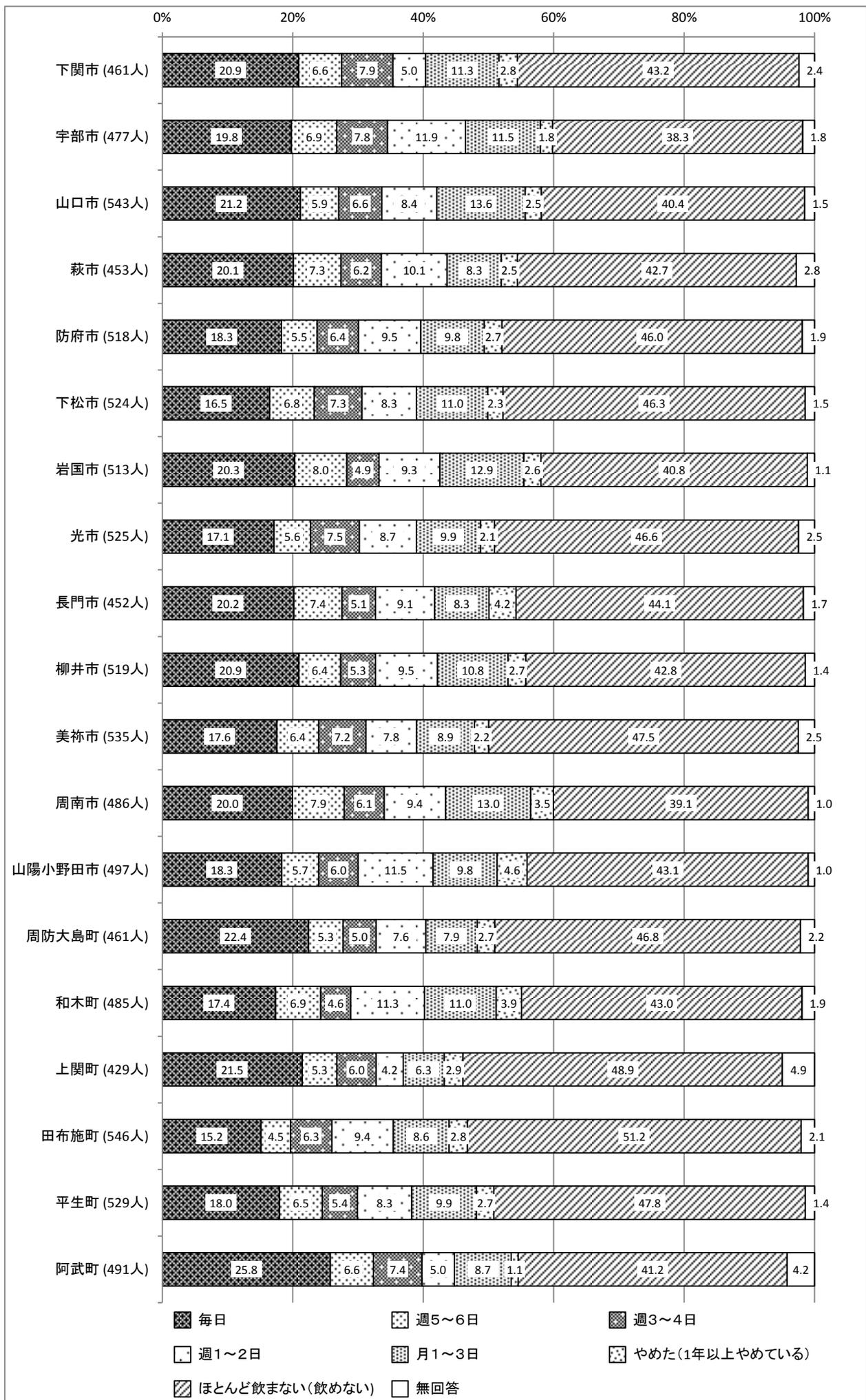
問 22 あなたは、週に何日位お酒(清酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲みますか。(○は1つ)



「週3日以上」（「毎日」「週5~6日」「週3~4日」）飲むと回答した割合は全体の33.1%であった。性別では、女性より男性において「週3日以上」飲むと回答した割合が高かった。年代別では、20歳代から50歳代にかけて年代が高いほど「週3日以上」飲むと回答した割合が高い傾向であった。

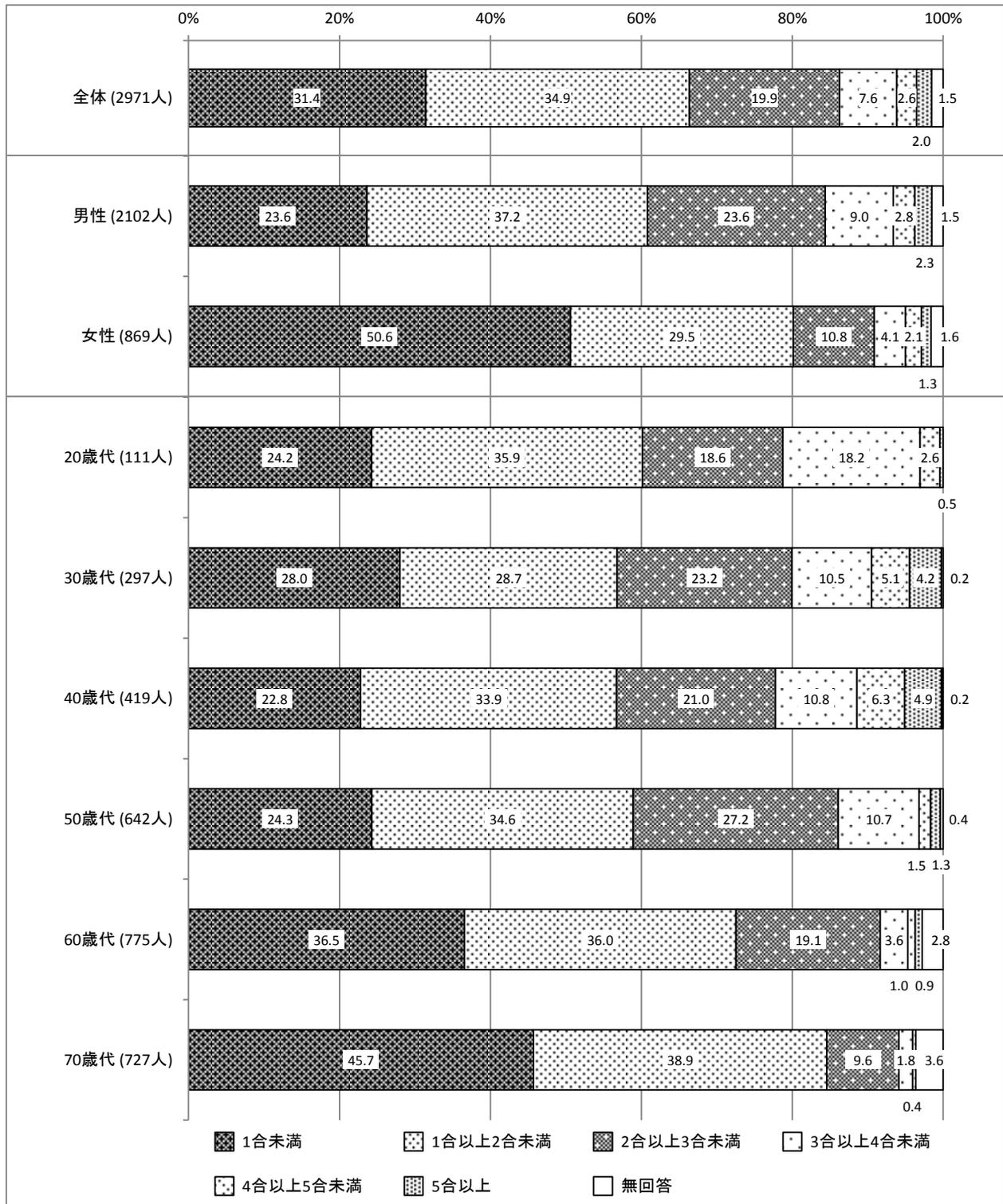
【参考値】

平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査 「毎日」「週5~6日」「週3~4日」 計32.8%
 平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査 「毎日」「週5~6日」「週3~4日」 計32.3%



問 22-1 お酒を飲む日は、1日あたりどのくらいの量を飲みますか。(〇は1つ)

※ 問 22 の選択肢『毎日』『週5～6日』『週3～4日』を選択した人のみ回答



問 22 において、お酒を「週3日以上」（「毎日」「週5～6日」「週3～4日」）飲むと回答した者のうち、1日あたり「1合以上」（「1合以上2合未満」「2合以上3合未満」「3合以上4合未満」「4合以上5合未満」「5合以上」）飲むと回答した割合は 67.0%であった。

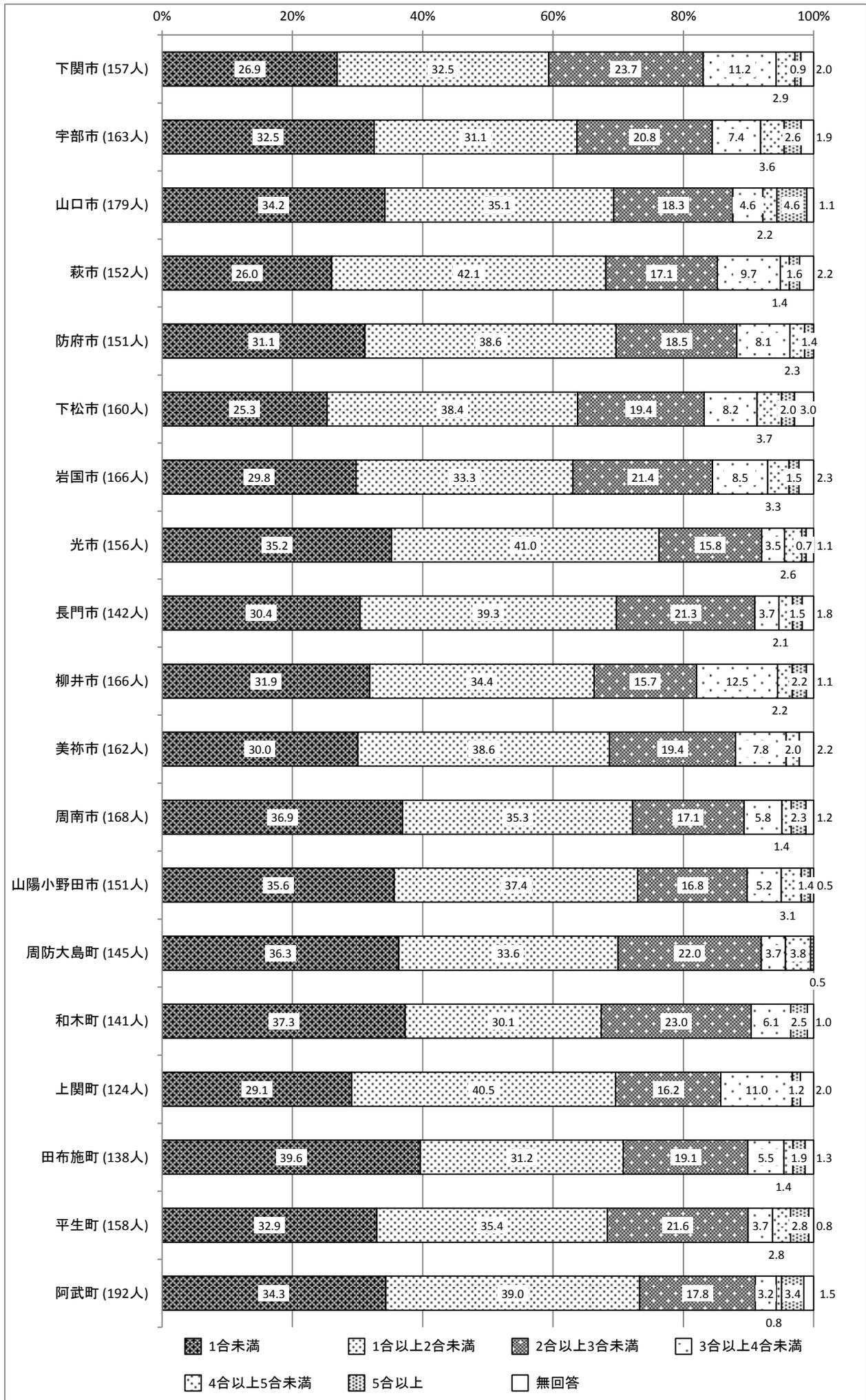
性別では、女性より男性において「1合以上」飲むと回答した割合が高かった。

年代別では、年代が高いほど「1合以上」飲むと回答した割合が低い傾向であった。

【参考値】

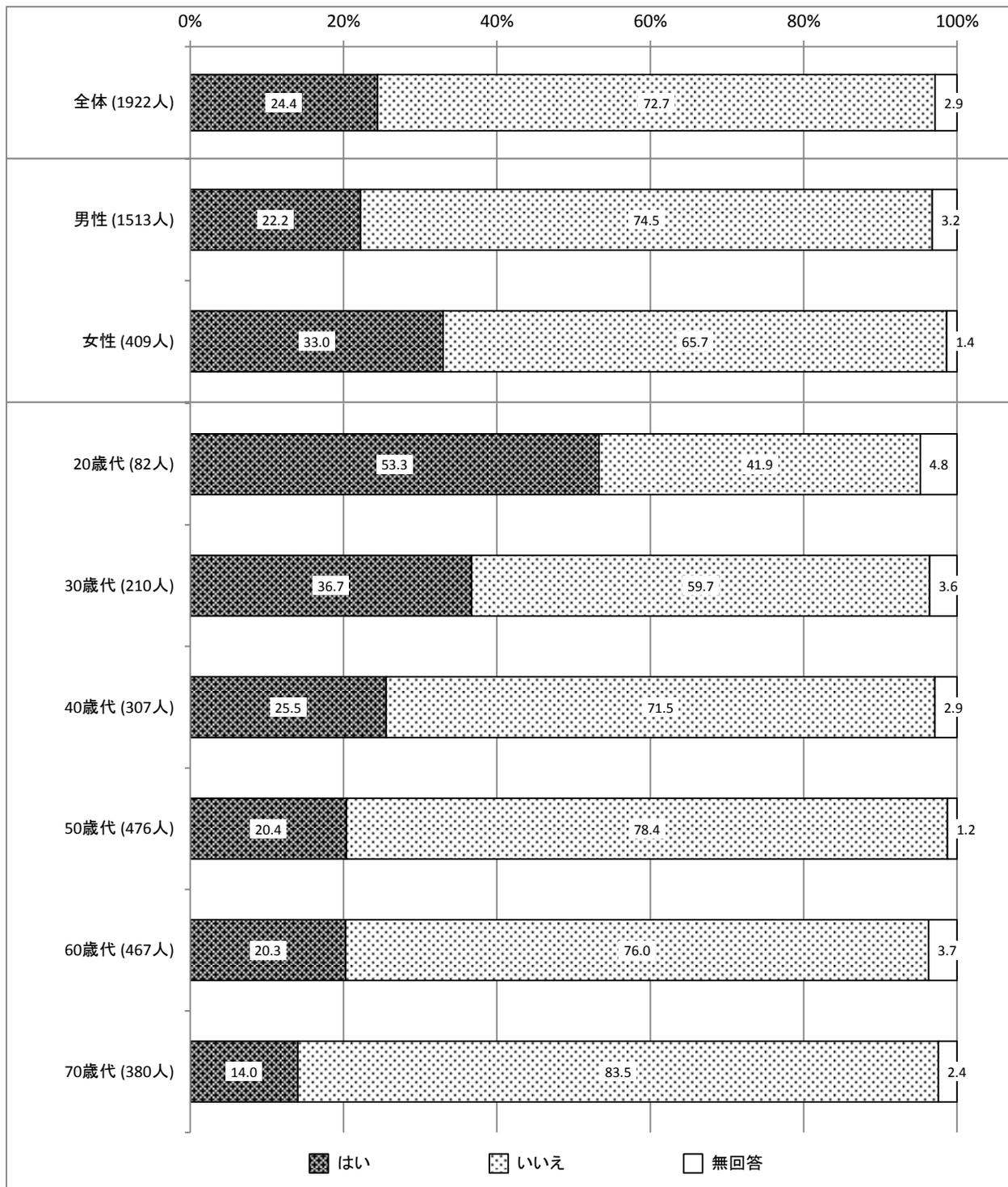
平成 26 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「1合以上」 計 50.7%

平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「1合以上」 計 60.7%



問 22-2 あなたは、週2日の休肝日を設けていますか。(○は1つ)

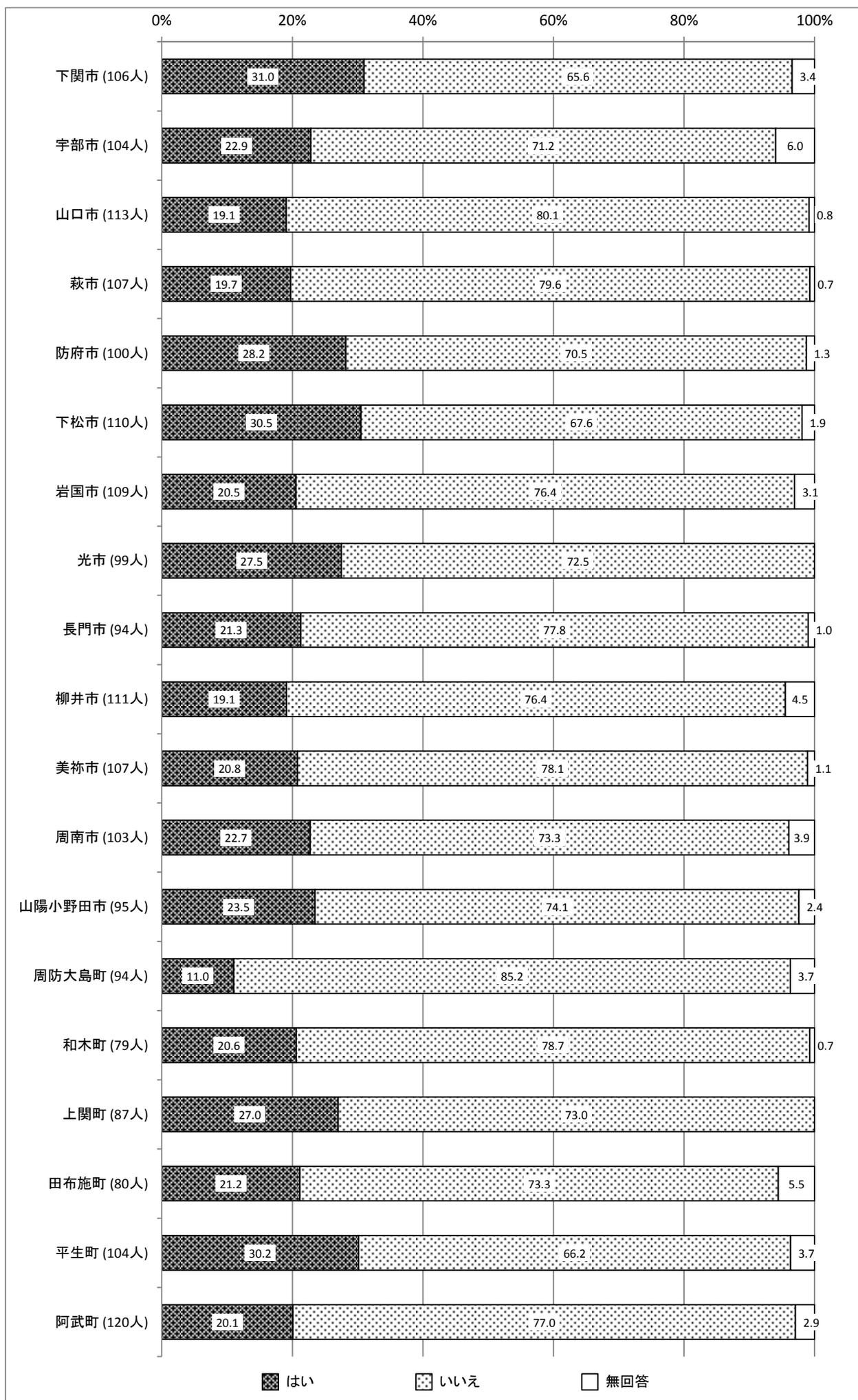
※ 問 22-1 の選択肢『1合未満』以外のいずれかを選択した人のみ回答



問 22-1 において、1日あたり「1合以上」お酒を飲むと回答した者のうち、週2日の休肝日を「設けている (はい)」と回答した割合は 24.4%であった。

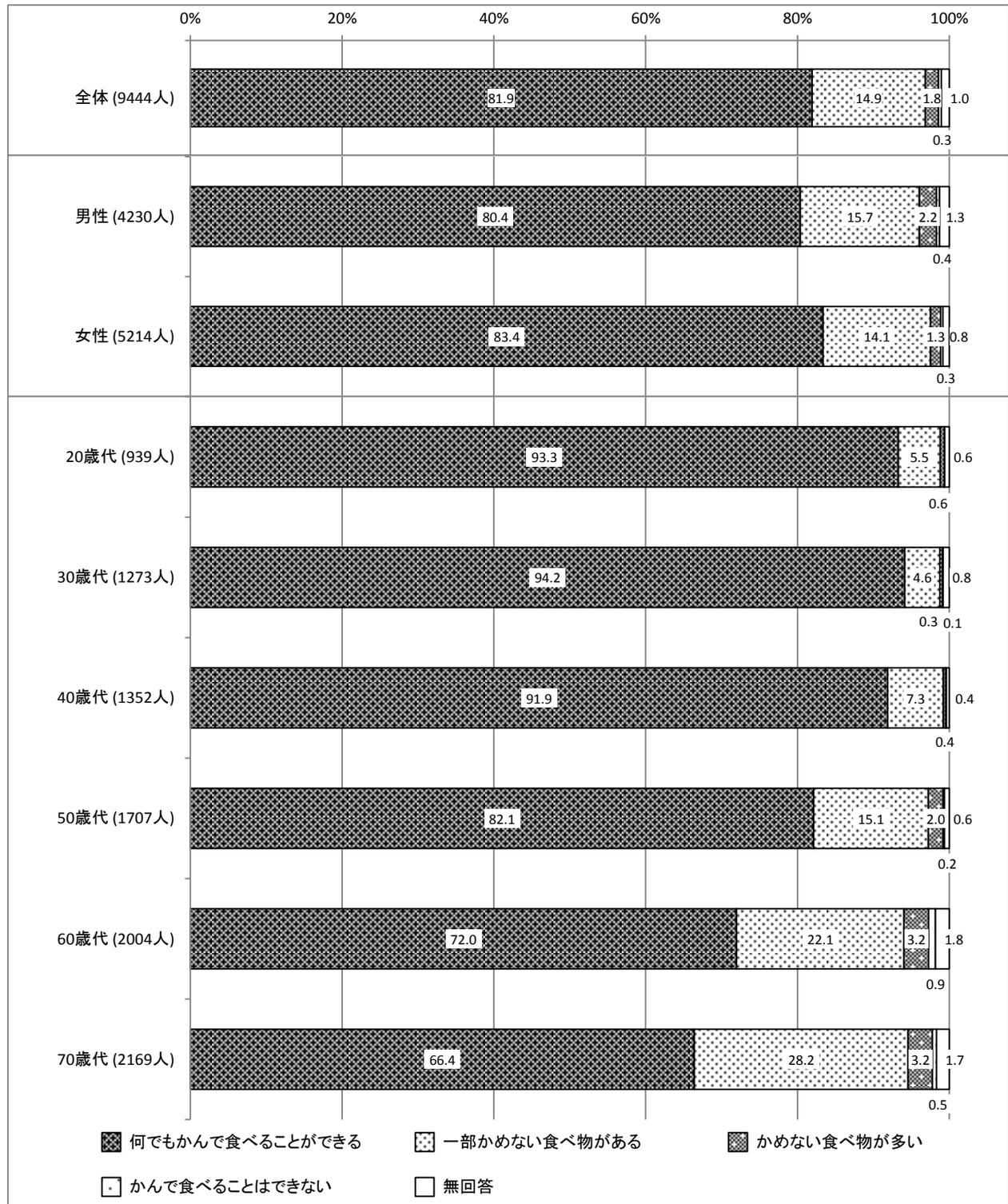
性別では、男性より女性において週2日の休肝日を「設けている」と回答した割合が高かった。

年代別では、年代が高いほど週2日の休肝日を「設けている」と回答した割合が低い傾向であった。



(8) 歯・口腔の健康について

問 23 あなたが、食べ物をかむ状態は、どれですか。(○は1つ)



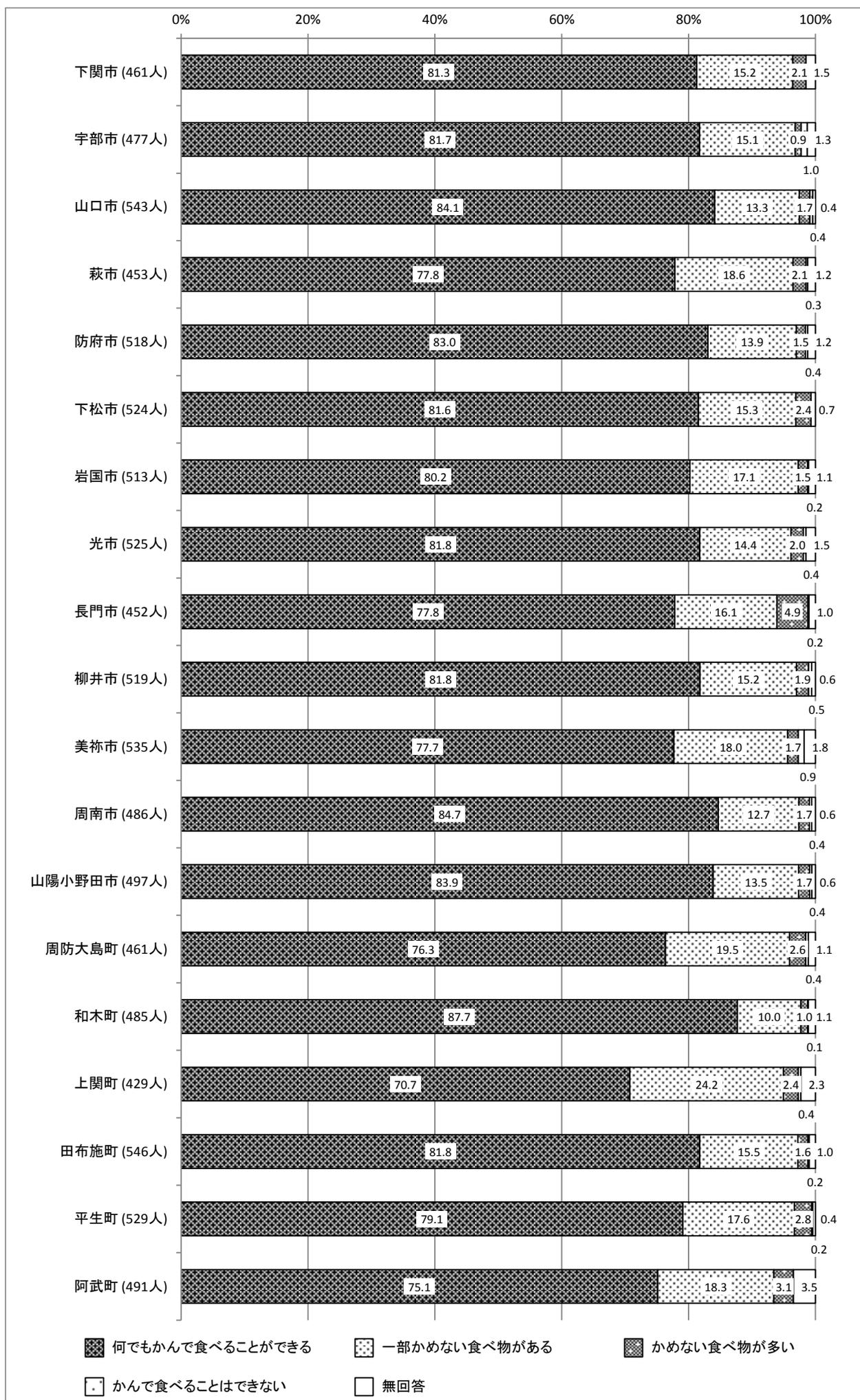
「何でもかんで食べることができる」と回答した割合は全体の 81.9%であった。

性別では、違いがみられなかった。

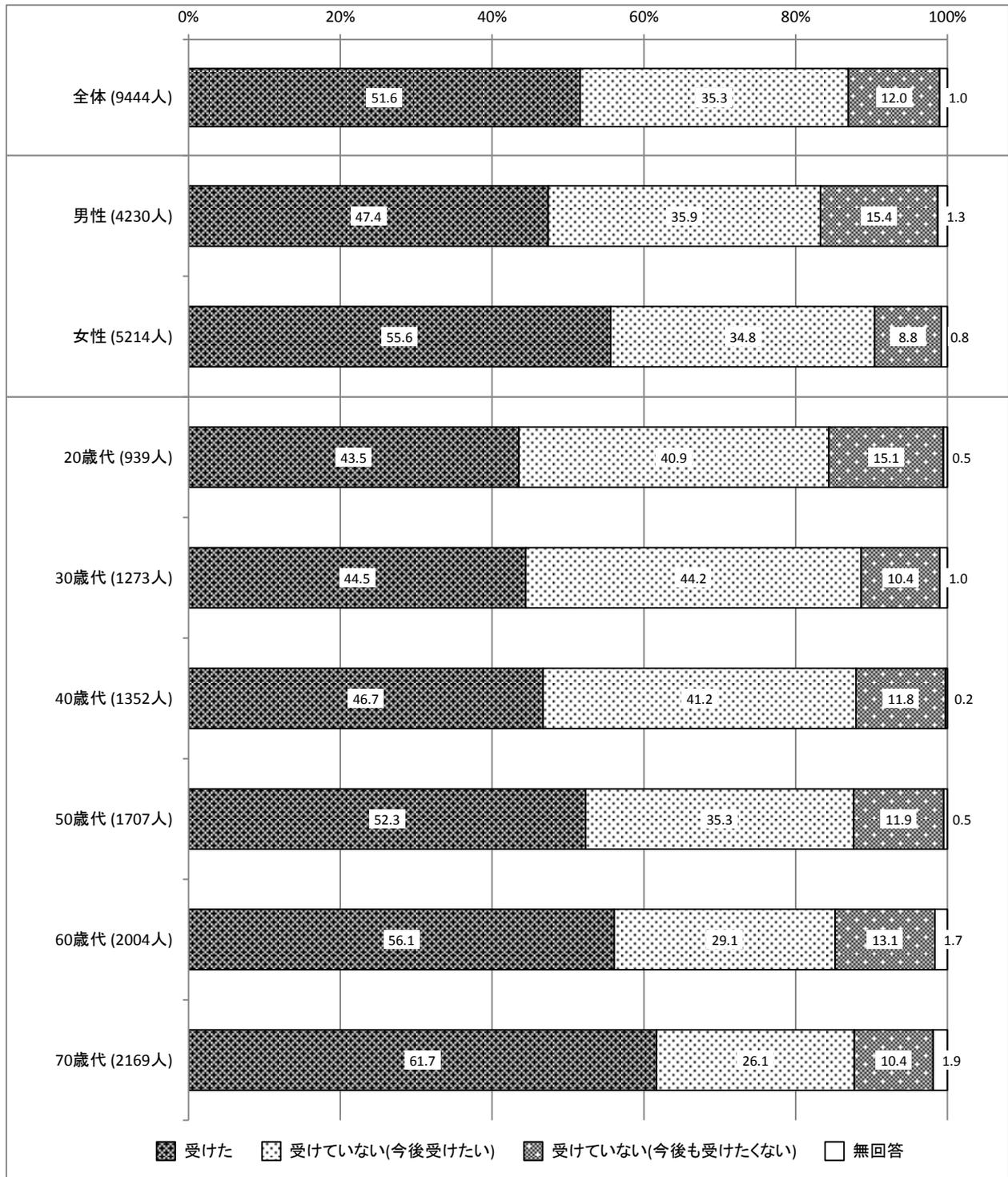
年代別では、40歳代より年代が高いほど「何でもかんで食べることができる」と回答した割合は低い傾向であった。

【参考値】

平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査について 「何でもかんで食べることができる」 82.1%



問 24 あなたは、この1年間に、歯科検診を受けましたか。(○は1つ)



「受けた」と回答した割合は全体の 51.6%であり、「受けていない(今後受けたい)」という回答は全体の 35.3%であった。

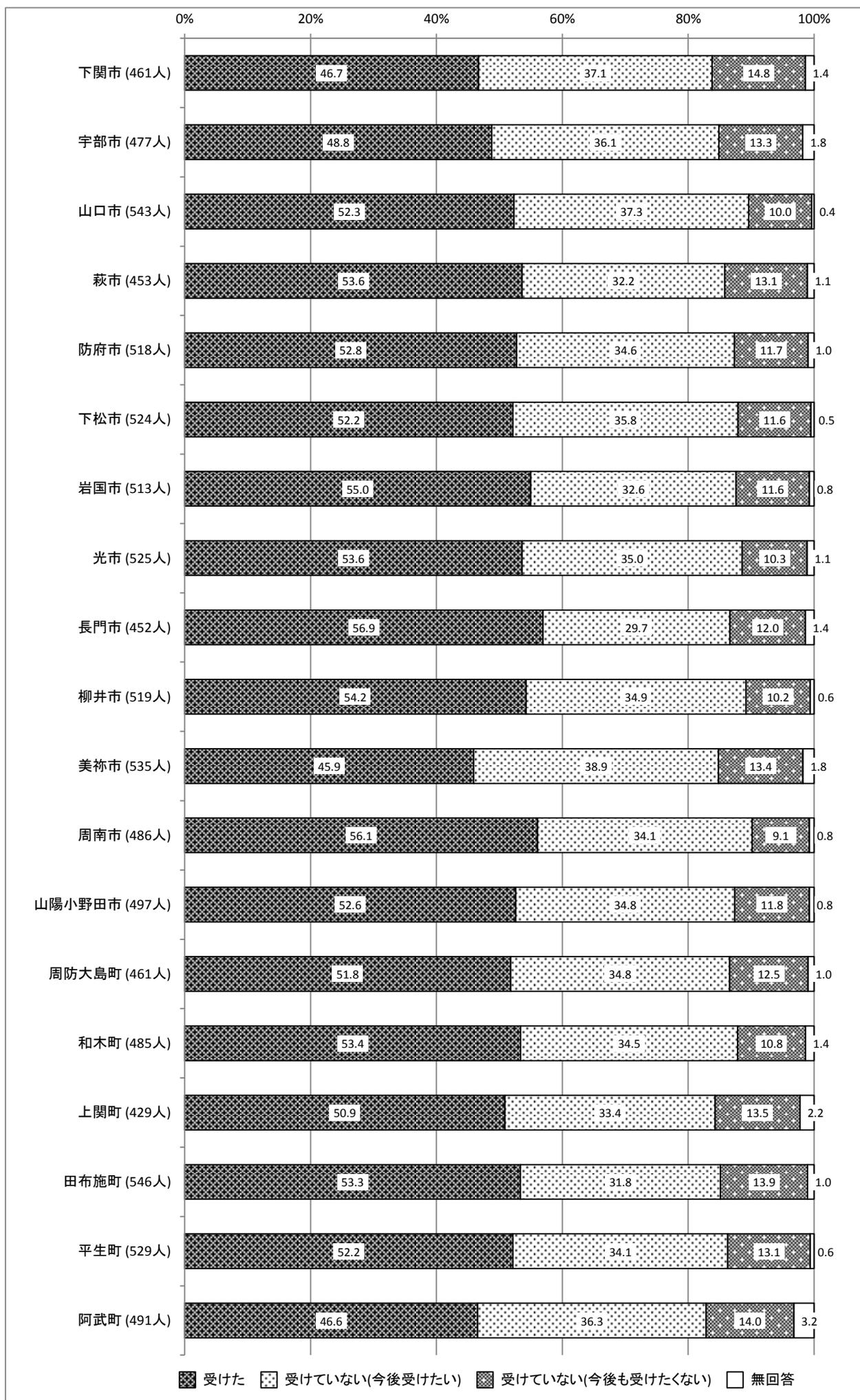
性別では、男性より女性において「受けた」と回答した割合は高かった。

年代別では、年代が高いほど「受けた」と回答した割合が高い傾向であった。

【参考値】

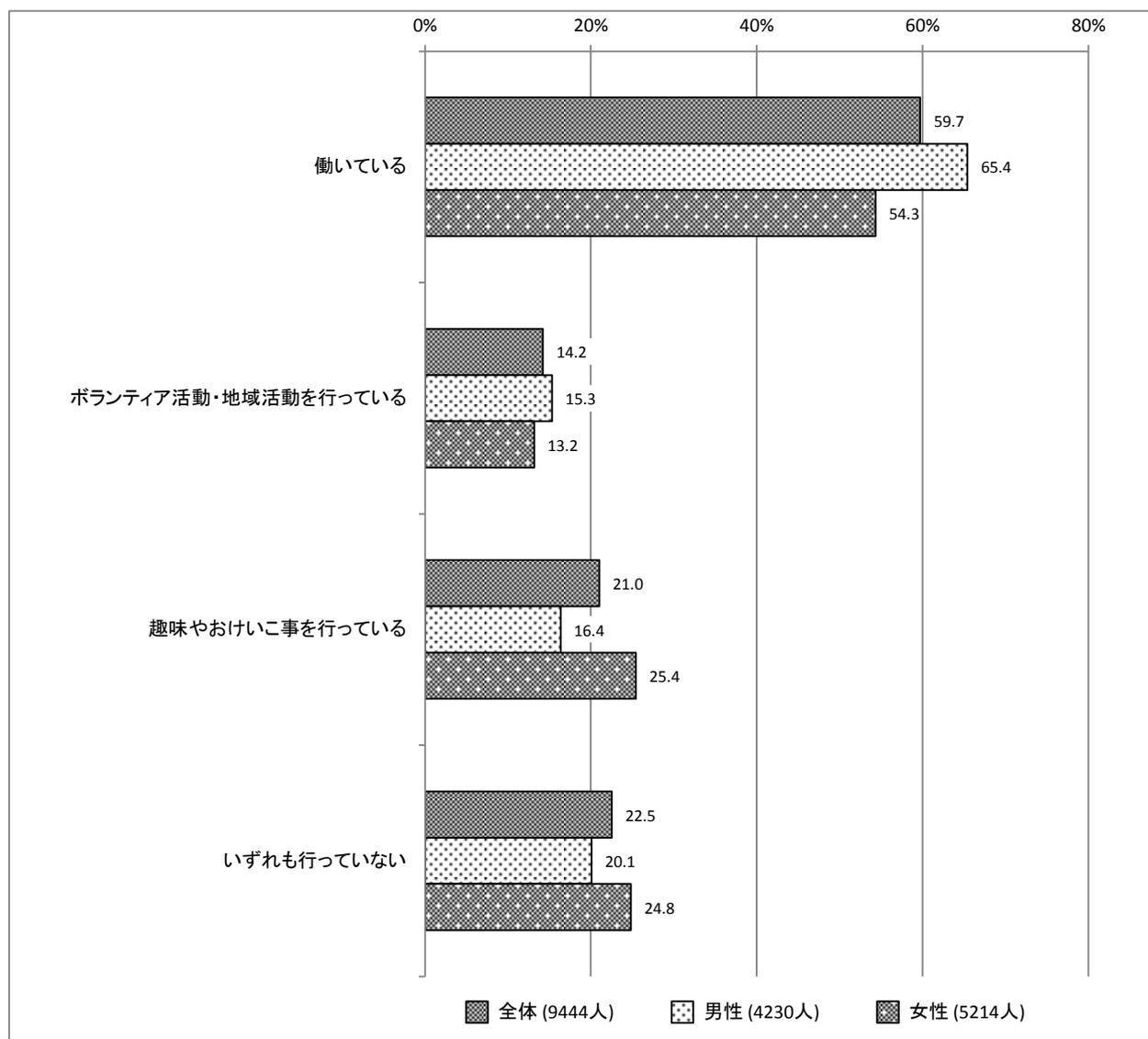
平成 26 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「受けた」 46.6%

「受けていない(今後受けたい)」 39.8%



(9) 健康を支え、守るための社会環境の整備について

問 25 あなたは現在働いていますか。または、ボランティア活動、地域社会活動(町内会、地域行事等)、趣味やおけいこ事を行っていますか。(あてはまるものすべてに○)



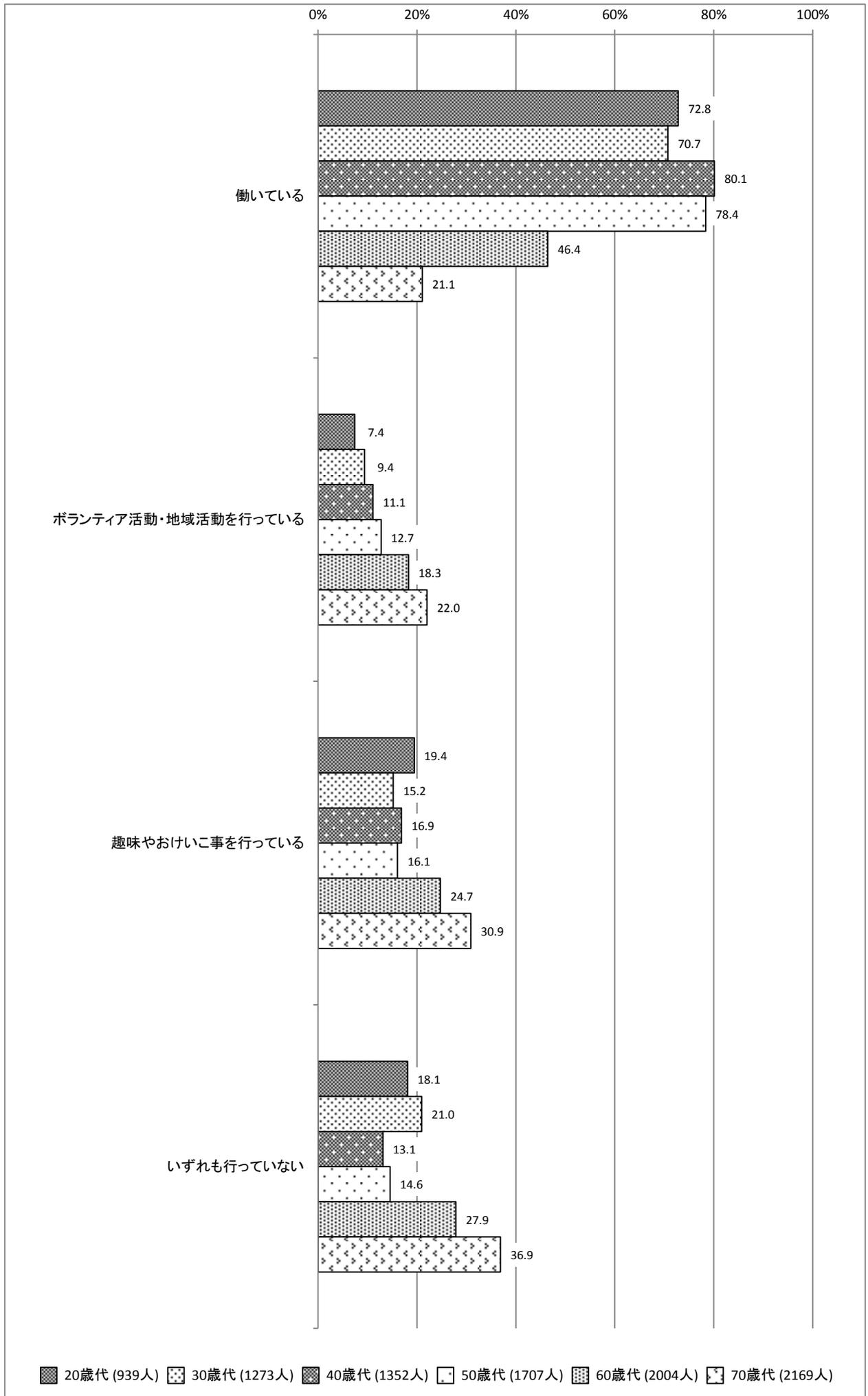
「働いている」と回答した割合は全体の 59.7%、「ボランティア活動、地域活動を行っている」と回答した割合は全体の 14.2%、「趣味やおけいこ事を行っている」と回答した割合は全体の 21.0%であった。

性別では、「働いている」と回答した割合は女性より男性において高く、「趣味やおけいこ事を行っている」と回答した割合は男性より女性において高かった。

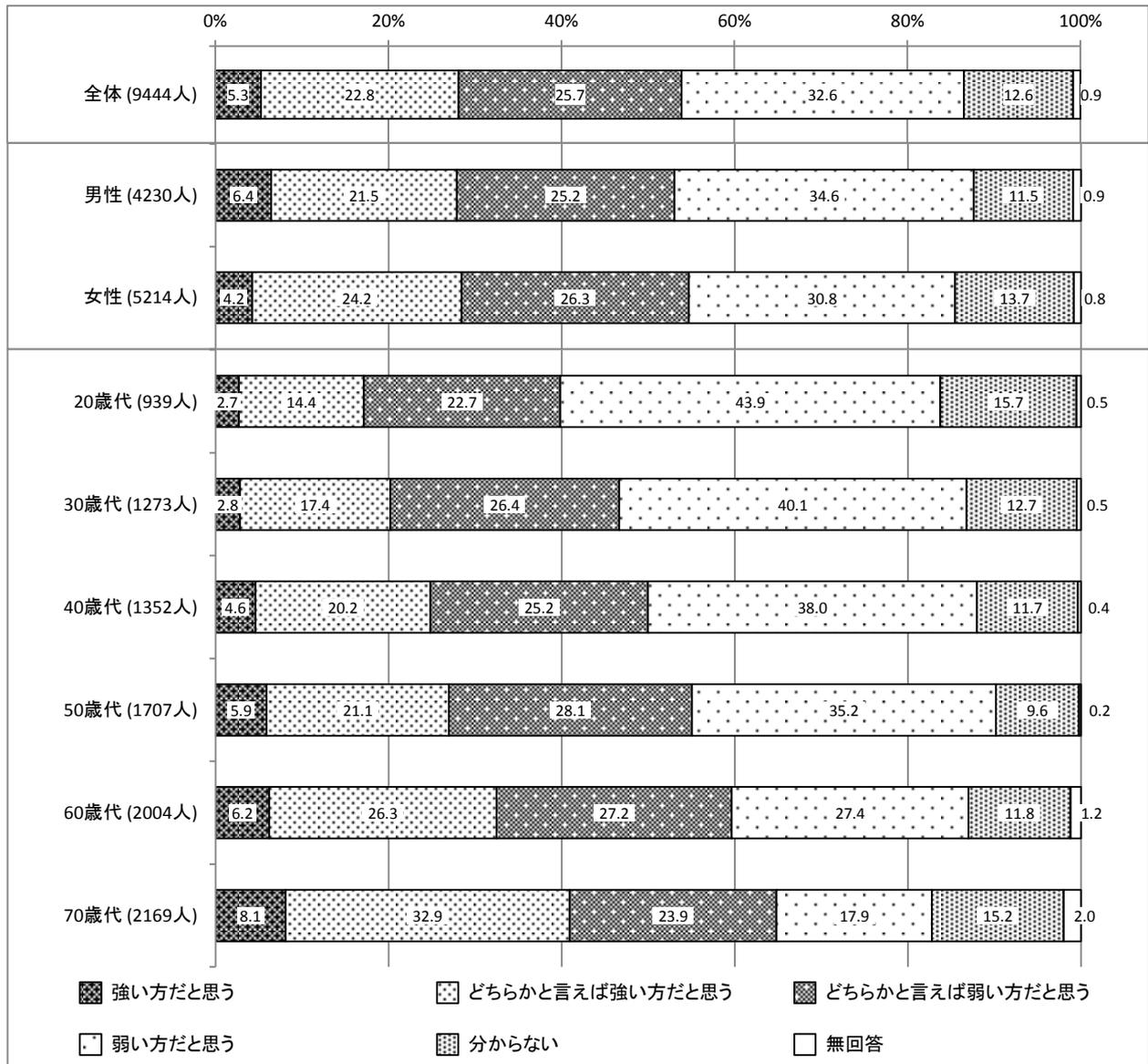
年代別では、「働いている」と回答した割合は 60 歳代、70 歳代において低く、「ボランティア活動、地域活動を行っている」と回答した割合は年代が高いほど高い傾向であり、「趣味やおけいこ事を行っている」と回答した割合は 60 歳代、70 歳代において高かった。

【参考値】

平成 26 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「いずれも行っていない」 20.9%
 平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「いずれも行っていない」 21.7%



問 26 あなたは、自分と地域の人たちのつながりについてどう思いますか。(〇は1つ)



「強い方だと思う」あるいは「どちらかと言えば強い方だと思う」と回答した割合は全体の 28.1%であった。

性別では、違いがみられなかった。

年代別では、「強い方だと思う」あるいは「どちらかと言えば強い方だと思う」と回答した割合は年代が高いほど高い傾向であった。

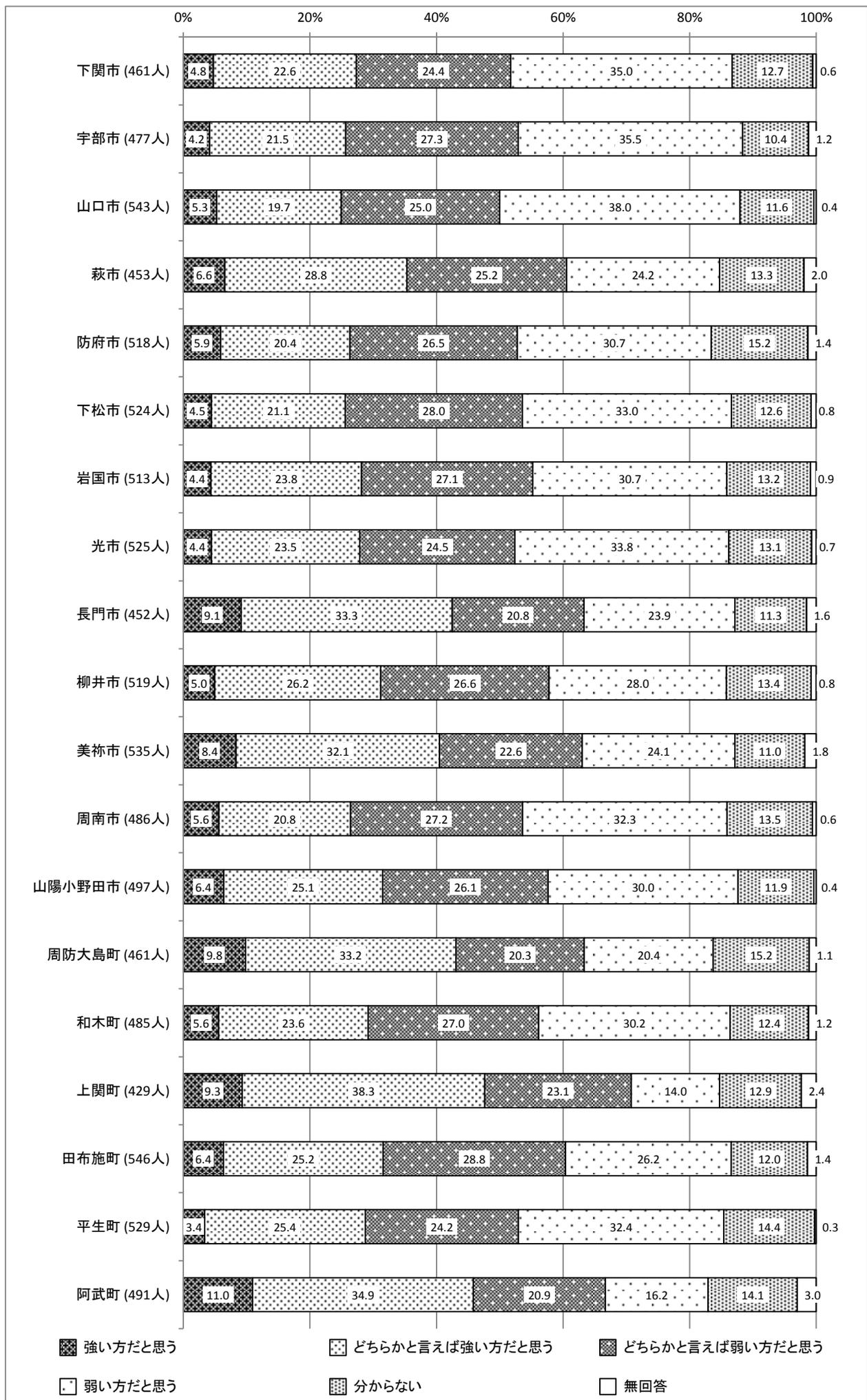
【参考値】

平成 26 年度 健康づくりに関する県民意識調査

「強い方だと思う」「どちらかと言えば強い方だと思う」 計 23.5%

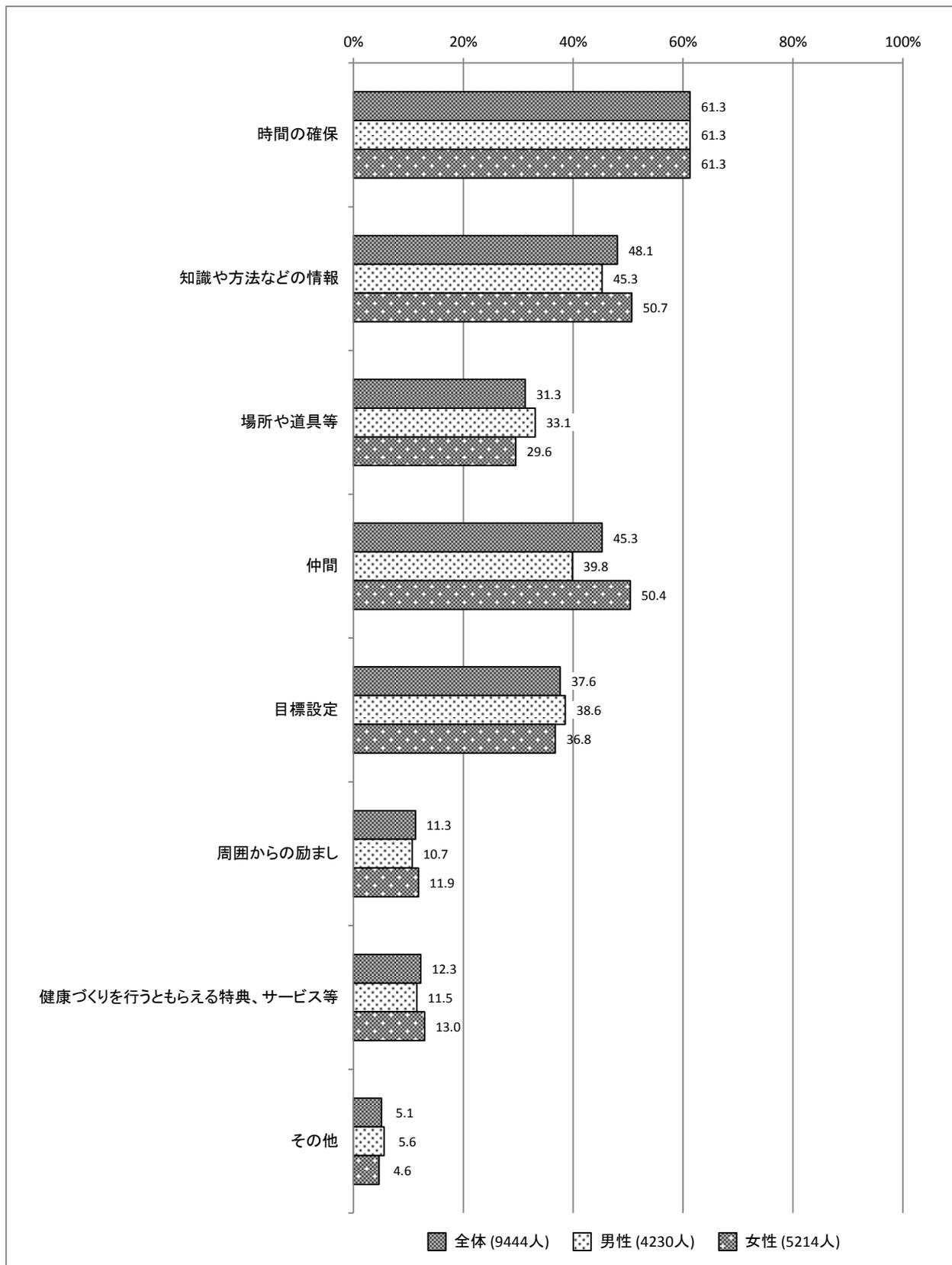
平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査

「強い方だと思う」「どちらかと言えば強い方だと思う」 計 27.6%



(10) 健康づくりについて

問 27 健康でいるための取組を継続するために必要なものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



回答の多い上位 3 項目は「時間の確保」61.3%、「知識や方法などの情報」48.1%、「仲間」45.3%であった。

性別においても回答の多い上位 3 項目は同様であったが、「仲間」が必要と回答した割合は、男性より女性において高かった。

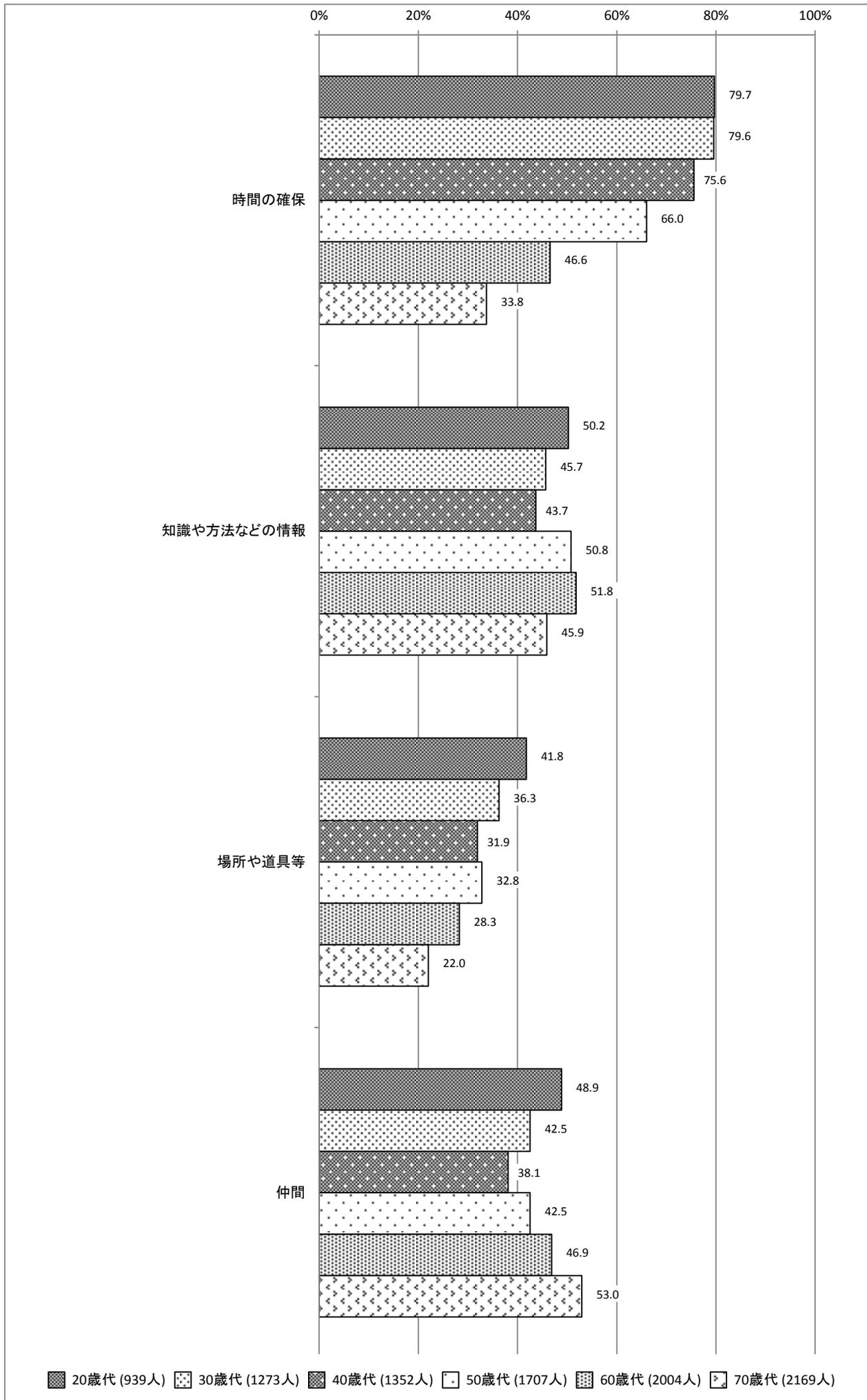
年代別では、年代が低いほど「時間の確保」が必要と回答した割合が高い傾向であった。

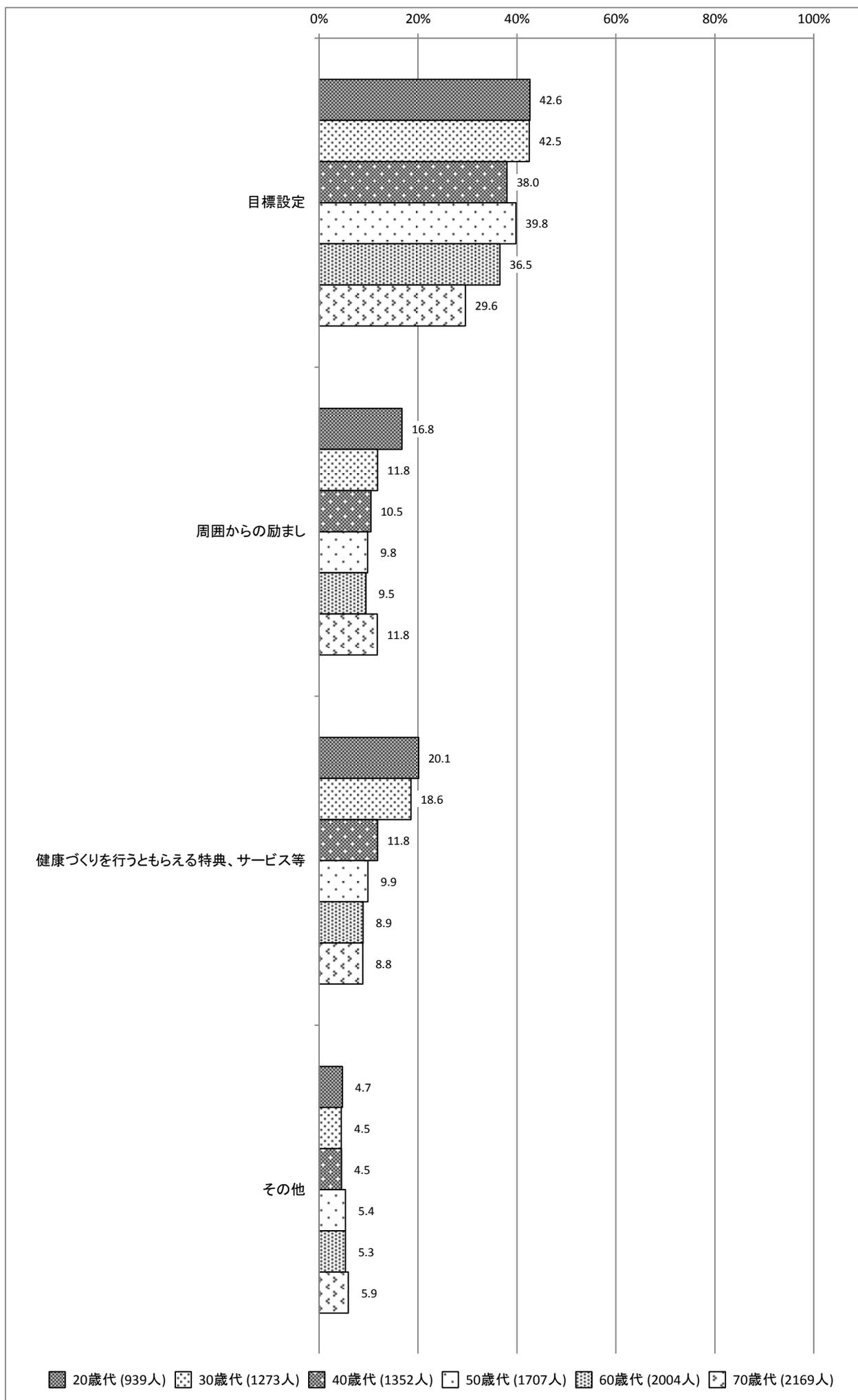
また、「健康づくりを行うともらえる特典、サービス等」が必要と回答した割合は 20 歳代、30 歳代において他の年代より高かった。

【参考値】

平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査

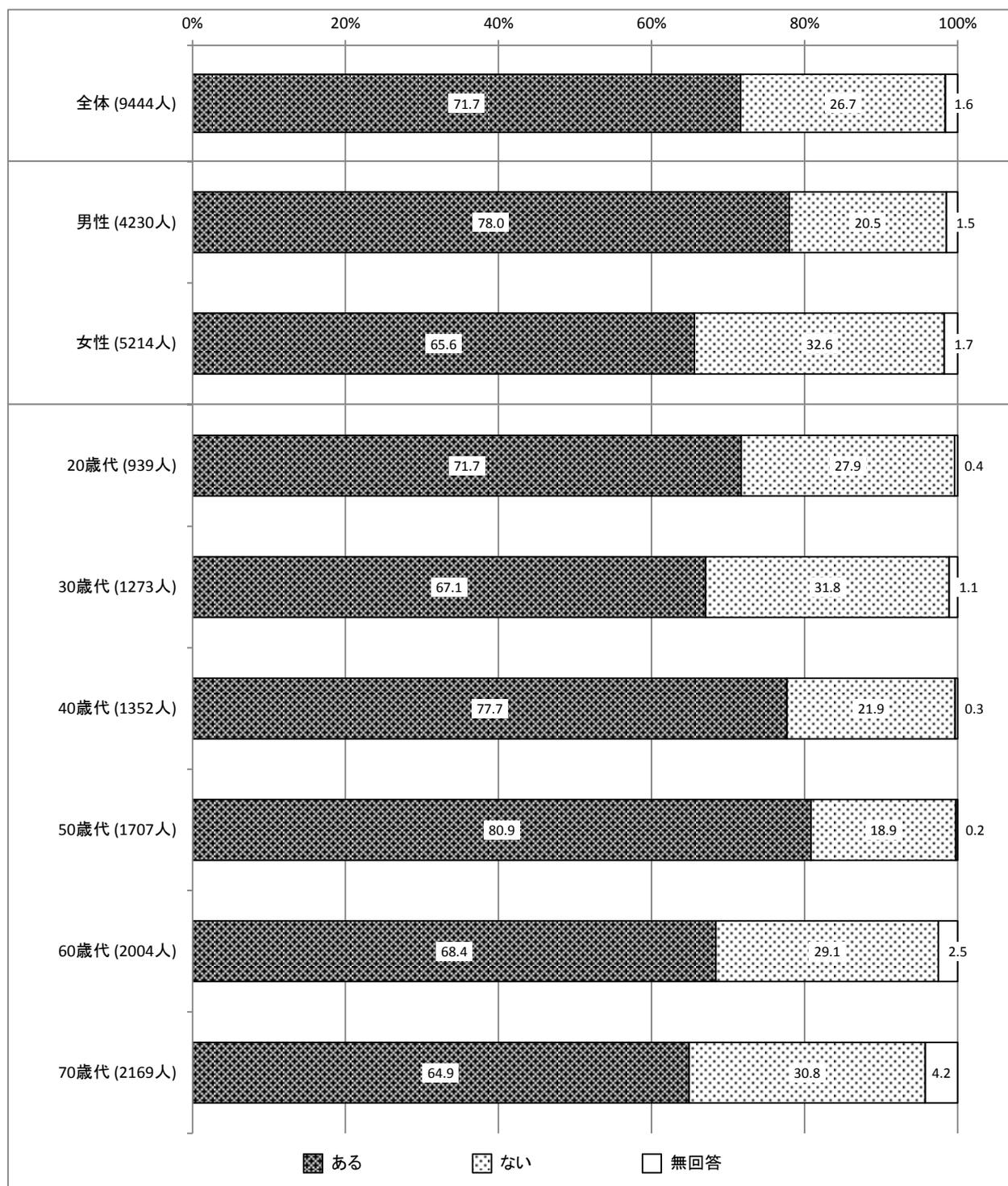
上位 3 項目 「時間の確保」54.0% 「知識や方法などの情報」42.4% 「目標設定」32.8%





(11) 健診(検診)の受診について

問 28 あなたは過去 1 年間に、健診等(健康診断、健康診査および人間ドック)を受けたことがありますか。
(○は 1 つ)



「受けた(ある)」と回答した割合は全体の 71.7%、「受けていない(ない)」と回答した割合は全体の 26.7%であった。

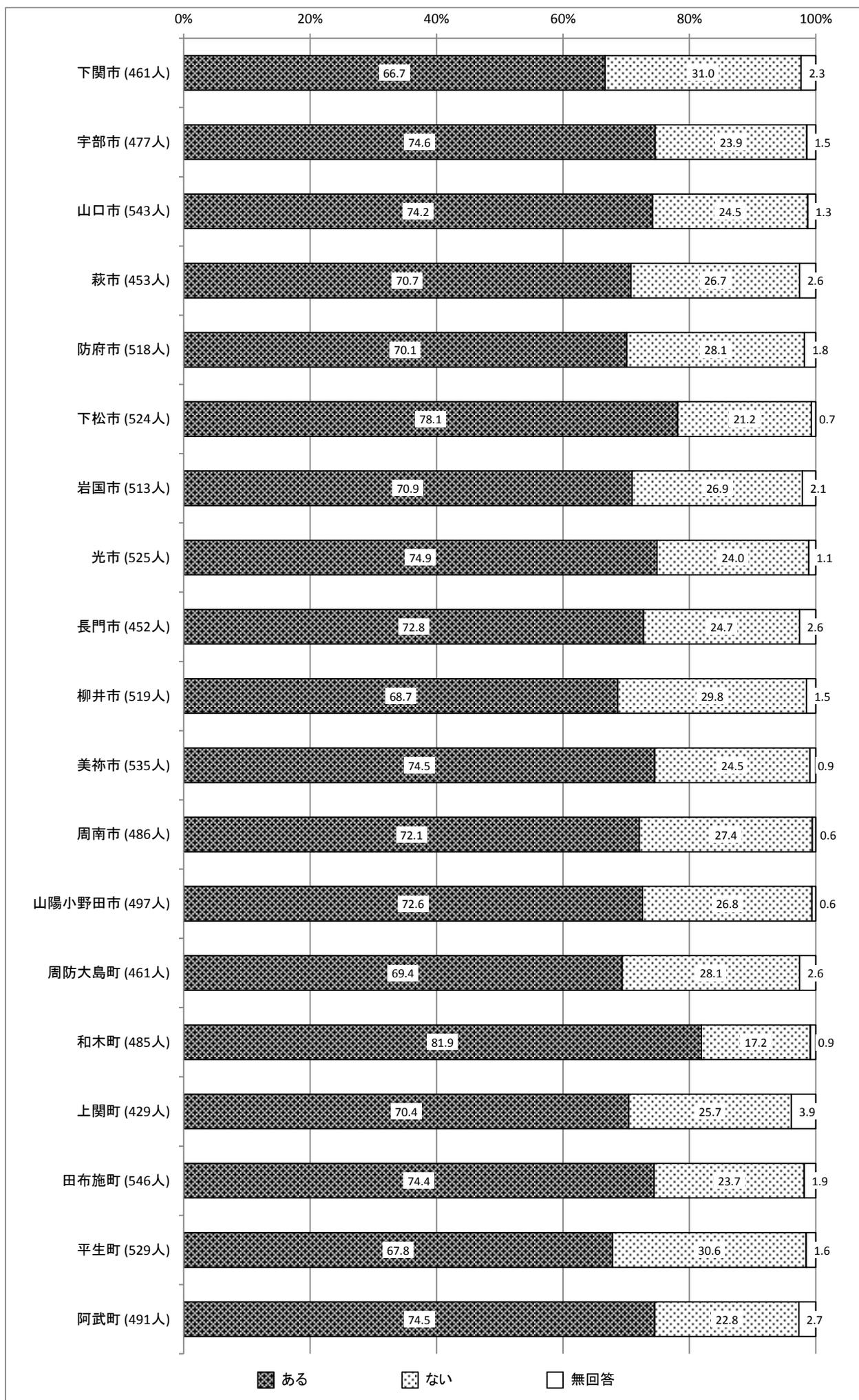
性別では、女性より男性において「受けた」と回答した割合が高かった。

年代別では、40歳代、50歳代において他の年代より「受けた」と回答した割合が高かった。

【参考値】

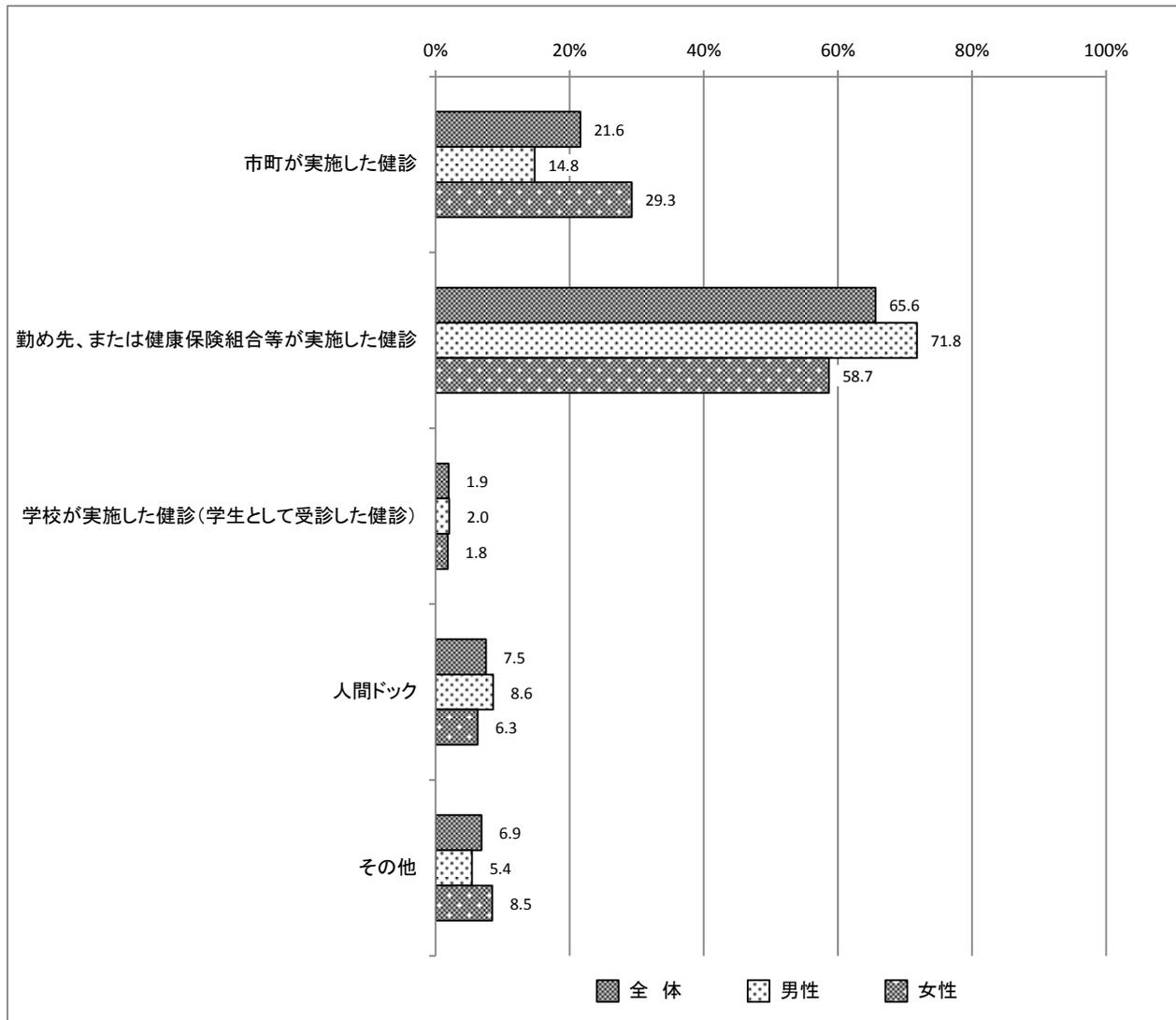
平成 26 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「ある」 67.2%

平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査 「ある」 72.1%



問 28-1 どのような機会に健診等を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

※ 問 28 の選択肢『ある』を選択した人のみ回答



問 28 で健診等を「受けた(ある)」と回答した者の健診機会の上位は「勤め先または健康保険組合等が実施した健診」65.6%、「市町が実施した健診」21.6%であった。

性別においても健診機会の上位は同様の傾向であった。

年代別では、年代が高いほど「市町が実施した健診」と回答した割合が高い傾向があり、年代が低いほど「勤め先または健康保険組合等が実施した健診」と回答した割合が高い傾向があった。

【参考値】

平成 26 年度 健康づくりに関する県民意識調査

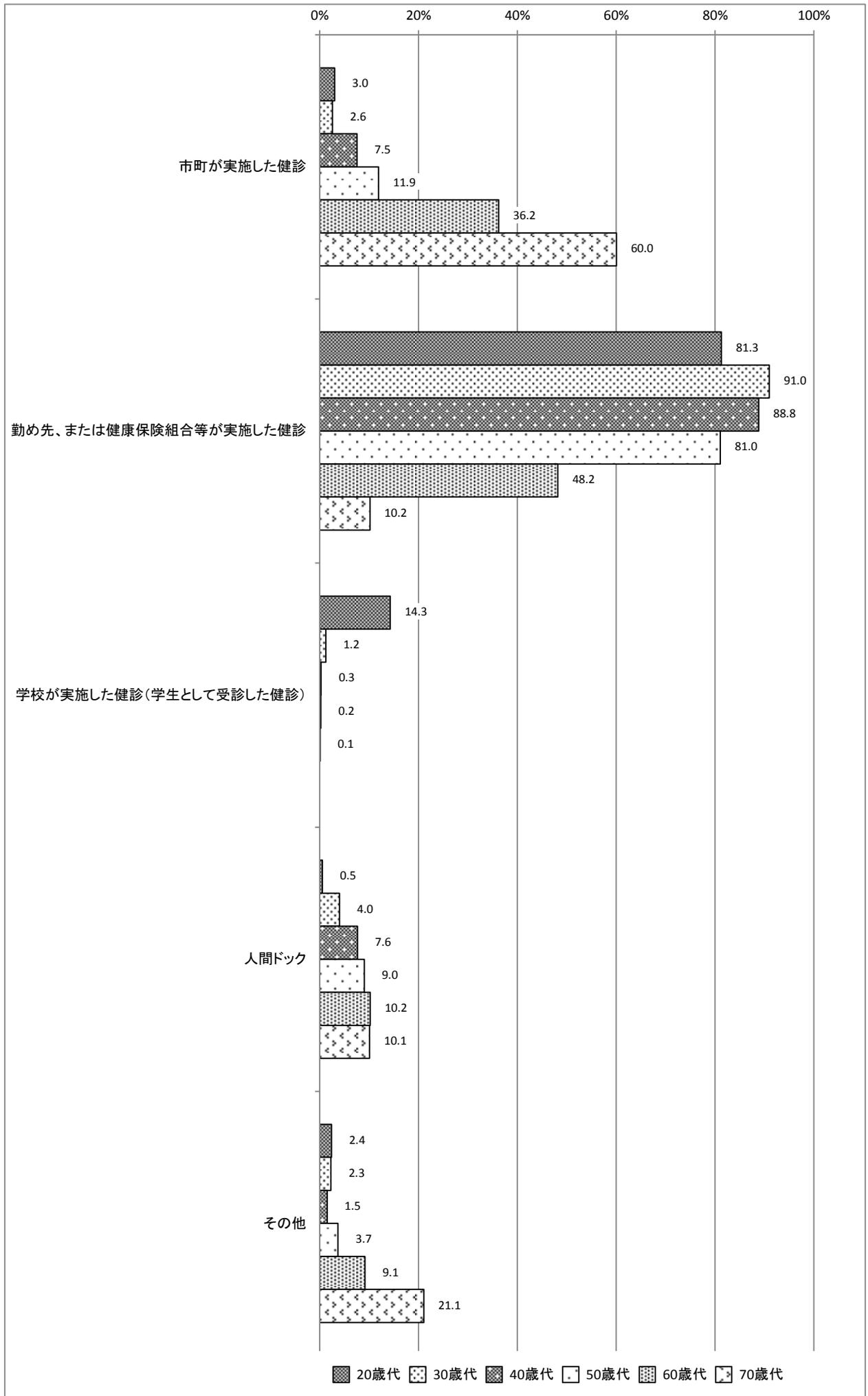
「市町が実施した健診」22.5% 「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」61.3%

「学校が実施した健診」2.4% 「人間ドック」8.5%

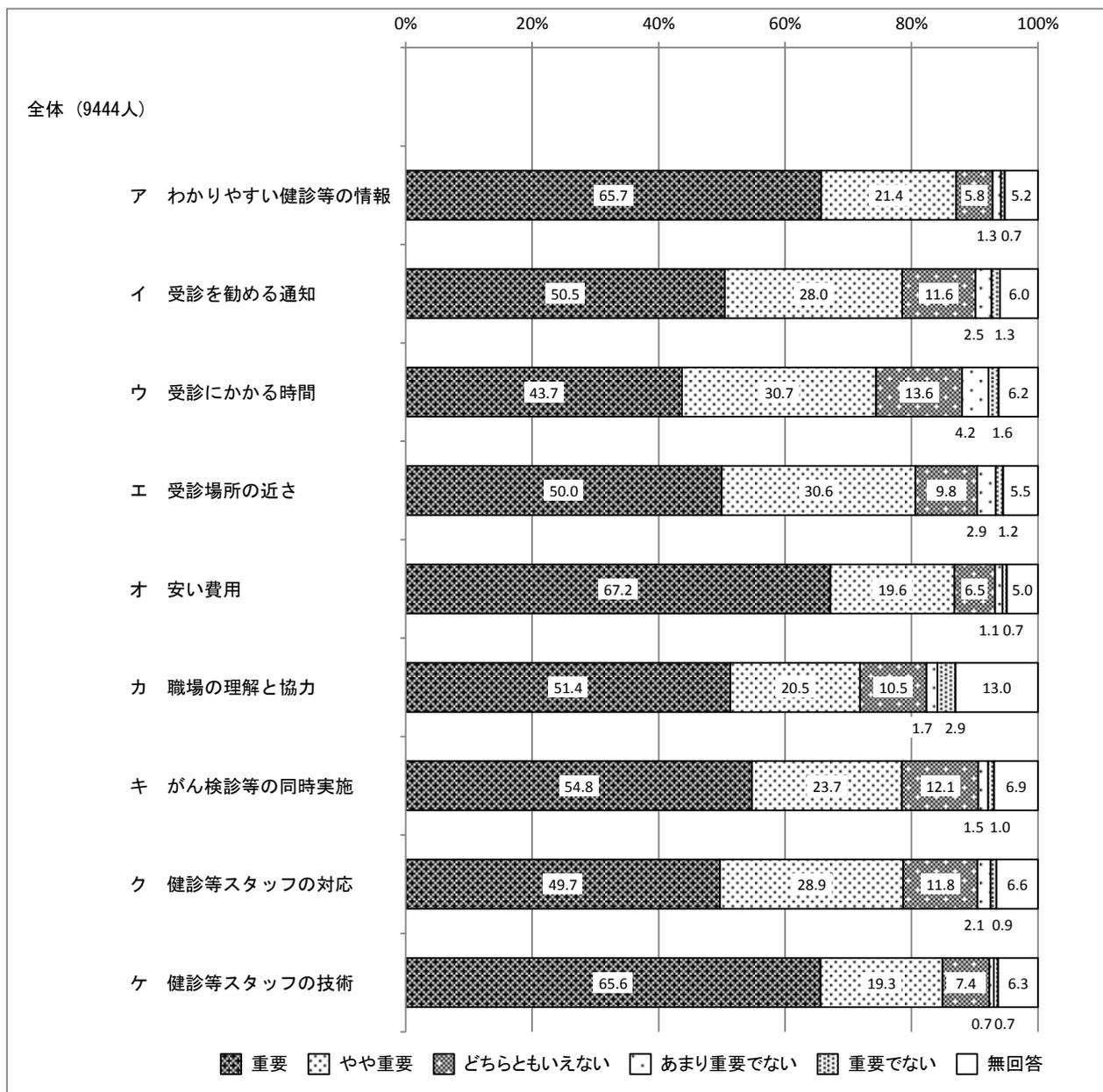
平成 27 年度 健康づくりに関する県民意識調査

「市町が実施した健診」22.1% 「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」64.5%

「学校が実施した健診」2.0% 「人間ドック」8.1%



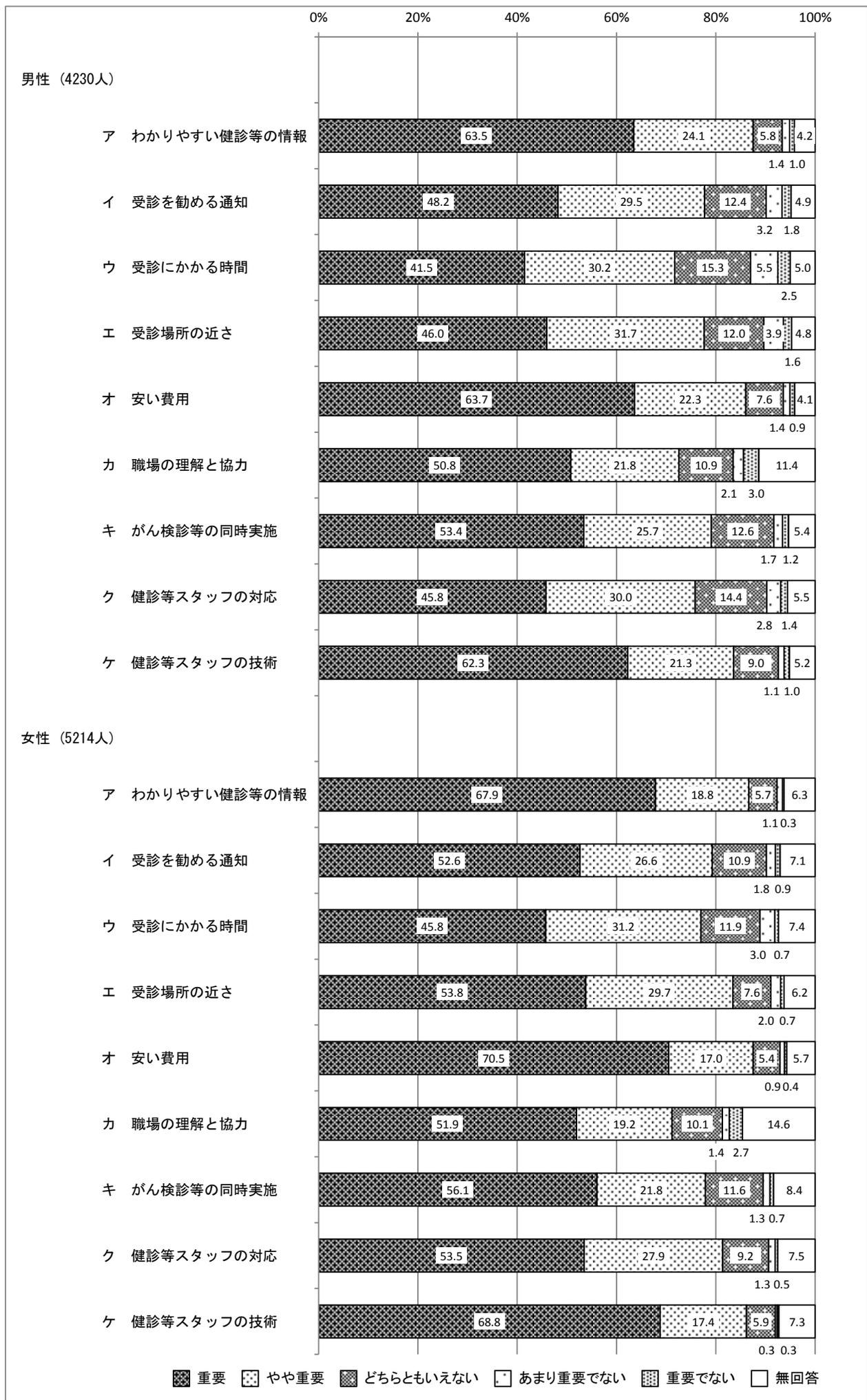
問 29 健診等(健康診断、健康診査および人間ドック)を受けるときに、次の項目はどのくらい重要だと思いますか。(各項目につき○は1つ)

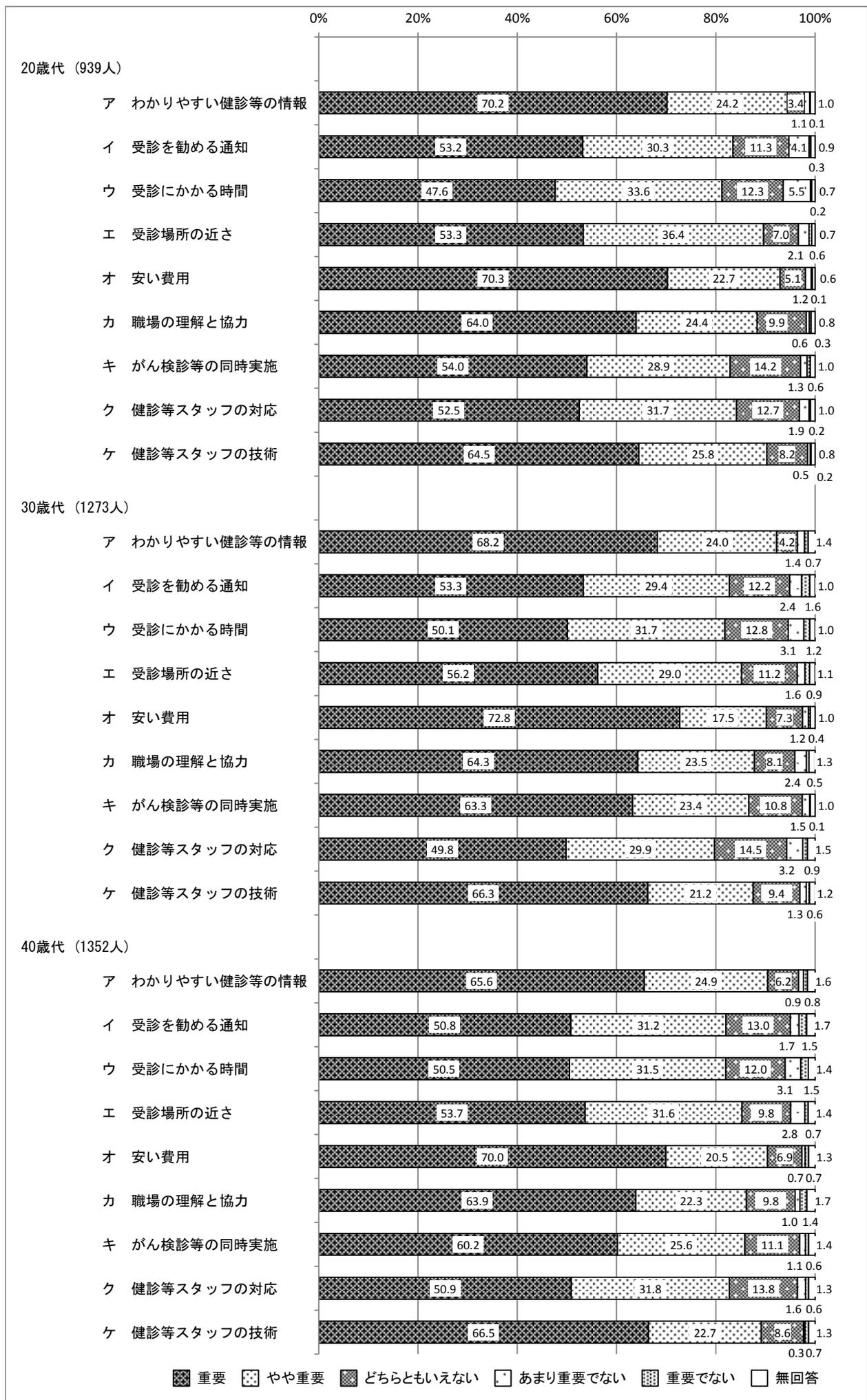


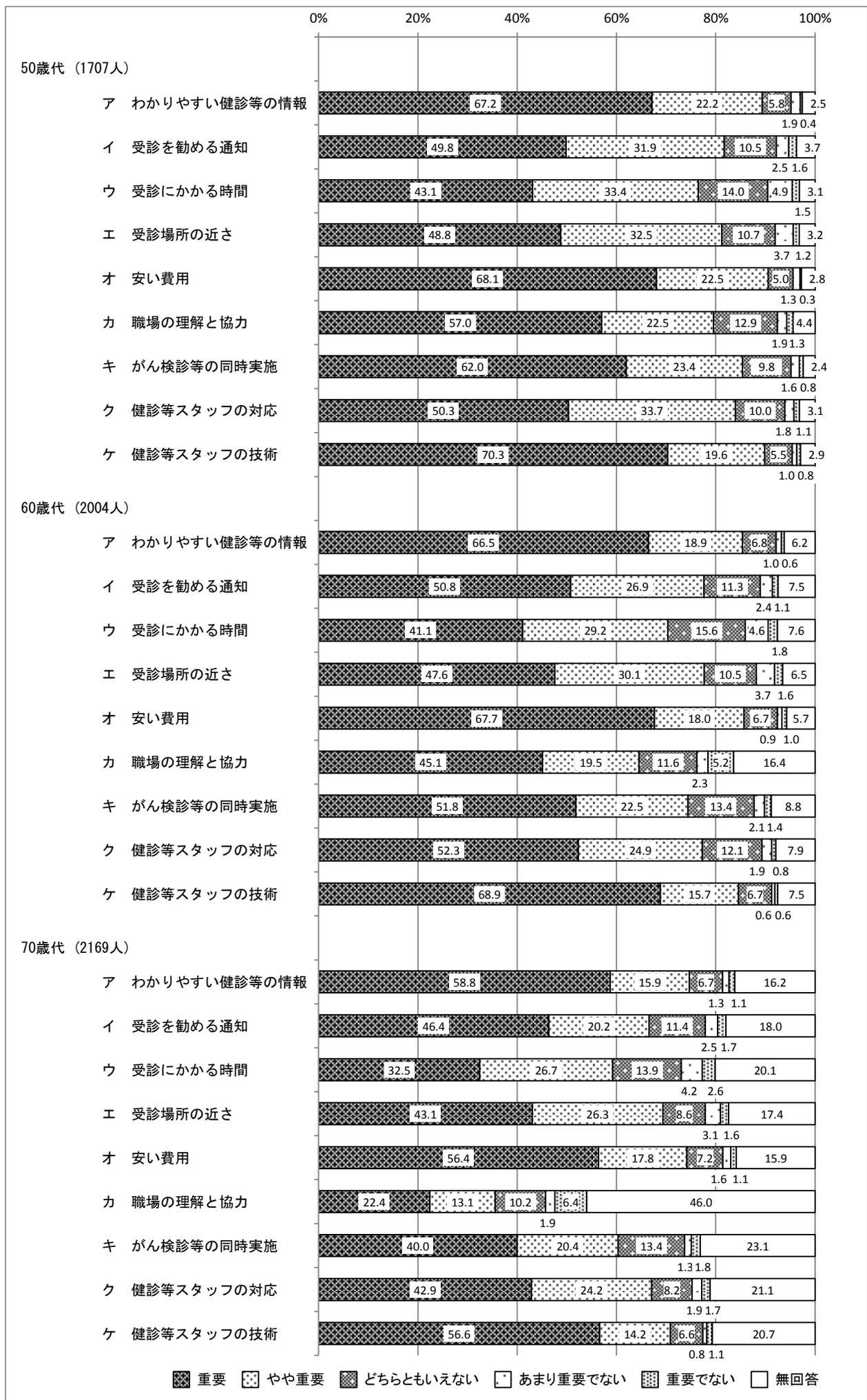
「重要」あるいは「やや重要」だと思う項目の上位は「わかりやすい健診等の情報」87.1%、「安い費用」86.8%、「健診等スタッフの技術」84.9%であった。

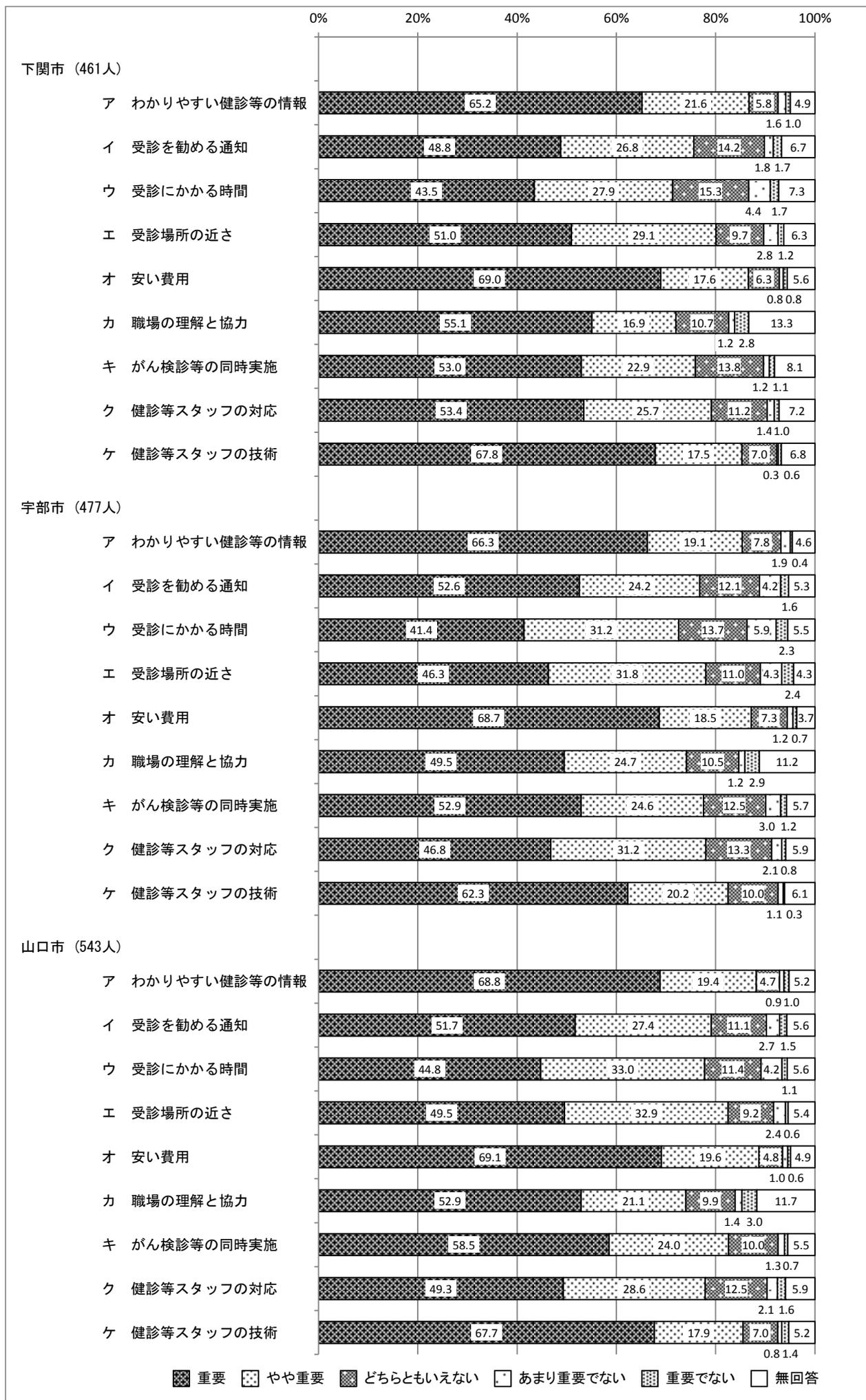
性別、年代別においても「重要」あるいは「やや重要」だと思う項目の上位は同様であった。

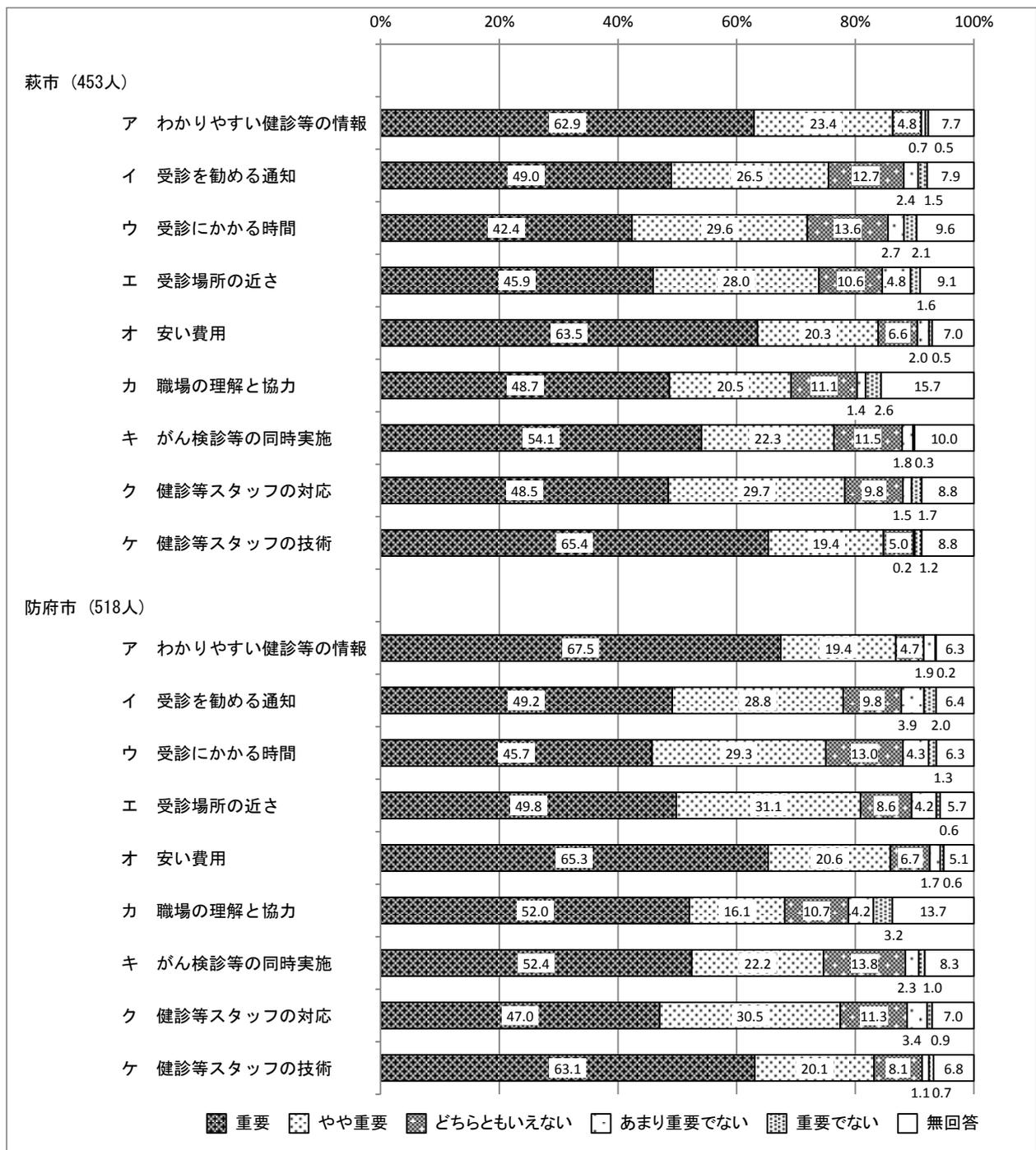
年代別では、20歳代から40歳代において「受診場所の近さ」、「職場の理解と協力」、「がん検診等の同時実施」を「重要」あるいは「やや重要」と回答した割合が高い傾向であった。

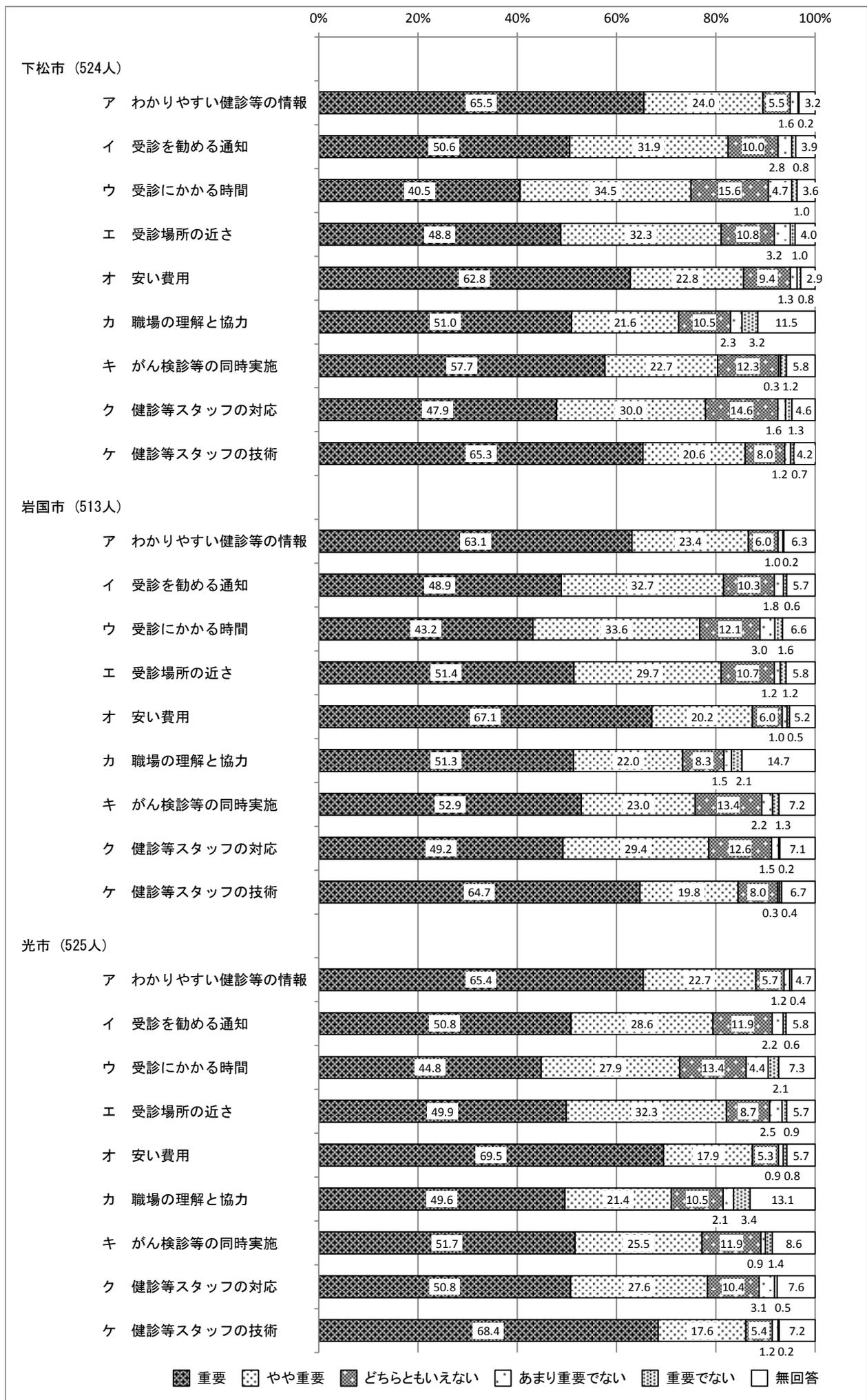


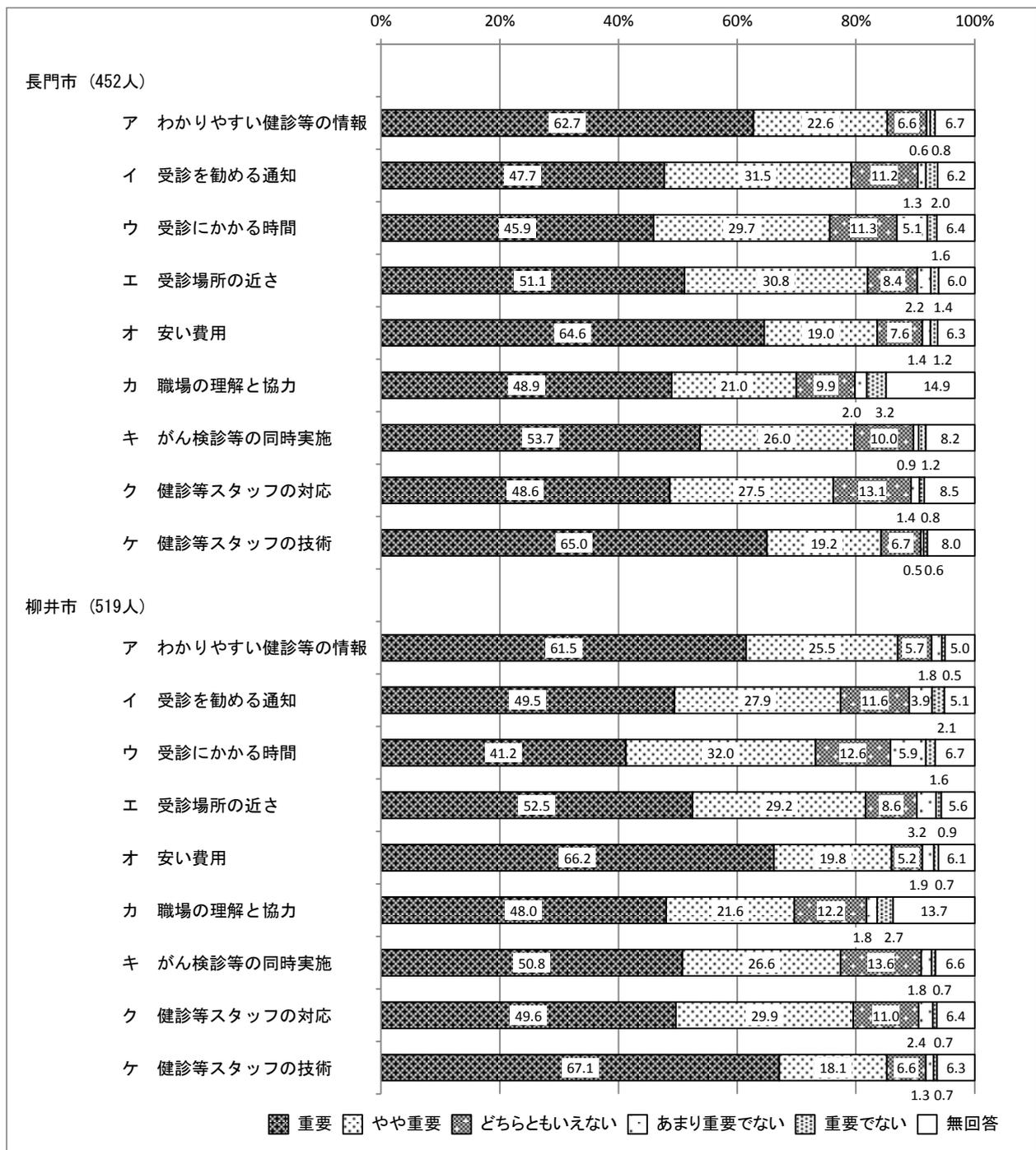


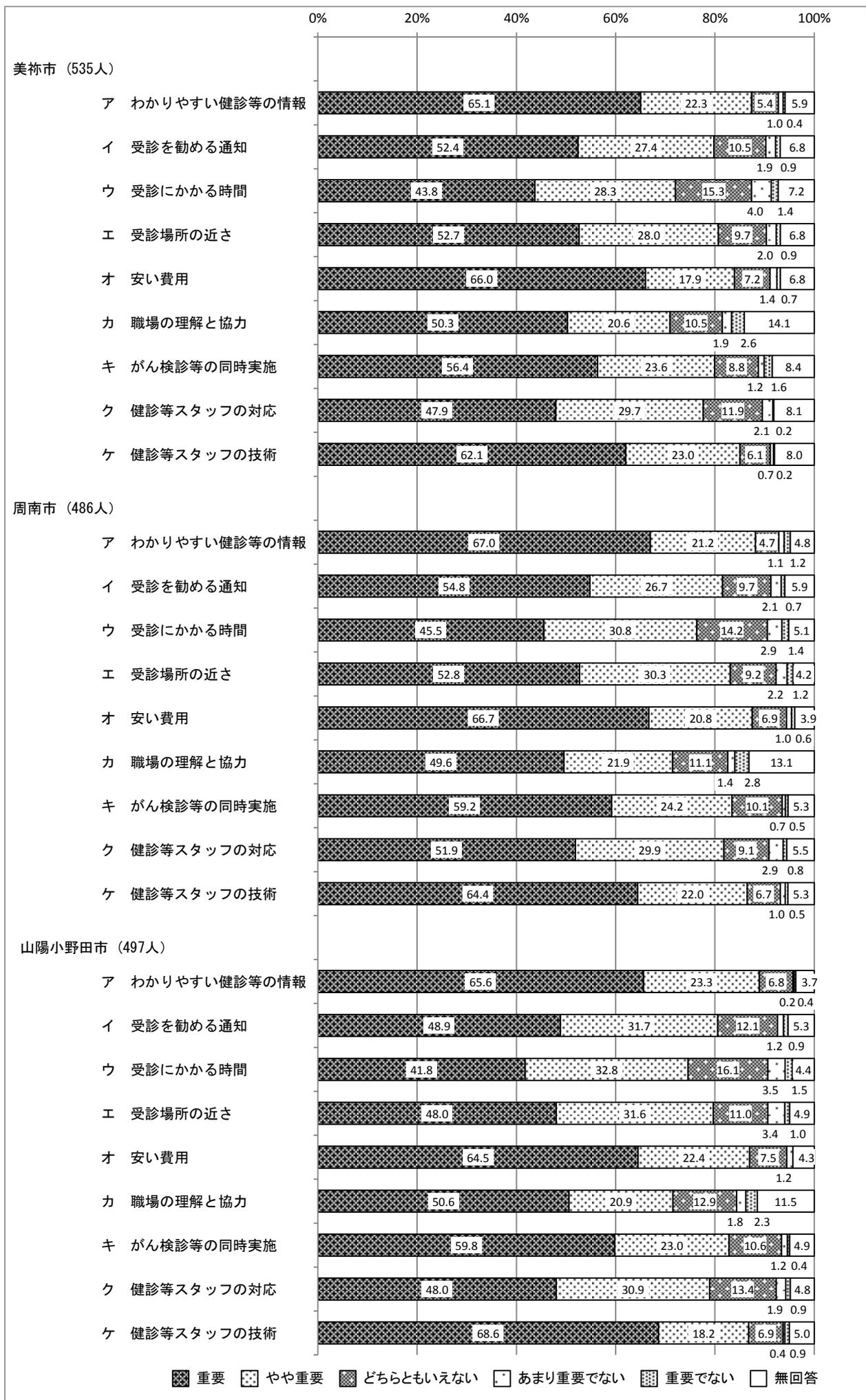


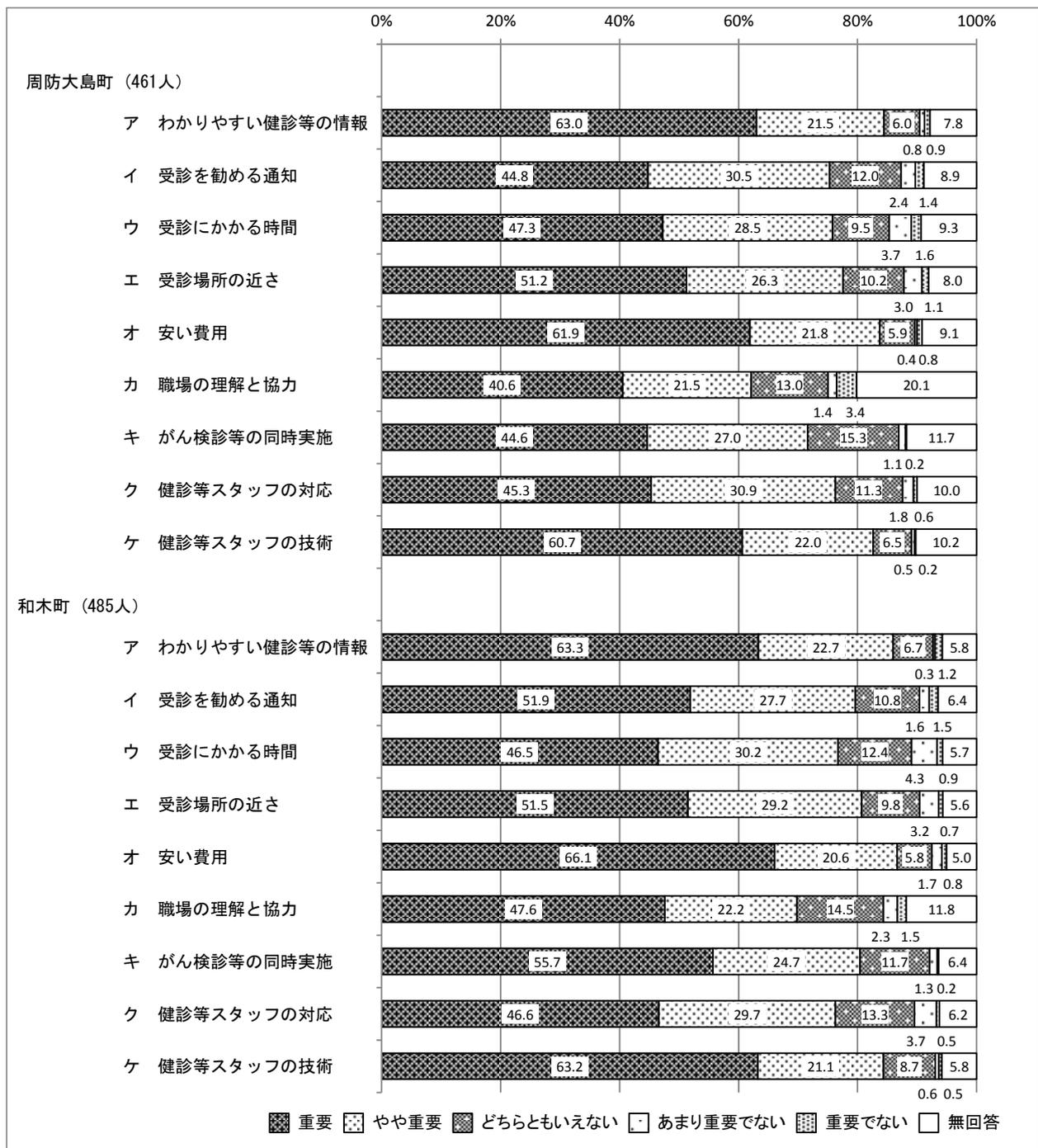


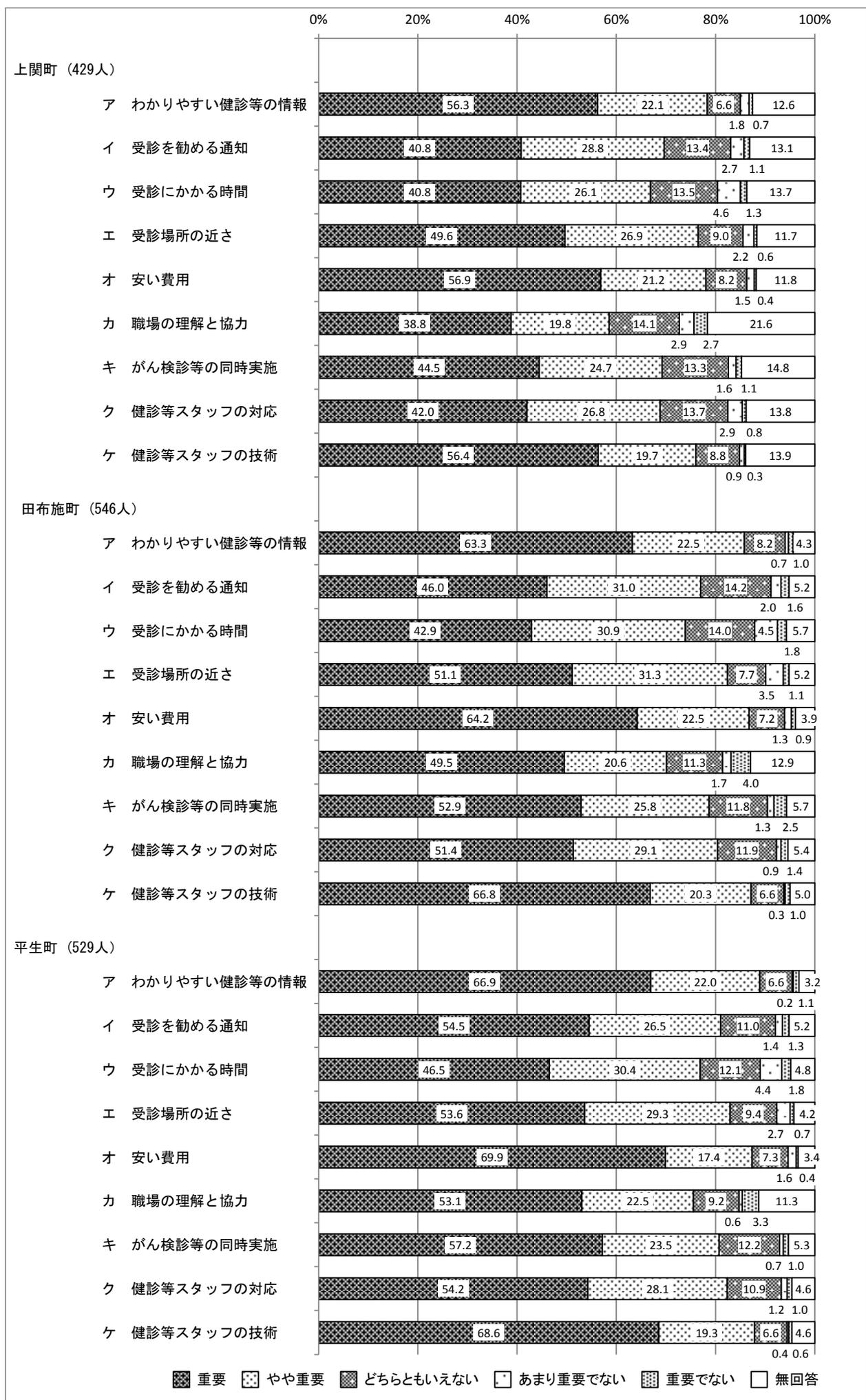


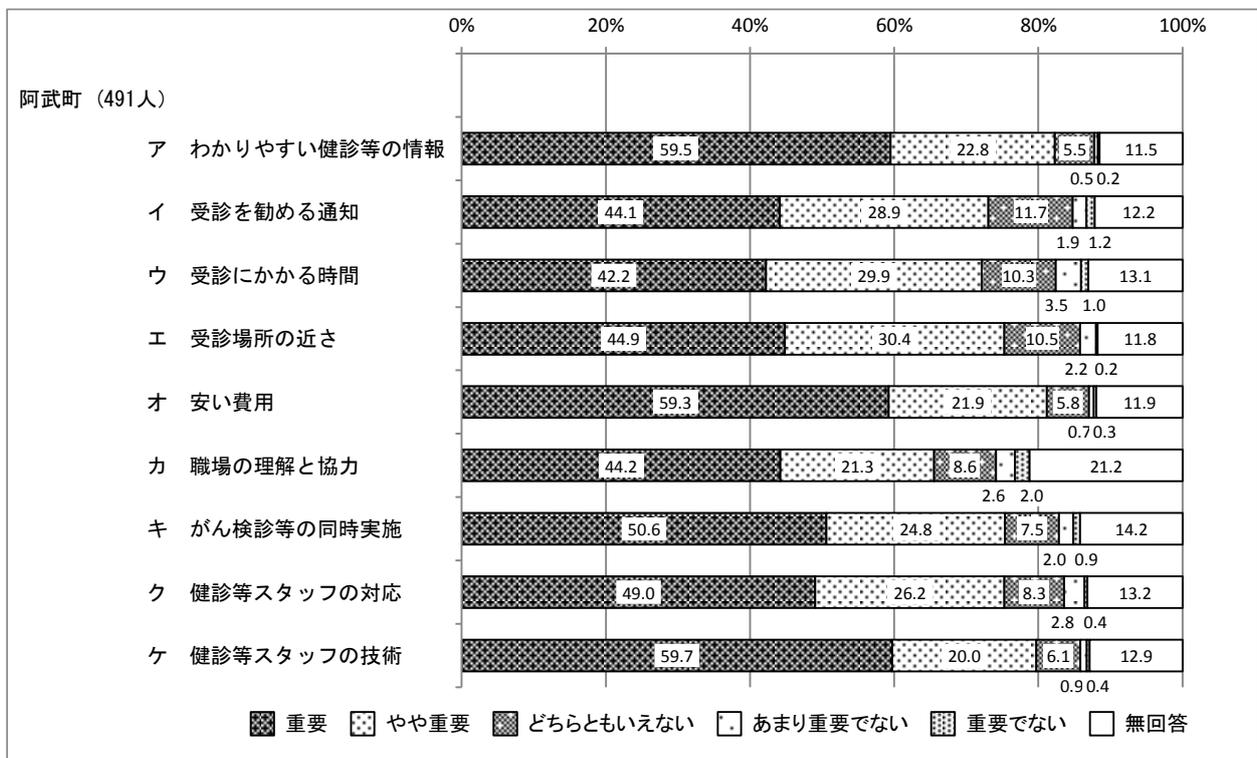




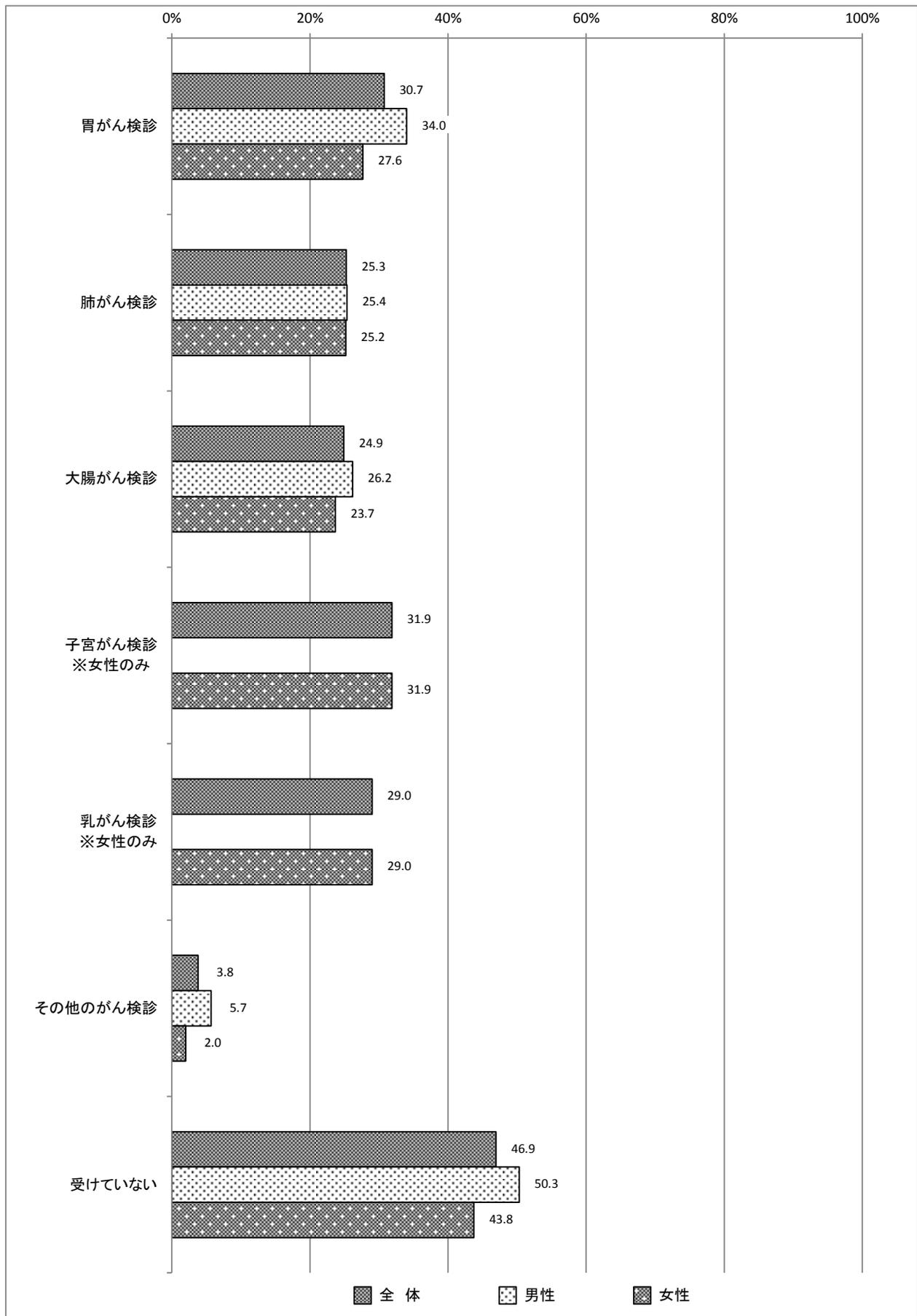








問 30 あなたは過去 1 年間(子宮がん検診(子宮頸がん検診)、乳がん検診は過去 2 年間)に、以下のがん検診を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)



受診したがん検診の割合は「胃がん検診」30.7%、「肺がん検診」25.3%、「大腸がん検診」24.9%、「子宮がん検診(女性のみ)」31.9%、「乳がん検診(女性のみ)」29.0%であり、「受けていない」という回答は全体の46.9%であった。

性別では、女性より男性において「胃がん検診」、「大腸がん検診」を受診したと回答した割合が高かった。

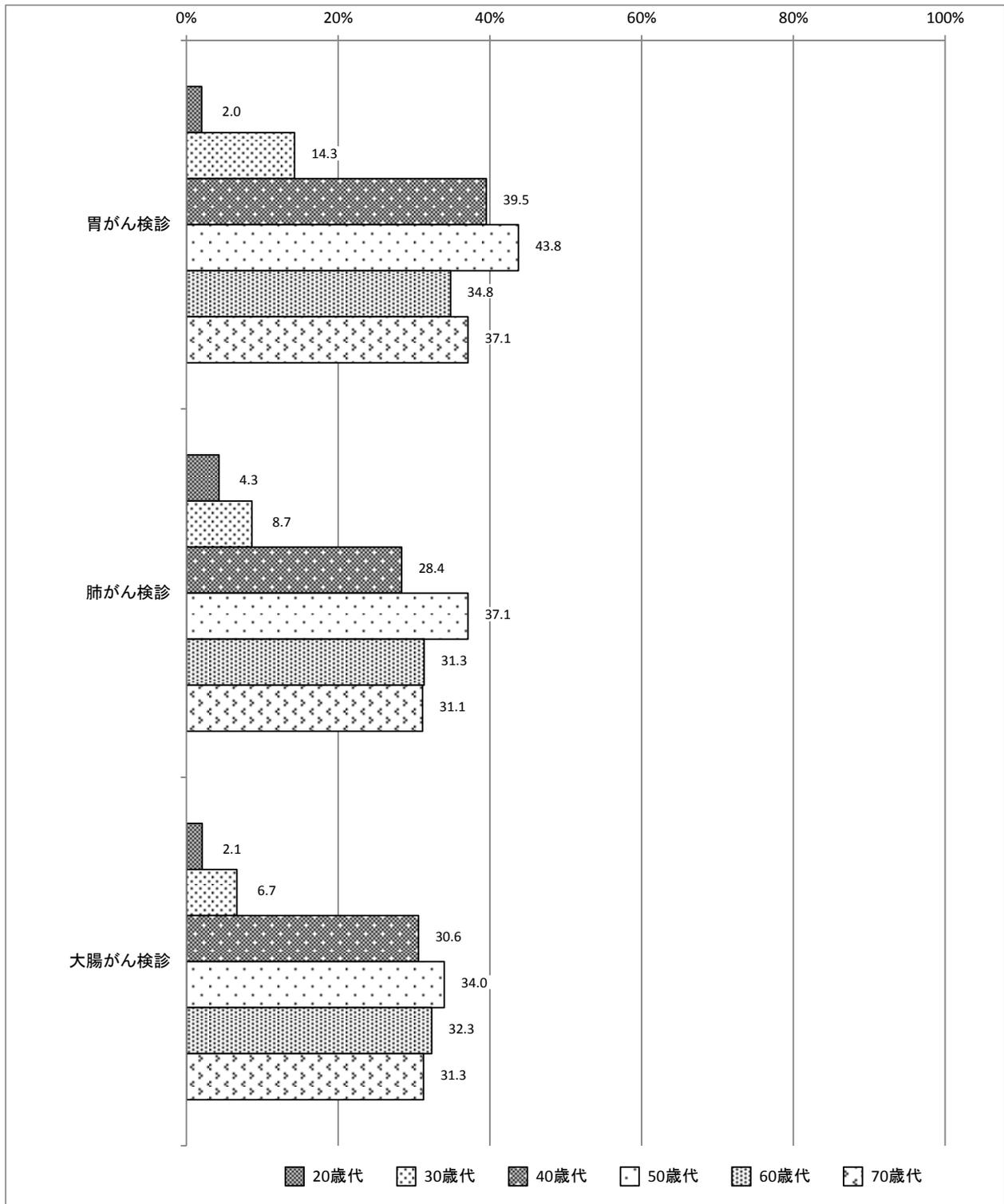
年代別では、20歳代、30歳代において他の年代より「胃がん検診」、「肺がん検診」、「大腸がん検診」を受診したと回答した割合が低かった。

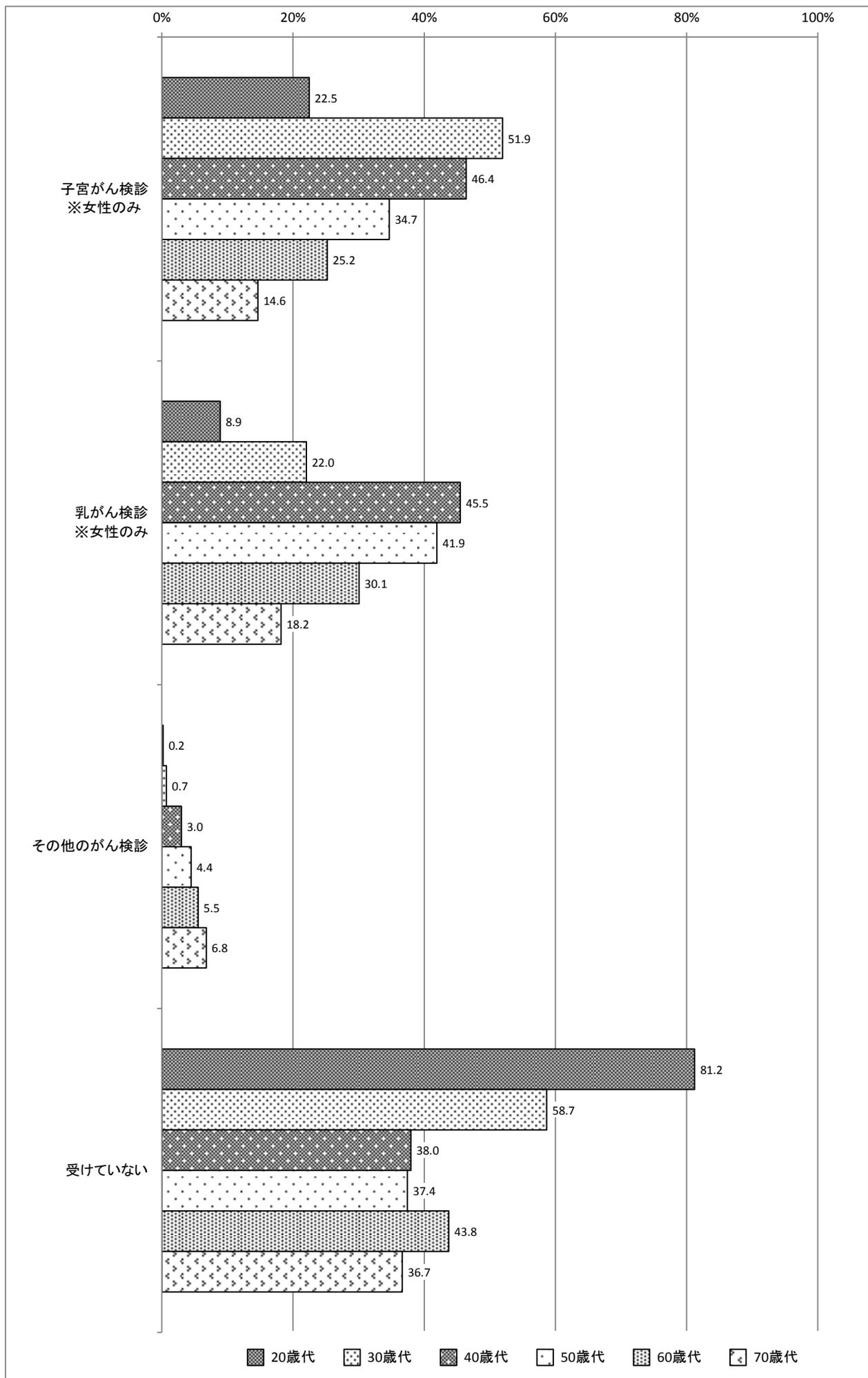
女性を対象とした「子宮がん検診」は30歳代、40歳代において、また、「乳がん検診」は40歳代、50歳代において受診したと回答した割合が40%を超えており、他の年代より割合が高かった。

【参考値】

平成26年度 健康づくりに関する県民意識調査 「受けていない」50.6%

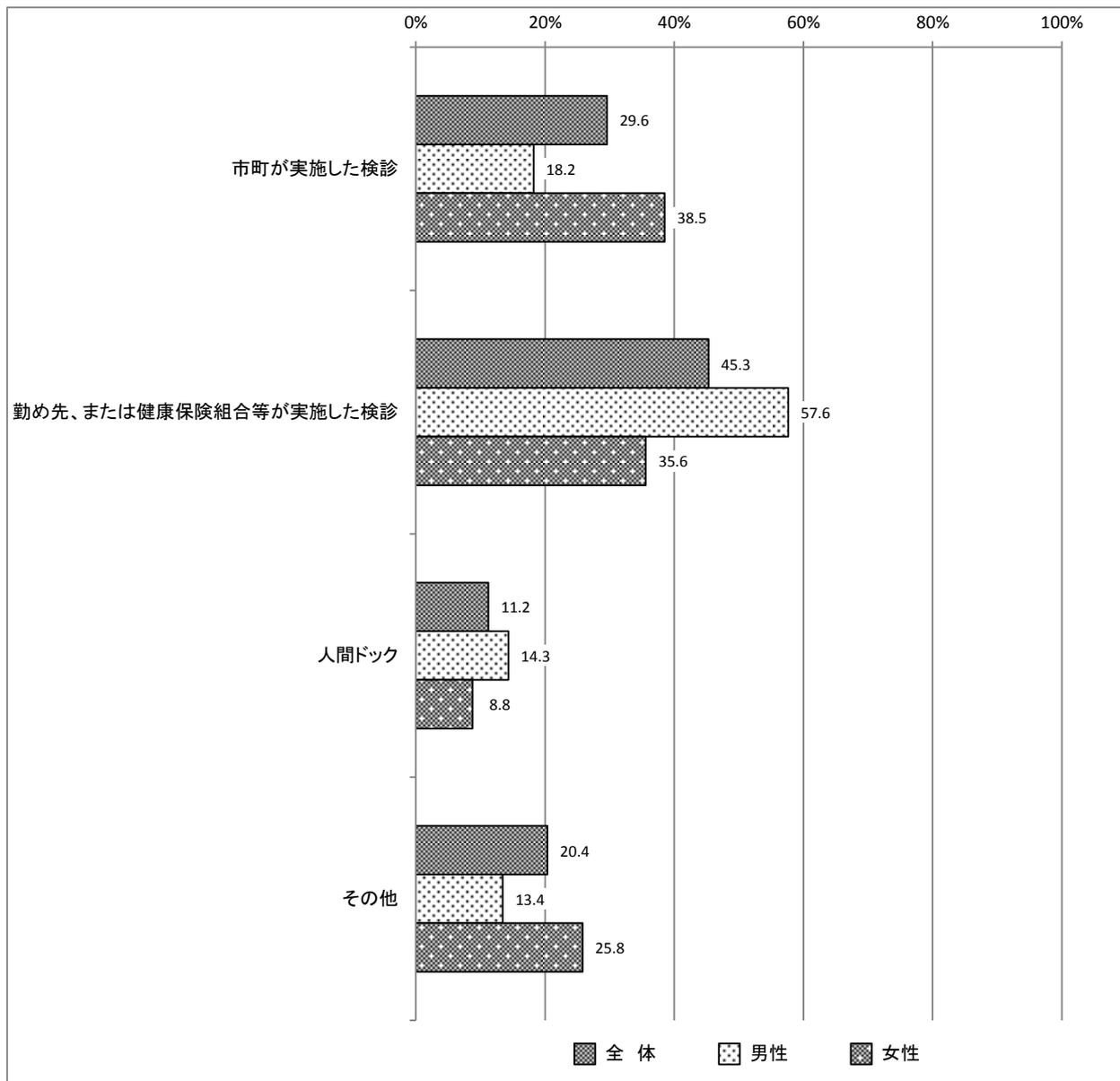
平成27年度 健康づくりに関する県民意識調査 「受けていない」46.9%





問 30-1 どのような機会にがん検診を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

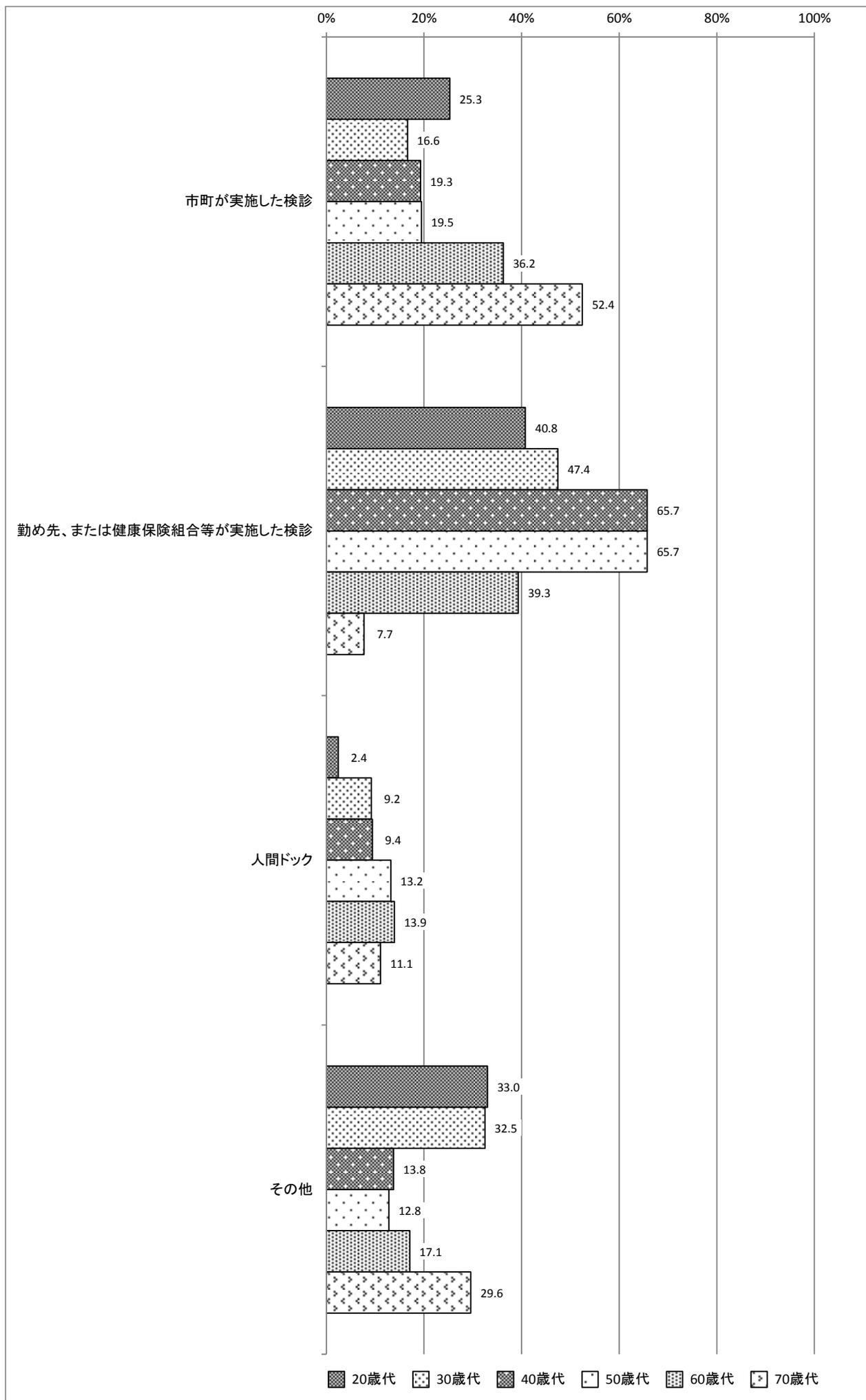
※ 問 30 の選択肢にていずれかのがん検診を選択した人のみ回答



問 30 において、がん検診を受診したと回答した者の受診機会の上位は「勤め先、または健康保険組合等が実施した検診」45.3%、「市町が実施した検診」29.6%、「その他」20.4%であった。「その他」における自由記載は、ほとんど医療保険利用と推察できる内容の記入であった。

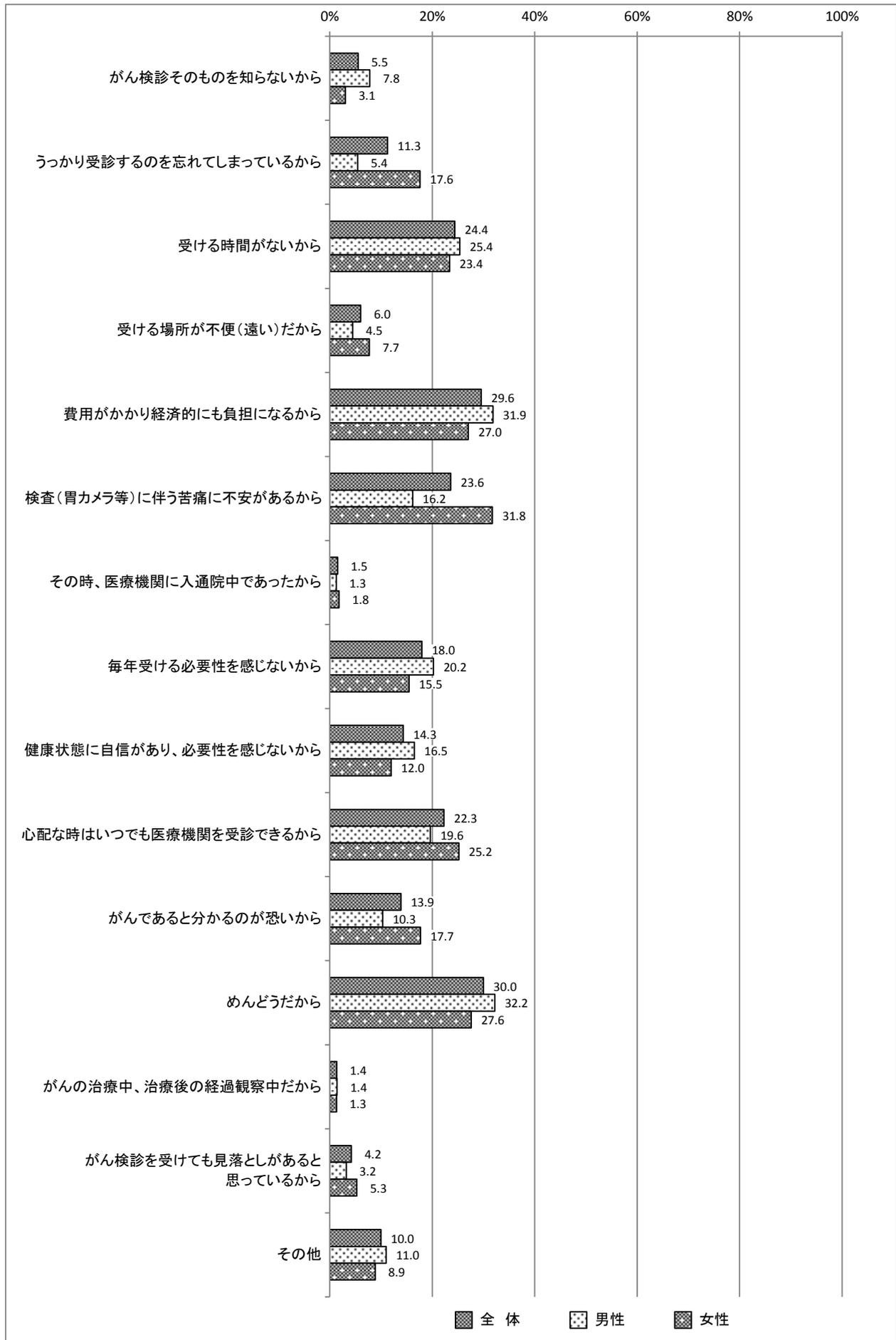
性別では、男性より女性において「市町が実施した検診」と回答した割合が高く、女性より男性において「勤め先、または健康保険組合等が実施した検診」と回答した割合が高かった。

年代別では、60 歳代、70 歳代において他の年代より「市町が実施した検診」と回答した割合が高く、40 歳代、50 歳代において他の年代より「勤め先、または健康保険組合等が実施した検診」と回答した割合が高かった。



問 30-2 あなたが、がん検診を受けていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

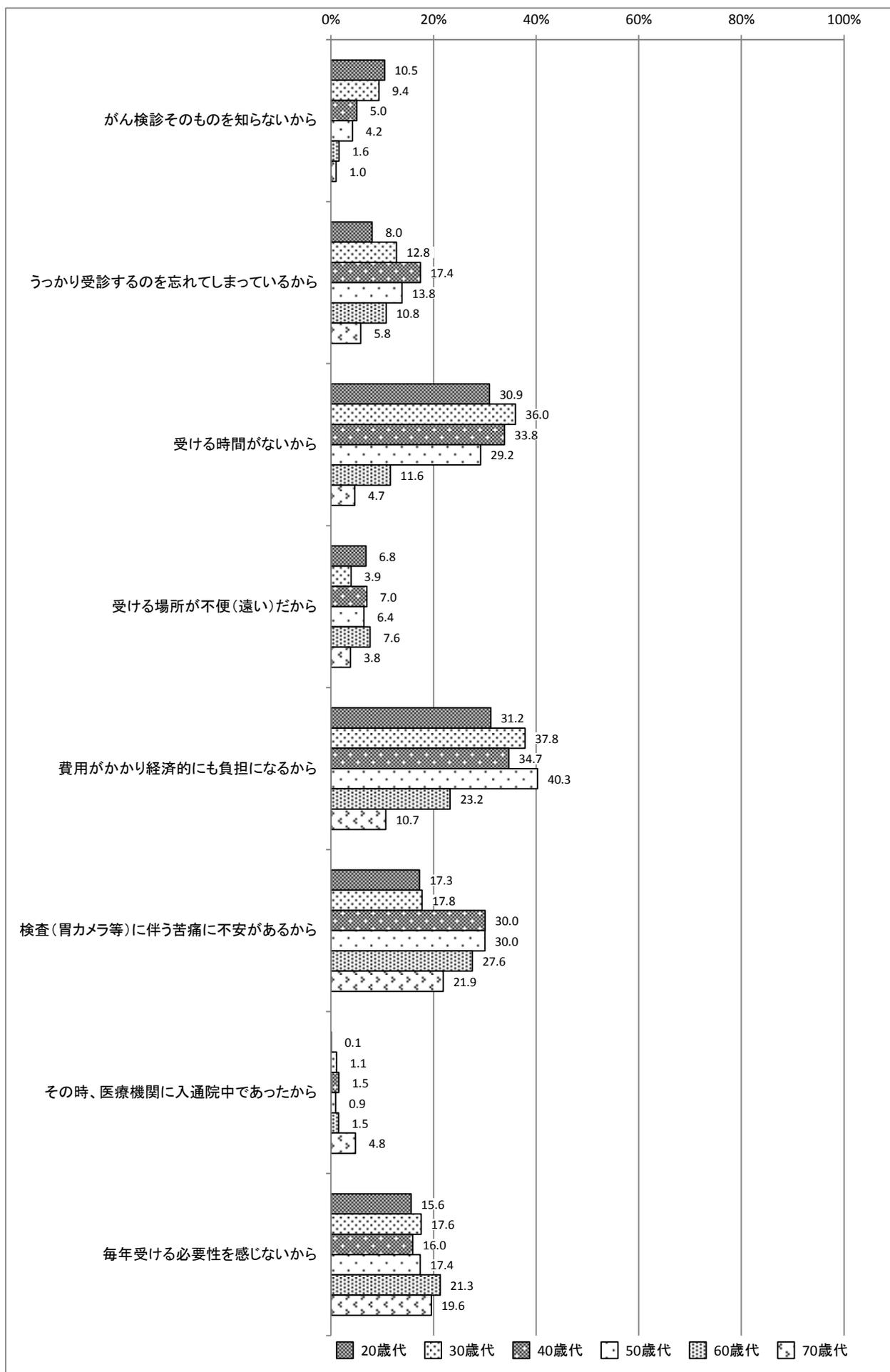
※ 問 30 の選択肢『受けていない』を選択した人のみ回答

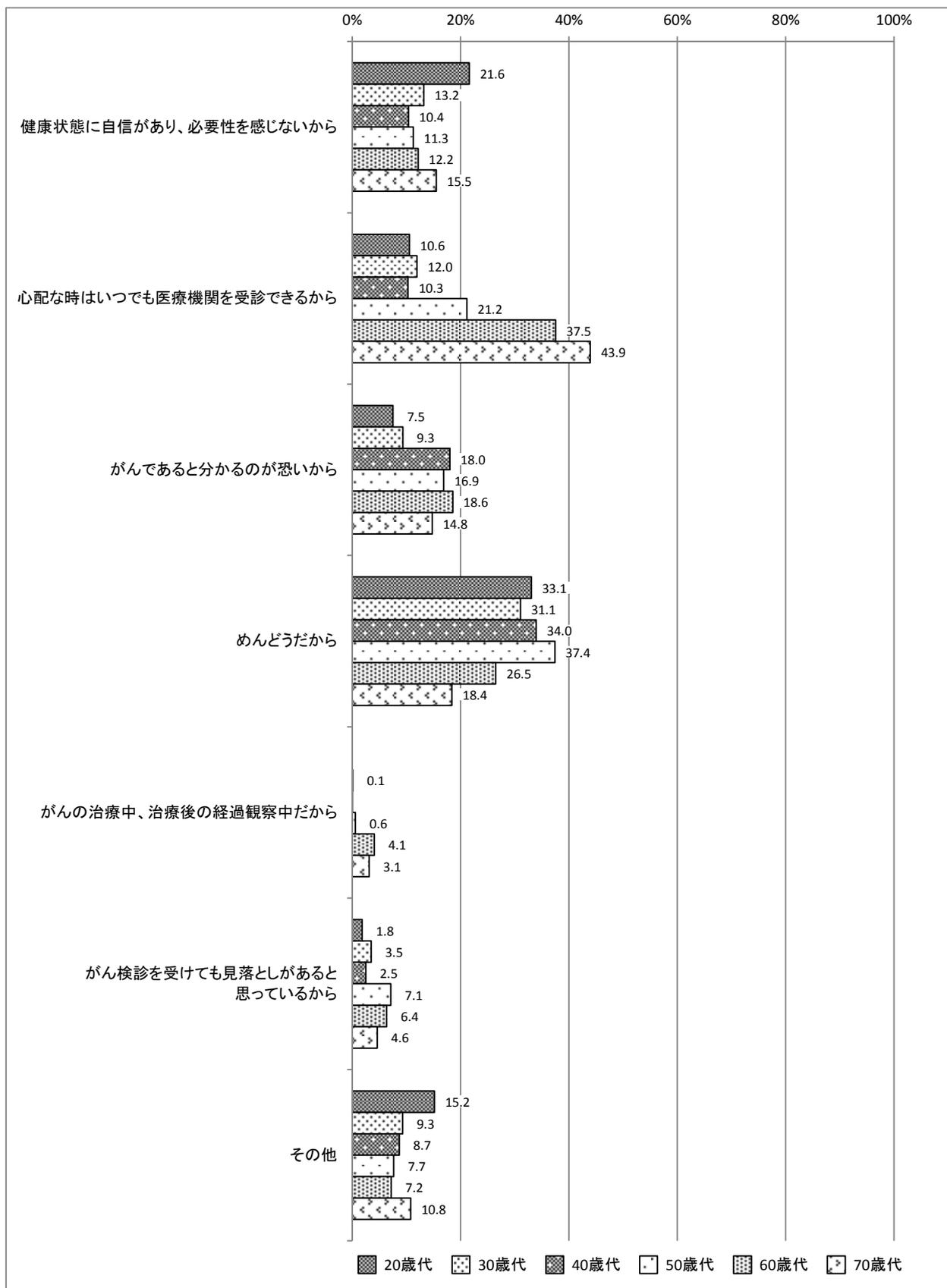


問 30 において、がん検診を「受けていない」と回答した者の理由の上位は、「めんどうだから」30.0%、「費用がかかり経済的にも負担になるから」29.6%、「受ける時間がないから」24.4%、「検査（胃カメラ等）に伴う苦痛に不安があるから」23.6%、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」22.3%であった。

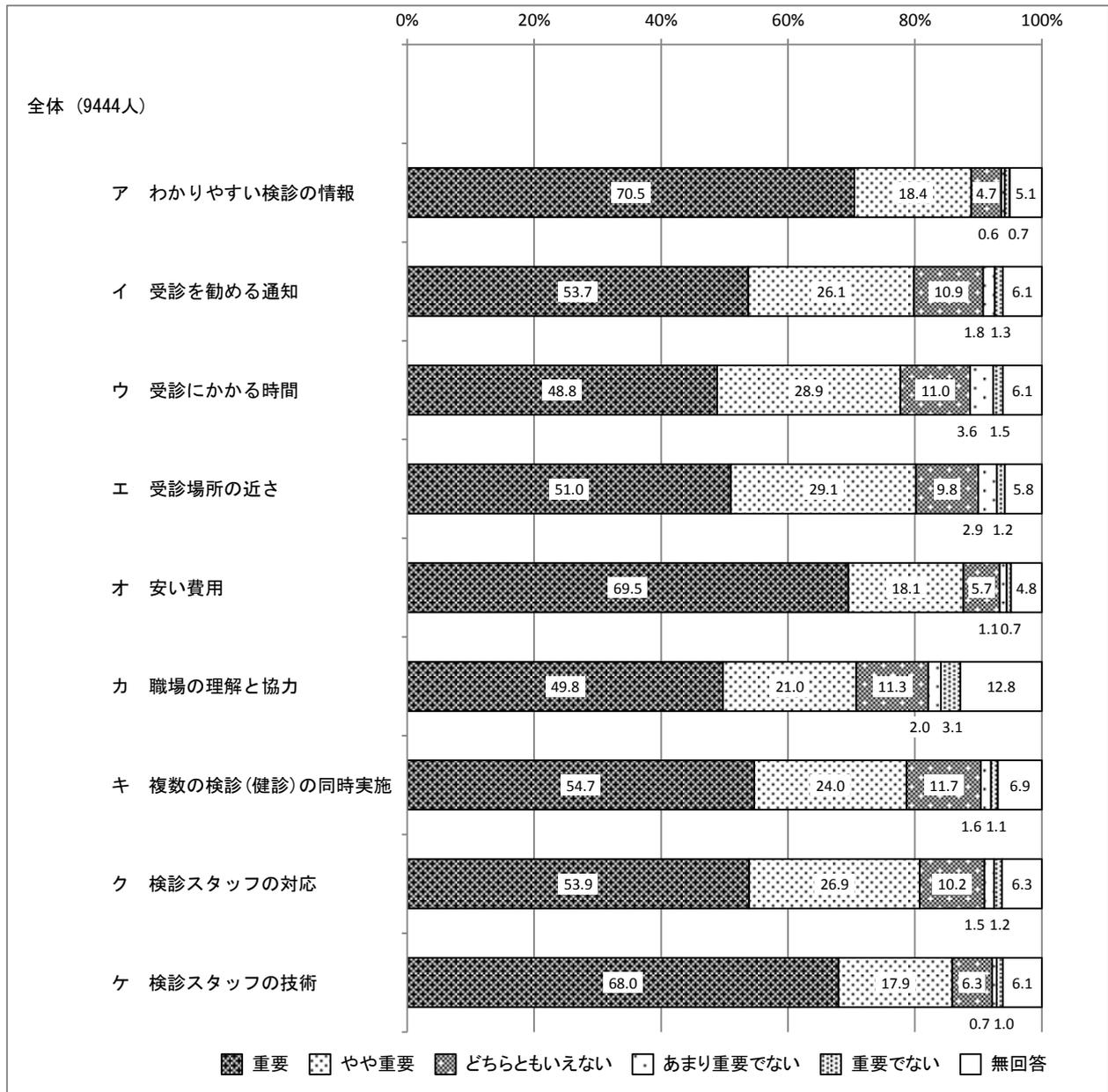
理由の上位のうち、性別では、「めんどうだから」、「費用がかかり経済的にも負担になるから」、「受ける時間がないから」と回答した割合は女性より男性において高く、「検査（胃カメラ等）に伴う苦痛に不安があるから」、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」と回答した割合は男性より女性において高かった。

年代別では、「めんどうだから」、「費用がかかり経済的にも負担になるから」、「受ける時間がないから」と回答した割合は 20 歳代から 50 歳代において他の年代より高く、「検査（胃カメラ等）に伴う苦痛に不安があるから」と回答した割合は 40 歳代から 60 歳代において他の年代より高かった。また、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」と回答した割合は 60 歳代、70 歳代において他の年代より高かった。





問 31 がん検診を受けるときに、次の項目はどのくらい重要だと思いますか。(各項目につき○は1つ)



「重要」あるいは「やや重要」だと思う項目の上位は「わかりやすい検診の情報」88.9%、「安い費用」87.6%、「検診スタッフの技術」85.9%であった。

性別、年代別においても上位項目は同様の傾向であった。

年代別では、20歳代から40歳代において「受診場所の近さ」、「職場の理解と協力」、「複数の検診(健診)の同時実施」について「重要」あるいは「やや重要」と回答した割合が高かった。

